

史料館所蔵史料目録 第68集

## 山城国諸家文書目録（その二）

山城国京都飛鳥井雅豊日記

山城国京都駕輿丁文書

山城国京都三条西家文書

山城国京都袖岡玄蕃助家記

山城国京都徳大寺家文書

山城国京都二条家文書

山城国京都堀之上町万屋小堀家文書

平成11年 3 月

史 料 館

史料館所蔵史料目録 第68集

## 山城国諸家文書目録（その二）

山城国京都飛鳥井雅豊日記

山城国京都駕輿丁文書

山城国京都三条西家文書

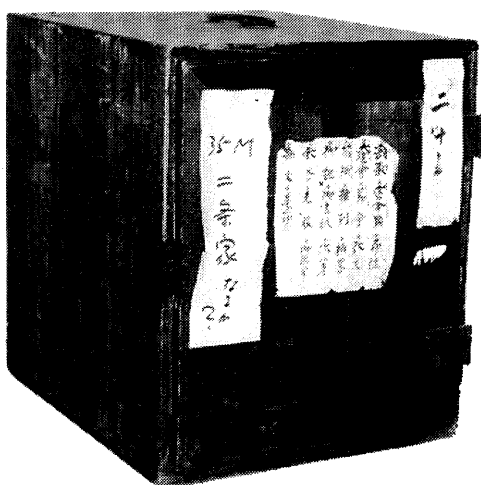
山城国京都袖岡玄蕃助家記

山城国京都徳大寺家文書

山城国京都二条家文書

山城国京都堀之上町万屋小堀家文書

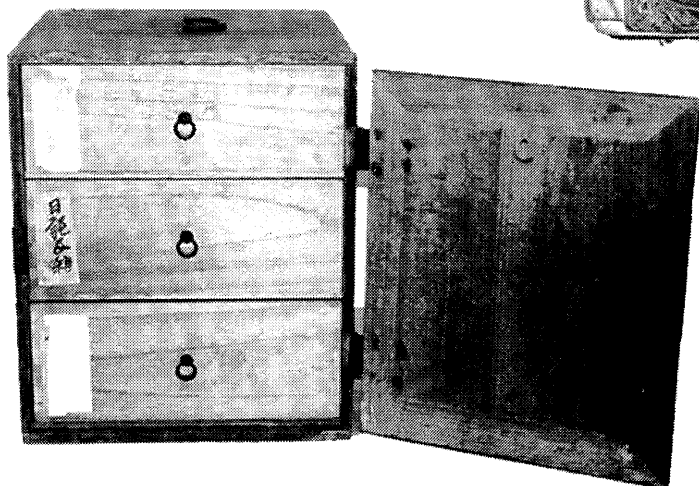
① 二条家文書篋筒 (前方)



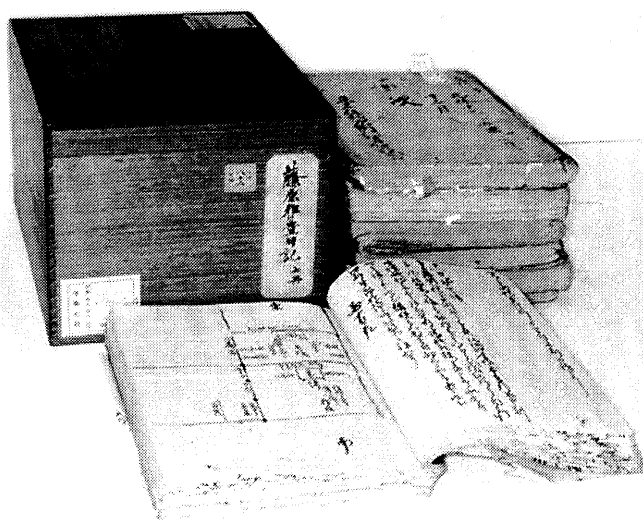
③ 二条家文書「御玄閣日次記」(No. 1)



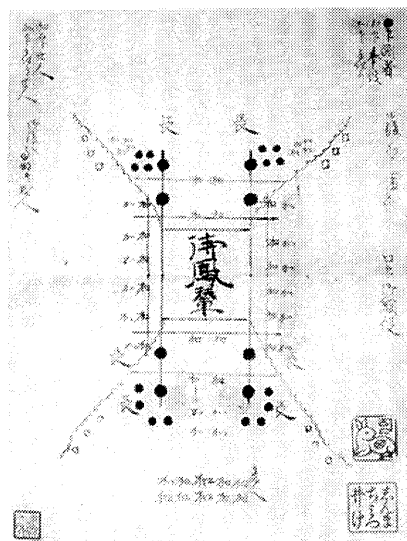
② 二条家文書篋筒 (内側引出)



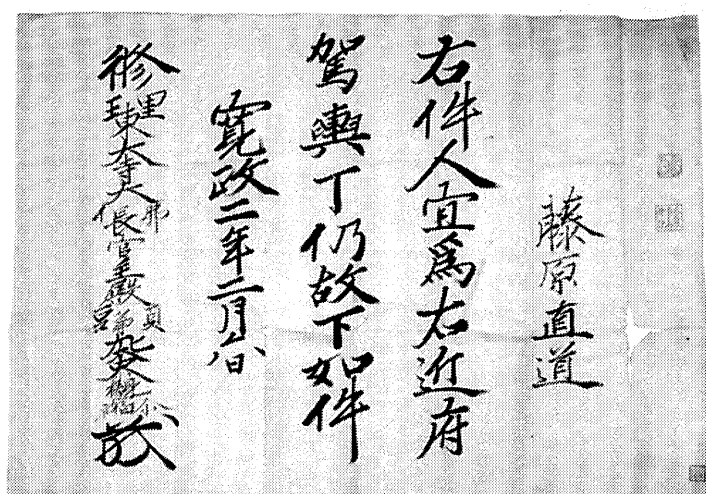
④ 飛鳥井雅豊日記



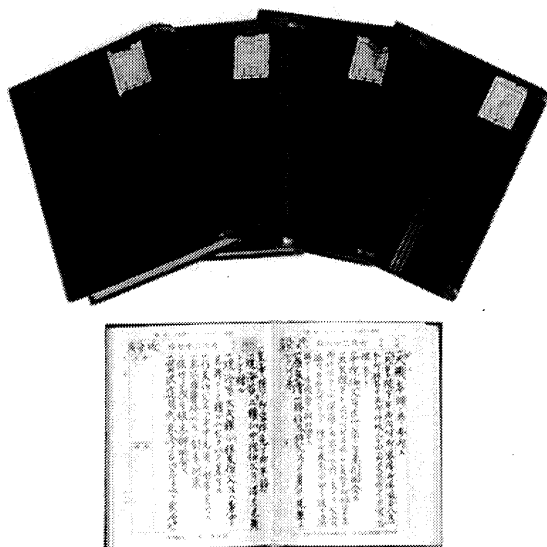
⑥「御鳳筆駕輿丁奉仕手配図」(26 S Nq 20)



⑤駕輿丁補任状 (26 S Nq 23)



⑦「徳大寺公弘自筆日記」(32 G)



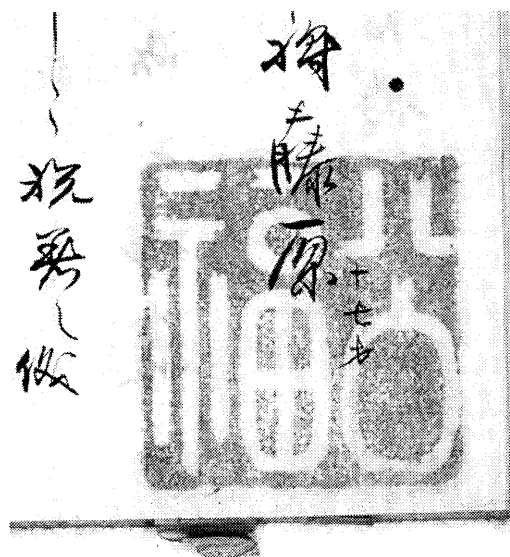
⑧袖岡玄蕃助家記 (26 Y)



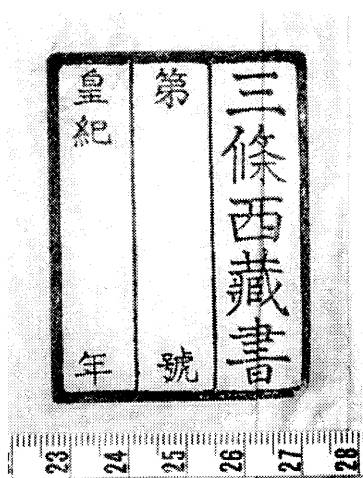
⑨ 三条西家「蔵印1」



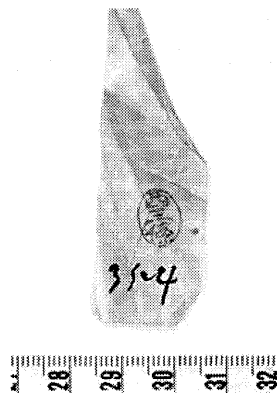
⑪ 三条西家「公福印」



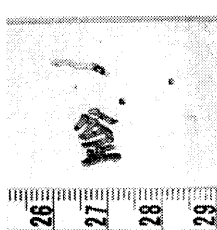
⑩ 三条西家「蔵印2」



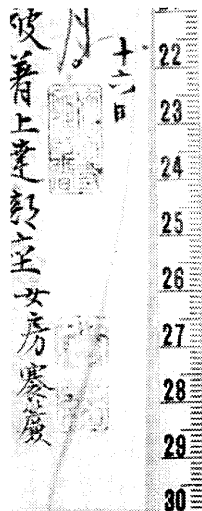
⑫ 三条西家「西三條印」



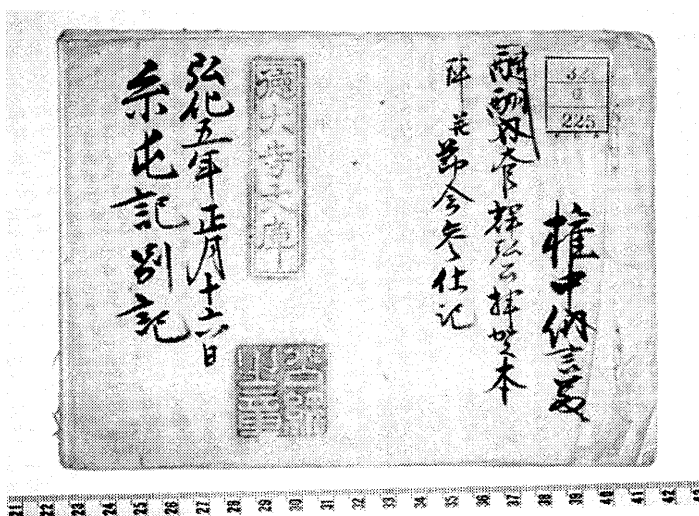
⑬ 三条西家「公正印」



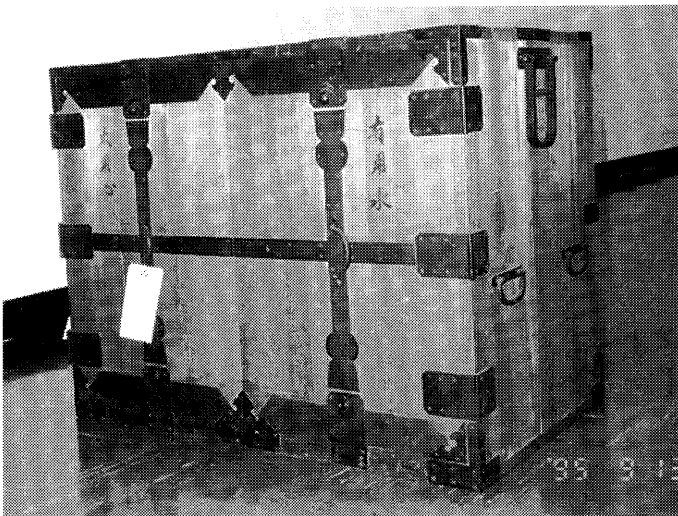
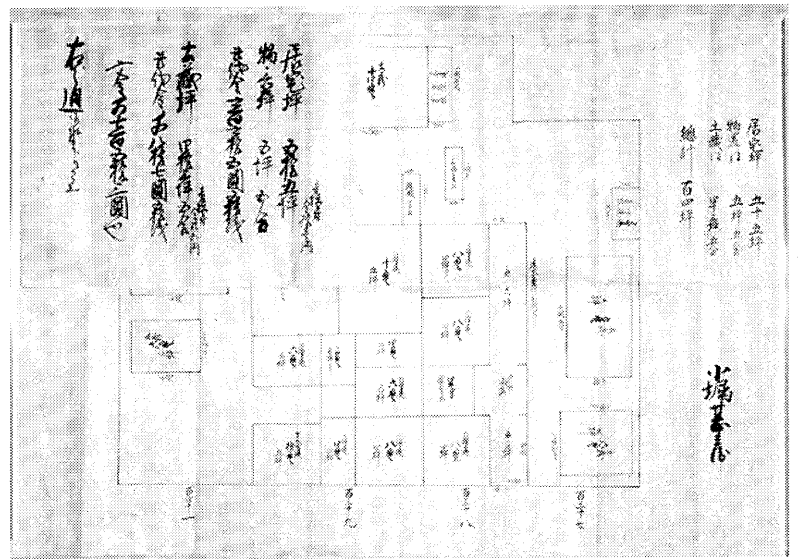
⑭ 「徳大寺蔵書」印・「公」純「印」



⑭ 「徳大寺文庫」印・「公純之章」印



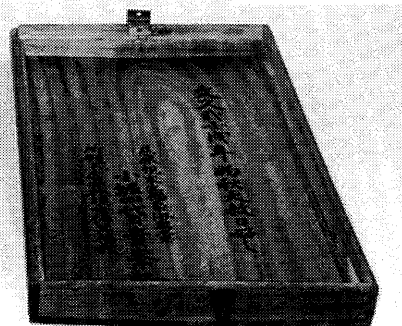
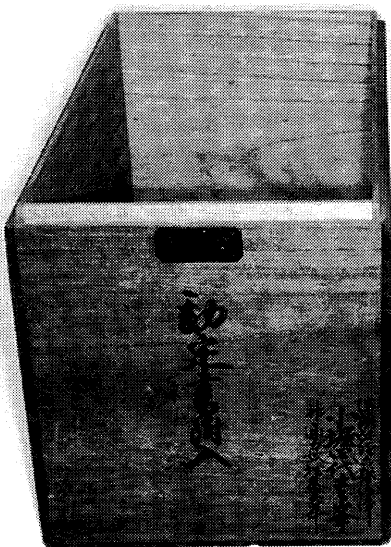
⑯小堀家屋敷図 (33 H No 98)



⑰東京経済大学図書館所蔵小堀家文書篋



⑱史料館所蔵小堀家文書箱



## 凡 例

- 本目録は、『史料館所蔵史料目録』第68集「山城国諸家文書目録（その二）」として、次の7件の史料群を収めた。

「山城国京都飛鳥井雅豊日記」（公家）

「山城国京都駕輿丁文書」（地下官人）

「山城国京都三条西家文書」（公家）

「山城国京都袖岡玄蕃助家記」（地下官人）

「山城国京都徳大寺家文書」（公家）

「山城国京都二条家文書」（公家）

「山城国京都堀之上町万屋小堀家文書」（商家）

なお、当館が所蔵する山城国を出所地域とする史料群は、すでに『史料館所蔵史料目録』第31集に「山城国京都久世文書」「山城国京都平松家文書」の目録が刊行され、『同』第63集では「山城国諸家文書目録（その一）」として「山城国葛野郡嵯峨天龍寺塔頭臨川寺文書」「山城国京都三條家文書」「山城国京都清水谷家文書」「山城国乙訓郡長野新田村三宅家文書」「山城国乙訓郡菱川村文書」の目録を刊行している。

- 目録本文では、史料群全体の構造を表現できるように配列した。史料群の有する内的秩序を復元・再構成しようとする形で、大・中・小項目を立てて分類・配列した。また、必要に応じて○印で細項目に分けたところもある。
- 史料目録に記載した史料情報は、1点単位では、1，表題 2，作成者および授受関係（差出→宛名） 3，作成年代（月日） 4，形態 5，数量 6，整理番号 7，備考である。それらの記載順については、各目録の本文の冒頭に例示した。「表題／作成・授受関係／備考欄」は、1行目から表題を記し、改行して作成・授受関係、備考を記し、作成・授受関係と備考はカンマ（,）で区切った。
- 表題は原表題をとり、表題のない場合は内容から推定した表題に〔 〕を付した。その上で、さらに内容を補記する必要がある場合には、（ ）内に記した。書冊型史料については内題を採用し、内題のないものは外題を採用した。とにもない場合は首題、小口書等から判断したが、いずれもない場合は内容から判断した表題を〔 〕内に記した。状型史料については、柱書のある場合はそれを表題として採用し、内容を補足する必要がある場合には（ ）内に補記した。柱書のない史料は、〔 〕内に古文学書学的名称を付与し、内容を補足する必要がある場合には（ ）内に補記した。
- 作成者は史料上の記載通りとした。ただし、作成者の記載がない場合でも『国書総目録』等において作成者が明らかなものについては、その氏名を作成者として記入した。差出・宛名は史料上の記載をそのまま採用し、敬称もそのままとした。差出と宛名の関係は、差出→宛名と表示した。花押が書かれている場合は（花押）、印が押捺されている場合は（印）と記し、写や案文等において印の有

無が記されている場合はその通りを記載した。例：某花押、某印。

- 作成年代(月日)は和年号で記し、算用数字で表記した。年号が明らかな場合は干支等は省略したが、干支のみの場合はそれを採録した。史料内容から推定した場合は、( )を付けて示した。書写年代は備考欄に奥書全文を掲載した。ただし、長文の場合は一部を省略したものがある。

- 形態については、次のように略記した。

縦帳：大美濃判→大美 美濃判→美 半紙判→半 中形本→中 小形本→小 升形本→升

縦帳切本：美濃判縦帳二つ切本→美二切 美濃判縦帳三つ切本→美三切 半紙判縦帳二つ切本→半二切 半紙判縦帳三つ切本→半三切 横帳→横 折本→折

奉書紙・檀紙等の大型の料紙を用いた縦紙／折紙→縦／折、美濃判を用いた縦紙／折紙→美／美横折、半紙判を用いた縦紙／折紙→半／半横折、一紙を切って料紙とした切紙→切、切った料紙を糊継ぎした切継紙→切継

上記以外で形態が特殊な場合は、必要に応じて法量をcm単位で(縦×横)で形態の欄に補った。なお、各文書群に特徴的な形態については、各解題のH、形態の特徴において解説した。

古記録、有職故実などの典籍で外表紙(共紙以外の表紙)を持たない場合は、仮綴である旨を示すために形態に「仮」と表記した。例：仮美 1冊、仮半 1冊など。ただし、記録文書の書冊型史料は共紙の表紙を用いるのが基本形態なので、その場合は仮綴の表記はしていない。

- 数量の単位は、書冊型史料は「冊」、状型史料は「通」、絵図・指図などの史料は「舗」を用いた。
- 備考欄には、紙背文書の有無、書写奥書、蔵書印の有無、形態に関する補足記事、古記録等の別名などの参考記事を載せた。
- 整理番号は、すでに仮番号が付されている場合はそれを尊重した。紙縫、包紙、袋などで一括された史料小群については、枝番号、孫番号を付し、それらが集合体として伝存していた状態を1点単位の史料情報の左側に線を施して一括の範囲を示し、文書の相互の関係を階層的に理解できるようにした。包紙、袋、封筒の史料情報の一部は、枝番号0を付与して単独の史料情報としてデータ化したものがある。
- 史料の利用にあたっては、各解題を参照されたい。
- 本目録の編集は、福田千鶴が担当した。

---

## 総 目 次

口絵写真

凡例

総目次

山城国京都飛鳥井雅豊日記目録

解題 .....	3
目録 .....	6

山城国京都駕輿丁文書目録

解題 .....	9
目録 .....	11

山城国京都三条西家文書目録

解題 .....	17
目次 .....	30
目録 .....	31

山城国京都袖岡玄蕃助家記目録

解題 .....	79
目録 .....	81

山城国京都徳大寺家文書目録

解題 .....	85
目次 .....	95
目録 .....	97

山城国京都二条家文書目録

解題 .....	161
目次 .....	180
目録 .....	181

山城国京都堀之上町万屋小堀家文書目録

解題 .....	207
目次 .....	217
目録 .....	218

26X

## 山城国京都飛鳥井雅豊日記目錄

解題……………p. 3

目錄……………p. 6

## 山城国京都飛鳥井雅豊日記目録 解題

- A. 史料群記号 26X
- B. 史料群名 やましろのくにきょうと あすか いまさとよにつ き  
山城国京都飛鳥井雅豊日記
- C. 数 量 7冊、桐箱(31×24×20cm)1個
- D. 伝来の経緯 1951年度に旧三井文庫から当館に譲渡をうけた。本史料群が旧三井文庫の保管となった経緯については不明。
- E. 出所の歴史 飛鳥井家は本姓藤原氏で、難波頼経の次男雅経(1170～1221)を祖とする堂上羽林家である。雅経は祖父にあたる刑部卿難波頼輔より蹴鞠を伝授された。雅経の孫雅有(1241～1301)が藤原為家に和歌の指導を受けたことから、代々蹴鞠と和歌の道を伝統とし、二条・冷泉家の両家が衰えると和歌の家として台頭した。雅親(1417～1490)は書の道をよくおこない、歴代に伝えたので書の家としても知られる。江戸時代の禄高は928石。初期には、雅宣(1586～1651)・雅章(1611～1679)が武家伝奏を勤めた。明治42年(1909)12月に恒暦(1859～1924)が伯爵となった。菩提寺は遣迎院(京都市北区寺町広小路上ル鷹峯光悦町)。
- 飛鳥井雅豊は、寛文4年(1664)5月30日に生まれ、正徳2年(1712)7月22日に49歳で京都に没した。雅章の3男で、母は越前福井藩主松平忠昌の娘である。兄に雅知・雅直、弟に宗量(難波家に養子)・宗尚(難波家に養子)がいる。のちに兄雅直の養子となり、飛鳥井家を襲いだ。詳細については、後掲の系図と年譜を参照のこと。子は、雅香(西園寺到季の次男)を養子に迎えた。
- F. 年 代 元禄2年(1689)～宝永8年(1711)。
- G. 全体構造と内容 飛鳥井雅豊(1664～1712)の自筆日記。雅豊の日々の活動を中心に、諸家と授受した文書等も書留められている。節会への参加、蹴鞠の記事なども見られる。
- H. 形態の特徴 1. 箱蓋の裏には、三井家の蔵書印と新町三井家八代三井高辰(宗辰)の蔵書印の2つがある。箱には「藤原雅豊日記 七冊」と「ツ印 八十二 七冊」の貼紙がある(口絵写真参照)。  
2. 各史料の1丁目には、箱蓋の裏に押下されたものと同一の三井家の蔵書印と三井高辰の蔵書印の2種類が押下され、第1冊の前表紙には旧三井文庫の史料に共通してみられる史料管理番号を付した下札があり、「ツ印 八十二 七冊」と記されている。また、第1冊の表紙右上には黄色の貼札があり、「ツ八十二」とある。  
3. 袋綴帳の料紙には、主に和歌懐紙を紙背文書として用いている。
- I. 整理の方針 史料の表題は、表表紙の書付外題をそのまま採用した。作成者に関しては、表表紙に記載された雅豊の官位を丸カッコ内に補った。形態はいずれも縦帳で、袋綴と列帳綴がある。前者は「堅袋」、後者は「堅列」と表記した。袋綴はいずれも奉書紙を裁断した紙背文書を料紙として利用しているため、形態には法量を記入し、丁数を丸カッコ内に併記した(ただし、表紙を含む)。
- J. 関連史料の所在 当館所蔵の7冊のほかには雅豊日記の存在は知られていない。なお、『国書総目録』第1巻(岩波書店、1989年補訂版、57頁)では、「飛鳥井雅豊日記 1冊」が当館所蔵として紹

介されているが、「7冊」の誤りである。飛鳥井家を出所とする飛鳥井家文書に関しては、宮内庁書陵部所蔵の「飛鳥井家本」175冊の存在が知られている（原蔵者は鹿持雅澄氏、『旧華族家史料所在調査報告書』本編1）。この他の関連史料としては、飛鳥井家の家職である蹴鞠に関して、天理図書館に蹴鞠保存会旧蔵の文献二百数十点を一括収蔵している。また、天津平野神社（天津市松本）には、江戸時代の蹴鞠道家の一つであり、飛鳥井家の本家筋にあたる難波家旧蔵本が一括所蔵されている（桑山浩然『蹴鞠技術変遷の研究』）。

k. 利用上の注意点 一部に虫損の甚しいものがある。

## L. 参考文献

学習院大学史料館編『旧華族家史料所在調査報告書』本編1（1993年）

桑山浩然『蹴鞠技術変遷の研究』（平成3年度科学研究費補助金研究成果報告書、1992年）

渡辺融・桑山浩然『蹴鞠の研究』（東京大学出版会、1994年）

<付記>

史料整理にあたっては、渡辺融・桑山浩然の両先生にご教示いただきました。末尾となりましたが、心より御礼申し上げます。

## M. 参考資料

### 飛鳥井家年譜

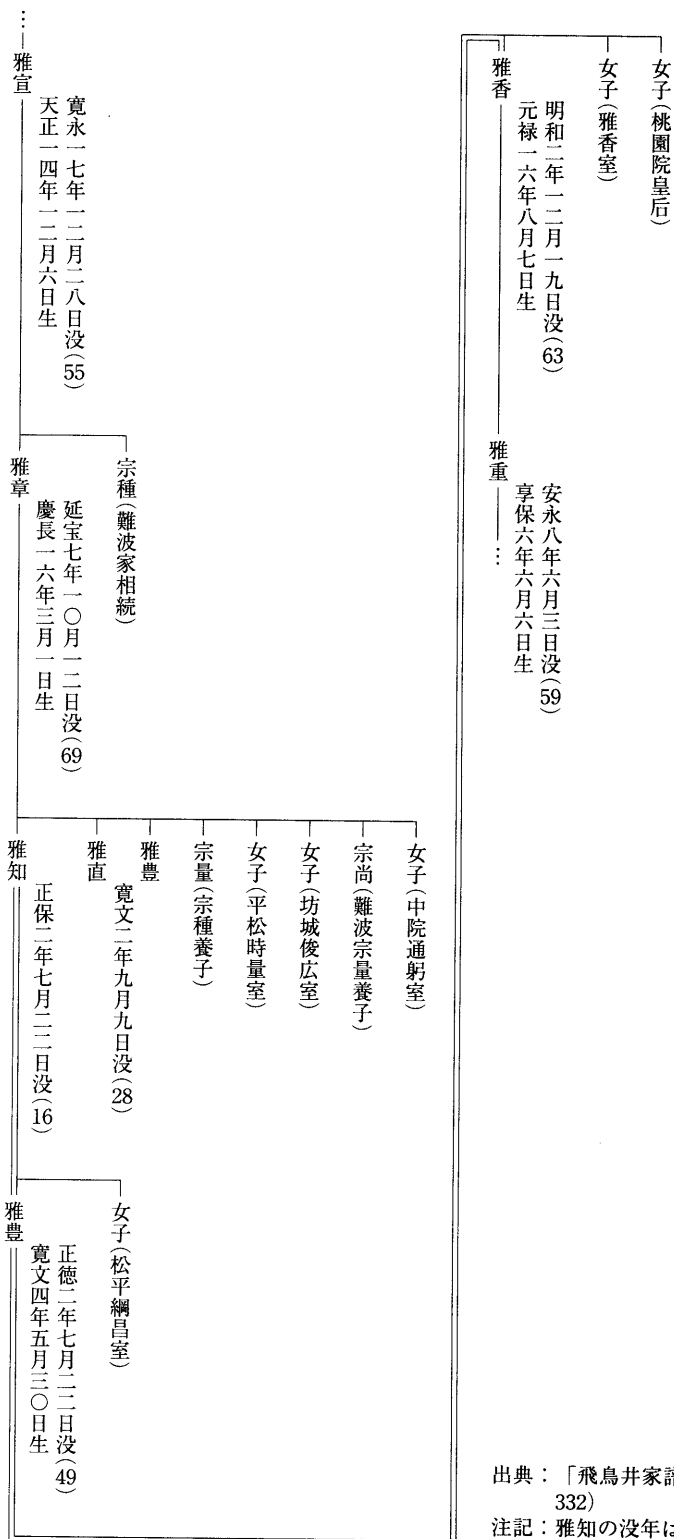
雅章	雅豊
延宝5.閏12.11 叙従一位	寛文 4. 5.30 誕生
延宝 7.10.12 没(69)	寛文 5. 1. 5 叙爵* <sup>1</sup>
	寛文10.12.11 元服 任侍従 叙従五位上
	延宝 2. 1. 5 叙正五位下
	延宝 4.12.22 任左権少将* <sup>2</sup>
	延宝 6. 1. 5 叙従四位下
	延宝 8.12.23 任左中将
	天和 2. 2.10 叙従四位上
	貞享 2. 7.10 叙正四位下
	貞享 5. 1. 5 叙従三位* <sup>3</sup>
	元禄元.12.29 任左衛門督
	元禄11.12.27 叙正三位
	元禄14.10.24 任参議 左衛門督如元
	元禄16.12.25 任権中納言
	28 勅授帶剣
	宝永元. 9.16 任賀茂伝奏
	宝永 2. 2. 1 辞伝奏
	宝永 2. 8.30 叙従二位
	正徳元. 6.29 辞退
	正徳 2. 7.22 没(49)
雅知	
寛永 7. 7.30 誕生	
寛永 8. 2. 5 叙爵	
寛永15.12. 6 任侍従 叙従五位上	
寛永19. 1. 5 叙正五位下	
寛永20. 9.15 任左権少将	
正保 2. 7.22 没(16)	
雅直	
寛永12.12. 4 誕生	
寛永18.12.13 叙爵	
正保 4. 9. 5 元服 任侍従 叙従五位上	
慶安 2. 1.11 任左権少将	
慶安 4. 1. 5 叙正五位下	
承応 4. 1. 5 叙従四位下	
11 任左権中将	
万治 2. 1. 5 叙従四位上	
寛文 2. 9. 9 没(28)	

出典 「飛鳥井雅豊日記」 ただし、元禄元年12月29日以降は、公卿補任により補足した。

註記

\*1 公卿補任では、12月23日、\*2 公卿補任では、12月23日、\*3 公卿補任では、1月22日

「飛鳥井家略系図」



出典：「飛鳥井家譜」（東京大学史料編纂所蔵、4175-332）

注記：雅知の没年は、『宮邸公家家系図集覧』（東京堂出版、1994年）より補った。

山城国京都飛鳥井雅豊日記目録

26X

表題／備考	年代	作成	形態／数量	整理番号
目次	元禄2年1月～2月	飛鳥井雅豊 (左衛門督)	27.2×20.3cm 竪袋 1冊(62)	1
目次	元禄2年3月～7月	飛鳥井雅豊 (左衛門督)	27.2×20.7cm 竪袋 1冊(74)	2
目次	元禄7年1月～6月	飛鳥井雅豊 (従三位行左衛門督)	28.1×21.0cm 竪袋 1冊(80)	3
目次 虫損大	元禄13年1月～12月	飛鳥井雅豊 (正三位行左衛門督)	26.7×20.7cm 竪列 1冊(123)	4
目次	元禄14年1月～12月	飛鳥井雅豊 (正三位行左衛門督)	26.7×20.0cm 竪列 1冊(120)	5
目次	元禄16年1月～12月 (宝永6年カ)	飛鳥井雅豊 (参議兼左衛門督)	26.5×21.0cm 竪列 1冊(132)	6
目次	宝永8年7月～12月	飛鳥井雅豊 (前中納言)	26.8×19.0cm 竪列 1冊(114)	7

26X

## 山城国京都飛鳥井雅豊日記目錄

解題……………p. 3

目錄……………p. 6

## 山城国京都飛鳥井雅豊日記目録 解題

A. 史料群記号 26X

B. 史料群名 やましろのくにきょうと あすか いまさとよにつ き  
山城国京都飛鳥井雅豊日記

C. 数 量 7冊、桐箱(31×24×20cm)1個

D. 伝来の経緯 1951年度に旧三井文庫から当館に譲渡をうけた。本史料群が旧三井文庫の保管となった経緯については不明。

E. 出所の歴史 飛鳥井家は本姓藤原氏で、難波頼経の次男雅経(1170～1221)を祖とする堂上羽林家である。雅経は祖父にあたる刑部卿難波頼輔より蹴鞠を伝授された。雅経の孫雅有(1241～1301)が藤原為家に和歌の指導を受けたことから、代々蹴鞠と和歌の道を伝統とし、二条・冷泉家の両家が衰えると和歌の家として台頭した。雅親(1417～1490)は書の道をよくおこない、歴代に伝えたので書の家としても知られる。江戸時代の禄高は928石。初期には、雅宣(1586～1651)・雅章(1611～1679)が武家伝奏を勤めた。明治42年(1909)12月に恒暦(1859～1924)が伯爵となった。菩提寺は遣迎院(京都市北区寺町広小路上ル鷹峯光悦町)。

飛鳥井雅豊は、寛文4年(1664)5月30日に生まれ、正徳2年(1712)7月22日に49歳で京都に没した。雅章の3男で、母は越前福井藩主松平忠昌の娘である。兄に雅知・雅直、弟に宗量(難波家に養子)・宗尚(難波家に養子)がいる。のちに兄雅直の養子となり、飛鳥井家を襲いだ。詳細については、後掲の系図と年譜を参照のこと。子は、雅香(西園寺到季の次男)を養子に迎えた。

F. 年 代 元禄2年(1689)～宝永8年(1711)。

G. 全体構造と内容 飛鳥井雅豊(1664～1712)の自筆日記。雅豊の日々の活動を中心に、諸家と授受した文書等も書留められている。節会への参加、蹴鞠の記事なども見られる。

H. 形態の特徴 1. 箱蓋の裏には、三井家の蔵書印と新町三井家八代三井高辰(宗辰)の蔵書印の2つがある。箱には「藤原雅豊日記 七冊」と「ツ印 八十二 七冊」の貼紙がある(口絵写真参照)。  
2. 各史料の1丁目には、箱蓋の裏に押下されたものと同一の三井家の蔵書印と三井高辰の蔵書印の2種類が押下され、第1冊の前表紙には旧三井文庫の史料に共通してみられる史料管理番号を付した下札があり、「ツ印 八十二 七冊」と記されている。また、第1冊の表紙右上には黄色の貼札があり、「ツ八十二」とある。

3. 袋綴帳の料紙には、主に和歌懷紙を紙背文書として用いている。

I. 整理の方針 史料の表題は、表表紙の書付外題をそのまま採用した。作成者に関しては、表表紙に記載された雅豊の官位を丸カッコ内に補った。形態はいずれも縦帳で、袋綴と列帳綴がある。前者は「堅袋」、後者は「堅列」と表記した。袋綴はいずれも奉書紙を裁断した紙背文書を料紙として利用しているため、形態には法量を記入し、丁数を丸カッコ内に併記した(ただし、表紙を含む)。

J. 関連史料の所在 当館所蔵の7冊のほかに雅豊日記の存在は知られていない。なお、『国書総目録』第1巻(岩波書店、1989年補訂版、57頁)では、「飛鳥井雅豊日記 1冊」が当館所蔵として紹

介されているが、「7冊」の誤りである。飛鳥井家を出所とする飛鳥井家文書に関しては、宮内庁書陵部所蔵の「飛鳥井家本」175冊の存在が知られている（原蔵者は鹿持雅澄氏、『旧華族家史料所在調査報告書』本編1）。この他の関連史料としては、飛鳥井家の家職である蹴鞠に関して、天理図書館に蹴鞠保存会旧蔵の文献二百数十点を一括収蔵している。また、天津平野神社（天津市松本）には、江戸時代の蹴鞠道家の一つであり、飛鳥井家の本家筋にあたる難波家旧蔵本が一括所蔵されている（桑山浩然『蹴鞠技術変遷の研究』）。

k. 利用上の注意点 一部に虫損の甚しいものがある。

## L. 参考文献

学習院大学史料館編『旧華族家史料所在調査報告書』本編1（1993年）

桑山浩然『蹴鞠技術変遷の研究』（平成3年度科学研究費補助金研究成果報告書、1992年）

渡辺融・桑山浩然『蹴鞠の研究』（東京大学出版会、1994年）

<付記>

史料整理にあたっては、渡辺融・桑山浩然の両先生にご教示いただきました。末尾となりましたが、心より御礼申し上げます。

## M. 参考資料

### 飛鳥井家年譜

雅章	雅豊
延宝5.閏12.11 叙従一位	寛文 4. 5.30 誕生
延宝 7.10.12 没(69)	寛文 5. 1. 5 叙爵* <sup>1</sup>
	寛文10.12.11 元服 任侍従 叙従五位上
	延宝 2. 1. 5 叙正五位下
	延宝 4.12.22 任左権少将* <sup>2</sup>
	延宝 6. 1. 5 叙従四位下
	延宝 8.12.23 任左中将
	天和 2. 2.10 叙従四位上
	貞享 2. 7.10 叙正四位下
	貞享 5. 1. 5 叙従三位* <sup>3</sup>
	元禄元.12.29 任左衛門督
	元禄11.12.27 叙正三位
	元禄14.10.24 任参議 左衛門督如元
	元禄16.12.25 任権中納言
	28 勅授帯剣
	宝永元. 9.16 任賀茂伝奏
	宝永 2. 2. 1 辞伝奏
	宝永 2. 8.30 叙従二位
	正徳元. 6.29 辞退
	正徳 2. 7.22 没(49)
雅知	
寛永 7. 7.30 誕生	
寛永 8. 2. 5 叙爵	
寛永15.12. 6 任侍従 叙従五位上	
寛永19. 1. 5 叙正五位下	
寛永20. 9.15 任左権少将	
正保 2. 7.22 没(16)	
雅直	
寛永12.12. 4 誕生	
寛永18.12.13 叙爵	
正保 4. 9. 5 元服 任侍従 叙従五位上	
慶安 2. 1.11 任左権少将	
慶安 4. 1. 5 叙正五位下	
承応 4. 1. 5 叙従四位下	
11 任左権中将	
万治 2. 1. 5 叙従四位上	
寛文 2. 9. 9 没(28)	

出典 「飛鳥井雅豊日記」 ただし、元禄元年12月29日以降は、公卿補任により補足した。

註記

\* 1 公卿補任では、12月23日、\* 2 公卿補任では、12月23日、\* 3 公卿補任では、1月22日

寛永一七年二月二八日没(55)  
 天正一四年二月六日生  
 雅宣  
 宗種(難波家相統)  
 延宝七年一〇月二二日没(69)  
 慶長一六年三月一日生  
 雅章  
 女子(中院通躬室)  
 宗尚(難波宗量養子)  
 女子(坊城俊広室)  
 女子(平松時量室)  
 宗量(宗種養子)  
 雅豊  
 寛文二年九月九日没(28)  
 雅直  
 正保二年七月二二日没(16)  
 雅知  
 女子(松平綱昌室)  
 正徳二年七月二二日没(49)  
 寛文四年五月三〇日生  
 雅豊

女子(桃園院皇后)	女子(雅香室)	明和二年二月一九日没(63) 元禄一六年八月七日生	安永八年六月三日没(59) 享保六年六月六日生
雅香	雅重		

注記：雅知の没年は、『宮邸公家家系図集覧』（東京堂出版、1994年）より補った。

山城国京都飛鳥井雅豊日記目録

26X

表題／備考	年代	作成	形態／数量	整理番号
目次	元禄2年1月～2月	飛鳥井雅豊 (左衛門督)	27.2×20.3cm 竪袋 1冊(62)	1
目次	元禄2年3月～7月	飛鳥井雅豊 (左衛門督)	27.2×20.7cm 竪袋 1冊(74)	2
目次	元禄7年1月～6月	飛鳥井雅豊 (従三位行左衛門督)	28.1×21.0cm 竪袋 1冊(80)	3
目次 虫損大	元禄13年1月～12月	飛鳥井雅豊 (正三位行左衛門督)	26.7×20.7cm 竪列 1冊(123)	4
目次	元禄14年1月～12月	飛鳥井雅豊 (正三位行左衛門督)	26.7×20.0cm 竪列 1冊(120)	5
目次	元禄16年1月～12月 (宝永6年カ)	飛鳥井雅豊 (参議兼左衛門督)	26.5×21.0cm 竪列 1冊(132)	6
目次	宝永8年7月～12月	飛鳥井雅豊 (前中納言)	26.8×19.0cm 竪列 1冊(114)	7

26S

## 山城国京都駕輿丁文書目錄

解題…………… p. 9

目錄……………p. 11

## 山城国京都駕輿丁文書目録 解題

- A. 史料群記号 26S  
B. 史料群名 やましろのくにきょうと か よちょうもんじょ  
山城国京都駕輿丁文書  
C. 数量 32点  
D. 伝来の経緯

1951年度に旧三井文庫保管のものを譲渡された。各文書の中には、旧三井文庫が史料を受け入れた年月日を記した付箋が裏表紙に糊づけされたものがある。総点数32点のうち、1932年(昭和7)7月7日付がNo.14、20～29の11点、同年12月12日付がNo.8、9の2点、1933年8月14日付がNo.2、4～7の5点、1934年11月27日付がNo.30、31の2点、1935年11月12日付がNo.10、11の2点、同年12月6日付がNo.12の1点、1936年1月24日付がNo.3の1点である。また、「駕輿丁由記」(No.1)は、1936年3月に日本経済史研究所の所蔵原本を複製したものである。

### E. 出所の歴史

律令制下の駕輿丁の集団は、左右近衛府と左右兵衛府(四府)に属し、天皇の行幸にあたり鳳輦<sup>ほうれん</sup>をかつぎ、常には輿宿に奉仕する雑色人であった。駕輿丁を指図する役は兄部<sup>このこうべ</sup>、及び沙汰人である。室町期になると駕輿丁は無力化した四府の管理を離れて外記と官務に直属するようになり、さらに官職の世襲化につれて中原家や壬生家の属僚となった。鎌倉中期以降は商工業者化が始まり四府駕輿丁座が形成され、紙折敷・葉並唐物・白布・酒麴並酒・引物・馬・銅・材木・古物・茜・鍛冶炭・味噌・高利貸・竹・紺・索麵・綿・麩等の18種類の課税免許の特権を持ち、綿並組・鳥・古銭・鋤柄・絹・赤染町帷・呉服・米の8種類は専売権を有するまでになった(豊田武「四府駕輿丁座の研究」)。

豊臣秀吉の楽座令により駕輿丁の特権は否定されたが、近世になっても駕輿丁の組織は残り、天皇の行幸に供奉した。兄部・沙汰人・駕輿丁は、いずれも町家の主人が勤めた。江戸期は無位無官であったが、慶応3年(1867)になって座人全員が従八位下に叙され、国の目<sup>さかん</sup>に任ぜられた(下橋敬長『幕末の宮邸』)。

F. 年代 文化14年(1817)～明治33年(1900)。ただし、内容年代は正応5年(1292)に遡る。

### G. 全体構造と内容

本史料群は、旧三井文庫が8回にわたり収集したコレクション史料である。これらの記録文書の作成の契機となった出所は、次の1機関、および5家と推定される。

1. 日本経済研究所蔵写本
2. 青山家(左近府駕輿丁座人)
3. 野口家(右近府駕輿丁座人)
4. 森田家(左近府駕輿丁座人)
5. 小野家(右近府沙汰人)
6. 仙洞御所付仕丁仲間

上記のように出所を特定した理由、及び各史料群の内容等については、目録本文の各項目において説明する。なお、2. 青山家の中には右近府兄部を世襲した大石家の写本が含まれている。

#### **H. 形態の特徴**

目録本文の各項目を参照のこと。

#### **I. 整理の方針**

本史料群は、これまでカード目録により閲覧・利用に供してきた。本目録に収録するにあたり、整理番号はカード目録のものを用いた。史料には旧三井文庫の蔵書印が押されているが、本史料群が旧三井文庫の収集史料群であることは明らかなので、あえてそれらの情報を目録本文の備考には示さなかった。

#### **J. 関連史料の所在**

駕輿丁座人を出所とする他の史料群については不詳。公家の日記等における駕輿丁関係史料については、L. 参考文献の奥野高広論文を参照のこと。

#### **K. 利用上の注意点**

「駕輿丁由記」(No.1)は原本ではないので注意が必要。

#### **L. 参考文献**

豊田武「四府駕輿丁座の研究」(『史学雑誌』45編1、1934年)

奥野高広「四府駕輿丁座の新史料について」(『古文書研究』9、1975年)

下橋敬長『幕末の宮廷』(東洋文庫353、平凡社、1979年)

表題／作成・授受／備考	年代	形態 数量	整理番号
-------------	----	-------	------

## 1. 日本経済史研究所所蔵写本

日本経済史研究所が所蔵する写本を昭和11年(1936)3月に旧三井文庫が印写した複製本。内容は、正応5年(1292)の四府駕輿丁の諸役免許状写に始まり、文化14年(1817)から明治2年(1869)までの秦氏宛駕輿丁補任状の写、「補任状ヲ有セサル理由書写」が書写されている。

駕輿丁由記 複製本、付、三井文庫駕輿丁資料目録	(正応5年～明治33年)	1冊	1
----------------------------	--------------	----	---

## 2. 青山家

史料No.2は、「駕輿丁記事」の内題をもつ書冊1点で、内表紙には「青山氏所蔵記」(縦7.3×横2.0cm)の蔵書印、「青山蔵」の墨書がある。青山氏宛の書状や書付類が貼付されており、本史料は青山家に旧蔵されたものと見られる。

青山家は代々長兵衛を名乗り、出町通今出川上ル廬山寺町に居住して米穀荒物を商売し、「木屋」を屋号とした。元治元年(1864)12月に左近府駕輿丁座人の欠員が出たことから、「青山図書」の名で駕輿丁座人に召し出されたという。史料No.2にはその時の経過が記され、さらに正応5年(1292)以来の四府駕輿丁の諸役免許状写、由緒書上、明治元年(1867)と同3年の9月改の「左近府駕輿丁席順并宿所書」、明治33年(1900)8月に旧官人駕輿丁が士属編入の願い出のため戸籍を提出した際の青山長兵衛の書類を載せる。明治3年改の「左近府駕輿丁席順并宿所書」には、朱書で「原書ハ元左近衛府兄部タリシ安本方ニ在リシヲ、明治三十三年八月之ヲ謄写ス、但、原書中ノ付紙ハ朱字ヲ以テ記ス」とあり、左近衛府兄部の蔵本を書写したものであるという。したがって、No.2史料は、明治期の当主青山長兵衛が他家の駕輿丁史料や自家の史料をもとに編纂した写本であろう。

No.2～No.7までの史料は、半紙判の料紙に渋皮刷毛目表紙を付け、同種の題箋に表題の墨書があるといった装丁の共通点がある。旧三井文庫の受入日は、No.3のみ1936年11月24日で、他はいずれも1933年8月14日である。No.3～No.7は、右近衛府兄部を世襲した大石家が所蔵した記録文書の写本であるが、これらも青山長兵衛が書写したものであろう。

「駕輿丁大石中務参役覚書内容」(No.3)は、三節会(元日・白馬・踏歌)・新嘗祭・豊明節会参役の覚書、同参役交名認様雛形之写、左右近衛大将着陣本陣参役覚などからなり、天保から慶応にかけての参役の分担、駕輿丁座の人員構成などがわかる。

駕輿丁記事 青山蔵、「青山氏所蔵記」朱印あり、 ○大石家	(正応5年1月～明治33年)	半 1冊	2
駕輿丁大石中務参役覚書	(天保2年1月～慶応3年)	半 1冊	3
駕輿丁諸用留	(文久2年4月～慶応3年11月)	半 1冊	4
駕輿丁御用控	(文久3年3月～11月)	半 1冊	5

駕輿丁御用控	(明治元年) 閏4月20日 ～9月18日	半 1冊	6
回達留	(慶応3年12月11日～同 4年9月)	半 1冊	7

### 3. 野口家

野口家は、右近府駕輿丁座人。召し出しの時期、住所などは不詳。座人名は「野口左近」。史料の表紙に「貳番」と「四番」と墨書があるので、1番と3番を欠くのがわかる。旧三井文庫の受入日は、いずれも1932年12月12日。

御駕輿丁御用留 貳番 右近府野口家	文久元年8月～文久3年 12月9日	半 1冊	8
御駕輿丁御用留 四番 右近府野口家	慶応3年9月～明治3年6 月	半 1冊	9

### 4. 森田家

森田家は、左近府駕輿丁座人。召し出しの時期は不詳。室町通正保下ル東側下京三番組烏帽子屋町に居住した。座人名は「森田左膳」。旧三井文庫の受入日は1935年11月12日。

御触控 毛利多氏	辰之秋(慶応4年5月～ 明治3年閏10月)	横美半 1冊	10
御触控 森田性	慶応3年8月～明治元年 5月	横美半 1冊	11

### 5. 小野家

小野家は右近府沙汰人を世襲した。旧三井文庫の受入日は、No.12は1935年12月6日、No.13～No.29は1932年7月7日と異なっているが、内容から同一出所の史料と判断した。いずれも右近府駕輿丁の機能に関わって作成、授受、保管された記録文書であり、他家の蔵本を書写した写本は含まれていない。幕末・維新期の駕輿丁座の動向がわかる。

御用日記 再売番八番 小野民部	万延元年10月	半 1冊	12
旅籠諸入用払 小野家	慶応2年3月	半 1冊	13
宿々人足諸用払	慶応2年3月	半 1冊	14
御東幸駕輿丁支度金配分帳		半 1冊	15
御再幸駕輿丁支度金配分帳	明治2年3月	半 1冊	16
伊勢駕輿丁支度金配分帳	明治2年3月	半 1冊	17
〔武州一ノ宮氷川神社行幸供奉に付駕輿丁嘆願書控〕	明治3年(閏10月19日)	半 1冊	18

駕輿丁一同→壬生正五位殿			
御鑑札受取帳	明治3年6月	美 1冊	19
〔御鳳輦駕輿丁奉仕手配図〕		22.3×16.7 1鋪	20
〔即位式紫宸殿之儀諸役見取図〕	(文化14年カ)	41.1×51.0 1鋪	21
〔光格天皇讓位仙洞行幸道筋見取図〕		62.0×56.0 1鋪	22
〔左大史小槻宿禰補任状〕(右近府駕輿丁) 修理東大寺大仏長官主殿頭兼左大史小槻宿禰(花押)→(藤原直道)	寛政2年2月6日	豎 1通	23
右近府沙汰任駕輿丁印鑑(控)		折 1通	24
覚(人足馬荷物宿継用意下知証文) 衛士重織衛内渡辺平助(印)→従大津中仙道木曾路日光壬生通京都迄宿々問屋年寄中	文政13年閏3月29日	折 1通	25
乍恐奉願上候(鴨社行幸に付右近府沙汰人代吹拳願状控) 右近府沙汰人小野民部→官務殿	文久3年3月	折 1通	26
〔駕輿丁座19人太政官達請状〕(慶喜以下賊徒征伐に付軍旅用意) 山上主計・安達太兵衛・福留帶刀・安部藤兵衛・山本縫殿・橋本主殿・河北主税・樋口藏人・船橋織部・森治郎右衛門・森治兵衛・池上弥右衛門・小野清左衛門・藤村隼人・駒井右兵衛・飯室伊織・藤井兵部・高井雅楽・羽田監物連印	慶応4年2月3日	折 1通	27
口状覚(駕輿丁座19人追討の件に付請状) 山上主計・船橋織部・森治郎右衛門・森治兵衛・池上弥右衛門・小野清左衛門・安達太兵衛・福留帶刀・安部藤兵衛・山本縫殿・橋本主殿・藤村隼人・駒井右兵衛・河北主税・飯室伊織・藤井兵部・高井雅楽・羽田監物・樋口藏人連印→小野肥後大目殿	慶応4年1月	折 1通	28
〔廻章留〕	(慶応4年)	横美 2冊	29

## 6. 仙洞御所付仕丁仲間

仕丁とは御厨子所に属して日々朝廷に供御を持参する役で、駕輿丁と直接には関係がない。No.30は、洞中付仕丁頭仲徳左衛門以下、114名の仕丁の名前、切米高・扶持料、担当役名を記した帳簿の控。No.31は、仙洞付仕丁の仲間詰所において作成された留帳で、仕丁の召出、転役、代番、退役の記事が書き留められ、「印」の届出帳としての機能も見られる。旧三井文庫の受入日は、いずれも1934年11月27日。

仙洞御所仕丁頭以下分限名前帳扣	文化10年改	半 1冊	30
仲ヶ間出勤転役年月留帳 詰所当番	嘉永7年9月改	半 1冊	31

23A

## 山城国京都三条西家文書目録

解題	p. 17
目次	p. 30
目録	p. 31

## 山城国京都三条西家文書目録 解題

- A. 史料群記号 23A  
B. 史料群名 やましろのくにきょう と さんじょうにし け もんじょ  
山城国京都三条西家文書  
C. 数量 962点  
D. 伝来の経緯

1948年度に史料館(当時は文部省史料館)に原蔵者三条西家より譲渡された。なお、学習院大学では、1948年に文学関係の和本55点、さらに1949年に和本51点を三条西家から譲渡されている。東京大学史料編纂所では、1951年9月に「実隆公記」を譲渡されている。

### E. 出所の歴史

三条西家は、藤原氏北家閑院流三条家の庶流正親町三条実継の次男公時(1338～83)に始まる。邸が三条の北、朱雀の西にあったことから三条西を家名とし、また西三条とも称した。公時の子実清(1372～1406)の養子になって3代を継いだ公保(1397～1460)は、内大臣正親町三条公豊の次男であったことから、宝徳2年(1450)に内大臣に任じられた。これにより、三条西家は大臣家(中院家・正親町三条家・三条西家の三家)の家格に列することになった。大臣家はその家格により、官位の昇進は大納言に任じられて大將を兼ねず、内大臣に任じられることを先途としたとされるが、江戸期に三条西家から内大臣の就任者はいない。なお、M. 参考資料に、系図と年譜を掲げた。

三条西家では代々、歌道を家職とし、戦国期に活躍した実隆(1455～1537)・公条(1487～1563)・実枝(1511～1579)は三条西三代といわれた。特に実隆は香道や書(御家流)にも優れた才能を発揮した。江戸期の三条西家の活動についてはあまり知られていないが、8代実条(1575～1640)が慶長18年(1613)から寛永17年(1640)まで武家伝奏を勤めた。中期には、11代公福(1697～1745)の存在が本史料群との関わりでは注目される。公福は始め公伊を名乗り、元禄14年(1701)10月に父実教を失ったが、同年12月に5歳で叙爵され、次第に昇進して、宝永4年(1707)元服して右少将に任じられ、名を公福と改めた。公福は、翌宝永5年から日記を書き始める。享保12年(1727)には権大納言に進み、同15年に議奏に就任した後、翌享保16年(1731)から同19年まで武家伝奏を勤め、朝議に携わった。三条西家の蔵書形成に果たした役割も大きい。

幕末には、15代の季知(1811～1890)が文久2年(1862)12月に国事御用掛となり、同3年(1863)8月18日の政変で参内他行禁止の処分を受け、同夜三条実美らとひそかに京都を脱出した七卿落ちの1人となる。慶応3年(1867)12月の王政復古で帰京を許され、翌年2月2日に権大納言に還任し、3月18日に皇太后宮権大夫を兼任し、8月22日に権大納言に進んだ。その関係の文書(No.220)がある。明治2年8月22日には子の公允とともに明治天皇の侍従に任じられ、同年11月8日には歌学御用掛に正式に任じられた。同7年1月13日には神宮祭主に任じられ、大教正を兼ねた。

なお、江戸期の領知高は502.2石であった。寛文5年(1665)の領知朱印状では、第1表のようになっている。菩提寺は松林院(京都左京区浄土真如町)。九品寺(京都南区九条上御霊町)に歴代の墓があ

る。

F. 年 代 延長4年(926)～明治13年(1880)

## G. 全体構造と内容

本史料群は、古記録の書写本を多く伝存していることから、内容年代は古代・中世に遡る。作成年代は江戸時代が中心であるが、なかには室町時代に作成された記録文書や三条西実隆の自筆文書が含まれている。紙背文書も多い。下限は明治12年(1879)から同13年にかけて三条西季知が記した『問答雑録』(No.95)である。したがって、本史料群は中世から明治初期にかけて、三条西家の諸機能により、作成、授受、保管された史料群ということができる。

本史料群の発生の契機としては、三条西家の私的な活動の結果、作成、授受、保管された記録文書と、同家の公的な活動の結果、作成、授受、保管された記録文書の二系統がある。前者の私的な記録文書は、さらに三条西家の当主とその家族による狭義の家組織を記録管理母体とする場合と、狭義の家を支える家臣によって構成される広義の家組織＝家政組織を記録管理母体とする場合に分けられる。後者の公的な記録文書群は、三条西家が江戸期の公家組織のなかで大臣家の家格に応じて朝廷で勤めた役務により三条西家を記録管理母体として伝来したものである。したがって、記録文書を発生、授受、保管する契機となった組織体＝記録管理母体の差に基づいて本史料群を類別するならば、次の3つの発生の契機を異にする史料群単位に分けることができる。

1. 三条西家の当主とその家族による狭義の家組織の機能に基づいて作成、授受、保管された史料群
2. 三条西家の家臣に支えられた家政組織の機能に基づいて作成、授受、保管された史料群
3. 江戸期の大臣家という家職の機能に基づいて作成、授受、保管された史料群

そこで、出所内組織(機構)を示す項目として、それぞれ1. 三条西家、2. 三条西家家政、3. 大臣家の大項目をたてた。これ以外に、神宮司庁の野紙を料紙に用いた記録文書、及び三条西家を本来の出所としない他家の記録文書が含まれている。これらを4. 神宮司庁、5. 出所不明として立項した。以下では、大項目ごとに史料群の構造と内容について説明する。

### 1. 三条西家(502点)

三条西家の当主とその家族による狭義の家組織の機能に基づいて作成、授受、保管された史料群を収めた。史料総数は502点で、本史料群の約半分を占めている。中項目では、当主や家族の個人別に項目を立てるのが理想であるが、ここに収めた史料の多くは古記録および有職故実書の類である。これらの記録文書は、公家が朝儀を遂行する上で必要な先例の知識を得るために、家の蔵書として代々蓄積され、利用された。記録文書の作成の契機は当主の書写活動の結果であったとしても、その記録が代々の当主に引き継がれ、相伝されるなかで先例・儀礼の故実書としての機能が付加されていく。したがって、史料の重層的な機能を目録上に反映させる意味では、それらの史料を個人別に編成するよりは、むしろ公家の家の機能に基づいて史料の内容による類別により編成の方が多様な史料利用

第1表 三条西家寛文五年領知村高

	単位：石
山城国乙訓郡寺戸村	200.0
山城国相楽郡山田村	50.0
山城国愛宕郡紫竹村	50.7
山城国紀伊郡吉祥院村	1.5
山城国葛野郡上植野之村 註1	200.0
計	502.2

出典：『寛文朱印留』下

註1：上植野之村は後に乙訓郡に変更。

の目的に耐えうるであろう。そこで、1-1. 冠婚葬祭、1-2. 交際、1-3. 当主日記、1-4. 古記録、1-5. 編纂書、1-6. 有職故実、1-7. 文芸・学問、1-8. 絵図・指図・拓本、1-9. 名鑑という 9 つの中項目を立てた。

当史料群の中には、家譜・系図、あるいは口宣・位記といった三条西家の重書として保管されるべき官位叙任関係の文書や領知朱印状などは伝来していない。史料群全体を通じて、11代公福(1697～1745)の書写活動のもとで集積された古記録や有職故実書が多く伝存し、公福の当主日記も27冊ある。

なお、No.203-1〔大間書写〕は、明応3年(1494)3月4日に三条西実隆が徳大寺家所蔵の明応2年3月25日付の大間書を書写したものである。奥書には紙数53枚とあるが、実際には48枚しかなく、前欠文書である。No.203-2の〔大間書案〕との関連性はよくわからない。

## 2. 三条西家家政(121点)

三条西家の家臣組織、および家政機構についてはよくわからない。『地下家伝』には三条西家の諸大夫侍として、河村の一家のみを掲げている。史料総数は121点であるが、史料群の遺存状況からはそれらの文書を作成、授受、保管した部局を特定することはできない。史料の形態はいずれも一括文書群であるため、本項目では一括の状態を解体せずに現状のまま配列することにした。中項目は一括文書の内容から推定して、2-1. 役所、2-2. 議奏役料請取、2-3. 儀式、2-4. 扶局の4項目を立てた。各項目については、目録本文で説明する。

## 3. 大臣家(324点)

ここでは朝廷組織における三条西家の大臣家としての家職に基づいて、作成、授受、保管された記録文書を取めた。従来の目録では、「勤仕」あるいは「家職」といった項目に該当する。今回、「大臣家」という大項目を立てた理由は、近年の目録編成において大項目には出所内組織(機構)を示すことが求められていることにある。三条西家は大臣家としての家格に基づく職務と、歌道という2つの家職を有するため、家職の意味を明確にするために「大臣家」という大項目を採用した。歌道の家職を発生契機とする記録文書については、1. 三条西家(1-7-1. 歌道)の中に配列している。この点について詳しくは本目録二条家文書の解題で述べたので、そちらを参照していただきたい。

なお、三条西家は大臣家の家格を有したが、江戸期には同家から大臣に昇進することはなかったため、朝議に関わって作成、授受、保管された江戸期の史料はほとんどない。室町期の除目と大嘗会に関わる手続き文書、江戸期に武家伝奏・議奏を勤めた時期の記録文書、および幕末の季知が皇太后宮権大夫を勤めた時期の記録文書が若干あるのみで、史料群の大半は江戸期の朝儀の儀式次第書である。したがって、中項目は史料の遺存状況から、各儀礼及び役職の機能により編成することにし、3-1. 大葬・即位、3-2. 大嘗会、3-3. 改元、3-4. 節会、3-5. 出家、3-6. 行幸、3-7. 神事、3-8. 叙位・除目、3-9. 贈位・葬礼、3-10. 健宮妙法院入寺一件、3-11. 武家伝奏・議奏、3-12. 勤番、3-13. 皇太后宮権大夫の13項目を立てることにした。各項目については、目録本文において説明する。

## 4. 神宮司庁(12点)

料紙はほぼ美濃判の縦帳二つ切の大きさ(13.7×20.0cm)で、版心に「神宮司廳」と印刷された10行罫紙を用いた史料が10点、同じく半紙判10行罫紙を用いた史料が1点、神宮教院用紙を用いた史料が1点ある。朝廷儀礼を記録した内容の文書が中心である。明治7年(1874)1月14日に季延が神宮祭主

に任じられ、大教正を兼ねたことと関連があるかどうかは不詳。

#### 5. 出所不明(3点)

三条西家を本来の出所としない記録文書が含まれている。内容は、元服に関わって正親町三条殿役所で作成されたと推定される記録が3点である。これらは、三条西家で先例や故実を調べるために集積した史料群である可能性もあるが、書写した二次的な記録ではないため、独立した項目として扱った。

#### H. 形態の特徴

形態的には、堅折本(袋綴じ)を2つないし、3つに切った横形本(切本)が多い。形態の項目には、美二切・半二切・美三切・半三切と略記した。また、書状や和歌懐紙を紙背文書として利用したものが散見される。

蔵書印については、次の9つが確認できる。

1. 「三條西」の朱橢円印(縦3.7×横2.4cm)(口絵写真⑨)
2. 「三條西蔵書／第 號／皇紀 年」の朱三行方印(縦6.0×横5.6cm)(口絵写真⑩)
3. 「三條西」の朱橢円小印(縦1.3×横1.0cm)
4. 「公福」の朱方印(縦3.5×横3.5cm)(口絵写真⑪)
5. 「定基」の朱方印(縦3.5×横3.5cm)
6. 「葉室頼孝」の朱方印(縦3.8×横3.8cm)
7. 「西三條」の朱橢円印(縦1.1×横0.8cm)(口絵写真⑫)
8. 「公正」の朱印(縦1.1×横0.9cm)(口絵写真⑬)
9. 印文不明黒方印(縦1.2×横1.1cm)

1は、三条西家の蔵書に比較的多く押されている蔵書印である。2は、No.3-2「諸家伝」の1丁目表右下に押されている。No.4「後愚昧記」の表表紙の見返しの内側にも押下されているが、表側からはそれを見ることはできない。蔵書管理のための印と見られるが、いずれも中央行の管理番号の部分に墨書等の形跡はみられない。3は、No.9「実隆公記」のみに押されている。4の「公福」印は、No.17「貞信公卿記」、No.40-16「愚記」、No.139「白氏文集聞書」の3点。5の「定基」は野宮定基(1669～1711)の蔵書印で、No.16「葉禅記」に押されている。6は、葉室頼孝(1644～1709)の蔵書印で、No.7-6「中右記」に押されている。7の「西三條」印は、史料の料紙に押下された印ではなく、算用数字3桁を墨書した和紙の付箋を綴紐として利用したり、書冊の綴紐にくくりつけられている付箋に押されている。三条西家は、明治18年(1885)に季知が「西三條」に改め、大正7年(1918)に「三条西」に復した。したがって、この付札は季知、もしくはその子公允によって蔵書整理が加えられた際に付されたものではないかと見られる。8は、三条西家18代公正(1901～1936)の印と推測され、No.14「高倉院嘉応三年御元服記」に押されている。9は、印文不明の黒印でNo.125「次第位抄」の表紙に同じ印が2個押されている。

それぞれ、1は「蔵印1」、2は「蔵印2」、3は「蔵印3」、4は「公福印」、5は「定基印」、6は「頼孝印」、7は「西三條印」、8は「公正印」、9は「黒印」と備考欄に記した。7に関しては、

朱印とともに記されている算用数字を補記した。

## 1. 整理の方針

本史料群は当館に受け入れた後、仮整理番号5198～6057を付与し、仮整理目録Bにより閲覧に供してきた。今回の目録作成にあたっては、仮整理段階での配列を尊重した上で、新たに整理番号を付与した。その理由は、仮整理番号は大まかな点数を把握した上で便宜的に付された性質のものであるため、厳密な整理を施す過程で対応する整理番号に過不足が生じるという不都合による。これまで仮整理番号で本史料群をご利用いただいた方にはその点で迷惑をおかけするが、今後は史料引用などの際には新番号に訂正していただくことを願いたい。

なお、三条西家の史料群構造の特質の一つとして、紙背文書をもつ史料が多く伝存している点がある。こうした紙背文書をもつ史料の史料情報は、時系列的重層構造をもっている。これを目録上に編成するには、作成年代の新しい史料情報を優先させて目録上に編成することが基本的原則である。つまり、紙背文書をもつ史料をデータ化する場合には、まず作成年代の新しい方(本紙)から優先的にデータ化し、その後に必要であれば紙背の史料情報をデータ化していくことになる。

この点について、歴史的観点からみて史料内容の重要性からどちらの歴史情報を優先的に目録上に示すかを判断し、史料番号も歴史的重要性の高い内容の方に優先的に付与する方法を採ることも考えられるが、史料管理学的な観点からはそうした立場とはならない。なぜならば、紙背などに記された古い作成年代の歴史情報は、いったんは不要と見なされ反故化された料紙が再び利用されて新たな記録文書として再生した後に、その記録文書の最終保管者が新しい記録文書の内容を保存する目的でその記録文書を廃棄処分とせず保管したため、偶発的に残されたものだからである。史料整理の原則である原秩序尊重の原則に鑑みて、時系列的重層構造をもつ史料の歴史情報は、新しい作成年代の歴史情報を原秩序として尊重し、まず目録上に再構成させることが求められる。

その上で、過去に一度廃棄された歴史情報(紙背文書)についても目録上に再構成する方法を併用することを検討せねばならないが、いくつかの問題があろう。その第1は、目録編成上の配列をどうするかという問題がある。現状(現配列)を記録する現状(現配列)目録を作成する場合には、本紙と紙背の両方の史料情報を同じレベルの歴史情報としてデータ化し、目録上にも併記して配列することができるので支障はないが、本目録のように史料群の階層構造を反映させた目録編成をとる場合に、本紙と紙背を同じレベルの史料情報としてデータ化すると、両者はもともと作成の契機を異にする別個の記録文書であるため、別々の編成項目の中に配列することになる。その場合に、本紙と紙背の関係を目録上で理解できるように提示するためには重出という方法をとることになるが、各項目に全く階層構造上は関係のない史料データが配列されることになり、階層構造の理解になじまないことが懸念される。しかも、紙背文書は必ずしも現在の出所に保管される筋の記録文書でないことも珍しくないため、出所内組織の階層構造の中に配列しにくいものも多い。

第2の問題点は、紙背文書の史料情報の特質である。紙背文書の中には原型をとどめるものもあるが、多くは紙背として再利用される過程で本来の原型を失って天地左右の料紙を欠き、あるいは宛所を欠いて出所の特定できないもの、あるいは文書の書損であったり、包紙の再利用であったりと、史

料情報をデータ化する上で不完全なものが多い。そこで、それらの作成の契機、あるいは歴史的機能  
を特定して階層構造的に配列するためには、さまざまな角度からの細かな分析が求められることにな  
るが、限られた時間のなかで進める目録編成作業において、こうした紙背文書の性格を特定する作業  
を並行しておこなうことは困難である。

結論的には、紙背文書は階層構造分析目録とは別な段階で、十分な分析を尽くした上で独自の目録  
を作ることが望ましいと考える。そこで、本目録の構成においては、紙背文書については次のような  
整理方針をとった。状態の史料で、本紙・紙背ともに単体レベルでの歴史情報のデータ化ができる史  
料に関しては、作成年代の新しい方から枝番号を付与してデータ化し、個々の史料の機能に基づいて  
配列し、本紙と紙背の相互関係については備考欄に補った。状態の史料でも紙背文書が単体レベルで  
の歴史情報のデータ化が不完全な場合には、紙背の有無、簡単な内容を本紙の備考に併記した。書冊  
史料の紙背に関しては、備考欄に紙背文書がある旨のみを記した。

#### J. 関連史料の所在

東京大学史料編纂所蔵「実隆公記」(106巻・1帖・44冊・1紙)。

学習院大学所蔵「三條西家本」106冊。

早稲田大学総合学術情報センター中央図書館所蔵「三條西家旧蔵並記録類」78点。

個別の写本等については、学習院大学史料館編『旧華族家史料所在調査報告書』本編2(1993年)を参  
照のこと。

#### K. 利用上の注意点

仮整理目録Bによって付与されていた仮整理番号5198～6057は新しい整理番号に変更されているの  
で、史料の請求や刊行物への引用等は本目録の整理番号を使用して下さい。

#### L. 参考文献

松尾聡「本学蔵三條西家旧蔵本由来」(『<sup>ほじん</sup>輔仁会雑誌』199号、1976年)

東京大学史料編纂所『第三十一回史料展覧会列品目録「実隆公記」と三條西家』(1995年)

同「三条西実隆画像と実隆公記」(1996年)

末柄豊『「実隆公記」と文書』(五味文彦編『日記に中世を読む』吉川弘文館、1998年)

<付記>

本史料群のデータ作成については、守田逸人氏の協力を得ました。また、末柄豊氏には史料整理に  
あたり多くのご教示をいただきました。学習院大学所蔵史料については、西田かほる・藤實久美子の  
両氏のご教示を得ました。末筆ながら、感謝申し上げます。

#### M. 参考資料

### 三 条 西 家 年 譜

#### 公 時

曆應 2. 誕生  
貞治 6. 4. 13 補藏人頭(于時右中將正四位下)(29歲)  
叙正四位上  
応安 3. 8. 14 任参議(中將如元)(32歲)  
4. 4. 14 叙從三位(33歲)  
6. 12. 26 正三位(35歲)  
7. 12. 13 任權中納言(36歲)  
8為永和元)3. 29 兼侍從  
康暦 3為永徳元)1. 6 叙從二位(43歲)  
永徳 3. 3. 3 任權大納言(侍從如元)(45歲)  
11 没(45歲)

#### 実 清

応安 6. 誕生  
応永 7. 12. 20 補藏人頭(于時右中將正四位下)(28歲)  
叙正四位  
10. 3. 22 任参議(中將如元、于時正四位上)(31歲)  
11. 3. 17 兼美作權守(32歲)  
12. 1. 6 叙從三位(33歲)  
3. 17 任權中納言  
13. 2. 16 没(34歲)

#### 公 保

応永5. 誕生  
23. 11. 4 補藏人頭(于時正四位下左中將)(15歲)  
叙正四位上  
25. 12. 2 任参議(中將如元、于時正四位上)(21歲)  
26. 3. 10 兼能登權守(22歲)  
4. 14 叙從三位  
12. 5 任權中納言  
29. 1. 5 叙正三位(25歲)  
32. 1. 5 叙從二位(28歲)  
35. 3. 20 任權大納言(31歲)  
永享 4. 8. 24 兼按察使(35歲)  
9. 1. 5 叙正二位(40歲)  
文安 5. 1. 29 辞退(按察使如元)  
宝徳 2. 5. 14 任内大臣(53歲)  
6. 22 辞退  
3. 1. 5 叙從一位(54歲)  
享徳 4. 出家(法名縁空)(58歲)  
長祿 4. 1. 28 没(63歲)

#### 実 隆

康正元. 4. 25 誕生  
長祿 2. 12. 26 叙爵(于時公世)(4歲)  
28 任侍從  
3. 3. 28 兼備中權介(5歲)  
寛正 6. 1. 5 叙從五位上(11歲)  
応仁 3. 6. 23 元服聴禁色(15歲)  
任右權少將

9. 18 叙正五位下(改実隆)  
文明 2. 3. 18 叙從四位下(少將如元)  
4. 10. 14 服解(母)  
12. 26 除服復任  
5. 1. 25 叙從四位上  
6. 4. 22 転右權中將(20歲)  
29 叙正四位下  
7. 1. 28 補藏人頭(21歲)  
8. 1. 5 叙正四位上  
9. 12. 30 任参議(中將如元)(23歲)  
11. 1. 5 叙從三位(25歲)  
12. 3. 29 任權中納言(26歲)  
4. 17 兼侍從  
17. 2. 28 叙正三位  
長享 3. 2. 23 任權大納言(35歲)、公治辞替  
6. 16 更兼侍從  
延徳元. 12. 23 為内膳別当  
明応 2. 1. 6 叙從二位(39歲)  
文亀 2. 1. 23 叙正二位(48歲)  
4. 5. 16 輕服(50歲)  
永正 3. 2. 5 任内大臣(於陣宣下)(52歲)  
4. 5 辞退(未拝賀)  
13. 4. 13 出家(法名亮空)  
天文 6. 10. 3 没(83歲)

#### 公 条

文明19. 5. 21 誕生  
長享 2. 3. 5 叙爵(2歲)  
延徳 2. 2. 23 任侍從(6歲)  
明応 2. 3. 25 兼美作權介  
3. 1. 6 叙從五位上(8歲)  
6. 12. 15 元服聴禁色(11歲)  
任右少將  
7. 12. 5 叙正五位下(12歲)  
8. 12. 13 叙從四位下(13歲)  
10. 3. 9 叙從四位上(15歲)  
文亀 2. 3. 10 転右中將(16歲)  
3. 2. 14 叙正四位下(17歲)  
永正 2. 5. 6 補藏人頭(19歲)  
6. 12 奏慶  
11. 19 為殿上管領  
12. 5 叙正四位上  
4. 4. 26 任参議(中將如元)(21歲)  
9. 27 叙從三位  
6. 12. 7 奏慶  
15 着直衣参内  
8. 10. 5 任權中納言(25歲)  
9. 2. 7 叙正三位(26歲)  
11. 22 聴帶剣  
27 奏慶着陣  
11. 4. 15 輕服(28歲)  
19 除服  
8. 9 兼太宰權師

### 三 条 西 家 年 譜

13. 4. 13 被仰敷奏 為神宮伝奏  
 15. 1. 6 叙従二位(32歳)  
 17. 11. 22 為寛恒親王勅別当  
 18. 4. 9 任権大納言(35歳)  
       27 為二品法親王勅別当  
       6. 27 更兼太宰権師  
 大永 2. 7. 28 輕服  
       8. 10 除服出仕  
       6. 1. 19 叙正二位(40歳)  
       辞神宮伝奏  
 天文 4. 12. 29 辞師兼按察使(49歳)  
       10. 1. 12 任内大臣(55歳)  
       3. 17 辞退  
       11. 閏3. 3 任右大臣(56歳)  
       12. 7. 16 上表辞退(57歳)  
       13. 2. 27 出家(於二尊院、法名仍覚)  
 永禄 6. 12. 2 没(77歳)

#### 実 枝

永正 8. 8. 4 誕生  
       9. 12. 2 叙爵(于時実世)(2歳)  
       11. 12. 2 任侍従(4歳)  
       12. 3. 6 叙従五位上(5歳)  
       14. 1. 26 叙正五位下(7歳)  
       18. 12. 19 叙従四位下、元服聴禁色昇殿(11歳)  
 大永 2. 3. 29 任右権少将兼美作権介(12歳)  
       12. 27 叙従四位上  
       5. 3. 13 転右近中将(15歳)  
       6. 3. 20 叙正四位下(16歳)  
       8. 4. 24 補藏人頭(18歳)  
 享禄 3. 1. 20 叙正四位上(20歳)  
       28 任参議(中将如元)  
       4. 12. 27 奏慶  
       29 聴直衣  
       5. 1. 6 叙従三位(22歳)  
 天文 4. 12. 4 任権中納言(25歳)  
       5. 11. 22 叙正三位(26歳)  
       9. 1. 25 叙従二位(30歳)  
       4. 16 為神宮伝奏  
       10. 3. 27 任権大納言(31歳)  
       12. 10. 29 辞伝奏  
       13. 6. 2 改実澄(24歳)  
       8. 25 叙正二位  
       21. 9. 13 服解(母)  
       22. 9. 5 復任(43歳)  
 弘治 4. 8. 21 上洛(48歳)  
 永禄 2. 5. 25 下向駿河国(49歳)  
       6. 12. 2 服解(父)  
       7. 2. 3 除服復任(在国)  
       12. 6. 16 自駿河国上洛(59歳)  
 元龜 2. 8. 20 下向伊勢国(61歳)  
       12. 4 上洛  
       3. 閏1. 6 辞退本座不詳(62歳)

4. 1. 12 聴本座(63歳)  
 天正 2. 3. 3 還任(64歳)  
       7. 3 奏慶  
       12. 24 改実枝  
       3. 11. 3 兼按察使(65歳)  
       辞按察使  
       5. 11. 20 転正(67歳)  
       奏慶  
       12. 晦日 為内膳別当  
       7. 1. 20 任内大臣(69歳)  
       22 辞退  
       出家(法名豪空、玄覚)  
       24 没(69歳)

#### 公 国

弘治2. 誕生  
 永禄 5. 3. 10 叙爵(于時公光)(7歳)  
       6. 13 任侍従  
       12. 8. 23 叙従五位上(14歳)  
       叙正五位下  
       9. 2 任右少将  
       10. 24 改公明  
       13. 12. 27 叙従四位下(少将如元)(15歳)  
 元龜 2. 12. 26 転右中将(16歳)  
       3. 11. 7 叙従四位上(17歳)  
       4. 12. 12 任参議(中将如元)(18歳)  
       24 叙正四位下  
 天正 3. 1. 5 叙従三位(20歳)  
       7. 7 任権中納言(参議未拜賀)  
       12. 29 改公国  
       6. 1. 6 叙正三位(23歳)  
       7. 1. 24 服解(父)  
       11. 17 辞退(24歳)  
       8. 1. 7 任権大納言(25歳)  
       9. 1. 16 叙従二位(26歳)  
       13. 1. 6 叙正二位(30歳)  
       12. 11 辞退  
       30 還任  
       15. 11. 9 任内大臣(32歳)  
       11. 9 没

#### 実 条

天正 3. 1. 26 誕生  
       4. 1. 5 叙爵(2歳)  
       7. 11. 8 任侍従(5歳)  
       8. 2. 5 叙従五位上(6歳)  
       12. 1. 26 叙正五位下(10歳)  
       16. 2. 28 元服聴禁色昇殿(14歳)  
       叙従四位下  
       17. 1. 6 叙従四位上  
       19. 1. 10 転右中将(17歳)  
 文禄 4. 12. 4 叙正四位下(21歳)  
 慶長 2. 2. 2 任参議(中将如元)(23歳)

### 三 条 西 家 年 譜

<p>5. 1. 5 叙従三位(中将如元)(26歳)</p> <p>11. 1. 11 任権中納言(32歳)</p> <p>14. 1. 6 叙正三位(中将如元)(35歳)</p> <p>18. 1. 12 任権大納言(39歳)</p> <p>19. 1. 5 叙従二位(40歳)</p> <p>7. 11 為武家伝奏</p> <p>元和 3. 1. 5 叙正二位(43歳)</p> <p>10. 11. 28 兼中宮大夫(50歳)</p> <p>寛永 6. 11. 6 任内大臣(55歳)</p> <p>8 為執事別当</p> <p>8. 12. 15 辞退(57歳)</p> <p>16. 12. 29 叙従一位(65歳)</p> <p>17. 6. 24 任右大臣(將軍家執奏)</p> <p>10. 4 辞退</p> <p>9 没(66歳)</p> <p><b>公 勝</b></p> <p>慶長 2. 10. 18 誕生</p> <p>7. 1. 6 叙爵(6歳)</p> <p>11. 1. 6 叙従五位上(10歳)</p> <p>17. 1. 5 叙正五位下(16歳)</p> <p>元和 8. 11. 22 元服聴禁色昇殿(26歳)</p> <p>叙従四位下</p> <p>任侍従</p> <p>寛永 3. 9. 23 没(30歳)</p> <p><b>実 教</b></p> <p>元和 5. 7. 5 誕生</p> <p>8. 12. 28 叙爵(4歳)</p> <p>寛永 2. 1. 5 叙従五位上(7歳)</p> <p>6. 9. 16 任侍従(11歳)</p> <p>7. 1. 5 叙正五位下(12歳)</p> <p>12. 12. 14 元服聴禁色昇殿(17歳)</p> <p>叙従四位下</p> <p>任左少将</p> <p>13. 1. 5 叙従四位上(18歳)</p> <p>14. 11. 17 転左中将(19歳)</p> <p>16. 1. 5 叙正四位下(21歳)</p> <p>閏11. 17 任参議(中将如元)</p> <p>17. 1. 5 叙従三位(22歳)</p> <p>11 辞退(中将如元)</p> <p>21. 8. 12 叙正三位(26歳)</p> <p>正保 5. 12. 22 任権中納言(30歳)</p> <p>慶安 2. 1. 14 聴帯剣</p> <p>15 奏慶</p> <p>為賀茂伝奏</p> <p>5. 10. 12 叙従二位(34歳)</p> <p>承応 2. 辞伝奏(依輕服也)</p> <p>4. 1. 14 叙正二位</p> <p>25 任権大納言(37歳)</p> <p>10. 14 為穩仁親王勅別当</p> <p>明暦 3. 11. 24 辞退</p> <p>元禄 14. 10. 19 没(83歳)</p>	<p><b>公 福</b></p> <p>元禄 10. 11. 17 誕生</p> <p>14. 12. 23 叙爵(5歳)</p> <p>15. 9. 27 任侍従(6歳)</p> <p>17. 1. 23 叙従五位上(8歳)</p> <p>宝永 3. 1. 10 叙正五位下(10歳)</p> <p>4. 2. 11 元服聴禁色昇殿(11歳)</p> <p>任右権小将</p> <p>3. 18 改公福</p> <p>12. 5 叙従四位下</p> <p>5. 2. 16 任春宮権亮(12歳)</p> <p>6. 4. 22 叙従四位上(13歳)</p> <p>6. 2 転右権中将</p> <p>21 止権亮(依受禅也)</p> <p>叙正四位下(17歳)</p> <p>正徳 3. 12. 23 任参議(中将如元)(22歳)</p> <p>享保 3. 6. 4 奏慶着陣</p> <p>28 叙従三位(23歳)</p> <p>4. 2. 12 任権中納言</p> <p>9. 28 勅授帯剣</p> <p>拝賀着陣</p> <p>10. 9 聴直衣</p> <p>9. 閏4. 2 叙正三位(28歳)</p> <p>10. 1. 7 着陣</p> <p>11. 1. 7 着陣(服後)</p> <p>12. 7. 4 任権大納言(31歳)</p> <p>8. 22 拝賀着陣</p> <p>13. 12. 21 叙従二位(32歳)</p> <p>14. 1. 7 着陣</p> <p>15. 12. 2 為保良親王勅別当</p> <p>16. 9. 3 辞退権大納言</p> <p>21. 12. 12 叙正二位(40歳)</p> <p>元文 5. 8. 1 還任大納言(44歳)</p> <p>9. 28 拝賀着陣</p> <p>寛保 4. 12. 19 辞退(48歳)</p> <p>延享 2. 9. 17 没(49歳)</p> <p><b>実 称</b></p> <p>享保 12. 3. 23 誕生</p> <p>16. 12. 25 叙爵(5歳)</p> <p>18. 12. 27 任侍従(7歳)</p> <p>21. 12. 12 叙従五位上(10歳)</p> <p>元文 3. 4. 19 叙正五位下(12歳)</p> <p>5. 12. 16 元服聴昇殿(14歳)</p> <p>任右権少将</p> <p>6. 6. 15 叙従四位下(15歳)</p> <p>寛保 3. 6. 29 叙従四位上(小除日之次)(17歳)</p> <p>4. 12. 19 転右権中将(18歳)</p> <p>延享 2. 1. 21 兼美濃権介(19歳)</p> <p>9. 17 喪父</p> <p>11. 28 除服出仕復任</p> <p>3. 4. 2 叙正四位下(20歳)</p>
---	--

# 三 条 西 家 年 譜

4. 3. 16 兼春宮權亮(立坊日)(21歳)  
 5. 2 止權亮(依受禪也)  
 補院司(讓位日)  
 拜賀  
 5. 6. 28 任参議(中将如元)(22歳)  
 8. 21 拜賀着陣  
 9. 21 兼丹波守  
 寛延 2. 1. 5 叙従三位(23歳)  
 宝暦 3. 1. 22 叙正三位(27歳)  
 4. 1. 26 任權中納言(28歳)  
 2. 13 聽帶剣  
 奏慶着陣  
 14 聽直衣  
 5. 27 補和義親王勅別当  
 5. 2. 29 服解(母)  
 4. 20 除服出仕復任  
 6. 6. 26 着陣  
 7. 12. 25 任權大納言(31歳)  
 28 拜賀着陣  
 8. 12. 28 叙従二位(32歳)  
 29 着陣  
 10. 12. 3 辞退權大納言  
 安永 5. 9. 7 叙正二位(50歳)  
 寛政 3. 9. 21 没(65歳)

## 公 里

寛延 2. 4. 30 誕生  
 4. 12. 22 叙爵(3歳)  
 宝暦 5. 7. 29 任侍従(7歳)  
 12. 24 叙従五位上  
 6. 12. 4 元服聽昇殿(8歳)  
 聽禁色(為実治公猶子)  
 7. 3. 29 叙正五位下(9歳)  
 9. 1. 24 叙従四位下(11歳)  
 11. 3. 15 任左權少将(13歳)  
 5. 4 拜賀  
 12. 24 叙従四位上  
 13. 5. 1 叙正四位下(15歳)  
 14. 9. 14 転左權中将(16歳)  
 26 拜賀  
 明和 2. 8. 11 辞中将  
 11 没(17歳)

## 延 季

寛延 3. 11. 14 誕生  
 宝暦 13. 6. 19 叙爵(14歳)  
 明和 2. 10. 17 叙従五位上(16歳)  
 12. 19 任侍従  
 3. 2. 14 元服  
 聽禁色昇殿  
 4. 1. 9 叙正五位下(18歳)  
 6. 1. 9 叙正四位下(20歳)  
 8. 1. 10 任右權少将(22歳)

22 叙従四位上  
 5. 9 兼皇太后宮權亮 拜賀  
 7. 9 止權亮(本宮依院号也)  
 9. 8 服解(母)  
 10. 28 除服出仕復任  
 安永 2. 12. 19 叙正四位下(24歳)  
 6. 1. 9 転左近衛權中将(28歳)  
 14 奏慶  
 8. 20 任参議(中将如元)  
 10. 14 奏慶  
 7. 1. 10 叙従三位(29歳)  
 8. 5. 4 叙正三位(小除目之次)(30歳)  
 天明 7. 5. 26 任權中納言(小除目)  
 勅授帶剣 拜賀  
 6. 15 聽直衣 直衣始  
 26 着陣  
 寛政 2. 12. 18 叙従二位(41歳)  
 3. 9. 21 服解(父)  
 11. 22 叙服出仕復任  
 4. 2. 14 任權大納言(43歳)  
 4. 12. 14 拜賀着陣  
 15 直衣始  
 5. 12. 19 叙正二位(44歳)  
 6. 1. 1 着陣  
 8. 4. 20 辞退權大納言(47歳)  
 12. 1. 20 没(51歳)

## 実 勲

天明 5. 12. 17 誕生  
 6. 9. 28 叙爵(2歳)  
 寛政 2. 12. 6 叙従五位上(6歳)  
 4. 12. 2 叙正五位下(8歳)  
 6. 2. 6 任侍従(10歳)  
 9. 12. 4 元服聽昇殿(13歳)  
 26 叙従四位下  
 10. 10. 4 任左權少将(14歳)  
 24 拜賀  
 11. 10. 26 叙従四位上(15歳)  
 12. 1. 20 服解(父)  
 3. 11 叙服出任復任  
 13. 3. 23 叙正四位下(17歳)  
 享和 3. 12. 28 転右權中将(19歳)  
 4. 1. 7 拜賀  
 文化 6. 3. 24 兼春宮權亮(立坊日)(22歳)  
 拜賀  
 11. 11. 7 任参議(中将權亮等如改)(30歳)  
 13 拜賀着陣  
 24 聽直衣  
 直衣始  
 12. 1. 14 叙従三位(權亮如元)(30歳)  
 14. 2. 25 叙正三位(33歳)  
 3. 22 去權亮(受禪日)  
 15. 5. 28 兼近江權守(小除日)

### 三 条 西 家 年 譜

文政 3. 2.22 服解(母)  
 4.25 除服出仕復任  
 5.12.14 秩満  
 7. 6. 4 任権中納言(小除目)(40歳)  
 18 勅授帯剣  
 拝賀着陣  
 19 聴直衣  
 直衣始  
 8. 1. 5 叙従二位(41歳)  
 16 着陣  
 12. 6. 3 叙正二位(45歳)  
 28 着陣  
 13. 8.24 為弘保親王勅別当  
 天保 4. 6.14 辞退(49歳)  
 7.17 落飾(法名端空)  
 蟄居  
 弘化 2. 7.22 没(61歳)

#### 季 知

文化 8. 2.26 誕生  
 9. 1.20 叙爵(2歳)  
 13. 1.18 叙従五位上(6歳)  
 文政元.12.19 叙正五位下(8歳)  
 7. 8.28 任侍従(14歳)  
 11.26 元服聴昇殿  
 12.19 叙従四位下  
 8. 2.11 任右近衛権少将(15歳)  
 27 奏慶  
 9. 1.21 叙従四位上(16歳)  
 11. 2.20 叙正四位下(18歳)  
 13. 6.10 転権中将(20歳)  
 8. 8 奏慶  
 天保 9. 5.18 辞中将(28歳)  
 弘化 2. 3.23 還任左権中将(35歳)  
 5. 2 拝賀  
 7.22 服解(父)  
 9.20 除服出仕復任  
 4. 3.14 兼皇太后宮権亮(37歳)  
 拝賀  
 10.13 止権亮(依院号)  
 5.12.25 為内教坊別当(38歳)  
 嘉永 3. 6.27 任参議(権中将如元)  
 8.16 拝賀着陣  
 17 聴直衣  
 直衣始  
 11.29 叙従三位  
 5.11.17 叙正三位(42歳)  
 安政 4. 5.15 権中納言  
 12. 8 叙従二位  
 文久元. 1.23 正二位  
 2.17 着陣  
 明治元. 8.22 権大納言  
 2. 8.22 任侍従(58歳)

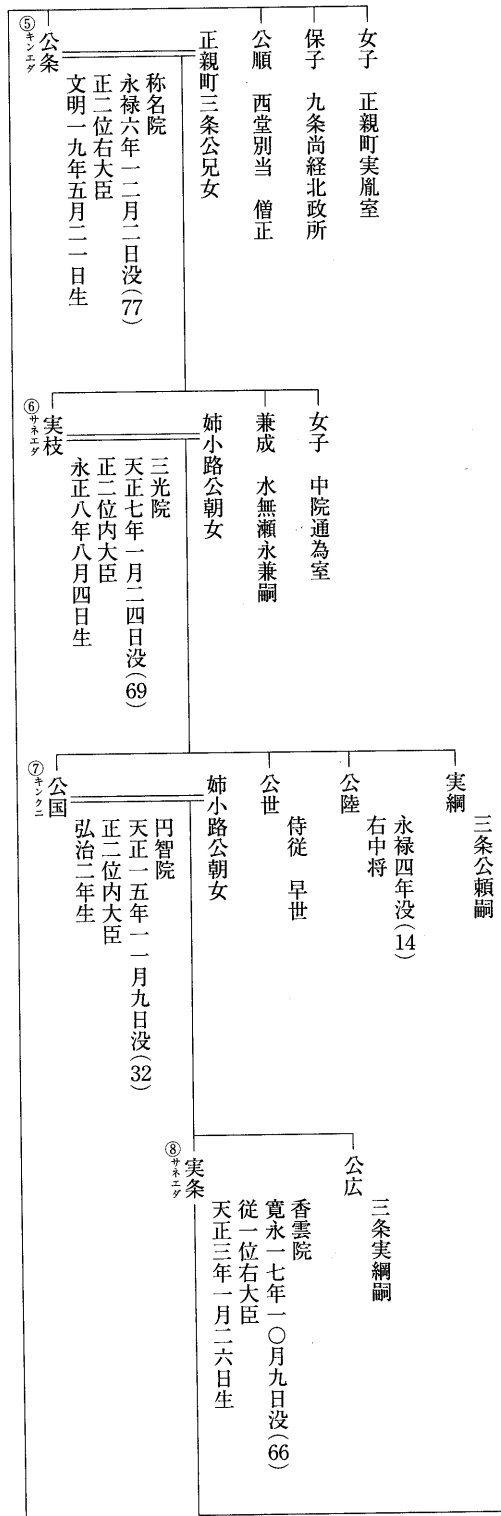
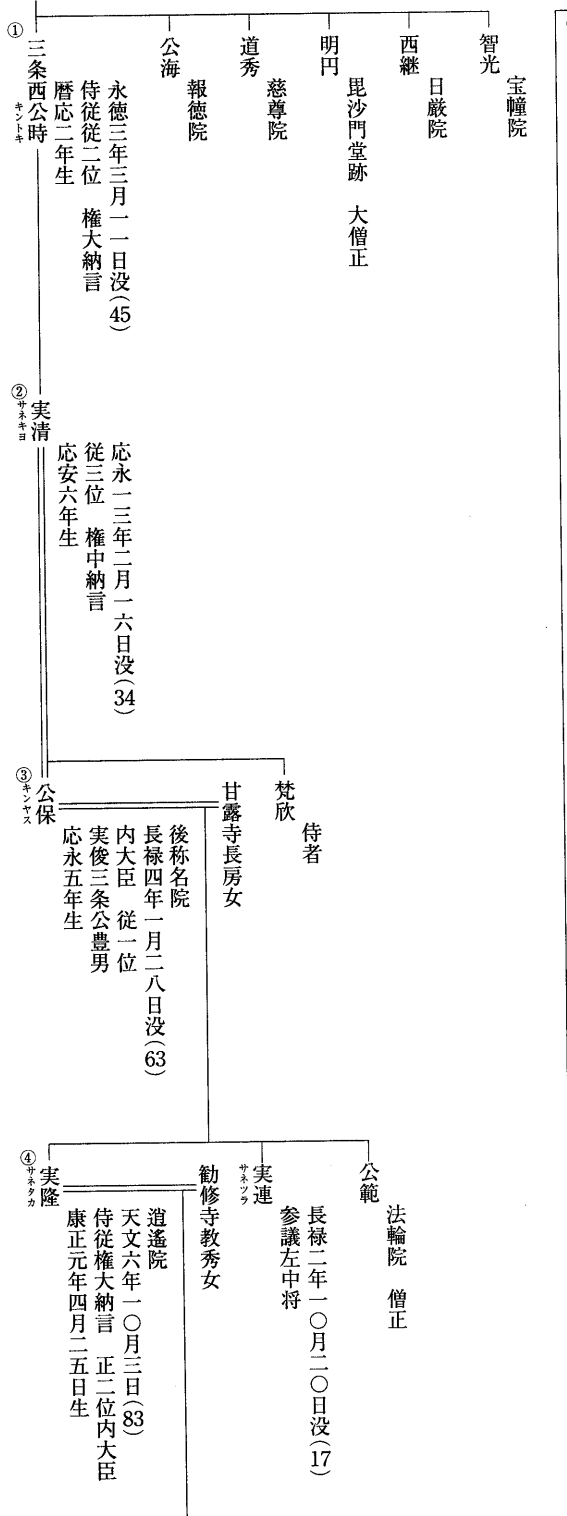
6. 1.22 補権大教正(62歳)  
 7. 1.13 任神宮祭主、兼補大教正  
 8. 7.12 免本官并兼官(64歳)  
 13. 8.24 没(70歳)

#### 公 允

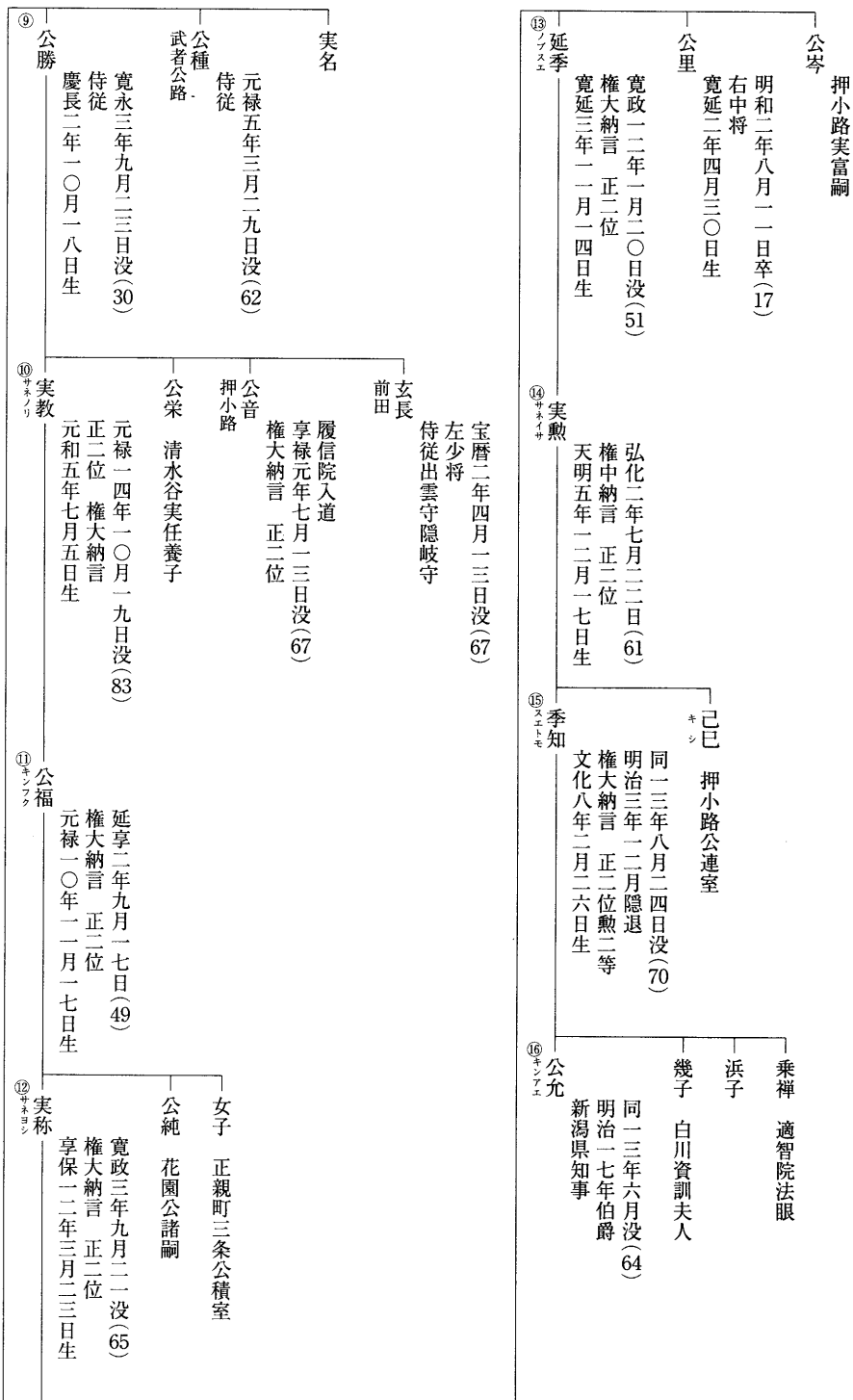
天保12. 誕生  
 13.12.22 叙爵(2歳)  
 弘化 2. 2.17 叙従五位上(5歳)  
 4.12.23 叙正五位下(7歳)  
 嘉永 3.12.27 任侍従(10歳)  
 3. 4 叙従四位下  
 6.11.25 叙従四位上(13歳)  
 安政 2. 2.17 叙正四位下(15歳)  
 明治17. 伯爵  
 37. 6. 没(64歳)

出典：史料館所蔵「公卿諸家譜」(山城国京都清水谷  
 家文書、史料番号26B222-18)。ただし、季知と公允  
 については『公卿補任』から記事を補った。

〔三条西家略系図〕



近藤敏喬『宮廷公家系図集覧』（東京堂出版、一九九四年）  
『昭和重修華族家系大成』上巻（霞会館、一九八二年）  
（典拠）



1. 三条西家	31	3-4-2. 御歌会	67
1-1. 冠婚葬祭	31	3-4-3. 元服	67
1-2. 交際	31	3-5. 出家	67
1-3. 当主日記	31	3-6. 行幸	67
○公福 ○延季 ○季知		3-7. 神事	68
1-4. 古記録	33	3-7-1. 新嘗祭	68
1-5. 編纂書	42	3-7-2. 例幣使	68
1-5-1. 通史	42	3-7-3. その他	70
1-5-2. 家伝	42	3-8. 叙位・除目	70
1-5-3. 由緒・伝記	42	3-9. 贈位・葬礼	72
1-6. 有職故実	43	3-10. 健宮妙法院入寺一件	72
1-7. 文芸・学問	47	3-11. 武家伝奏・議奏	73
1-7-1. 歌道	47	3-12. 勤番	73
1-7-2. 漢文	53	3-13. 皇太后宮権大夫	73
1-7-3. 雅楽	53	○立后および拝任 ○大宮新殿移徙	
1-8. 絵図・指図・拓本	53		
1-9. 名鑑	54	4. 神宮司庁	75
2. 三条西家家政	55	5. 出所不明	75
2-1. 役所	55		
○包紙等一括文書 ○諸覚一括文書			
○書状・詠草等一括文書			
2-2. 議奏役料請取	59		
2-3. 儀式	60		
2-4. 扶局	60		
3. 大臣家	61		
3-1. 大葬・即位	61		
3-2. 大嘗会	62		
3-3. 改元	64		
3-4. 節会	66		
3-4-1. 五節会	66		

表題／作成・授受／備考	年代	形態 数量	整理番号
-------------	----	-------	------

## 1. 三条西家

### 1-1. 冠婚葬祭

11代公福(1697～1745)が宝永4年(1707)2月11日に11歳で元服した際の記録がある。なお、元服関係で家臣が作成した記録は2-3。儀式を参照のこと。「御婚礼雑之留」は、正徳4年(1714)に公福が前田綱紀(加賀金沢)の娘(実は家臣前田孝行の娘)と婚礼した際の記録。4月15日の金沢発輿から6月15日までの間の進物授受を記す。料紙は檀紙を使用。

御元服日次	宝永4年2月	30.6×21.5 1冊	62
御婚礼雑之留 紙背：進物目録	(正徳4年4月15日～6月15日)	横(25.7×66.3) 1冊	64

### 1-2. 交際

いずれも紙背文書。前田綱紀は公福の岳父。前田清長は、江戸幕府高家となった前田玄長(三条西公勝の4男)の孫にあたる。

〔前田綱紀書状〕(菓子1箱の返礼) 加賀宰相綱紀(花押)→三条中将殿御報、裏：享保2年百十五首(171-1)	7月9日	折 1通	171-2
〔前田綱紀書状〕(領内の2種進覧) 加賀宰相綱紀(花押)→三条中将殿人々御中、裏：享保3年八十二首(173-1)	7月11日	折 1通	173-2
〔前田清長書状〕(年頭祝詞) 前田隠岐守清長(花押)→三条西前大納言殿参人御中、裏：仙洞御点(172-1)	1月5日	折 1通	172-2
覚(紗綾披露) 貞松院(印)→了通法主、204-4-1の紙背文書	5月15日	折 1通	204-4-2
〔押小路実岑書状〕 実岑→三條中将殿、204-5-1の紙背文書	6月2日	切 1通	204-5-2
〔烏丸光栄書状〕 光栄→三条中将殿、204-6-1の紙背文書	6月5日	縦 1通	204-6-2
〔公隆書状〕(実躬卿記借覧願) 公隆→三条西黄門、204-17-1の紙背文書	8月29日	切 1通	204-17-2

### 1-3. 当主日記

11代公福の自筆日記27点。公福は、宝永5年(1708)12歳から日記を書き始めた。宝永4年「諸事文之留」は必ずしも日記はないが、日記の前身にあたるものとしてここに収めた。初期の日記は、半紙判に縦帳の形態をとる。享保9年(1724)以降の日記は、奉書紙を横折にした横帳に変わる。一部に年代の重複する日記があり、なんらかの段階で日記が書写・整理された形跡があるが、細かな分類をせずに編年順に配置した。

表題は、「諸事文之留」「私記」「日記」「雑記」「雑誌」「愚記」などさまざまである。No.121の角書には「愚記」とあるが、外題は「雑誌」とある。公福から7代前の当主実隆の日記として有名な「実

隆公記」の原本の表題も実はさまざまで、「愚記」「雑記」「愚暦」「活套」が用いられていた。三条西家では当主日記に代々これらの名称を用いていたのであろう。なお、公福は享保15年7月28日に34歳で議奏(権大納言)に就任し、享保16年9月2日から武家伝奏に転じた。その関係の日記は、3. 大臣家のそれぞれの箇所に配置した(40-1.3.4)。なお、公福が書写した「実隆公記」は1-5. 古記録を参照のこと。

この他、13代延季(1750~1800)、15代季知(1811~80)の雑記がある。

○公福			
諸事文之留 (三条西原公福)	宝永4年七夕(1~12月)	半 1冊	121
私記一 奥書「此一冊宝永五より始而作心」	宝永5年1月~12月	半 1冊	40-14
公福日記	宝永5年1月~閏1月	中 1冊	40-13
〔日記〕(讓位事 仙洞新院禁中御三所御移徙之行烈 新院崩御事)	宝永5年12月23日~宝 永6年12月27日	半 1冊	154
公福日記三 奥書「虎賁郎藤原公福記之、十四才(花押)」	宝永7年1月1日~10月1 日	半 1冊	40-12
公福日記四 御即位事 天皇元服之事 新崇賢門院御法事 大庄子御陪膳之事 奥書「虎賁郎藤原朝臣公福記之、十五才(花押)」	宝永7年10月22日~同8 年1月30日	半 1冊	40-11
愚記 外題:「雑誌」 右近衛権中納言藤原公福、表紙あり、公福印	正徳3年7月1日~12月 24日、同4年1月1日~ 12月23日、同5年1月1 日、同6年1月1日~10 月29日、享保2年1月1 日、享保3年1月1日~7 月22日、享保12年2月3 日~3月8日~2年3月8 日	半 1冊	40-16
〔日記〕 親衛郎将藤原公福、表紙に花押あり	正徳2年1月~8月2日	半 1冊	40-17
〔日記〕	正徳3年1月1日~1月7 日	半 1冊	40-18
雑記 権中納言藤原公福、表紙あり	享保5年1月1日~12月 26日、同6年1月1日~ 10月26日	半 1冊	40-15
〔日記〕 権中納言藤原(公福花押)、紙背文書あり	享保9年1月1日~12月 29日	横(16.5×45.0) 1冊	40-10
〔日記〕 紙背文書あり	享保11年1月1日~12月 30日	横(17.4×51.0) 1冊	40-8
〔日記〕 紙背文書あり	享保12年1月1日~享保 13年1月30日	横(19.9×52.8) 1冊	40-7
〔日記〕 権大納言藤原(公福花押)、紙背文書あり	享保14年1月1日~12月 29日	横(20.1×53.3) 1冊	40-6
〔日記〕 紙背文書あり	享保15年1月1日~12月 30日	横(20.0×54.1) 1冊	40-5
〔日記〕 紙背文書あり	享保16年1月1日~12月 28日	横(19.8×54.4) 1冊	40-2

〔日記〕 表紙「中院前右府病氣危急ニ付、歌道伝受之儀御沙汰之事有之」、紙背文書あり	享保20年1月1日～2月9日、元文4年10月25日～12月18日	横(19.8×52.3) 1冊	31-2
愚記 表紙「全非家之記之類、唯近年毎時忘却之間、日々之雜事記置而也」	元文3年1月1日～5月16日	横(17.3×51.0) 1冊	30
〔日記〕	元文3年6月25日～9月17日	半 1冊	31-4
雑記	元文5年1月1日～5月14日	横(17.3×50.5) 1冊	31-3
〔日記〕	寛保3年1月1日～6月晦日	横(17.3×50.9) 1冊	31-1
愚記	寛保4年1月1日～2月16日、延享2年1月1日～1月14日	横(17.0×51.2) 1冊	29
〔公福日記カ〕	宝永5年・享保4・7・13年	美・半 14枚	28
〔白紙〕		切(16.5×49.0) 1冊	40-9
〔日記抜書〕(内侍所本殿修理)	(江戸期)4月～6月	横美 1冊	174-1
〔日記抜書〕(有栖川宮 関東より青山下野守使)	(江戸期)閏6月	横美 1冊	174-2
〔一月十四日歌会始日記〕	1月	美二切 1冊	174-3
〔記録断簡〕 新大納言日野輝光礼弊発遣上卿記事あり	(正徳期カ)	美二切 1冊(3丁)	133
○延季			
備忘 表紙に花押あり	寛政5年8月1日～12月29日、寛政8年4月	半 1冊	72
○季知			
〔雑記〕 (三条西季知カ)	(明治10年カ)	半二切 1冊	176
雑々書留 (三条西季知カ)	(明治期)	半 1冊	120

## 1-4. 古記録

三条西家で先例や故実を調べるために集積した他家の日記、記録、記録抜粋など。なお、三条西家の4代実隆の日記「実隆公記」は、11代公福が書写した記録であるため、当日日記ではなく古記録として扱った。「実隆公記」の原本は、東京大学史料編纂所に所蔵されている。

山門大講堂供養記 <sup>咒願師・御出仕</sup> 奥書「再三校合了」	応永3年9月	仮半 1冊	114
北山第行幸御幸	正嘉3年	美 1通	182
経俊記 吉田経俊	(正元元年3月4日)	美 1通	183
〔大間書写〕 奥書「徳大寺前左府去年勤仕大間借請之如形写之、紙数	明応2年3月25日	切継(48枚) 1冊	203-1

(紙縫)	五十三枚一枚内書様一枚内書様 大概如本 軸代一枚如此 大間寸法一尺二寸 縁寸法二尺二寸五分斗 明応三三四			
	〔大間書〕 前後欠		切継(23枚) 1冊	203-2
	〔南北朝期略年代記〕	(延元元~明德4年)	半継 1通	209
	玉薬 九条道家, 渋皮刷毛目表紙, 蔵印 1	建暦2年2月~3月	美 1冊	240-1
	玉薬 一 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	承元3年3月23日~27日	半 1冊	240-2
	玉薬 二 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	承元3年5月23日	半 1冊	240-3
	玉薬 三 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	承元4年2月1日~3月8日	半 1冊	240-4
	玉薬 四 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	承元4年9月1日~11月25日	半 1冊	240-5
	玉薬 五 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	承元4年12月28日	半 1冊	240-6
	玉薬 六 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	承元5年3月1日~8日	半 1冊	240-7
	玉薬 七 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	建暦元年3月9日~28日	半 1冊	240-8
	玉薬 八 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	建暦元年5月~6月	半 1冊	240-9
	玉薬 九 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	建暦元年7月~9月	半 1冊	240-10
	玉薬 十 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	建暦元年10月・11月	半 1冊	240-11
	玉薬 十一 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	建暦2年2月・3月	半 1冊	240-12
	玉薬 十二 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	建暦2年4月~6月	半 1冊	240-13
	玉薬 十三 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	建暦2年8月~9月	半 1冊	240-14
	玉薬 十四 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	建暦2年10~11月	半 1冊	240-15
	玉薬 十五 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	建暦2年12月1日~10日	半 1冊	240-16
	玉薬 十六 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	建暦2年12月11日~19日	半 1冊	240-17
	玉薬 十七 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	承久2年1月1日~14日	半 1冊	240-18
	玉薬 十八 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	承久2年3月1日~15日	半 1冊	240-19
	玉薬 十九 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	承久2年3月22日~29日	半 1冊	240-20

玉藥 二十 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	承久2年4月1日～15日	半 1冊	240-21
玉藥 二十一 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	承久2年4月16日～30日	半 1冊	240-22
玉藥 二十二 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	承久2年5月	半 1冊	240-23
玉藥 二十三 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	承久2年8月・同3(2カ)年10月	半 1冊	240-24
玉藥 二十四 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	承久2年11月	半 1冊	240-25
玉藥 二十五・二十六 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	承久2年12月～同3年2月1日	半 1冊	240-26
玉藥 二十七 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	安貞2年1月・3月	半 1冊	240-27
玉藥 二十八 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	安貞3年3月	半 1冊	240-28
玉藥 二十九 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	寛喜元年7月	半 1冊	240-29
玉藥 三十 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	仁治2年1月	半 1冊	240-30
玉藥 三十一 九条道家, 青表紙, 蔵印 1	仁治3年3月	半 1冊	240-31
江談抄 自第一至第六 全 大江匡房談・藤原実兼記, 奥書「享禄三十一日終書功了、未能校合、他日可校之」「右一部六卷 <sup>此中第六卷異本無之</sup> 称名院右禪府御自筆之本書写之畢、享保廿年九月廿九日 前権大納言藤公福」, 蔵印 1		美 1冊	27
愚昧記 三条実房, 奥書「右中院前 <sup>通茂</sup> 相 <sup>卿</sup> 先年官庫御本申出実房公之正記被書写処之本也、懇望件本於彼家而令愚息 <sup>実岑</sup> 出写之遂一校了 于時元禄十三季春日 公音」, 蔵印 1	仁安2年1月～6月	美 1冊	241-1
〔愚昧記目録〕 紙背: 九月八日公福書状案 241-1の丁間史料		折 1通	241-1-1
愚昧記 三条実房, 奥書「正徳四年臘月廿五日以三位実岑卿本於燈下終書功畢 親衛郎将藤公福」, 蔵印 1	仁安2年7月～9月	美 1冊	241-2
愚昧記 三条実房, 奥書「右愚昧記 <sup>三条入道右大臣実房以正記書写了 正保二年卯月十八日 從二位行権中納言源朝臣<sup>通純</sup>以</sup> 右於奥書御本令書写畢不審所々以朱片脇不少恐懼者也元禄四年卯月廿日 左親衛 <sup>卿</sup> 重将藤原定基」[右以中院院所持之正本一校了、于時元禄十二臘初七、藤原(公福花押)]、此冊中「愚昧記裏書一」として紙背文書を収む、奥書「以平相公時方御本令書写了、于時元禄第六初度初二日、左将郎藤定基」, 蔵印なし	仁安3年4月～6月	美 1冊	241-3
愚昧記 裏書二 三条実房, 奥書「元禄第七初冬念日以右衛門督 <sup>時方</sup> 本写之了、左中將藤定基」, 蔵印 1		美 1冊	241-4
愚昧記	嘉応元年10月～12月	美 1冊	241-5

<p>三条実房，奥書「右今日已刻立筆未刻終功入夜一校了<sup>於本者清</sup>黃門熙房卿筆尤官本也 万治四年四月十一日權大納言源御判」「右御本申請納言殿令書写了 元禄第六霜月十二日左中將藤定基」「右以定基朝臣本書写并一校了 于時元禄十年五月八日藤原実岑」「右以中院家之証記<sup>前並相通茂卿筆、前黃門通躬卿被清写</sup>遂一校了 于時元禄十三仲秋中六 判」，藏印1</p>			
<p>愚昧記 三条実房，奥書「右一冊以正記公書校合了、字形甚見惡之間以推量書之烏焉之誤、尤不可為正也 寛文元年六月十五日權大納言御判」「右奥書御本書也 于時元禄第七初夏夏廿四 左將郎藤定基 同晚夏十九校了」「右以野宮羽林定基朝臣所持之本令書写了」「中院前並相通茂卿先年以官庫之正記模写之本從彼息男前黃門<sup>通躬</sup>借許之間遂一校了 于時元禄十二臘五 藤原(花押)」「右以押小路公音卿本令書写了、正徳五年夷則下旬、右中將藤(公福花押)」，藏印1</p>	<p>嘉応2年秋冬(7月～12月)</p>	<p>美 1冊</p>	<p>241-6</p>
<p>愚昧記 節会 三条実房，奥書「右愚昧記官記之内以実房公正記令書写加校合了 正保四仲冬下旬」「右愚昧記節以時方卿本書写并一校了 元禄四年南呂晦日 左中將藤定基」「右以定基朝臣之本令愚息書写之一校了 重而可令遂清書者也 元禄七年孟冬日 公音」，藏印1</p>		<p>美 1冊</p>	<p>241-7</p>
<p>愚昧記 三条実房，奥書「右以並相殿御筆之本不違一字令書写彼御本以官本被写所也<sup>此記類実房公自筆云々</sup>」「于時元禄第四歲次庚未孟夏中三日終功畢 左親衛員外並相藤原朝臣定基」「右以野宮羽林本令愚息書写之了 于時元禄七年六月日 公音追而可令清書者也」「右以中院家之正本<sup>通茂卿筆</sup>也 一校了 于時元禄十三季夏中旬 藤原判」，藏印1</p>	<p>安元3年1月～6月</p>	<p>美 1冊</p>	<p>241-8</p>
<p>愚昧記 三条実房，奥書「曆応四年八月四日一見了 左近中將貞和三年八月十四日重一見之次加首書了」「右一冊申出官本<sup>昭房朝臣筆於正令書写之一校了 寛文元年六月八日 並記者去春焼失了</sup>」「元禄七年陽月初八書写了 同廿三日一校了 左中將定基」「右一冊以定基朝臣本令書写一校了 于時元禄十年九月廿九日 藤原実岑」「右以中院前並相写本令一校了 于時元禄十三六初三 藤原判」，藏印1</p>	<p>安元3年7月～12月</p>	<p>美 1冊</p>	<p>241-9</p>
<p>愚昧記 伊勢勅使問記 三条実房，奥書「以平相公<sup>時方</sup>卿本令書写一校了 于時元禄六年林鐘七日 親衛左將郎藤定基」「右以定基朝臣本書写再一校了 元禄十年三月七日、藤原実岑」，藏印1</p>	<p>治承元年8月9月</p>	<p>美 1冊</p>	<p>241-10</p>
<p>愚昧記 三条実房，奥書「(略)寛文元年六月十二日權大納言御判<sup>通茂卿也</sup>」「(略)元禄第九初冬中旬一校畢 羽林郎定基」「右一冊先年以定基朝臣本愚息書写之今請借中院家之本記<sup>件家黃門通躬卿被 通村公通茂卿而清写所也 等筆跡之本也</sup>遂一校了、愚息幼年之筆跡之上、処々直付之間、不分明之字若干偏以如反古、重而可令遂清書者也、元禄十三年八月廿二日、藤原判」，藏印1</p>	<p>寿永元年7月～9月</p>	<p>美 1冊</p>	<p>241-11</p>
<p>愚昧記 三条実房，奥書「以平相公<sup>時方</sup>卿本書写了 元禄第七陽月望日 左將郎藤定基」，藏印1</p>		<p>美 1冊</p>	<p>241-12</p>
<p>愚昧記節会部類</p>		<p>美 1冊</p>	<p>241-13</p>

三条実房，奥書「右愚昧記官記之内以実房公正記令書写、加校合了 正保四仲冬下旬」，藏印 1			
愚昧記 三条実房，奥書「右中院故丞相 <sup>通統</sup> 以実房公正記被書写之本懇望彼家 <sup>通茂卿</sup> 而一校了」 <small>躬卿等也</small>	仁安2年1月～同4年3月	美 1冊	241-14
〔愚昧記〕 三条実房	嘉応元年10月	仮美大 1冊	69
任大臣御記 愚昧(三条実房)，奥書「右以祖父源大納言 <sup>通殿</sup> 御自筆書写之逐一校了、于時元禄第五曆仲秋望日 左親衛員外郎藤定基」「右一冊先年以定基朝臣令書写処也、今又請受中院家 <sup>通純卿</sup> 之正本逐一校畢 <sup>於此冊重可令清書者也</sup> 、于時元禄十三季夏初五、藤原判」	文治5年	仮美 1冊	5
貞信公記 藤原忠平	延長9年	大美 1冊	24-1
貞信公記 藤原忠平，参考：17号文書之元本カ	承平元年・同2年	半 1冊	24-2
貞信公御記 藤原忠平，奥書「宝永八年三月廿一日騰写之 帑賁郎藤原公福 <sup>十五才</sup> 」，藏印 1 公福 1	承平元年・同2年	美 1冊	17
九曆或号九記 藤原輔輔，奥書「右九条右大臣 <sup>師公</sup> 御記以相公 <sup>定基</sup> 所持之本令書写畢 宝永第八孟夏十一日 右近中將藤原公福 <sup>十五才</sup> 春秋」 「同日校了」，藏印 1	天曆1・同2・同3・同2(1～6月)・同3・同4月(1～4月)	半 1冊	19
中右記 藤原宗忠，藏印 1	寛治8年1月～3月	美 1冊	7-1
中右記 藤原宗忠，藏印 1	寛治8年閏2月～7月	美 1冊	7-2
中右記 藤原宗忠，藏印 1	寛治8年11月～12月	美 1冊	7-3
中右記 藤原宗忠，藏印 1	嘉保3年(為永長元)1月～3月	美 1冊	7-4
中右記 藤原宗忠，藏印 1	永久2年4月～6月	美 1冊	7-5
中右記 藤原宗忠，奥書「命家僕一校了、権大納言藤頼孝(葉室頼孝朱方印)」 表紙貼紙「三八七」，藏印 1 頼孝印	天永2年7月～10月	美 1冊	7-6
葉禪記 別名「葉黄記」 葉室定嗣，奥書「長録二年二月十四日書写了、件記本申出禁裏御本書之故一位殿 <sup>兼長御筆也</sup> 此記類所持之、但此所無之定粉失也、按察使藤親長」「右記自或方不慮到来、則令書写之、然少々不審之事有之、未及改正、于時元禄第二南呂下旬、親衛中郎將藤定基」，藏印 1 定基印	寛元4年1月	美 1冊	18
台記 一 藤原頼長，奥書「弘和三年五月廿日於榮山行宮加一見了于時小雨濂以自筆曆記写書之(中略)正平廿一年十月十三日一見了右大臣此日住吉殿帰参者也」，藏印 1	康治元年	美 1冊	1-1
台記 二	康治2年曆記	美 1冊	1-2

藤原頼長, 蔵印 1			
台記 三 藤原頼長, 蔵印 1	康治3年(改元天養)1月 ～6月	美 1冊	1-3
台記 四 藤原頼長, 蔵印 1	天養元年7月～12月	美 1冊	1-4
台記 五 藤原頼長, 蔵印 1	天養2年(改元久安)春 夏(1月～6月)	美 1冊	1-5
台記 六 藤原頼長, 蔵印 1	天養2年(改元久安)秋 冬(7月～12月)	美 1冊	1-6
台記 七 藤原頼長, 蔵印 1	久安2年1月～12月	美 1冊	1-7
台記 八 藤原頼長, 蔵印 1	久安3年1～6月	美 1冊	1-8
台記 九 藤原頼長, 蔵印 1	久安3年7月～12月	美 1冊	1-9
台記 十 藤原頼長, 蔵印 1	久安4年1月～6月	美 1冊	1-10
台記 十一 藤原頼長, 蔵印 1	久安4年7月～12月	美 1冊	1-11
台記 十二 藤原頼長, 蔵印 1	久安5年10月～11月	美 1冊	1-12
台記 十三 藤原頼長, 蔵印 1	久安6年1月～3月	美 1冊	1-13
台記 十四 藤原頼長, 蔵印 1	久安6年4月～6月	美 1冊	1-14
台記 十五 藤原頼長, 蔵印 1	久安6年7月～12月	美 1冊	1-15
台記 十六 藤原頼長, 蔵印 1	久安7年1月	美 1冊	1-16
台記 十七 藤原頼長, 蔵印 1	仁平元年2月～3月	美 1冊	1-17
台記 十八 藤原頼長, 奥書「正和四年三月九日於中院蓬屋抄出了為 子孫也於小僧者光明真言之外不可有他念歟矣 弟子圓 宜」, 蔵印 1	仁平3年7月～9月	美 1冊	1-18
台記 十九 藤原頼長, 蔵印 1	仁平4年(久壽元年)1月	美 1冊	1-19
台記 二十 藤原頼長, 蔵印 1	久壽元年4月～6月	美 1冊	1-20
台記 二十一 藤原頼長, (十・十一月分欠), 蔵印 1	久壽元年7月～12月	美 1冊	1-21
台記 二十二 藤原頼長, 蔵印 1	久壽2年4月～6月	美 1冊	1-22
台記 二十三 藤原頼長, 蔵印 1	久壽2年7月～12月	美 1冊	1-23
台記別記 一 藤原頼長, 「長承四年二月頼長任大將記」「康治元年十一	長承4年2月・康治元年 11月・康治2年1月	美 1冊	2-1

月十六日大嘗会」「康治二年正月十八日賭弓」，藏印1			
台記別記 二 藤原頼長，藏印1	久安3年3・4・12月	美 1冊	2-2
台記別記 三 藤原頼長，藏印1	久安4年7月3日～8月8日	美 1冊	2-3
台記別記 四(婚記卷第二) 藤原頼長，藏印1	久安4年8月9日～12月24日	美 1冊	2-4
台記別記 五(婚記卷第三) 藤原頼長，藏印1	久安5年1月1日～同6年1月9日	美 1冊	2-5
台記別記 六(婚記卷第六) 藤原頼長，藏印1	久安6年1月19日～3月8日	美 1冊	2-6
台記別記 七(冠記中) 藤原頼長，藏印1	久安6年1月1日～7日	美 1冊	2-7
台記別記 八(春日詣部類記卷第十) 藤原頼長，藏印1	(仁平元年)	美 1冊	2-8
台記別記 九(隆長元服) 藤原頼長，藏印1	仁平元年	美 1冊	2-9
台記別記 十 藤原頼長，藏印1	仁平2年	美 1冊	2-10
台記別記 十一 藤原頼長，藏印1	仁平3年	美 1冊	2-11
台記別記 十二尾 藤原頼長，藏印1	久壽2年4月	美 1冊	2-12
玉葉 九条兼実，藏印1	長寛2年閏10月～12月	美 1冊	13
高倉院嘉応三年御元服記 外題：天皇元服記 <sup>玉葉 公正印 拔書</sup>	嘉応2年10月～同3年1月	半 1冊	14
山槐記 中山忠親	永万元年7月	仮美(29.1×23.0) 1冊	37
讓国記 別名：後嵯峨天皇御讓位并御幸始記 甘露寺為経，奥書「以禁裏御本書写之寛正五年卯月廿二日、按察使親長」「右為経記以或郎本言写之、元禄二年九月三日 右中将藤実陰」，西三條印「539」，表紙欠カ	寛元4年1月～3月	仮美 1冊	35
先人記 三条実躬，藏印1	正応4年11月12月	美 1冊	6-1
先人記 三条実躬，藏印1	永仁2年1月2月	美 1冊	6-2
先人記 三条実躬，藏印1	永仁3年1月～4月	美 1冊	6-3
先人記 三条実躬，奥書「正徳五年正月卅日以正御記書寫了、藤原公福」、(朱筆)「校了」，藏印1	正安4年2月	美 1冊	6-4
先人記 三条実躬，藏印1	永仁3年8月	美 1冊	6-5
先人記 三条実躬，藏印1	永仁3年11月12月	美 1冊	6-6
先人記	正安4年7月～10月	美 1冊	6-7

三条実躬, 蔵印 1			
先人記 三条実躬, 蔵印 1	嘉元元年11月	美 1冊	6-8
先人記 三条実躬, 蔵印 1	嘉元2年5月・6月	美 1冊	6-9
先人記 三条実躬, 蔵印 1	弘安11年1月・2月	美 1冊	6-10
後光明照院関白記 二条道平, 蔵印 1、表紙貼紙「一六六」	元弘4・正中2・同5・ 嘉暦3・元徳3・正暦 2・元弘3年	美 1冊	26
園太暦(断簡) 洞院公賢, 題箋「秘園太暦 貞和五年」	貞和5年7月10日	美 1通	237
後愚昧記 三条公忠, 奥書「此一巻後押小路公忠公記也号後愚昧院、 不慮落手幸之甚也、仍止置之畢、明応四年八月廿八日 左親衛藤(花押)」, 蔵印 1	貞治2年~6年	美 1冊	4-1
後愚昧記 三条公忠, (応安五・六年分欠), 蔵印 1、2	応安3年~7年	美 1冊	4-2
後愚昧記 付「実冬公元服記」「兼敦兼熙状・実時状」 三条公忠, 蔵印 1、2	永徳3年	美 1冊	4-3
後愚昧記 三条公忠, 蔵印 1、2	永和2年~5年	美 1冊	4-4
実冬公記 三条実冬, 奥書「右一卷内府家記被免一覽之間卒馳筆者也 天文十一六九日 右相府(花押)」「享保十三年十一月挑風 雪之窓令書写、偏為伝子孫也、筆跡狼藉後見有恥而已 權大納言藤原公福」, 蔵印 1	永和元年11月	半 1冊	25-1
実冬公記 三条実冬, 蔵印 1	至徳4年1月~3月、応 永2年1月~4月	半 1冊	25-2
成恩寺関白記 一条経嗣, 奥書「右成恩寺関白記也、借請広橋中納言本 広光卿書寫之、永正十五年四月十日 称名院權師御判」「右 傳來之本 閣御自筆也、虫損甚之間每暇日書写之如形終其功 畢、享保十三年九月十二日夜、亜三台藤公福」, 蔵印 1	応永2年1月~6月	美 1冊	8-1
成恩寺関白記 一条経嗣, 奥書「逍遙院殿右申請桃花正記一覽次抄之 永 正第三十日」[右一冊逍遙院殿御自筆虫損甚之間令書写 畢 享保十三年十月廿日 權大納言藤原公福」, 蔵印 1	応永2年7月~12月	美 1冊	8-2
成恩寺関白記 一条経嗣, 蔵印 1	応永13年1月~11月	美 1冊	8-3
成恩寺関白記 一条経嗣, 奥書「享禄貳年臘月以兼秀朝臣本故広光書写了、 都督郎院殿(花押)」[右相伝之本称各院右彈府御筆虫損甚之 間如形逐書写畢、享保十三年初冬中旬、亜槐公福」, 蔵印 1	応永14年1月~3月	美 1冊	8-4
福照院殿下記 別名「福照院関白記」 二条満基, 奥書「此一冊福照院殿下記也、以傳來之本 称名院右府殿御筆、令書写之、堅可禁他見者也、享保十三年 他筆少々相交 十一月五日夜挑孤燈終功、亜三台藤臣公福」, 蔵印 1	応永9年10月11月	美 1冊	21

〔鹿苑院死去之記〕	応永15年8月18日	継 8通	194-1
〔雜記〕(当時在京王大夫一人ニ付不審事) 25丁、26丁のみ(断簡)		美 2通	194-2
成恩寺関白記 別名：荒曆 一条経嗣	応永17年8月19日	仮美 1冊	56
康富記 表紙朱筆「春日神社伊勢一社奉幣の記」 中原康富	応永26年2月20日～2月 28日	仮美 1冊	141
椿葉記 別名「正統興廢記」 後崇光院，奥書「永享五年二月日書畢、入道無品親王道 欽」，西三條印「417」	永享5年	半 1冊	136
実隆公記 三条西実隆，蔵印 3	文明6年	美 1冊	9-1
実隆公記 三条西実隆，蔵印 3	文明8年	美 1冊	9-2
実隆公記 三条西実隆，蔵印 1	文明9年	美 1冊	9-3
実隆公記 三条西実隆，蔵印 3	文明11年1月～後9月	美 1冊	9-4
実隆公記 三条西実隆，蔵印 3	文明12年8月9月	美 1冊	9-5
実隆公記 三条西実隆，蔵印 3	文明15年1月～3月	美 1冊	9-6
実隆公記 三条西実隆，蔵印 3	文明15年7月～9月	美 1冊	9-7
実隆公記 三条西実隆，蔵印 3	文明15年10月～12月	美 1冊	9-8
実隆公記(別記) 三条西実隆，蔵印 3	文明15年7月～11月	美 1冊	9-9
実隆公記 三条西実隆，蔵印 3	文明16年1月～4月1日	美 1冊	9-10
実隆公記 三条西実隆，蔵印 3	文明16年8月～12月	美 1冊	9-11
実隆公記 三条西実隆，蔵印 3	文明17年上(1月～閏3 月)	美 1冊	9-12
実隆公記 三条西実隆，蔵印 3	文明17年下(4月～9月)	美 1冊	9-13
実隆公記 三条西実隆，蔵印 3	文明18年1月～6月	美 1冊	9-14
実隆公記 三条西実隆，蔵印 3	文明18年7月～9月	美 1冊	9-15
実隆公記裏書 公福卿書 (三条西公福カ)，印なし		半 1冊	10
二水記 鷲尾隆康，奥書「文亀四年永正元同二年事、右若輩之記 言語道断也、早可投火中、此後從永正十四年又記之、不 可及他見者也、」，蔵印 1	文亀4年1月2月・永正 元年3月～12月・同2年 四季	美 1冊	23-1

二水記 鷺尾隆康，蔵印1	大永2年春	美 1冊	23-2
二水記 鷺尾隆康，蔵印1	大永2年夏秋冬	美 1冊	23-3
元長卿記・二水記 甘露寺元長・鷺尾隆康	永正9年1月～5月・大永2年四季	美 1冊	22
両流記 別名「両立記」「立坊立后記」 蔵印1	(天和3年)	半 1冊	20
〔法印某等往復書状写〕		仮美 1冊	153
〔桂葉記〕 奥書「此記一卷幸一覽之次置馳禿筆訖、紙数三十九枚続加之、遂清書校考等可加之、時天文十二年二月十九日、正四位行少納言兼侍從文章博士大内記菅原朝臣長雅」、西三條印「559」		仮美二切 1冊	164

## 1-5. 編纂書

三条西家の蔵書として集積された編纂書として、1-5-1. 通史、1-5-2. 家伝、1-5-3. 由緒・伝記をたてた。有職故実書、文学の写本などは1-6. 有職故実、1-7. 文学・学問を参照。

## 1-5-1. 通史

百練抄 奥書「嘉元二年四月廿六日以大理定卿之本書写校合畢、亦権右中弁宣房朝臣之本亦合而已」		仮大 1冊	36
--	--	-------	----

## 1-5-2. 家伝

各家の年譜。ただし、近世前期(貞享頃)までの記事にとどまる。

諸家伝 洞院 今出川 花山院 大炊御門 清水谷 四辻 小倉 橋本 四条 山科 御子左 上冷泉 下冷泉 九条 大炊御門 中山 四辻 高辻 今城 小倉 梅園 橋本 中園 勘解由小路 野宮 吉田 葉川 町尻 芝山 東久世 堀川 山科 七条 石井 二条，蔵印1		美 1冊	3-1
諸家伝 世尊寺 平松 姉小路流 坊門 中院 北畠 六條 庭田 綾小路 本造 田向 五辻 中御門 飛鳥井 難波 中山 持明院 園，蔵印1、蔵印2		美 1冊	3-2
諸家伝 日野 烏丸 柳原 武者小路 日野町 竹屋 甘露寺 葉室 万里小路 白河 西洞院 平松 薄 富小路 竹内 藤波，蔵印1		美 1冊	3-3
諸家伝 近衛 鷹司 勸修寺 中御門 清閑寺 海住山 小川坊城 町 清家 伏原 安家 倉橋 和氣 高倉 祖 冷泉 月輪 高倉南家 菅家 五條 東坊城 唐橋		美 1冊	3-4

## 1-5-3. 由緒・伝記

伊勢齋内親王在任次第 全 奥書「右一冊以或人之秘本片時之間書写之訖、可謂証本哉、不可有外見者也、享祿四季霜月廿七日 右少弁」 「〔異筆〕校合了(壺井印影)」，西三条印「518」		半 1冊	135
--	--	------	-----

## 1-6. 有職故実

三条西家で集積された有職故実に関する写本を収めた。なお、儀式次第書や手続き文書など、実際の朝儀の執行において作成、授受された記録文書については、3. 大臣家、の各項目に収めたのでそちらを参照する必要がある。特に大嘗会関係の記録文書は、3-2. 大嘗会の項目を参照のこと。

大間成文抄第一 春 外国一 九条良経、奥書「右申請太相国昨今之間、馳筆了、更不可外見事、明応第六孟夏十七日、御判」		美 1冊	239-1
大間成文抄第二 春外国 二 九条良経		美 1冊	239-2
大間成文抄第三 春外国三 九条良経、奥書「以後、京極摂政自筆書了矣、明応丁巳端午前一日、判」		美 1冊	239-3
大間成文抄第四 春外国四 九条良経、奥書「以右奥書本書写之洞院摂政自筆欸尤可謂証本桃花坊本闕卷 第四、第五、第九 以此本所写続也、可秘藏之、明応第二初秋廿九日、判」		美 1冊	239-4
大間成文抄第五 春外国五 九条良経		美 1冊	239-5
大間成文抄第六 春京官一 九条良経		美 1冊	239-6
大間成文抄第七 春京官二 九条良経		美 1冊	239-7
大間成文抄第八 春京官三 九条良経		美 1冊	239-8
大間成文抄第九 春京官四 九条良経		美 1冊	239-9
大間成文抄第十 秋外国 九条良経		美 1冊	239-10
大間成文抄(前坊 後院 旧旁 所々藏人 造八省所史生 乳母子 御冠師 勸学院別当 内舍人隨身 料 功付讓 功賞 譲 相転 還任 転任 雑々) 九条良経、奥書「右以太相国家本馳筆了、明応第六孟夏廿九日、御判」		美 1冊	239-11
大間成文抄(四道掾 三院掾 三局史生 上召使) 九条良経		美 1冊	239-12
大間成文抄(所々奏 諸社申 諸寺申 造御願所申 行事所申) 九条良経、奥書「明応六年六月四日書写之、御判」		美 1冊	239-13
朝野群載卷第一并序～三 三好為康編、全三十卷零本、蔵印 1	永久4年	美 1冊	238-1
朝野群載卷第四～六 三好為康編、印なし	永久4年	美 1冊	238-2
朝野群載卷第七～九 三好為康編、蔵印 1	永久4年	美 1冊	238-3
朝野群載卷第十一、十三 三好為康編、蔵印 1	永久4年	美 1冊	238-4

朝野群載卷第十五～十七 三好為康編，藏印1	永久4年	美 1冊	238-5
朝野群載卷第二十～廿二 三好為康編，藏印1	永久4年	美 1冊	238-6
朝野群載卷第廿六～廿七 三好為康編，藏印1	永久4年	美 1冊	238-7
朝野群載卷第廿八 三好為康編，藏印1	永久4年	美 1冊	238-8
雲上連歌御会之式 付、御連歌之式真行草之事 坂昌成，表紙「不許出門外」 奥書「右一冊者文政十年三月御昇進御祝儀御連歌願之通三月十五日松平伊豆守殿御尋ニ付役人小野弘一郎江相渡候書之草稿也 坂昌成」 「此一通者五月八日ニ松平伊豆守殿御尋ニ付指出候書面也奉書半切ニ認出ス」	文政10年	仮半 1冊	122
左近衛権少将御拝賀雑記 武者小路家之写	天保13年12月	半 1冊	74
〔故実聞書〕 紙背文書あり	(元禄期)	中 1冊	61
雑々聞書 <sup>有職事</sup> 三条西公福(十一才)	(宝永4年カ)	半 1冊	96
〔行幸供奉次第等故事〕 奥書「新写了 頼言」(中略)「此一冊者、借乞実万卿令書写了、但早筆之条書損可多歟、能々令校合可書改者也、文政十一年正月八日、右近衛権少将季知」	(正和3年12月6日)	仮美 1冊	60
脱着杳故実之事 奥書「右被借与三条亜相 <sup>彼卿所被拔萃也</sup> 則令書写之處、多用之間不得終功、仍命小泉将曹令逐功畢 嘉永二年七月十五日左中将季知」		仮半 1冊	76
問答雑録 (三条西季知カ)	(明治12年6月～同13年4月)	半 1冊	95
歴代甲子紀年 西三條印「562」		仮中 1冊	93
〔承久・弘安・正安・応安・明応改元次第〕 西三條印「578」		仮美 1冊	97
條事定改元定 参議要 太宰権師公廉，奥書「右公廉卿新作次第去日條事 定改元定等出仕以前、自实在朝臣借用可令自写之處、甚繁多之間命家僕写之 漸得校合 則今日返送于彼家畢 安政元年十二月三日 八座羽林季知」	明和9年10月	仮半 1冊	112
諸道勘文 内訳「諸道勘文七通、紀伝一通、同別勘文二通、明経一通、算一通、陰陽一通、曆一通、外記勘例一通、以上八通、以強紙二枚囊之 建任度例也」，西三條印「323」		仮美 1冊	98
渡御倚廬供奉備忘 右少将判，奥書「右三条亜相 <sup>実万卿</sup> 勘物一冊借候て写留也」	弘化3年	仮半二切 1冊	143
賜倚廬素服剣将参仕備忘 (正親町)右権中将実徳	弘化3年3月	仮半 1冊	77
倚廬素服備忘并御璽奉仕 右少将判	弘化3年	仮半二切 1冊	79
渡御還御倚廬次第	弘化3年3月7日戌刻、	仮半二切 1冊	80

右權中将実徳	18日酉刻		
大嘗会記 一名天仁江記 大江匡房、奥書「貞享四年丁卯十月廿九日、御厨子所預紀宗恒」、藏印1	(天仁元年11月21日)	半 1冊	42
大嘗会両国風土記 元文 寛延 明和元八 天明 文政 嘉永 奥書「料紙国紙代俗御フミ杉原也、二枚続有上包上下如消 礼」 紙」		仮美 1冊	43
大嘗会便蒙 羽倉東進荷田在満、藏印1		美 1冊	46
大嘗会伝奏引付 上 都護親長	寛正7(改元文正)2~8 月	美 1冊	47-1
大嘗会伝奏引付 下 都護親長	寛正7(改元文正)9~11 月	美 1冊	47-2
大嘗会式 板行、版心「明治四年大嘗会式」	(明治4年)	仮半 1冊	55
新嘗祭卜合并豊明節会等参仕備忘 左近衛権少将藤原実建、奥書「今度新嘗祭卜合并豊明宴 参仕二付、為一身雑々令書写、耻外見者也、嘉永二己酉 年仲冬、左近衛権少将藤原実建」、「此一冊息公季朝臣よ り借用、新写校合訖、慶応元年仲冬、藤公允」	嘉永2年11月	仮半 1冊	54
拍手之事	(江戸中期以降)	竖継 1通	197
〔陰身曾貴之大事・春日大明神御祓等故実〕	享祿4年・天文8年	切継 1通	191
御会式稿 「宮内省」10行罫紙使用、藏印1		仮半罫 1冊	57
白馬節会		仮小 1冊	91
次第位抄 愚見 表紙「黒印」2あり、西三條印「419」		仮半 1冊	125
法会僧事抜粹 醍醐要 藏印1	(延長4~天承元年)	美 1冊	142
〔御陪膳次第〕		仮美二切 1冊	145
〔釈奠之書并図〕		切継 1通	199
松風要鈔 断簡 綴紐切れ		美 1冊	201
賀茂祭絵合詞尽 奥書「元徳二年閏六月中旬令書之也 絵所預隆兼朝臣詞 入道内蔵権頭季邦朝臣写之者也」、西三條印「503」		美 1冊	226
立坊本宮図	宝永5年	美継 1枚	230
蔵人頭事 <sup>時輩談語</sup> 外題「貫首秘鈔」 奥書「此書故宰相入道俊憲訪先達所註置也(中略)蔵人頭 左中弁藤経房在判」「此書故吉田戸部被書写之歟、其後新 黄門蔵人頭之時、又写之云々、予借請彼本書写之、承元 五年三月日 蔵人頭左大弁藤頭俊判」「予以暇日加首書了 判」、藏印1 西三條印「591」		美 1冊	16
叙除精要 全 奥書「此秘抄都護重相 <sup>山本左大臣</sup> 自抄也、予参議拝任之後、万 事蒙彼嚴訓、仍借請自手所書写也、可秘々、参議兼刑部		半 1冊	59

<p>卿藤原朝臣<sup>実任判</sup>（中略）「右一策頭中將<sup>実連朝臣</sup>本也、予切懇望憐忘遂許書写、可謂芳情而此本追遙院奥書之處、当家備前重相云々<sup>美藤</sup>、然而依絳霜雪無庫、然處不計書写功了、歛喜無限、尤可秘之、不可許他見者也、寛延二年和商着雍訖徐、<sup>滋野井</sup>左中將藤（花押）」</p>			
<p>職寮司国問答 奥書「右壺井先生所記也、速水房常」</p>		<p>仮半 1冊</p>	<p>123</p>
<p>〔叙位次第〕</p>		<p>升 1冊</p>	<p>126</p>
<p>除目聞書 左上欠損大、紙背文書（書狀）あり</p>		<p>半 1冊</p>	<p>131</p>
<p>除目 宮文并顯官拳 西三條印「476」</p>		<p>仮半 1冊</p>	<p>134</p>
<p>除目抄 下 奥書「除目当家等秘事悉口伝有之、就嫡流可訖披見、更以疎流輩不可許之者也、永和二年正月吉日（花押影）」</p>		<p>仮半 1冊</p>	<p>140</p>
<p>〔包紙〕 上書「文明八正六 叙位宮文」</p>	<p>文明8年1月6日</p>	<p>美 1通</p>	<p>219-0</p>
<p>叙位宮文 奥書「文明八年十一月八日以師富朝臣秘藏本書写之、不可外見之旨、堅令契約畢、内相府判」</p>	<p>文明8年1月6日</p>	<p>折 1通</p>	<p>219-1</p>
<p>弘安礼節書式</p>	<p>弘安8年12月</p>	<p>仮美二切 1冊</p>	<p>150</p>
<p>〔宣旨次第〕 奥書「自六条前黄門有容卿借用命家僕写之加一校了、慶応四年二月廿四日、季知」</p>	<p>（文政1年9月～同5年9月）</p>	<p>仮美二切 1冊</p>	<p>149</p>
<p>当家代々初度申文之書様 從七位播磨宿祢枝広</p>	<p>（嘉元3年）</p>	<p>仮小 1冊</p>	<p>179</p>
<p>改元部類記 西三條印「482」</p>		<p>仮美 1冊</p>	<p>113</p>
<p>近代参杖部類 西三條印「528」</p>		<p>仮美 1冊</p>	<p>115</p>
<p>立太子節会部類記并前後雜事 蔵印1</p>		<p>美 1冊</p>	<p>152</p>
<p>拾遺雜抄 上</p>		<p>仮美 1冊</p>	<p>11</p>
<p>拾遺雜抄 下 奥書「本書云、件卷四條宮焼亡之夜已為灰燼、仍以内府之本書写者、万壽二年四月二日云々」、西三條印「424」</p>		<p>美 1冊</p>	<p>12</p>
<p>禁腋秘抄 （三条西公条カ）、奥書「這一冊者借請都督大卿<sup>義隆本於坊州山口旅館、仰宗祐法師令書写畢、天文第五初冬下旬黄門卿藤（花押影）<sup>判形</sup>（中略）「以無相師所蔵阿野大納言実顯卿自写本再夏校之、最可秘蔵云、己卯五月、源元寛又記」</sup></p>		<p>仮美 1冊</p>	<p>32</p>
<p>〔禁腋秘抄〕 （三条西公条カ）、奥書「右一冊以或人之秘本片時之間書写之訖、可謂証本哉、不可有外見者也、享祿四季霜月廿七日 右少辨」、西三條印「577」</p>		<p>美 1冊</p>	<p>53</p>
<p>行類愚抄第 洞院実熙、奥書「天正二端午日、参議藤原基孝」 綴紐切</p>	<p>（長寛～応永）</p>	<p>仮美 1冊</p>	<p>33</p>

三條西家の家職である歌道関係が充実している。なお、三條西家に伝来した典籍に関しては、学習院大学に三條西家文書として所蔵されている。

### 1-7-1. 歌道

楨乃板屋		仮半 1冊	39
三部抄 奥書「此一冊新写之事御所望雖見苦不耻愚筆令新写進入 以正本遂校合畢 明治五壬申年後春 正二位為理」		仮美二切 1冊	88
〔詠草雜録〕		仮半 1冊	94
詠歌之大概		美 1冊	138
享保二年 百十五首 紙背文書(前田綱紀書状)	享保2年	折 1通	171-1
享保三年 八十二首(忍恋 連夜郭公 雲雀 花盛) 紙背文書(前田綱紀書状)		折 1通	173-1
仙洞御点 三条西実称, 地欠カ 紙背文書(前田綱紀書状)あり	安永5年同6年1月～6月	切 1通	172-1
〔包紙〕 上書「先公御筆歟詠歌大概其他雑々 数葉」		美 1通	204-0
〔詠草下書〕 紙背「清水谷中將」とあり		折 1通	204-1
〔詠草下書〕 紙背文書(公福詠草二題)あり		折 1通	204-2
〔官職覚〕 紙背文書(公福書状案)あり		折 1通	204-3-1
〔覚書〕(母子関係) 紙背文書(貞松院覚)あり		折 1通	204-4-1
〔覚書〕(妻子関係) 紙背文書(押小路実岑書状)あり		切 1通	204-5-1
〔覚書〕(世間の万事) 紙背文書(烏丸光栄書状)あり		折 1通	204-6-1
〔官職覚〕		折 2通	204-7

包紙	〔詞寄書付〕(なかき夜も・風さハく他)	9月3日	美横折 1通	204-8
	〔詞寄書付〕(ひころになりぬ他)		美横折 1通	204-9
	〔詞寄書付〕(ひかる他)		切 6枚	204-10
	〔覚〕(杜甫台)		美横折 1通	204-11
	〔語義書付〕(通帛他)		切 1通	204-12
	〔詞寄書付〕(友人)		切 1通	204-13
	〔詞寄書付〕 白紙切紙 1 通		折 3通	204-14
	〔広百川学海七〕		折 2通	204-15
	〔王子年拾遺記拔書〕		折 1通	204-16
	〔詞寄書付〕 紙背文書(公隆書状)あり		切 1通	204-17-1
	〔維摩経・法楽書付〕		切 2通	204-18
	〔詞寄書付〕		折 1通	204-19
	〔事文類聚拔書〕		折 1通	204-20
	〔奪胎換骨に関する拔書〕		折 1通	204-21
	〔ナカメワヒヌの心得〕		折 1通	204-22
	〔詞寄書付〕		折 2通	204-23
	〔詞寄書付〕(早春他)		折 5通	204-24
	〔詞寄書付〕(春寝)		折 1通	204-25
	〔詞寄書付〕		折 1通	204-26
	〔詞寄書付〕		折 4通	204-27
	〔詞寄断簡〕 包紙1通あり	寛十年	半 17通	204-28
	杜律五言(注釈) (公福カ), 紙背文書(公福詠草)あり		横 1冊	204-29
	杜詩(注釈) (公福カ), 紙背文書(公福詠草)あり		横 1冊	204-30
	〔詠草〕(七題)		折 1通	242-1
	〔詠草〕(七夕) 賀巫丸		折 1通	242-2
	〔詠草〕(二題)		折 1通	242-3
	〔詠草〕(九題)		折 2通	242-4
	〔詠草〕(二題) 延季, 禁中御月次		折 1通	242-5
	〔詠草〕(二題) 延季, 禁中御月次		折 1通	242-6
	〔詠草〕(二題) 延季, 「禁中水無瀬宮法楽」		折 1通	242-7

〔詠草〕(三題) 公福, 端書「寛保元五廿四公宴御月次」	寛保元年5月24日	折 1通	242-8
〔詠草〕(二題) 公福		折 1通	242-9
〔詠草〕(四題) 公福, 「公宴御月次」	2月24日	折 1通	242-10
〔詠草〕(三題) 実勲, 「禁中御月次」		折 1通	242-11
〔詠草〕(二題) 実勲		折 1通	242-12
〔詠草〕(三題) 実勲, 「禁中御月次」		折 1通	242-13
〔詠草〕(三題) 実勲, 「禁中御月次」		折 1通	242-14
〔詠草〕(二題) 実勲, 「禁中御月次」		折 1通	242-15
〔詠草〕(二題) 実勲, 「禁中御月次」		折 1通	242-16
〔詠草〕(三題) 実勲, 「禁中御月次」		折 1通	242-17
〔詠草〕(二題) 実勲, 「禁中御月次」		折 1通	242-18
〔詠草〕(一題) 実勲, 「禁中水無瀬宮法楽」		折 1通	242-19
〔詠草〕(二題) 実勲, 「禁中御月次」		折 1通	242-20
〔詠草〕(一題) 実勲, 「石清水法楽」		折 1通	242-21
〔詠草〕(二題) 実勲, 「禁中御月次」		折 1通	242-22
〔詠草〕(三題) 実勲, 「去月禁中御月次」		折 1通	242-23
〔詠草〕(三題) 実勲, 「禁中御月次」		折 1通	242-24
〔詠草〕(二題) 実勲, 「禁中御月次」		折 1通	242-25
〔詠草〕(三題) 実勲, 「禁中御月次」		折 1通	242-26
〔詠草〕(二題) 実勲, 「禁中御月次」		折 1通	242-27
〔詠草〕(一題) 実勲, 「石清水法楽」		折 1通	242-28
〔詠草〕(三題) 実勲, 「禁中御月次」		折 1通	242-29
〔詠草〕(一題) 実教, 「聖廊御法楽」、端書「寛永十八二廿五中院大師通 村談合了」	寛永18年2月25日	折 1通	242-30

〔詠草〕(二題) 実教, 端書「寛永十五十七禁御月次」	寛永15年7月17日	折 1通	242-31
〔詠草〕(十題) 実教		折 1通	242-32
〔詠草〕(一題) 実教, 端書「寛永十四」	寛永14年	折 1通	242-33
〔詠草〕(五題) 実教, 端書「寛永十七十一月廿四日別家当座」	寛永17年11月24日	折 1通	242-34
〔詠草〕(二題) 実教, 端書「寛永十六七廿四公宴御当座五十首出題也飛鳥井中将」	寛永16年7月24日	折 1通	242-35
〔詠草〕(七題) 実教		折 1通	242-36
〔詠草〕(一題) 実教, 端書「寛永十三八月廿一日家会」	寛永13年8月21日	折 1通	242-37
〔詠草〕(三題) 実教, 端書「寛永十六六十七日公宴御月次」	寛永16年6月17日	折 1通	242-38
〔詠草〕(四題) 実教, 端書「寛永十六四廿一日公宴御当座」	寛永16年4月21日	折 1通	242-39
〔詠草〕(三題) 実教, 端書「寛永十六三月十七日公宴御月次」	寛永16年3月17日	折 1通	242-40
〔詠草〕(二題) 実教, 端書「寛永十六閏十一月廿四日公宴御当座五十首 巻頭院御方、出題飛鳥井中将」	寛永16年閏11月24日	折 1通	242-41
〔詠草〕(三題) 実教, 端書「寛永十六十二禁御月次」	寛永16年12月	折 1通	242-42
〔詠草〕(三題) 実教, 端書「寛永十七七十七禁御月次」	寛永17年7月17日	折 1通	242-43
〔詠草〕(三題) 実教, 端書「寛永十五七廿四禁御当座」	寛永15年7月24日	折 1通	242-44
〔詠草〕(一題) 実教, 端書「寛永十三十一月六日月次会歌」	寛永13年11月6日	折 1通	242-45
〔詠草〕(二題) 実教		折 1通	242-46
〔詠草〕(一題) 実教, 端書「寛永十五九月九禁御会所勞二付持参セス」	寛永15年9月9日	折 1通	242-47
〔詠草〕(一題) 実教		折 1通	242-48
〔詠草〕(三題) 実教, 端書「寛永十六七十七禁裏御月次」	寛永16年7月17日	折 1通	242-49
〔詠草〕(九題) 実教, 端書「寛永十六九九禁中御会」	寛永16年9月9日	折 1通	242-50
〔詠草〕(三題) 季知, 「禁中御月次」		折 1通	242-51
〔詠草〕(三題) 季知, 「禁中御月次」		折 1通	242-52
〔詠草〕(三題)		折 1通	242-53

季知,「禁中御月次」			
〔詠草〕(四題) 季知	折 1通	242-54	
〔詠草〕(二題) 季知,「新造内裏小御所障子色紙形」	折 1通	242-55	
〔詠草〕(三題) 季知,「公宴御月次」	折 1通	242-56	
〔詠草〕(一題) 公福	折 1通	242-57	
〔詠草〕(三題) 季知,「公宴御月次」	折 1通	242-58	
〔詠草〕(三題) 季知,「未廿四日御月次」	折 1通	242-59	
〔詠草〕(三題) 季知,「公宴御月次」	折 1通	242-60	
〔詠草〕(三題) 季知,「公宴御月次」	折 1通	242-61	
〔詠草〕(三題) 季知,「公宴御月次」	折 1通	242-62	
〔詠草〕(三題) 季知,「御月次」	折 1通	242-63	
〔詠草〕(三題) 季知,「公宴御月次」	折 1通	242-64	
〔詠草〕(三題) 季知,「公宴御月次」	折 1通	242-65	
〔詠草〕(三題) 季知,「公宴御月次」	折 1通	242-66	
〔詠草〕(二題) 実称,「仙洞御月次」	折 1通	242-67	
〔詠草〕(一題) 実称	折 1通	242-68	
〔詠草〕(二題) 実称,「御月次」	折 1通	242-69	
〔詠草〕(二題) 実称,「禁中御月次」	折 1通	242-70	
〔詠草〕(二題) 実称,「仙洞御月次」	折 1通	242-71	
〔詠草〕(二題) 実称,「禁中御月次」	折 1通	242-72	
〔詠草〕(二題) 実称,「仙洞去月分水無瀬宮御法楽」	折 1通	242-73	
〔詠草〕(二題) 実称,「御月次」	折 1通	242-74	
〔詠草〕(二題) 実称,「禁中御月次」	折 1通	242-75	
〔詠草〕(二題)	折 1通	242-76	

実称, 「仙洞御月次」			
〔詠草〕 (二題) 実称, 「去月分水無瀬宮御法楽」	折 1通	242-77	
〔詠草〕 (二題) 実称, 「禁中御月次」	折 1通	242-78	
〔詠草〕 (二題) 実称, 「仙洞御月次」	折 1通	242-79	
〔詠草〕 (二題) 実称, 「禁中御月次」	折 1通	242-80	
〔詠草〕 (二題) 実称, 「禁中御月次」	折 1通	242-81	
〔詠草〕 (二題) 実称, 「仙洞御月次」	折 1通	242-82	
〔詠草〕 (一題) 実称, 「七夕御会」	折 1通	242-83	
〔詠草〕 (二題) 実称, 「御月次」	折 1通	242-84	
〔詠草〕 (二題) 実称, 「御月次」	折 1通	242-85	
〔詠草〕 (二題) 実称, 「仙洞御月次」	折 1通	242-86	
〔詠草〕 (二題) 実称	折 1通	242-87	
〔詠草〕 (二題) 実称	折 1通	242-88	
〔詠草〕 (二題) 実称, 「禁中御月次」	折 1通	242-89	
〔詠草〕 (二題) 実称, 「禁中御月次」	折 1通	242-90	
〔詠草〕 (二題) 実称, 「禁中御月次」	折 1通	242-91	
〔詠草〕 (二題) 実称, 「禁中御月次」	折 1通	242-92	
〔詠草〕 (二題) 実称, 「禁中御月次」	折 1通	242-93	
〔詠草〕 (二題) 実称, 「御月次」	折 1通	242-94	
〔詠草〕 (二題) 実称, 「禁中御月次」	折 1通	242-95	
〔詠草〕 (二題) 実称, 「仙洞御月次」	折 1通	242-96	
〔詠草〕 (二題) 実称, 「禁中御月次」	折 1通	242-97	
〔詠草〕 (二題) 実称, 「御月次」	折 1通	242-98	
〔詠草〕 (二題)	折 1通	242-99	

実称,「御月次」			
〔詠草〕(二題) 実称,「御月次」		折 1通	242-100
〔詠草〕(二題) 実称,「禁中御月次」		折 1通	242-101
〔詠草〕(三題) 実称,「禁中御月次」		折 1通	242-102
〔包紙〕 上書「雅久卿ヨリ天仁伝切紙・伝来同切紙 以上二通」		美 1通	218-0
〔包紙〕 上書「授左宰相中将季知卿手仁遠波切紙」		小奉書 1通	218-1-0
〔包紙〕 〔飛鳥井雅久歌道伝授書〕(哉留・つつ留) 権大納言雅久	嘉永6年5月28日	切継 1通	218-1-1
〔包紙〕		豎折 1通	218-2-0
〔包紙〕 〔哉留・つつ留秘伝] 奥書「以後水尾院宸筆書之」		切継 1通	218-2-1

## 1-7-2. 漢文

孝経 奥書「文政四年七月自十一日到十三日 藤原季知書之、十一歳之時書之也」		仮半 1冊	137
白氏文集聞書 (藤原公福カ), 公福印		仮半 1冊	139

## 1-7-3. 雅楽

或用菜譜		折 1冊	170
梁塵愚案抄 付:三器略伝 全 一条兼良, 奥書「此一冊從四辻羽林公賀朝臣借用令新写 一校了 于時元治元年 左権少将藤原公允」	(嘉応3年)	半 1冊	15

## 1-8. 絵図・指図・拓本

〔悠記殿主基殿指図〕		85.5×116.7 1舗	227
〔某神社境内絵図〕 彩色		69.0×80.3 1舗	228
御殿御装束指図		切(26.8×29.0) 1通	229
紫宸殿指図		92.4×129.6 1舗	231
御所指図		136.6×162.0 1舗	232
〔賀茂神社図〕 彩色、欠あり		1舗	233-1
〔屋敷指図〕 欠あり		1舗	233-2
〔教場所規則他書付〕	明治6年1月	切 1通	233-3

(教道職), 前後欠			
紀氏遺蹟碑拓本		135.6×67.6 1鋪	235-1
紀氏遺蹟碑写		美継 1通	235-2
大嘗会木造始図	元文3年	90.2×66.5 1鋪	234
東海道里程表 □道富士川岩淵御本陣斎藤億右衛門板行	文久4年1月改	38.0×53.0 1通	236

## 1-9. 名鑑

補略	宝永6年1月	美二切 1冊	58
〔補略〕 綴紐切、断簡	(明治2年)	豎美二切(38丁) 1冊	160-3
〔補略〕 綴紐切、断簡 ○	(文久2年カ)	豎美二切(38丁) 1冊	160-4
女房次第	明治3年	半二切 1冊	147

表題／作成・授受／備考	年代	形態	数量	整理番号
-------------	----	----	----	------

## 2. 三条西家家政

### 2-1. 役所

ここでは、三条西家家臣に関わる様々な一括文書をまとめて収めた。必ずしも役所で作成、授受、保管されたと特定することができない記録文書も含まれているが、これらの記録文書は巻込みの状態で一括りにされていたため、一括の状態を解体せずこの項目に配列した。

○包紙等一括文書				
(巻込) 〔包紙〕	同御内山口英之助・安部謹吾→三条西殿御内広瀬平八郎様	12月29日	切 1通	161-1-0
	〔安部謹吾・山口英之助書状〕(御簾中様16日東京発駕) 山口英之助・安部謹吾→広瀬平八郎様	12月29日	半 1通	161-1-1
	〔包紙〕 原田左衛門→		半 1通	161-2
	〔某書状〕(太田川満水に付心配)	5月12日	半 1通	161-3
	口上書(身上書) 多賀俊平→御家令衆様	明治4年1月2日	半 1通	161-4
	口上(病気に付休願状) 近藤録郎→御殿御役人中様	(明治3)閏10月26日	半 1通	161-5
	覚(品物受取状) 片岡→三條西殿様	10月9日	切 1通	161-6
	〔包紙〕 上書「御容体書」		半 1通	161-7
	〔広瀬信晃書状〕(本日東還発輿) 広瀬信晃→小山尊前		半 1通	161-8
	〔包紙〕 禅林寺→上		美 1通	161-9
	〔包紙〕 松平九郎→小山畝尾様		切 1通	161-10
	〔包紙〕 亀岡藩松平判叟→京都侯野守稻様		切 1通	161-11
	〔包紙〕 上書「方鑑定」		半 1通	161-12
	〔包紙〕 上書「内事御伺書」 河邨潜斎→三條西様御内広瀬平八郎様		半 1通	161-13
	〔包紙〕 吉鋪熊次郎→御殿御内小山畝雄様・広瀬平八郎様、「越後新潟二而」	5月30日	半 1通	161-14
	〔包紙〕 河内北條村細河栄輔→三條西御殿役所	9月5日	半 1通	161-15
	〔包紙〕 東京旅館執事→西京三條西家執事御中	6月18日	美 1通	161-16
	〔太政官達留〕(記録編輯御用に付記録差出の件)	(4月～庚午11月)	半 2通	161-17

(太政官→京都華族), 綴穴あり			
〔金銭出入帳断簡〕	(巳3月2日)	横折半 2通	161-18
〔入谷庸五郎略歴〕		半 1通	161-19
〔包紙〕 北脇要人→小山畝尾様・広瀬平八郎様, 「仲山道細久手駅」	5月12日	切 1通	161-20
口上(回文一通受取) 道光寺殿役所→	4月5日	切 1通	161-21
〔包紙〕 顕正坊・恵俊坊→三條西様御内河村庸五郎様・神原庸之助様	6月23日	美 1通	161-22
〔包紙〕 稲垣藤左衛門・小林喜右衛門→河村能登守様	午7月24日着	半 1通	161-23
口上 外山家役所→三條西様御役所	12月27日	切 1通	161-24
〔内藤司馬履歴〕		半 1通	161-25
〔安田敬斎履歴〕 安田敬斎→広瀬様		半 1通	161-26
○諸覚一括文書			
口上(家来に成候年月) 安田敬斎→御殿にて広瀬様	12月28日	切 1通	192-1
覚(品代書付) 松よし→おいくさま	未5月17日	切 1通	192-2
〔諸事書付〕(香衣綸旨願の事他)		切 1通	192-3
〔案文〕(京都府への通達願) 御名→華族触頭御中		切 1通	192-4
覚(山本右膳東京在勤中不都合に付帰民願許可) 御殿御役所→	庚午10月20日	切 1通	192-5
覚(職員録代金受取) 村上勘兵衛(京東洞院)	5月8日	切 1通	192-6
覚(太政官日誌代金受取) 村上勘兵衛→上	閏月4日	切 1通	192-7
口上(河村某奉公願に付届) 執事→執事御中	庚午10月2日	切 1通	192-8
口上(小山・広瀬他無事帰京)	(午閏10月8日)	切継 1通	192-9
〔覚〕(武者小路殿息女、南部殿と縁組許可)		切 1通	192-10
〔神沢圭純身上書切紙〕		切 4通	192-11
〔勤務場所に付伺案〕		切 1通	192-12
〔付札カ〕 北上一郎→三條西様御執事中		切 1通	192-13
〔植村閑斎勤務略歴〕		切 1通	192-14
〔きく身上書切紙〕		切 1通	192-15
〔白石庄吉身上書切紙〕		切 1通	192-16

〔巻込〕	〔御川常治郎身上書〕	12月21日	切 1通	192-17
	〔口上〕（東京へ紙包進上に付便の尋状）	8月17日	切 1通	192-18
	覚（松田行春・内藤司馬住居書付）		切 1通	192-19
	〔石川篤見身上書切紙〕		切 1通	192-20
	覚（石川篤見他10名交名）		切継 1通	192-21
	〔受取証〕（官録之内落手） 執事→執事御中	6月22日	切継 1通	192-22
	取次之寺院参否之事（案） 御名禅林寺亀空→一殿一殿	未正月一	切 1通	192-23
	取次之寺院参否之事（案） 御名→一殿一殿	正月一	切 1通	192-24
	〔内藤司馬勤務年数歴書上〕		切 1通	192-25
	〔松田行春口上〕（家来勤仕の年月） 松田行春→御殿御役所広瀬平八郎様		切継 1通	192-26
	〔近藤録郎書状〕（御供一同到着） 細久手駅より近藤録郎→小畝尾様・広平八郎様	5月12日	切 1通	192-27
	口達（巻書2本頼入） 三條西家御用場→笹伊殿	2月16日	切 1通	192-28
	〔植村某勤務年数書上〕		切 1通	192-29
	〔家族書上案文并雛形〕		切継 1通	192-30
	口演（娘婚姻の礼） 武者小路従三位→三条西殿執事中	7月20日	切 1通	192-31
	〔鈴木五郎口上〕（返上金約定の件） 鈴木五郎→三条西様亭広瀬平八郎	12月26日	切継 1通	192-32
	口状之覚（三条西家執奏粟生光明寺嘆願に付願） 保実→留守官御中	庚午3月	切 1通	192-33
	口状覚（従三位、新潟県知事・越後按察使等辞退願許可に付申入） 三條西家仗	午10月	切継 1通	192-34
	口状覚（従三位、新潟県知事・越後按察使等辞退願許可に付申入） 三條西家仗	午10月	切 1通	192-35
〔断簡〕			切 2通	192-36
	○書状・詠草等一括文書			
	〔某書状〕（師の腕損に付返答） 松のとみさ子、前欠カ		切 1通	210-15
	〔某書状〕（腕損に付扇書の件断り）		切継 1通	210-16
	書添（歌道隆盛） 実政		切 1通	210-22
	〔某書状〕（文学御用赦免） 前後欠	5月22日	切継 1通	210-23
	〔某書状〕		切継 1通	210-14

〔巻込〕	〔詠草〕(三題)		切 1通	210-1
	〔詠草〕(三題) 前欠		切継 1通	210-2
	〔詠草〕(三題)		切 1通	210-3
	〔詠草〕(五題) 前欠		切継 1通	210-4
	〔詠草〕(三題)		切継 1通	210-5
	〔詠草〕(十題) 後欠カ		切継 1通	210-6
	〔詠草添削〕		切継 1通	210-28
	〔詠草添削〕		切 1通	210-29
	〔詠草〕 前欠		切 1通	210-30
	〔穎衛詠草添削〕		切 1通	210-32
	証(金受取状) 押小路家千葉継助→俣野左近様	6月23日	切 1通	210-7
	〔某書状〕(本園殿祝方日付の事に付申入) 前後欠	3月24日	切継 1通	210-8
	〔某書付〕(公福門弟調) 前後欠		切 1通	210-9
	〔某書状〕(福岡飛鳥井拝役之事他内談) 前後欠	8月□□	切継 1通	210-12
	〔某書状〕(詠草添削) 前欠カ		切継 1通	210-19
	〔某書状〕(詠草添削) 前欠カ		切継 1通	210-20
	〔某書状〕(3日の予定に付返答)		切 1通	210-24
	〔文学掛書状〕(別紙願書指入済に付本紙差上) 文学掛→三条西公, 前欠	11月15日	切 1通	210-25
	〔重俊書状〕(初句に付申入) 重俊→, 前欠	3月19日	切継 1通	210-26
	〔某書状〕(詠草添削の件同意) 前欠	2日	切継 1通	210-27
	〔某届状〕(2週間保養不出仕の届)		切 1通	210-31
	〔某書付〕(宮内卿徳大寺実則殿) 後欠		切 1通	210-33
	〔某書状〕(音読の件) 前欠		切継 1通	210-34
	〔断簡〕(内役テンヤの事) 前後欠		切(24.4×3.5) 1通	210-35
	〔断簡〕(俊将朝臣)		切(41.0×6.0) 1通	210-36
	葬祭祝詞集序(祝詞下書)		切継 1通	210-10

〔序文下書〕 正二位三條西季知	明治12年夏	切(27.1×14.3) 1通	210-11
〔位記申文〕 三条西家来河村従六位藤原時庸, 前後欠		切 1通	210-13
〔某書付〕(神宮号故実) 前欠		切継 1通	210-17
〔某書状〕(実政、文学御用掛断りの件) 前後欠		切継 1通	210-18
〔某書付〕(若菜上下巻の件)		切継 1通	210-21

## 2-2. 議奏役料請取

11代公福が享保15年(1730)に議奏に就任した際の役料の請取に関わって作成、授受、保管された記録文書がある。一連の経過については、「議奏御役料之一式覚」(No.225)に記事があり、同史料には役料の引替札の原文書が丁間史料として挟み込まれている。これらの記録の作成に関わったと見られる三条西家松田助允の役職については「三条家家来」としか出てこないもので未詳であり、役職組織が特定できないため、議奏役料請取という機能による項目を立てた。

請取申米之事(議奏役料米受取手形案紙写) 花山院家誰一印→奈佐清大夫殿・近藤半左衛門殿・跡部八郎兵衛殿, 端裏書「一、難波殿写本花山殿案紙也」本文押紙「難波侍従三位」	享保11年12月	半 1通	185-1
請之事(議奏役料米受取手形案文写) 花山院家一印→奈佐一殿・近藤一殿・田村一殿, 端裏書「二、難波殿写」本文押紙「難波侍従三位」	享保12年5月	半 1通	185-2
請取之事(議奏役料米受取手形写) 一家一印→奈佐清大夫殿・近藤半左衛門殿・跡部八郎大夫殿, 端裏書「三、難波殿写」本文押紙「難波侍従三位」	享一未10月	半 1通	185-3
請取申米之事(議奏役料米受取手形写) 花山院家八木左膳→奈佐清大夫殿・近藤半左衛門殿・岡部宗六郎殿, 端裏書「二、花山殿写」	享保14年5月	半 1通	185-4
請取申米之事(議奏役料米受取手形写) 花山院家八木左膳→奈佐清大夫殿・近藤半左衛門殿・岡部宗六郎殿, 端裏書「三、花山殿写」	享保14年閏9月	半 1通	185-5
〔江戸屋清右衛門送状〕(油紙包書箱代金送付覚) 江戸屋清右衛門印→川村能登守様	享保15年8月22日	美 1通	185-6
請取申米之事(議奏役料米受取手形下書) 後欠か、墨引抹消あり、端裏書「享保十五庚戌年七月廿八日議 奏御役儀被仰出八月十九日同御役料之事被仰出(後略)」		堅切 1通	185-7
請取申米之事(議奏役料米受取手形案文) 三条西家松田助允印→奈佐清大夫殿・海野源五郎殿・松崎権三郎殿, 端裏書「初度之御文言也 享保十五年十月十五日 御役料証文留(後略)」	享保15年10月	堅切 1通	185-8
議奏御役料之一式覚	享保15年(～16年)	半 1冊	225

## 2-3. 儀式

宝暦6年(1756)に12代実称の長男公里が元服した際に家臣が記した雑記1冊。文中に「家君」「若君」と見える。公里は明和2年(1765)8月11日に17歳で早世した。

御元服之儀雑誌 西三條印「594」	宝暦6年	美 1冊	65
----------------------	------	------	----

## 2-4. 扶局

明治期の家政組織である扶局のもとで作成、授受、保管された文書を収めた。明治維新後の領知関係の史料が4点ある。ただし、2-1. 役所の中にも明治期の執事宛の文書が含まれているので厳密な区分ではない。

〔刀剣目録〕 朱書で明治4年宮内省に差出の記事あり		美 1冊	156
大殿様御留主中御到来物控	明治4年	横半 1冊	83
山城国元領下五ヶ村分元家領去午年高反別収納高帳(控) 三条西家(侍従三条西公允)	明治4年3月	美 1冊	127
家領村々拾箇年貢米帳(控) 三条西家(広瀬内記印→京都御政府)	明治2年6月	半 1冊	128
高反別并去辰年収納高帳(控) 三条西家(広瀬内記印→京都御政府)	明治2年6月	半 1冊	129
山城国元領下五ヶ村分、從寅年去午年迄五ヶ年分皆済 目録(控) 三条西家(侍従三条西公允)	明治4年3月	美 1冊	130

表題／作成・授受／備考	年代	形態	数量	整理番号
-------------	----	----	----	------

### 3. 大臣家

#### 3-1. 大葬・即位

享保20年(1735)桜町、明和7年(1771)後桃園、安永8年(1779)光格、弘化3年(1846)孝明の即位関係の記録文書がある。なお、弘化3年(1846)に孝明天皇が先帝仁孝の諒闇に服する為に仮設された倚廬に渡御した際の記録は、三条西家当主が先例を勘考するための記録収集活動のなかで集積された文書として、1. 三条西家(1-6. 有職故実)の中に収めた。

御即位次第	享保20年11月3日	美二切 1冊	71
御即位次第	明和8年4月28日	美二切 1冊	167
即位次第 表紙「(花押)」	安永9年12月	美二切 1冊	168
〔甘露寺篤長書状〕(来年1月7日元服賀表参仕に付内々 申入) 篤長→権大納言	(安永8年カ)	切 1通	198-1
〔伝奏奉行雑掌廻文写〕(即位当日諸大夫間昇降の心得 に付申入) 伝奏奉行雑掌→徳大寺・今出川・冷泉・滋野井・庭田・ 三條西・日野・勧修寺・唐橋・西洞院・舟橋・堤・勘ヶ 由小路		切継 1通	198-2
口演(即位宣文召使持参旨伝達) (庭田)重嗣→三条西宰相中将		切 1通	198-3
〔参進次第書付〕		切 1通	198-4
〔行列書〕		切継 1通	198-5
〔官物・私物衣装并行列人数覚〕		切 1通	198-6
御元服定(交名写)		切 1通	198-7
御新冠前物色目		折 1通	198-8
即位ニ付拝借物覚(転法輪家より借用物)		折 1通	198-9
〔中山忠尹廻文写〕(即位習礼日程に付申入) (中山)忠尹→新大納言殿・左京権大夫殿	11月21日～28日	切 1通	198-10
〔三条実起書状〕(即位衣装に付諸事書付) 実起→三條西宰相中将殿		折 1通	198-11
〔内裏図〕		美 1通	198-12
〔即位交名写〕		折 1通	198-13
〔包紙〕 上書「即位」 紙背文書(三条西公允言上書扣)	慶応4年	豎 1通	205-0
御即位次第		美二切 1冊	205-1
御即位伝奏奉行当日備忘(写) 奥書「此次第借乞于胤保卿命于家僕俣野左近令書写候即 加一校了 慶応四年八月廿二日季知」	弘化4年9月23日	美二切 1冊	205-2

(包紙) (包紙)	〔賀詞案文〕		縦継 1通	205-3
	〔包紙〕 上書あり 紙背文書あり		縦 1通	205-4-0
	〔儀式次第〕		折 2通	205-4-1
	〔儀式次第〕		折 1通	205-4-2
	〔上卿着座次第〕		折 1通	205-4-3
	〔宣命奏聞上卿の次第問答〕 下札あり		折 1通	205-4-4
	〔季知書状控并書付〕(崇徳天皇還遷宣命奏聞上卿之事) 季知→滋野井中将殿		切 1綴(4通)	205-4-5
	御賀詞扣		美 1冊	205-5
	〔即位出御入御時刻書付〕		切 1通	205-6
	〔文久3年2月14日御定路頭礼節〕		折 1通	205-7
	口述(別紙2通回覧願)	9月1日	切継 1通	205-8
	〔官職一新に付達〕 印刷	6月	切 1通	205-9
	〔儀式配置略図〕		美 1通	205-10
	〔衣体次第案〕		横半 1冊	205-11
	〔即位次第雜記〕		美二切 1冊	205-12
	崇徳天皇神靈御還遷御列書	9月	折 1冊	118

## 3-2. 大嘗会

大嘗会は文正元年(1466)12月の後土御門天皇を最後に戦乱のため220年間中断し、江戸期には東山天皇の即位にあたり貞享4年(1687)に復興した。次の中御門天皇の時は挙行されなかったが、桜町天皇即位後の元文3年(1738)から継続しておこなわれた。当史料群のなかには、文正度の大嘗会の手続き文書が30点(包紙を含む)伝来している。文正元年(1466)当時の三条西家の当主は実隆(12歳)で、いまだ元服前であった。実隆の父公保も寛正元年(1460)に既に没しているため、これらの一連の文書が三条西家に伝来した理由は今のところ不明である。また、貞享4年(1687)の再興後の史料も16点伝存している。なお、有職故実書として編纂された記録に関しては、1. 三条西家(1-6. 有職故実)を参照のこと。

〔悠記主基行事〕	永享2年4月23日	縦継 1通	184
○			
〔包紙〕 上書「雑々書付 多分大嘗之事」		27.1×42.2 1通	213-0
〔綾小路中将家代3名大嘗会五節請取状案〕 紙裏：追而書あり		26.7×43.3 1通	213-1
〔某宗長殿下御休所惣色注文〕 伴次郎宗長(花押)	文正元年12月日	27.0×44.0 1通	213-2
〔大嘗会諸事書付〕 紙背文書(野呂殿宛惠源包紙)あり		28.0×47.1 1通	213-3

〔某久寛硯修理料足請取状〕 久寛(花押)	文正元年4月20日	28.0×44.0 1通	213-4
〔中原職業国郡卜定陣之掌燈料足請取状〕 職業(花押)	文正元年4月21日	28.7×47.8 1通	213-5
〔中原職業国郡卜定之御用火鉢用途注進状〕 職業	文正元年4月15日	28.2×47.2 1通	213-6
〔内膳司浜嶋清貞書付〕(三代内膳司の口宣の件) 内膳司清貞(花押)→木村越前守殿	12月3日	30.7×43.0 1通	213-7
〔髪上得選圍司等御訪料足注文案〕		27.8×47.8 1通	213-8
〔大嘗会調進物并料足等注文案〕		27.2×45.2 1通	213-9
〔内蔵寮年預藤井富増大嘗会料調進物注進状案〕 年預藤原富増	文正元年7月日	28.2×46.8 1通	213-10-1
〔中原職業書状〕(御祓大嘗会の件) 職業(花押)→橘兵衛殿, 213-10-1の紙背文書			213-10-2
〔町広光奏事目録〕 漉返紙	文正元年12月4日	31.8×47.0 1通	213-11
〔大嘗会ト食行事所移諸司料足注進状案〕	文正元年6月日	28.2×47.5 1通	213-12
〔行事官等大嘗会行事所始用脚注進状案〕	文正元年4月日	28.3×47.2 1通	213-13
〔師藤朝臣褰帳加階例注進状案〕		26.0×44.0 1通	213-14
〔摂津之親書状案并松田貞秀・飯尾之種連署状案〕(大嘗会伝奏御訪の件)	文正元年7月11日	27.2×43.8 1通	213-15
〔官司行幸行路〕		27.6×45.8 1通	213-16
〔大嘗会朱雀門大祓諸司料足注進案〕	文正元年6月日	28.2×47.6 1通	213-17
〔女叙位小折紙〕	文正元年12月29日	28.2×47.6 1通	213-18
〔外記文殿硯具修理注進状案〕 紙背文書(中原師藤書状包紙)あり	文正元年4月日	27.7×45.5 1通	213-19
〔中原職業南殿掌燈料足請取状〕 職業(花押), 紙背文書(中原師藤書状包紙)あり	文明11年12月6日	26.6×43.2 1通	213-20
〔蔵人所衆廻主殿行幸供奉御訪注進状案〕		27.8×47.0 1通	213-21
〔大歌所御訪注進状案〕		27.8×47.0 1通	213-22
永徳已来五節所次第事 漉返紙		折(31.8×47.0) 1通	213-23
〔左大史壬生晨照大嘗会御習礼触穢沙汰注進状〕 左大夫小槻晨照	11月7日	30.0×40.0 1通	213-24-1
〔某かな消息〕 213-24-1の紙背文書			213-24-2
〔大嘗会雑事日次勘文〕 陰陽頭安倍有祐	10月26日	27.0×44.6 27.4×45.3 27.4×45.5 27.4×45.0 5通	213-25
〔大嘗会書付〕		折(28.3×47.0) 1通	213-26
〔大嘗会要脚下行帳〕 継目剥離 断簡		継 5通	213-27

○			
大嘗会由奉幣次第 上卿右大将植基卿作進		美二切 1冊	41-1
大嘗会由奉幣次第 摂政冬経作進	貞享4年4月14日	美二切 1冊	41-2
大嘗会御禊次第 摂政作進	貞享4年10月28日	美二切 1冊	41-3
大嘗会卯日次第 摂政冬経公作進	貞享4年11月16日	美二切 1冊	41-4
大嘗会辰日豊明節会次第 摂政冬経公作進	貞享4年11月17日	美二切 1冊	41-5
大嘗会私記	貞享4年11月	美 1冊	45
大嘗会雜記	元文3年6月25日(～10月9日)	美 1冊	48
丹波国主基所風土記	寛延元年9月22日	豎継 1通	208-1
〔包紙〕 上書「風土記」		美 1通	208-2-0
紐(包紙) 丹波国主基所風土記	寛延元年9月22日	美継 1通	208-2-1
近江国悠紀所風土記	元文3年10月9日	豎継 1通	208-2-2
近江国悠紀所風土記	元文3年10月9日	豎継 1通	208-2-3
大嘗会卯日次第 西三條印「544」		美二切 1冊	44

## 3-3. 改元

江戸期を通じ、改元に関わって作成、授受、保管された記録文書が多く伝存している。なお、改元にあたって先例を調べるために使われたと思われる記録〔類従〕もここに収めた。

和漢年号同字類従 上下 端書「二之一 卅丁」		美二切 1冊	92
諸道勘文・別勘文・外記勘例		半 1冊	102
〔漢家年号并後嵯峨院以後載勘文不被用年号類従〕		美二切 1冊	104
〔年号類従〕		美二切 1冊	105
〔年号次第草稿〕 もとは1冊本カ		切 22枚	107
〔年号類従〕		美二切 1冊	108
〔年号類従〕		美二切 1冊	109
関白以下申詞・当日議奏并続目・詔書・改元事 改応仁 三・為文明元 西三條印「576」		半 1冊	111
〔年号勘文〕	(天永元年～仁安元年)	中 1冊	119
改元次第 参木用 文章博士五条為康	(享禄5カ)	折 1通	189
〔年号難陳〕(宝暦・康德・大応・享明)		折 1通	194-3

紙 縫	〔年号難陳〕(寛安・嘉福他)		折 1通	194-4
	〔年号勘文引文〕 文章博士菅原朝臣長維	寛永度カ	折 1通	169-1
	〔享禄度・天文度改元覚〕		折 1通	169-2
	〔寛文・安永号に付申詞〕		折 1通	169-3
	〔天保号に付申詞〕		切 1通	169-4
	〔算博士小槻季連・同三善亮兼連署革命勘文〕 正六位下行右少史兼算博士三善朝臣亮兼・修理東大寺大 仏長官従五位上行主殿頭兼左大史算博士小槻宿祢季連	延宝9年月日	縦継 1通	195-1
	〔(東坊条カ)恒長革命勘文〕 恒長	(延宝9カ)	縦継 1通	195-2
	〔陰陽頭兼曆博士賀茂友伝革命勘文〕 従四位下行陰陽頭兼曆博士賀茂友伝	延宝9年7月日	縦継 1通	195-3
	〔明経博士船橋相賢革命勘文〕 正三位行刑部卿清原朝臣相賢	延宝9年月日	縦継 1通	195-4
	〔文章博士東坊条長詮・同唐橋在庸連署革命勘文〕 文章博士菅原在庸・文章博士菅原長詮	(延宝9年カ)	縦継 1通	195-5
	〔大学寮博士押小路師庸・同直講伏原宣幸連署革命勘文〕 直講中原朝臣師庸・博士清原朝臣宣幸	延宝9年月日	縦継 1通	195-6
	〔高辻豊長革命勘文〕 豊長	(延宝9年カ)	縦継 1通	195-7
	改元定次第并條事定次第(宝永八年四月廿五日改元)	(宝永8年カ)	美二切 1冊	70
	改元難陳写 表紙のみ	宝永8年4月25日	美二切 1通	106-1
	〔年号類従〕		美横折 1通	106-2
	〔年号勘文案〕		折 1通	106-3
	〔年号勘文案〕		切 1通	106-4
	〔年号書上〕		切 1通	106-5
	〔年号勘文〕 文章博士家長・式部権大輔在廉		折 1通	106-6
	〔年号勘文〕 文章博士長香・式部権大輔在廉		折 1通	106-7
	〔年号難陳〕		折 1通	106-8
	〔年号難陳〕		折 1通	106-9
	〔年号難陳〕		折 1通	106-10
	〔寛保号推挙状案文〕		折 1通	106-11
	〔年号難陳に付申詞〕		折 1通	106-12
	〔改元定次第書付〕		折 1通	106-13
	〔年号勘奏草案〕		折 1通	106-14
	〔年号難陳〕(正徳度カ)		美二切 1冊	110

天和貞享両度勘文(写)		美 1冊	99
天和貞享両度勘文(写) 西三條印「152」		半 1冊	100
〔年号勘文引文・改元元文次第〕	享保21年4月26日	美二切 1冊	103-1
〔改元号元文〕	享保21年4月28日	美二切 1冊	103-2
〔文章博士清岡長香年号勘文〕 従五位下守大藏大輔兼文章博士菅原朝臣長香	元文6年2月23日	美 1通	186
難陣・條事定々詞・挙奏号	(天明度カ)	美二切 1冊	116
〔寛政度諸書諸詞諸状目録〕		美 1冊	177
〔寛政度諸書諸詞諸状目録〕		美 1冊	101
改天保改元参仕備忘 表紙「忠香殿御尋ノ事、輝弘殿尋ノ事、忠純読勘文」	天保15年	横美 1冊	73
條事定并改元定備忘次第草 <sup>他見無用</sup> 参議右大弁藤原愛長、表紙「新宰相通岑、左大弁宰相光 長 <sup>読年号</sup> 説国解、右大弁宰相愛長 <sup>勘文</sup> 并執筆」	弘化5年	半 1冊	78

## 3-4. 節会

小項目として、3-4-1. 五節会、3-4-2. 御歌会、3-4-3. 元服の3項目を立てた。いずれも儀式次第書が中心。

## 3-4-1. 五節会

五節会とは、1月1日の元日節会(朝賀・朝拝・拝賀とも)、1月7日の<sup>あおうまのせちえ</sup>白馬節会、1月16日の<sup>とうかの</sup>踏歌<sup>せちえ</sup>節会、5月5日の端午節会(5月5日)、新嘗祭翌日の11月中辰日の<sup>とよあかりのせちえ</sup>豊明節会(辰日節会)の5つのこと。

元日節会参議要		仮美二切 1冊	151
踏歌節会参議要		美二切 1冊	50
辰日節会次第		美二切 1冊	51
豊明節会次第 西三條印「545」		美二切 1冊	52
豊明節会参議要		美二切 1冊	90
○			
〔合見参五位已上絹綿用途注文〕	寛延元年11月20日	堅継 1通	196
○			
三節会次第稿・明治二年元日宴参仕之記稿・同白馬宴 拝見之記稿・同十一日神宮奏事始御手水陪膳参仕記 稿・同廿四日和歌御会始読師参仕之記在于別 (三条西季知カ)	明治2年	中 1冊	144

## 3-4-2. 御歌会

〔歌会日記〕(No. 163)は、寛政5年(1793)から7年にかけて、三条西延季が参加した光格天皇の御歌会および後桜町院の御歌会(仙洞御会)の記録。歌会の参加者、次第などがわかる。

〔紙綴〕	〔歌会日記〕	寛政5年9月～11月、同7年1月3月、同9年7月19日	美二切(17.3×25.0) 1冊	163
	○			
	〔柳原光愛書状〕(和歌詠進役に付勘考依頼) 柳原光愛→三条西殿	辛未(明治4カ)5月	折 1通	211-1
	〔千鶴万亀書付〕		折 1通	211-2
	〔千々万々歳書付〕		折 1通	211-3

## 3-4-3. 元服

宝永8年(1711)元旦に中御門天皇が元服し、2日に元服後宴節会、7日に元服賀奏表が挙行された。

御元服後宴次第・進賀表儀 羽林郎藤原(花押)、紙背文書(公福製詠歌)あり、西三條印「183」	宝永8年1月2日・同7日	折 1冊	63
---	--------------	------	----

## 3-5. 出家

正徳3年(1713)8月16日に靈元上皇が落飾した際の儀式次第書。

御落飾次第	正徳3年8月16日	升 1冊	124
-------	-----------	------	-----

## 3-6. 行幸

孝明天皇が攘夷祈願のために文久3年(1863)3月11日に賀茂下上社に行幸した時の行列書1点。明治天皇の行幸では、慶応4年(1868)8月9日賀茂下上社行幸、明治元年(1868)東京行幸、同3年氷川神社(埼玉県大宮市高鼻町)行幸の記録がある。

〔封筒〕	賀茂下上社行幸御列書	文久3年3月11日	美三切 1冊	81
	〔上書〕「慶応四年賀茂上下社行幸」	慶応4年	封筒 1通	224-0
	〔賀茂社行幸次第覚〕		切 1綴(4点)	224-1
	〔封筒〕 上書「九月十三日 御東行供奉云々」	(明治元年)	封筒 1通	217-0
〔封筒〕	〔東京行幸供奉次第書付綴〕		1綴(10点)	217-1
	〔包紙〕 上書「氷川行幸書類」	(明治3年)	半 1通	215-0
	〔三条西季知廻状〕(宮内省より手人員数実数御尋に付答申済の旨報告) 季知→醍醐侍從殿・綾小路侍從殿	壬子28日	切継 1通	215-1
	〔氷川参詣次第略記〕		切継 1通	215-2
〔包紙〕	〔行幸道中行列書〕		美三切 1冊	215-3

〔封筒〕	〔道筋・奉供規定・太鼓次第達留書〕 宮内省→侍従・内番	庚午閏10月25日	半 1冊	215-4
	〔封筒〕 上書「泉山行幸ノ事」	(明治3年カ)	封筒 1通	216-0
	〔某良光書状〕(行幸供奉風邪に付不参之届状) 良光→三条西大納言殿	12月24日	切 1通	216-1-1
	〔東坊条俊政廻文写〕(泉山参拝道筋・供奉行列・衣服之申入) 俊政	12月23日	半 1通	216-1-2
	〔東坊城俊政廻文写〕(孝明天皇山陵参拝日25日申入) 俊政→三・堀川三位殿・堀右京大夫殿・飛鳥井侍従三位殿・高辻三位殿・園中将殿・長谷美濃権介殿・大原左馬頭殿・東園侍従殿・裏松中務権少輔殿・石野大夫殿	12月23日	切 1通	216-1-3
	〔某信成書状〕(近習衣服に付尋) 信成	12月24日	切 1通	216-1-4
〔封筒〕	〔孝明帝三周忌に付行政官達留并参拝次第書〕	12月	半 1冊	216-2
	序(神典採要) 神宮少宮司少教正浦田長民識	明治7年2月	半 1冊	178

## 3-7. 神事

小項目として、3-7-1. 新嘗祭、3-7-2. 例幣使を立て、それ以外のものは、3-7-3. その他に収めた。

## 3-7-1. 新嘗祭

新嘗祭は寛正年間(1460~66)に一時中断した後、江戸期の桜町天皇により元文5年(1740)に禁中儀礼として再興した。

〔包紙〕	〔包紙〕 上書「新嘗祭ニ付入用物」 西三條印「354」		美 1通	222-0
	〔進路図〕		美 1通	222-1
	〔配置図〕		半 1通	222-2

## 3-7-2. 例幣使

伊勢例幣使は後光明天皇が正保4年(1647)に再興した。当史料群に伝来する例幣使関係の記録文書は、年代の特定できないものもあるが、ほとんどは季知(1811~1890)の活動に関わって作成、授受、保管されたものと見られる。

〔包紙〕	〔包紙〕 上書あり		美 1通	157-0
	例幣発遣次第		折 1通	157-1
	神祇官例幣発遣両儀図		美 1枚	157-2
	〔奏聞進弓場之図〕		切 1枚	157-3
	神祇官代図		美 1枚	157-4
	〔三条西季知・某基愛連署口上書〕(菓子送付状) 基愛・季知→堀川新三位殿・美濃権介殿・石野大夫殿	12月22日	切継 1通	157-5

〔着陣次第書〕		折 1通	157-6
	神祇官代儀(次第)	折 1通	157-7
〔包紙〕 上書「例幣発遣上卿記」		美 1通	158-0
	資宗卿次第	中 1冊	158-1
〔例幣参門次第〕 実政→三条西大納言	慶応元年	美二切 1冊	158-2
〔藤波教忠書状〕(次第書返納) 教忠→三条西殿	9月10日	折 1通	158-3
〔藤波教忠書状〕(神祇官代次第拝領願) 教忠→	9月10日	折 1通	158-4
(包紙) 〔例幣次第草案〕		切継 1通	158-5
〔例幣次第草案〕		折 1通	158-6
例幣発遣次第		折 1通	158-7
神祇官代儀(次第)		折 1通	158-8
例幣発遣次第		折 1通	158-9
例幣発遣次第		折 1通	158-10
例幣発遣次第		折 1通	158-11
〔包紙〕		美 1通	159-0
	神祇官代儀(次第)	折 1通	159-1
(包紙) 例幣発遣次第		折 1通	159-2
〔某書状写〕 →三条西大納言殿	9月7日	横折 1通	159-3
〔儀式次第略図〕		半 1通	159-4
〔包紙〕 上書「例幣発遣上卿備忘」 紙背文書あり		堅 1通	193-0
〔藤波教忠書状〕(例幣発遣宣命の件)	9月2日	切継 1通	193-1
例幣発遣次第		折 1通	193-2
神祇官代儀(次第)		折 1通	193-3
〔某書状控〕(神祇官代宣命の件承知)		切 1通	193-4
口述(例幣参向前驅之事に付相談下書) 季知→三條前垂相公	9月10日	切継 1通	193-5
〔宣命草作進書付〕		折 1通	193-6
(包紙) 口上覚(神祇官代宣命の件に付願) 使王河越兵庫権助→	辰9月	切 1通	193-7
例幣発遣并石清水社奉幣使宣命奉聞次第 付札「慶応二年例幣上卿醍醐大納言 弁長邦」		折 1通	193-8
例幣発遣并石清水社奉幣使宣命奉聞次第(下書) 付紙あり		折 1通	193-9
〔九月七日諸覚〕		切 1通	193-10

〔行政官条目〕(来28日女御入内に付五箇条)	12月	切継 1通	193-11
例幣發遣次第 外題「実徳卿次第」		半 1冊	193-12
〔某書状〕(酒肴の返礼) 後欠		切継 1通	193-13
〔某書付〕(門開閉次第)		切 1通	193-14
〔日野資宗書状〕(神祇官謹奏の件) 資宗→三条西殿	9月2日	折 1通	193-15

## 3-7-3. その他

石清水放生会次第		折 1通	181
神せん御供しんのしたい		横 1冊	117
〔行列書〕		横美 1冊	146
〔豊受宮由貴大御饌大祭雑記〕		半二切 1冊	148
柿本大明神神階宣下次第	享保8年2月1日	半二切 1冊	166

## 3-8. 叙位・除目

文安4年(1447)前後の除目に関わる手続き文書がまとまって伝来している。この時期の三条西家当主は公保(正二位権大納言、50歳)で、宝徳2年(1450)から同6年までは内大臣を勤めた。江戸期に三条西家からは大臣を出すことがなかったので官位執奏に関わる記録文書はほとんど伝存していない。公福が武家伝奏・議奏を勤めた時期の記録文書も見られない。

〔藤原信直雑事三箇条請文案〕 摂津守従五位下藤原朝臣信直，端裏書「右大臣-左少弁勘例」	文明13年7月23日	半継 1通	190-1
〔官途申文寄書案〕	文安4年3月15日	1綴(14通)	190-2-1
〔官途申文寄書案〕	文安4年3月15日		190-2-2
〔民部少録惟宗近里拝任右少史申文案〕 正六位上行民部少録惟宗朝臣近里，紙背文書あり	文安4年3月15日		190-2-3
〔木工助大江行富拝任権少外記申文案〕 正六位上行木工助大江朝臣行富，紙背文書あり	文安4年3月15日		190-2-4
〔右兵衛少尉大江幸治拝任兵部少丞申文案〕 正六位上行右兵衛少尉大江朝臣幸治	文安3年3月26日		190-2-5
〔掃部助平富春拝任式部少丞申文案〕 正六位上行掃部助平朝臣富春	文安4年3月15日		190-2-6
〔式部録中原為音拝任左少史申文案〕 正六位上行式部録中原朝臣為音	文安4年3月15日		190-2-7
〔文章生紀兼久拝任権少外記申文案〕 文章生正六位上行紀朝臣兼久	文安4年3月15日		190-2-8
〔兵部丞阿祇奈君之夏拝任式部少丞申文案〕 正六位上行兵部丞阿祇奈君之夏	文安4年3月15日		190-2-9
〔左兵衛少尉大江匡香拝任左衛門少尉申文案〕 正六位上行左兵衛少尉大江朝臣匡香	文安4年3月15日		190-2-10

〔卷八〕	〔兵部少丞菅原有景拜任左衛門少尉申文案〕 正六位上行兵部少丞菅原朝臣有景	文安4年3月15日		190-2-11
	〔左衛門少尉藤原元右拜任民部大丞申文案〕 正六位上行左衛門尉中原朝臣元右	文安4年3月15日		190-2-12
	〔左衛門少尉安倍英雄拜任民部大丞申文案〕 正六位上行左衛門尉安倍朝臣英雄	文安4年3月15日		190-2-13
	〔左衛門少尉紀以国拜任右近衛将監申文案〕 正六位上行左衛門少尉紀朝臣以国	文安4年3月15日		190-2-14
	〔大膳少進伴氏之拜任民部丞申文案〕 正六位上行大膳少進伴朝臣氏之	文安5年1月26日	半 1通	190-3
	〔左大臣藤原冬平請狀案〕 從一位行左大臣藤原朝臣冬平	嘉元4年4月5日	半 1通	190-4
	〔権中納言藤原家教拜任申文案〕 正二位行権中納言藤原朝臣家教	弘安10年1月11日	半 1通	190-5
	〔藤原忠実申文案〕 從二位権中納言兼左近衛大将藤原朝臣忠実	嘉保2年1月26日	半 1通	190-6
	〔藤原実忠申文案〕 正三位行権中納言藤原朝臣実忠	元応3年1月11日	半 1通	190-7
	〔藤原伊頼申文案〕 參議正三位行右近衛権中將藤原朝臣伊頼	正嘉3年1月19日	半 1通	190-8
	〔藤原実泰申文案〕 正二位行権大納言兼陸奥出羽按察使藤原朝臣実泰	嘉元4年3月26日	半 1通	190-9
	〔藤原公敏申文案〕 正三位行権大納言藤原朝臣公敏	元享4年10月19日	半 1通	190-10
	〔藤原経忠申文案〕 正二位行権大納言藤原朝臣経忠	元応3年1月11日	半 1通	190-11
	〔藤原冬教申文案〕 正二位行権大納言兼左近衛大将言藤原朝臣冬教	元応2年1月11日	半 1通	190-12
	〔藤原宗俊申文案〕 正二位行権大納言藤原朝臣宗俊	嘉保2年1月26日	半 1通	190-13
	〔藤原隆忠申文案〕 正二位行大納言藤原朝臣隆忠	建仁元年1月20日	半 1通	190-14
〔連券〕	〔藤原某申文案〕 從二位行権中納言兼左衛門督藤原朝臣	天文12年3月	半 1通	190-15
	〔天文得業生中原某書付〕		美 1通	190-16
	○			
	〔平知久三箇条雜事請文案〕	寛延4年10月何日	美継 1通	187
〔連券〕	〔師富朝臣女叙位注進狀案〕(褰帳女王加級事) 端裏書「師富朝臣注進」	(仁平元年～永仁6年)	半 1通	188
	條事定略次第 付院号定 私		切 1綴	180
	〔太政官符写〕(摂津国司雜事三箇条) 左大史小槻宿祢, 紙背文書あり	正元2年4月13日	堅継 1通	200-1
	〔摂津守中原直久雜事三箇条請文〕 正五位下行摂津守中原朝臣直久	元文6年2月23日		200-2

## 3-9. 贈位・葬礼

宝永7年(1710)3月付中御門天皇宣命写がある(No.200-1)。この文書は、中御門の実母櫛笥賀子(新崇賢門院、宝永6年12月29日没、35歳)に准三后が贈位され、3月26日に宣下があり、上卿を園基勝、使を三条西公福、奉行を裏松益光が勤めた関係で残されたものであろう。享保13年6月26日の新中和門院(藤原尚子)への贈皇太后宮宣下に公福は参仕していないので、本文書(No.221-2)が伝来した経緯は明らかではない。中和門院(1575~1630)は後水尾生母。

〔中御門天皇宣命写〕(櫛笥賀子贈位准三后)	宝永7年3月	竪 1通	221-1
〔中御門天皇宣命写〕(藤原尚子贈位准三后・皇太后)	享保13年6月	竪 1通	221-2
〔中御門院崩御事〕	(寛永7年カ)	美二切 1冊	206

## 3-10. 健宮妙法院入寺一件

健宮は、閑院宮孝仁親王の次男教仁(弘保)入道親王(1819~52)のこと。文政13年(1830)8月24日に親王となり、名を弘保と改め、10月27日に入寺得度した。

〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕	〔上書〕「文政十三年十月二十七日建宮 妙法院江御入寺之節書付入」		竪 1通	214-0
	〔着座并進路図〕		半継 (60.0×55.0) 1通	214-1
	〔宸殿東南絵図〕		美 1通	214-2
	〔包紙〕 上書「例奉行 仙洞 妙法院絵図」		半 1通	214-3-0
	〔包紙〕 〔宸殿東南絵図〕		美 1通	214-3-1
	〔包紙〕 〔部屋図〕		美継 2通	214-3-2
	〔包紙〕 上書「御得度之次第」		半 1通	214-4-0
	御得度之次第		切継 1通	214-4-1
	〔包紙〕 上書「文政十三年 健宮妙法院江御入寺」		美 1通	214-5-0
	〔来27日健宮妙法院室へ入寺の次第書付〕		切 1通	214-5-1
	〔花山院家厚廻状写〕(出家次第并図僧名廻覧) →権大納言殿・三條西中納言殿・勸修寺中納言殿・堀川宰相殿	10月24日	切 1通	214-5-2
	〔包紙〕 〔10月25日借物・献上物覚〕	10月25日	半折 1通	214-5-3
	〔花山院家厚廻状写〕(列書提出の事他2条) 実厚→・・勸修寺殿・堀川殿・園殿	10月17日	半 1通	214-5-4
	〔庭田重基廻状写〕(妙法院弘保親王得度着座参仕の件内々申入) 重基→権大納・実勲・勸修寺中納・堀川宰相・宰相中将	10月22日	半 1通	214-5-5
	〔扨従次第略記〕	10月13日~27日	半 3通	214-5-6

## 3-11. 武家伝奏・議奏

三条西家では、6代実条(1575～1640)が慶長18年(1613)から寛永17年(1640)まで武家伝奏を勤めた。11代公福(1697～1745)は享保15年(1730)に議奏に就任後、翌享保16年から同19年まで武家伝奏を勤めた。なお、公福の私的な日記は、1-3. 当主日記の項目を参照。

○実条			
雑々状留 (三条西実条), 丁間史料1点	寛永6年	14.5×24.9 1冊	175
○公福			
〔日記〕 紙背文書あり	享保15年8月5日～12月30日	横(16.5×45.0) 1冊	40-4
〔日記〕(二宮御方御肝煎の間事)	享保16年	半 1冊	40-1
〔包紙〕 上書「享保十六年九月十月十一月十二月」 紙背文書(太刀・馬代目録)あり		縦 1通	40-3-0
〔日記〕	享保16年9月2日～12月29日	半 1冊	40-3-1
〔三条西公福起請文控〕 →松平左近将監殿・酒井讃岐守殿・松平伊豆守殿・牧野河内守殿	享保16年9月6日	縦 1通	212
〔三条西公福廻状〕(法樂執行日伝達) 公福→中院前大納言殿・阿野中納言殿・園中納入言殿・武者小路前中納言殿・冷泉前中納言殿・源宰相殿・右兵衛督殿・藤波二位殿・押小路三位殿・冷泉三位殿・清水谷中将殿・武者小路中将殿・風早中将殿・右兵衛佐殿・藏人弁殿, 203-3-1の紙背文書	5月17日	折 1通	204-3-2
○			
〔享保9年関東八朔御馬献上儀式次第・武家伝奏前鑑・寺社方御取次の覚〕		美三切 1冊	165

## 3-12. 勤番

〔小御所勤方次第并奉行月割〕	(安永7～天明7年)	半 1冊	155
小番詰留并両番所小番組	嘉永4年	半 1綴(2冊)	75

## 3-13. 皇太后宮権大夫

明治元年(1868)3月18日に准后九条夙子を冊立して皇太后とし、これより後は大宮と称した。これにより、権大納言正親町実徳が皇太后宮大夫に、権中納言三条西季知が同権大夫に、左大弁甘露寺勝長が同亮に、左近衛権少将三条西公允が同権亮に補任された。その一連の記録文書がある。また、明治2年2月11日に大宮が仮殿から新築の大宮御所に移徙した際の記録文書がある。

○立后および拝任			
〔包紙〕 上書「中□□還任 大宮権大夫兼任 大納言拝任」		縦 1通	220-0

(紙縫・包紙)	〔季弘(知カ)書状〕 季弘→三条殿	(明治元カ)2月7日	折 1通	220-1-1
	〔丹□返答書〕(拝賀開門警護の依頼状案文) 丹□		切 1通	220-1-2
	〔権中納言下知状〕(来18日着陣) 権中納言(花押)→四位大外記殿	(安政4)12月16日	折 1通	220-1-3-1
	〔書付〕(宣陽殿敷設・召使参仕)	(安政4年5月15日)	切 1通	220-1-3-2
	〔権中納言下知状〕(来18日着陣) 権中納言(花押)→四位史殿	12月16日	折 1通	220-1-4
	〔紙縫〕権中納言下知状案文 権中納言(花押)→四位史殿・大外記殿	(12月24日)	切 1通	220-1-5-1
	〔書付〕(来27日拝賀事他)		切 1通	220-1-5-2
	〔甘露寺勝長書状〕(還任権中納言宣下申入) 勝長→権中納言殿	(明治元カ)2月2日	豎折 1通	220-1-6
	〔某(季知カ)請状控〕(還任権中納言) (花押)	(明治元カ)2月2日	豎折 1通	220-1-7
	〔甘露寺勝長書状〕(兼任皇太后宮権大夫宣下申入) 勝長→皇太后宮権大夫殿	(明治元カ)3月18日	豎折 1通	220-1-8
	〔三条西季知請状控〕(兼任皇太后宮権大夫宣下) 季知	(明治元カ)3月18日	豎折 1通	220-1-9
	〔立后次第草案〕		切 1通	220-2
	〔某(季知カ)書状控〕(権大納言宣下拝任)	(明治元カ)	切 1通	220-3-1
	〔巻込〕三条西季知請状草案 (花押)	(明治元カ)	切 1通	220-3-2
	〔某(季知カ)請状控〕(兼任皇太后権大夫宣下)	(明治元カ)3月18日	豎折 1通	220-4
(包紙)	○大宮新殿移徙 臨時祭庭座・大原野祭参向等間記 大宮新殿御移徙 行啓供奉記	(明治元カ)2月21日～ 明治2年1月29日	中 1冊	49
	〔包紙〕 上書「大宮御移徙」 紙背文書あり		美 1通	162-0
	大宮新殿御移徙行啓御次第	明治2年2月11日	横美 1冊	162-1
	大宮新殿御移徙行啓列	明治2年2月11日	美三切 1冊	162-2
	大宮新殿御移徙供奉記	明治2年2月11日	中 1冊	162-3
	〔白紙〕		切 1通	162-4
	〔正親町実徳書状〕(移徙祝儀賜候旨申入) 実徳→三条西殿	2月13日	切 1通	162-5

表題／作成・授受／備考	年代	形態 数量	整理番号
-------------	----	-------	------

#### 4. 神宮司庁

形態の「美罫二切」は、ほぼ美濃判の縦帳二つ切の大きさ(13.7×20.0cm)の料紙を用い、版心に「神宮司廳」と印刷された10行罫紙。「半罫」は、その半紙判10行罫紙。

神御衣祭式	明治7年9月14日	美罫二切 1冊	84
元始祭式晴之儀也	明治8年	美罫二切 1冊	82
祈年祭々式 表紙「四日快晴殊ニ風静和暖也」	明治8年	美罫二切 1冊	85
紀元節祭々式晴之儀也	明治8年	美罫二切 1冊	86
一月一日祭式晴之儀也	明治8年	美罫二切 1冊	87
明治八年一月二日神宮教院開講式(式次第)	明治8年	美罫二切 1冊	89
〔祭儀次第書写〕 綴紐切		美罫二切(48丁) 1冊	207
神判記実序 神宮大司兼中教正正六位田中頼庸撰, 神宮教院用紙 紐切	明治7年5月21日	半(5丁) 1冊	223-1
神判記実序 神宮大司兼中教正正六位田中頼庸撰	明治7年5月21日	半罫 1冊	223-2
上等葬祭図式序 綴穴あり		美 1通	223-3
明治八年祈念祭々式 綴紐切、断簡	明治8年	美罫二切(19丁) 1冊	160-1
明治七年八月三十一日大祓式 綴紐切、断簡	明治7年	美罫二切(8丁) 1冊	160-2

#### 5. 出所不明

元服に関わって正親町三条殿役所で作成されたと推定される記録が3点ある。

御元服御青物帳	宝暦8年11月26日	半 1冊	66
正親町三条家御元服之記	天明6年4月21～6月8日	半 1冊	67
侍従実愛様御元服之日記 正親町三条殿役所	文政10年5月21日	半 1冊	68

26Y

# 山城国京都袖岡玄蕃助家記目録

解題	p. 79
目録	p. 81

## 山城国京都袖岡玄蕃助家記目録 解題

- A. 史料群記号 26Y  
B. 史料群名 やましらのくにきょうと そでおかげんぼのすけ か き  
山城国京都袖岡玄蕃助家記  
C. 数量 6点  
D. 伝来の経緯

史料には、旧三井文庫の所蔵を示す「三井文庫」の朱印と購入年月日印が押下され、いずれも昭和17年(1942)1月30日の購入とある。昭和26年(1951)に旧三井文庫より当館(当時は、文部省史料館)に譲渡された。

### E. 出所の歴史

袖岡家は本姓橘氏<sup>じげ</sup>。地下官人(清涼殿の殿上間に昇殿を許されていない朝廷の官人)として、江戸中期以降に出納平田家に属し、蔵人所衆兼上南座を世襲した。平田家に属した蔵人方は60家ほどあった。「地下家伝」には、芳景(1731～1791)、豊実(1762～?)、景賢(1764～?)、和景(1774～1805)、文景(1799～1855)、景命(1839～?)の5人を載せている(後掲の袖岡家年譜を参照)。本史料の作成者袖岡文景は、寛政11年(1799)に生まれ、文化5年(1808)采女佑、同13年(1816)玄蕃助となり、安政2年(1855)に57歳で没した。

蔵人所は平安時代初期にできた有力な令外官司で、本来は天皇家の家政機関であったが、弘仁元年(810)より天皇に近侍して機密の文書に掌ることになった。平安期の蔵人所の職員は、別当1人、頭2人、五位蔵人2～3人、六位蔵人5～6人、非蔵人(見習いの蔵人)3～6人、雑色8人、所衆20人、出納3人、小舎人6～13人、滝口10～30人、鷹飼10人であった。その後、蔵人所は幾多の変遷を経たが、江戸期については不明な点が多い。

F. 年代 文化13年(1816)～弘化5年(1848)

### G. 全体構造と内容

袖岡文景が蔵人所衆兼上南座を勤めた36歳から49歳までの自筆記録。欠年あり。袖岡家の家事、蔵人所勤務、禁中行事などの詳細を日次形式で記す。

### H. 形態の特徴

いずれの書冊も小振りの半紙判(24.0×16.5cm)の料紙を用いた袋綴で、表表紙に年代と「家記」の表題の墨書がある点で共通しているが、装丁は必ずしも統一されておらず、天保10年(No. 3)・同14年(No. 4)の2冊の表紙は共紙を用い、それ以外は渋皮刷毛目表紙を付け、6冊中5冊の下小口に年号の墨書がある。本文の所々には、朱書の訂正や追記が見られる。

### I. 整理の方針

表題は、表表紙の書付外題を採用した。内題には「記録」とある。巻頭に目次を付す史料は、その旨を備考に注記した。年代は内容年代を記入した。形態はいずれも半紙判の袋綴であり、「半」と表記した。数量は1点ごとの丁数を丸カッコ内に併記した(表紙を含む)。なお、当史料群は既にカード

目録で閲覧に供しており、その際に付与されていた整理番号をそのまま採用した。

## J. 関連史料の所在

袖岡家文書および袖岡文景に関わる文書等については、本史料の他に伝存は確認されていない。  
『国書総目録』には当館所蔵史料として「袖岡家記 一冊」(種類「家伝」)を掲げているが、6冊の誤りである。

K. 利用上の注意点 特になし。

## L. 参考文献

「地下家伝」八(日本古典全集『地下家伝』二、1937年)

藤木邦彦「蔵人所」(『国史大辞典』、吉川弘文館)

## M. 参考資料

### 袖 岡 家 年 譜

<b>芳 景</b> 享保16.5.27 誕生 明和 7.11. 1 補蔵人所衆(40歳) 明和 7.11.15 叙従六位下 明和 7.11.15 任大炊助 安永 4.11.17 任土佐守(45歳) 安永 5. 1.15 叙従六位上(46歳) 安永 6.12.19 返上位記 安永 6.12.19 更叙正六位下(47歳) 天明 5. 8.17 叙従五位下(55歳) 寛政 3.11.22 没(61歳)	<b>和 景</b> (実上御倉左京亮藤原経康4男) 安永 3. 9. 9 誕生 天明 5. 7. 6 叙正六位下(11歳) 天明 5. 7. 6 任右京少進 天明 7. 5.19 任大蔵少録 天明 7. 5.19 大嘗會 為主基行事 寛政 1. 4. 5 任宮内少丞(15歳) 寛政 5.12.19 叙従五位下(19歳) 寛政12. 6. 7 転大丞(26歳) 享和 1. 5. 4 叙従五位上(27歳) 文化 2. 7. 8 没(31歳)
<b>豊 実</b> 宝暦12.11.25 誕生 明和 9. 1. 9 叙従六位下(11歳) 明和 9. 1. 9 任伊豆守 安永 7. 1.25 返上位記 安永 7. 1.25 更叙正六位下(17歳) 天明 2. 7. 8 依病辞官返上位記	<b>文 景</b> 寛政11. 7.28 誕生 文化 5. 5.27 叙正六位下(10歳) 文化 5. 5.27 任采女佑 文化13. 1.18 叙従五位下(18歳) 文化13. 1.18 任玄蕃助 文政 1. 4.24 大嘗會 為主基行事 文政 7. 1.20 叙従五位上(26歳) 天保 3. 1.27 叙正五位下(34歳) 安政 2. 6.23 没(57歳)
<b>景 賢</b> (実宇野源光重2男) 明和 1. 3.26 誕生 天明 2. 7.23 叙正六位下(19歳) 天明 2. 7.23 任右近衛少尉 天明 3. 3. 3 転左(20歳) 天明 5. 5.22 依病辞官返上位記	<b>景 命</b> (明異) 天保10. 誕生 嘉永 1. 6. 9 叙正六位下(10歳) 嘉永 1. 6. 9 任主計少允 嘉永 3.12.19 任大炊大允 安政 3.10.17 叙従五位下(18歳)

『地下家伝』より作成。

山城国京都袖岡玄蕃助家記 目録

26Y

表題／備考	年 代	形態 数量	整理番号
家記 目次あり	文化13年 1 月～12月	半 1 冊(95)	2
家記 目次あり	天保 6 年 1 月～12月	半 1 冊(200)	1
家記	天保10年 1 月～12月	半 1 冊(179)	3
家記	天保14年 1 月～12月	半 1 冊(191)	4
家記	弘化 4 年 1 月～12月	半 1 冊(352)	5
家記	弘化 5 年 1 月～12月	半 1 冊(341)	6

32G 33T

# 山城国京都徳大寺家文書目録

解題	p. 85
目次	p. 95
目録	p. 97

## 山城国京都徳大寺家文書目録 解題

- A. 史料群記号 32G 33T  
B. 史料群名 やましらのくにきょうととくだいじけもんじょ  
山城国京都徳大寺家文書  
C. 数量 1,279点  
D. 伝来の経緯

本史料群は、1957年度、および1958年度に史料館(当時は文部省史料館)が古書店より購入した。1957年度受け入れの史料群記号は32Gで、点数は306冊15枚となっている。1958年度受け入れの史料群記号は33Tで、重さにして8キログラムとなっている。

徳大寺家の所蔵文書については、東京大学史料編纂所(以下、編纂所と略記)が1949年10月11日、12日の2日にわたり、京都市東本願寺において「徳大寺家記録文書」の調査を行っている。この調査以前に、すでに徳大寺家では次の3冊の古文書目録が作られていた。

- (1) 古文書目録 書函第二号ヨリ第二九号ニ至ル
- (2) 同 号外目録 号外第一号ヨリ号外第五号ニ至ル
- (3) 同 別目録 別第一号ヨリ別第五号ニ至ル

この目録の順序に従って編纂所が作成した『徳大寺家記録文書探訪目録』の解題(高柳光寿氏執筆)には、次のように記されている。

一、徳大寺家現存ノ記録文書ガ全何函ニ及ブモノデアルカハ詳カデナイ。調査シ得タモノハ前掲三種目録中ノ書函第七、十六、十七、十八、廿二、廿五、廿九号、及び別第一、二、四号を除ク全部ト、書函第五二、五九号ノ二函、公全公記以下近世ノ記録五函等デアッタ。

一、前期徳大寺家ノ目録ニ存シテ今見ナカツタモノハ、姑ク同目録ヲ補写・挿入シテ未見ト頭書シタ。コレラハ恐ラク現存スルモノト思ハレル。

つまり、編纂所が1949年に調査した段階で、すでに徳大寺家古文書目録に記された文書函で未見のものがあり、確認された函においても一部の史料の現状が失われていたことがわかる。

その後、編纂所では1949年度に調査した記録文書を1955年4月に受け入れた(1,067部2,461冊)。そのほとんどは、江戸期を中心とした前近代史料である。当館所蔵史料群は明治から昭和にかけての徳大寺家の私的な記録文書が中心であるが、一部には江戸期の記録文書も含まれている。史料館が徳大寺家文書を購入したのは、編纂所の受け入れから約2年後にあたる。

### E. 出所の歴史

徳大寺家は、藤原北家閑院宮流の堂上公家で、藤原公実の5男実能(1095～1157)を始祖とする。公実の三子実行・通季・実能は、それぞれ三条家・西園寺家・徳大寺家を起こした。いずれも、大臣・大将から太政大臣へ進む清華家の家格である。家名は、実能が京都葛野郡衣笠に徳大寺を建立したことによる。笛を家業とし、和歌に秀でたものもいた。

江戸期には、20代公全(1678～1719)が議奏(在職1710)・武家伝奏(在職1711～1719)、25代実堅

(1790～1858)が議奏(在職1817～1831)・武家伝奏(在職1832～1848)を勤めた。

26代公純<sup>きんいと</sup>(1821～1883)は鷹司輔熙の子で、実堅の養子となり徳大寺家を継いだ。嘉永3年(1850)権大納言となり、安政4年(1857)から議奏を勤めたが、水戸藩勅諭返納問題や和宮降嫁の問題などで江戸幕府と対立し、万延元年(1860)6月18日に議奏を辞した。文久2年(1862)9月に内大臣に任じられ、右大将・右馬寮御監を兼ね、12月に国事御用掛に任じられ、翌年12月右大臣に転じ、公武合体派の立場をとった。慶応2(1866)年従一位に進み、翌3年右大臣を辞した。

27代実則(1839～1919)は、文久2年(1862)に国事御用掛となり、尊皇攘夷の立場から明治維新に参与し、明治45年(1912)に明治天皇が死去するまで侍従長を勤めた。M. 参考資料にその年譜を掲載している。

清華家では、諸大夫以下の家臣によって組織された家政組織をもつ。江戸期の徳大寺家の家政組織については、本史料群のみからではよくわからない。『地下家伝』によれば、徳大寺家の諸大夫として物加波・淡川・小川・堀川の4家、侍として芝本・香川・滋賀・水嶋・山岡・松本の6家を掲げている。

明治期以降の徳大寺家の家政組織についても、その職掌を定めた家憲等の記録が残っていないので全容はつかめない。史料上の職名としては、「執事」「家扶」「家従」「会計方」が確認できる。また、本邸の他、別荘にも「執事」と「家扶」が置かれている。「信書発受簿」において徳大寺家からの発信者欄には「執事」と「家扶」が書かれているので、両者には職掌の分担があったと見られるが、同一人物が職掌によって「執事」と「家扶」を使い分けていた可能性がなくもない。逆の場合ではあるが、実際に昭和11年(1936)4月に「徳大寺家執事山本様」と宛所に記された請求書がある一方で、この月の徳大寺家内の記録では山本は「家扶」の肩書を用いている。あるいは、「家扶」宛と「執事」宛の史料が、同一機能の書類として綴込まれたものもある。現段階では「執事」と「家扶」の職掌差を明確にわがちがたく、特に「執事」を担当した人名は管見の限り特定しえない。ただし、当史料群の作成、授受、保管に重要な役割を果たしたのは「家扶」であることは間違いない。

明治初期の家扶では、堀川師克・渋川重身の名が散見される。西京の別邸には、物加波懷要が置かれていた。この三人は、江戸期の徳大寺家の諸大夫・侍の由緒をもつ家の出身である。明治25年(1892)頃からは島田直次郎の名が家扶として見え、明治45年2月までは島田を筆頭に、富田安敬、中山邦太郎が同じく家扶として名を連ねた。同年3月以降は、小川左之次が家扶筆頭を勤めた。大正8年(1919)に公弘が家督を継ぐと、大国照正が家扶筆頭に就任し、以後は山本純一といった名が見える。

明治期以降の家政組織は組織的には表と奥に分かれていたが、実質的に家扶が表と奥の両方の事務や会計に携わっている。表組織を示す部局として、史料上に「表詰所」「執事局」「事務局」「御用部屋」「役所」が見える。ただし、家扶を含めた表の従業員はわずかに5名前後であるので、表組織の中に右のような部局が個々に成立していたとは考えにくい。上記は、表組織の機能分担による「掛り」といった程度のものではあろう。奥の従業員としては、殿様付、若殿様付、奥様付、姫様付というように、徳大寺家の成員一人一人に付人がいた。他に、仲居、下男が数名いる。これらの従業員の雇用・管理も、表詰所の家扶が担当していた。

明治30年(1897)の徳大寺家の屋敷は、次の3カ所であった(「日記」No.98-2)。

1. 東京市神田区錦町1-2(総坪1556坪9合1勺)
2. 武蔵国豊多摩郡千駄ヶ谷・代々幡両村(総坪1万3989坪5合7勺4才)
3. 山城国愛宕郡田中村田中別荘(総坪2479坪2合)

1は、明治4年(1871)2月29日にそれまで居住していた邸宅を拝領したもので、実則とその家族の原籍は神田区錦町1丁目2番地であった。同19年からは赤坂御所構内巽御門内官舎に実則と三男則麿・三女葵子・四女治子・実母竹島・妾八重の5人が移った。さらに、同24年8月に赤坂門内に官邸(閑院宮旧邸)を与えられ、同月30日に神田本邸から赤坂官邸に移った(「日記」No.88)。実則が官邸に居住する間に、神田邸は借地化が進んだ。

2は、明治26年12月29日に鷹司熙通から購入したもので、公弘の本邸となった。住所は後に、東京府下豊多摩郡千駄ヶ谷町498となった。この屋敷は史料上で「別邸」と呼ばれることもある。大正8年(1919)には、実則が千駄ヶ谷邸において没しているのも、実則が内大臣を辞任した後は千駄ヶ谷邸に移ったものと見られる。

3は、天保10年(1839)に実堅が田中村の土地を買得したもので、徳大寺家では公純が居住した由緒ある土地と理解していた。明治40年(1907)に実則の実弟住友吉左衛門に譲渡された。

これ以外には、茅ヶ崎に別荘がある。昭和初期には、渋谷区若木町15番地にも邸宅地があり、実厚の本邸とした。

菩提寺は、十念寺(京都上京区寺町今出川上)。実則以降は東京谷川墓地に葬られ、後に多摩墓地に改葬された。

**F. 年 代** 寛永11年(1634)～昭和7年(1932)

## **G. 構造と内容**

本史料群は、年代的には明治から昭和にかけての記録文書が大部分を占める。一部に江戸期の記録文書も伝存しているが、断片的である(同家の江戸期の記録文書は、東京大学史料編纂所に所蔵されている)。

本史料群の発生の契機としては、徳大寺家の成員の私的な活動の結果、作成、授受、保管された記録文書と、同家の公的な活動の結果、作成、授受、保管された記録文書の2系統がある。前者の私的な記録文書群は、徳大寺家の当主とその家族による狭義の家組織と、その狭義の家を支える家臣によって組織される家政組織を記録文書管理母胎とするものに分かれる。後者の公的な記録文書群は、徳大寺家が江戸期の公家組織のなかで清華家の家格に応じて朝廷で勤めた役務の機能によるものと、明治期に実則が宮内省出仕を命じられ、明治天皇の側近として仕えた機能によって徳大寺家に保管されたものに分かれる。したがって、記録文書を発生、授受、保管する契機となった組織体に基づいて本史料群を類別するならば、本史料群は次の4つの発生の契機を異にする史料群の集合体である。

1. 徳大寺家の当主とその家族の機能に基づいて作成、授受、保管された史料群
2. 徳大寺家の家臣・従者に支えられた家政組織の機能に基づいて作成、授受、保管された史料群

3. 江戸期の清華家という家職の機能に基づいて作成、授受、保管された史料群

4. 明治期の宮内省出仕という公職の機能に基づいて作成、授受、保管された史料群

そこで、出所内組織(機構)を示す大項目として、それぞれ1. 徳大寺家、2. 徳大寺家家政、3. 清華家、4. 宮内省という項目を立てた。また、本史料群には徳大寺家を本来の出所としない記録文書が若干含まれている。これらを5. 出所不明として立項した。以下では、各大項目ごとの史料群の構造と内容について説明する。

#### 1. 徳大寺家(155点)

ここでは、徳大寺家の当主とその家族による狭義の家組織の機能に基づいて作成、授受、保管された史料群を収めた。史料は155点で、本史料群の約1割強にあたる。中心となるのは公弘の自筆日記51冊。中項目は史料の内容による類別をとり、1-1. 家記・履歴、1-2. 元服、1-3. 交際、1-4. 日記、1-5. 記録、1-6. 書籍目録、1-7. 有職故実、1-8. 文芸・学問、1-9. 拓本、1-10. 名鑑の10項目をたてた。

#### 2. 徳大寺家家政(1,000点)

徳大寺家の家政組織の機能により、作成、授受、保管された記録文書を収めた。点数は1,000点で、本史料群の約8割を占める。中心となるのは、家扶が作成した記録、家扶同士の往復書簡、家扶宛の書類、徳大寺家の諸経費の見積書・領収書などである。

江戸期と明治期以降では、徳大寺家の家政組織は機構を改変しているが、ともに組織的に不明な点が多い。江戸期の組織については、史料上からは「諸大夫所」「詰所」の部局名が確認できる。それらの関係について詳細に示えないが、江戸期の公家の家政組織の表方であることは間違いないので、江戸期の記録文書は、2-1. 御殿表の項目を立てて配列した。

明治期以降の家政組織はかなり縮小されたようで、家扶・家従が4～5名置かれていた。明治初年度には「執次(事)局」「事務局」の部局名が見えるが、以後にこうした部局名は確認できない。出所の歴史でも述べたように、本史料群の中には「執事」と「家扶」の役職名が見えるが、それらの職掌、担当人名を特定する作業は今後の研究にまたざるをえない。したがって、明治初年の「執事局」の作成と特定できる記録文書は、2-2. 執事局の項目の中に配列し、それ以外の家政事務、雇用人関係の記録文書は、2-3. 扶局の項目の中に配列した。また、家扶の管理のもとで運営された家中一切の用度関係の記録文書は、2-4. 会計方の項目の中に配列した。ただし、これはあくまでも便宜的な立項である。一部の文書には宛所に会計方(掛)と記した見積書・請求書の類が見られるが、徳大寺家のなかに扶局とは別に会計方(掛)が設置されていたことの確証は得られていないので、利用にあたっては十分にその点に留意してほしい。また、家扶宛の一括文書は現配列を尊重して、2-5. 家扶宛一括文書の中に配列した。

#### 3. 清華家(49点)

ここでは、朝廷組織における徳大寺家の清華家としての家職に関わって、作成、授受、保管された記録文書を収めた。従来の目録では、「勤仕」「家職」といった項目に該当する。今回、「清華家」といった公家の家職を大項目に立てた理由については、本目録二条家文書の解題を参照してほしい。

中項目は、史料の遺存状況から各儀式・節会ごとに、3-1. 尊号宣下、3-2. 改元、3-3. 行列・着陣、

3-4. 仙洞御歌会を立てた。これらの記録文書は、徳大寺家の当主がそれぞれの官位に応じた禁裏役・仙洞役を勤める機能の中で、作成、授受され、徳大寺家で保管されたものである。

また、徳大寺家の当主が武家伝奏・議奏や三公(左右内大臣)として朝議の決定に参加する過程で、作成、授受され、徳大寺家の保管となった記録文書が伝来している。そこで、3-5. 武家伝奏・議奏、3-6. 先例、3-7. 建白書の3項目をたてた。3-5は機能レベルによる立項であり、3-6・7は機能レベルより下位の内容レベルの立項である。階層構造的にはレベルが異なる立項ではあるが、3-6・7に配列した記録文書の作成の契機となった機能レベルを特定することは史料の遺存状況からだけでは難しいため、便宜的な項目編成をとった。

#### 4. 宮内省(20点)

徳大寺実則が宮内省に出仕した関係で、作成、授受され、徳大寺家の保管となった記録文書がある。20点と少ない。中項目には記録文書の類型から、4-1. 記録、4-2. 諸願、4-3. 内大臣官邸晩餐会記録の3項目を立てた。

#### 5. 出所不明(55点)

記録文書の発生の契機として、徳大寺家に出所を特定することが難しいものを出所不明として配列した。5-1. 山城国京都二条家、5-2. 山城国京都梅小路家、5-3. 山城国京都久世家、5-4. 東京府相良家、5-5. 山城国京都烏丸通今出川上ル二本松町家屋敷売買証文連券、5-6. 武蔵国豊嶋郡谷中本村・同新堀村書上帳の6項目がある。

二条・久世・梅小路の記録文書は当館に所蔵しており、それらの一部が混入した可能性もあるが、公家史料群の中に他家の記録文書が伝来している事例が見られるため、本来の出所のみから判断して史料群を解体することには慎重でなければならない。そのため、本史料群の中に収めた。

### H. 形態の特徴

実則は、「実則」の丸印(直径1.4cm)、及び徳の異体字「恵」の丸印(直径1.2cm)を用いている。公純の印については、1-5. 記録の項目を参照のこと。

領収書綴、葉書・封書が多い。徳大寺家専用の罫紙は半紙判の料紙に青色の罫線を用いた10行と12行のものがあり、大正元年前後は黒色の罫線のものが見られる。版心には、「徳大寺家」とある。

#### 1. 整理の方針

1. 当史料群はこれまで、史料仮目録B、およびカード目録により、閲覧・利用に供してきた。今回の目録作成にあたり、32Gに関しては従来の史料整理番号を親番号に用い、さらに紙縫、包紙などで一括になった史料小群には、さらに枝番号、孫番号を付した。

33Tに関してはほとんどが未整理状態であったため、現配列に従って整理番号を付与した(No. 512～722)。33Tには、紐で括られた状態の文書の束が4つあり、内容は封書、葉書、領収書等である。この4つの束(複合史料小群)を整理するにあたっては、それぞれの複合史料小群に親番号を与え、階層構造的に枝番号を付すべきであるが、次の2点の理由から親番号を付さずに4つの束を通し番号で処理することにした。

第1には、それらの複合史料小群の形態は、文部省史料館で受け入れた後に物理的に括られたもの

であり、必ずしも分割状態は史料の原秩序を反映したものではないことにある。第2には、紐で括られた個々の史料はさらに複数の史料が封筒の中に入れられるなど複合史料の構造をもつため、複合史料小群に親番号を付すと、多くの場合、枝番号、孫番号、さらに曾孫番号が必要となり、史料検索の上での利便性を欠く点にある。

以上のような理由から、整理番号が現配列を厳密に示していないため、以下に複合史料小群と整理番号との対応関係を示しておく。

①No.512～603、②No.604～645、③No.646～690、④No.692～722、

なお、③と④の間には、No.691が1点のみ単独で配列されており、いずれの束のものか判断しかねた。ただし、目録編成上においてはNo.513～722が一括して保管されていた現状を尊重して、3-5. 家扶宛一括文書として配列した。また、一括文書の中には家政組織とは異なる機能の記録文書が含まれているかもしれないが、それらの特定は目録編成上ではしなかった。

2. 当史料群の中には、月毎に綴られた領収証綴が伝来している。下限は昭和16年(1631)で、比較的新しい年代の史料であるため、それらの領収証の1点ごとのデータはとらず1綴で処理し、概数を( )内に示すにとどめた。

3. 料紙は、版心に「徳大寺家」とある半紙判の青色罫紙を用いている。10行と12行のものがあり、それぞれに「徳大寺家10行罫紙」「徳大寺家12行罫紙」と記し、青色以外の場はその色を併記した。徳大寺家以外の版心書を持つ罫紙はその旨を記した(例：宮内省茶色13行罫紙)。

#### J. 関連史料の所在

東京大学史料編纂所蔵「徳大寺家文書」1,067部2461冊。

同所蔵「徳大寺実堅武家伝奏記録」181冊(弘化元～嘉永元年、請求番号4172-17)。

#### K. 利用上の注意点

1. 一部の板状で開閉ができない史料は、閲覧ができない場合がある。ただし、漸次補修を進めているので、備考欄に保存状態が悪い旨が記されている史料の閲覧を希望する場合は、事前連絡をお願いしたい。

2. 本史料群は出所の歴史に鑑みて、山城国京都徳大寺家文書として扱われてきた。ただし、内容は山城国というよりは、むしろ東京移転後の記録文書が大部分を占めている。

#### L. 参考文献

東京大学史料編纂所編『徳大寺家記録文書採訪目録』(1951年、請求番号RS4170-52)

同編『徳大寺家旧蔵書目録』3冊(請求番号RS4100-29)

<付記>

本史料群のデータ作成については守田逸人氏の協力を、校正では富田健司氏の協力を得ました。また、箱石大氏には、東京大学史料編纂所蔵徳大寺家文書についてご教示を得ました。末筆ながら、感謝申し上げます。

#### M. 参考資料

德大寺家年譜

<b>実 則</b>		<b>明治 4. 5. 2</b> 復奏
天保10.12. 6	誕生	<b>明治 4. 5.17</b> 遣外国使祭上卿奉仕
嘉永元. 7.12	叙従五位下	<b>明治 4. 6.14</b> 氷川社例祭宣命使参向
嘉永 2. 1. 5	叙従五位上	<b>明治 4. 7.10</b> 上表辞大納言
嘉永 3. 2. 3	叙正五位下	<b>明治 4. 7.14</b> 辞表被聞食
嘉永 4. 3.22	任侍従	<b>明治 4. 7.18</b> 御用滞在被仰出 御用有之東京滞在被仰付候事
嘉永 4. 7.28	叙従四位下	<b>明治 4. 7.20</b> 宮内省出仕被仰付候事 但大輔准席之事
嘉永 4.12. 4	元服聴禁色昇殿	<b>明治 4. 8. 4</b> 任侍従長
嘉永 5. 1.27	叙従四位上	<b>明治 4.10.17</b> 任宮内卿 侍従長如旧
嘉永 6. 5. 8	叙正四位下	<b>明治 5. 5.25</b> 依父公純願家督被仰付
嘉永 7. 3. 7	任右近衛権少将	<b>明治 5. 5.27</b> 西國御巡幸供奉被仰付
安政 4.12. 8	転左近衛権中将	<b>明治 6. 3.30</b> 依願東京府貫属被仰付
安政 4.12.19	叙従三位 中将如旧	<b>明治 6. 5.17</b> 上表辞宮内卿兼侍従長
安政 5. 3.24	叙正三位	<b>明治 6. 6. 2</b> 辞表之趣不被及御沙汰候事
文久 2. 2.22	神武帝山陵使参向	<b>明治 7. 4.24</b> 学校資金献納為其賞賜木盃一組 学校資トシテ金七拾円差出候段奇特ノ事二候 木盃一組
文久 2. 2.27	復奏	<b>明治 9. 5. 8</b> 奥羽御巡幸供奉被仰付
文久 2. 3.11	賀茂行幸供奉	<b>明治 9.11.30</b> 大和及京都行幸供奉被仰付
文久 2. 4.25	任権中納言	<b>明治10. 6.19</b> 銀盃一個下賜 東京府第一大区四小区失火之節罹災者之者救助トシテ金百円差出候段奇特ノ事二候
文久 2. 5.21	聴帶剣	<b>明治10. 8.29</b> 兼任一等待補
文久 2. 5.22	聴直衣	<b>明治10.11.22</b> 叙勲一等旭日大綬章拝受
文久 2.12.24	叙従二位	<b>明治11. 6. 7</b> 依願免兼官
文久 3. 4.17	議奏職被仰付	<b>明治11. 7.24</b> 東海北陸両道御巡幸供奉被仰付
文久 3. 8.23	辞議奏之上表	<b>大正 8. 6. 4</b> 没
文久 3. 8.24	議奏役辞退願之通被聞食	
文久 3. 8.24	自分遠慮被止他人面会	
文久 3. 8.24	以親族中院通富御沙汰御口達 議奏辞退願之通被聞食自分遠慮被止他人面会被免	
慶応 3. 1.15	被免	
慶応 3. 2.28	叙正二位	
慶応 3.12.10	御前祇候被仰出	
慶応 4. 1. 3	補参与職	
慶応 4. 1. 9	補議定職	
慶応 4. 1.17	補内国事務局督 仰達書翌2月御渡し	
慶応 4. 2. 2	任権大納言	
慶応4. 閏4.24	更補議定職 御改正二依テ也 但同年5月御書付御渡	
慶応 4. 9.20	東京行幸御留守中輔相之心得被仰付	
明治 2. 3.19日	同30日着 東京参向	
明治 2. 4.14	補内延知事 議定如元	
明治 2. 7. 8	更任大納言 旧官御改正二依テ也	
明治 2. 7.15	上表辞大納言	
明治 2. 7.17	辞表退賜	
明治 2. 8.20	伺之通差扣被仰付	
明治 2. 8.21	差扣被免	
明治 2.12. 1	御劔一口下賜候事 御劔祐高一口	
明治 3. 2.19	為宜撫使山口藩江下向	
明治 3. 3. 9	復奏	
明治 3. 3.17	於御前恩賜 宣撫使賞 御直衣一領 金五万匹	
明治 3. 7.22	三帝御諡号御祭典ニ付為勅使 鹿島香取両社江参向被仰付	
明治 3. 8.29	勅使向依痛御理申上	
明治 3.10.12	本官ヲ以御前御用専務被仰付	
明治3. 閏10.29	氷川行幸供奉	
明治 4. 2.29	以思召賜邸宅 思召ヲ以テ是迄ノ邸宅下賜候事	
明治 4. 4. 7	後月輪東山陵宣命勅使参向	

<b>公 弘</b>	
文久 3. 8.14	誕生
慶応元.10.20	叙従五位上
慶応 2. 1. 4	叙正五位下
慶応 3. 3.23	叙従四位下
明治 2. 1. 5	叙従四位上
明治 2. 7. 1	官位御改正 位ノ上ヲ止メラル従四位如元
明治18. 4.14	外務省御用掛被 仰付身分取扱准奏任
明治18.12.26	外務省御用掛非職被仰付
明治19.10.29	明宮勤務被仰付
明治19.11.11	依願非職外務省御用掛被免
明治20. 8.23	思召を以て英国へ留学被仰付
明治20. 9. 1	依願明宮勤務被免
明治25.12.12	叙正四位
明治27. 7.18	祝典章拝受
明治34. 6.21	叙従三位
明治38.12. 1	明治37年戦役ノ際恤兵用品寄附に付賞状拝受
明治38.12. 1	明治37年戦役ノ際従軍者家族扶助ノ為金円寄附ニ付其賞トシテ木材壺個拝受
大正 2. 6.30	叙正三位
大正 8. 6.29	家督相続ノ上戸主トナル
大正 8. 6.30	襲爵位仰付
大正12. 7.10	叙従二位
昭和12. 1. 1	没

<出典>

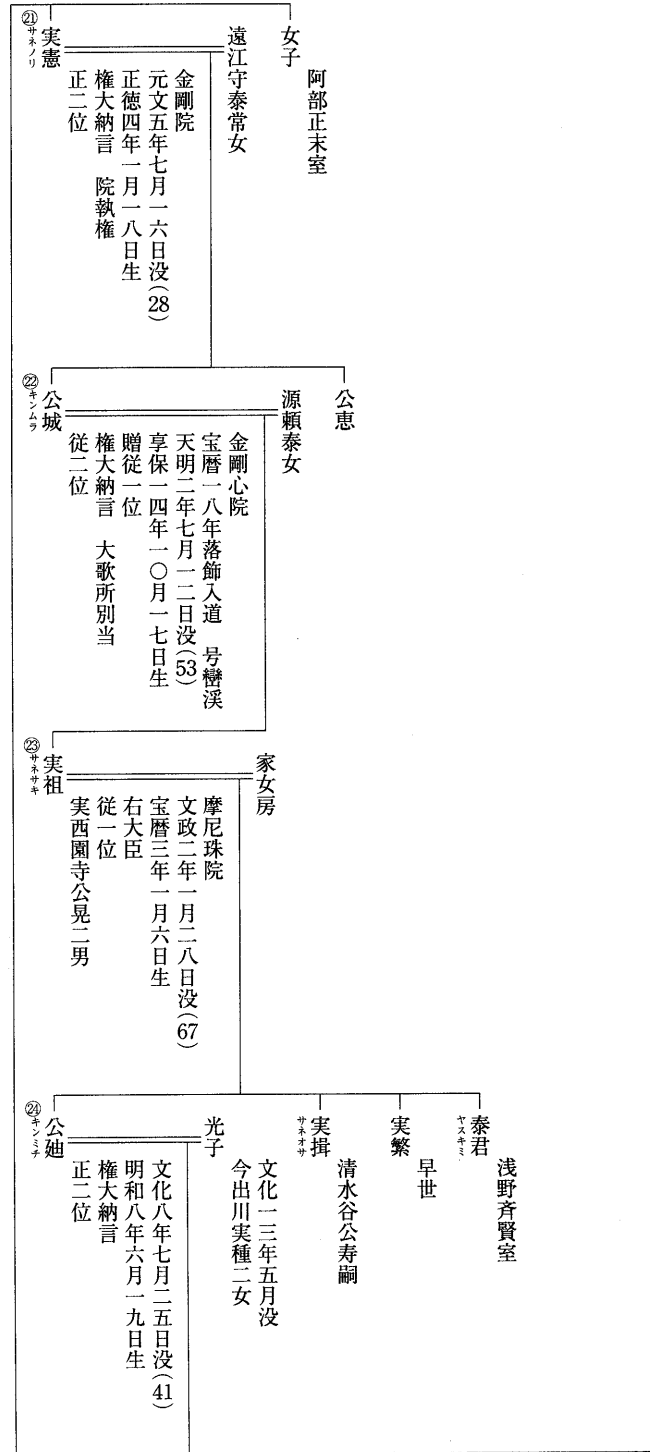
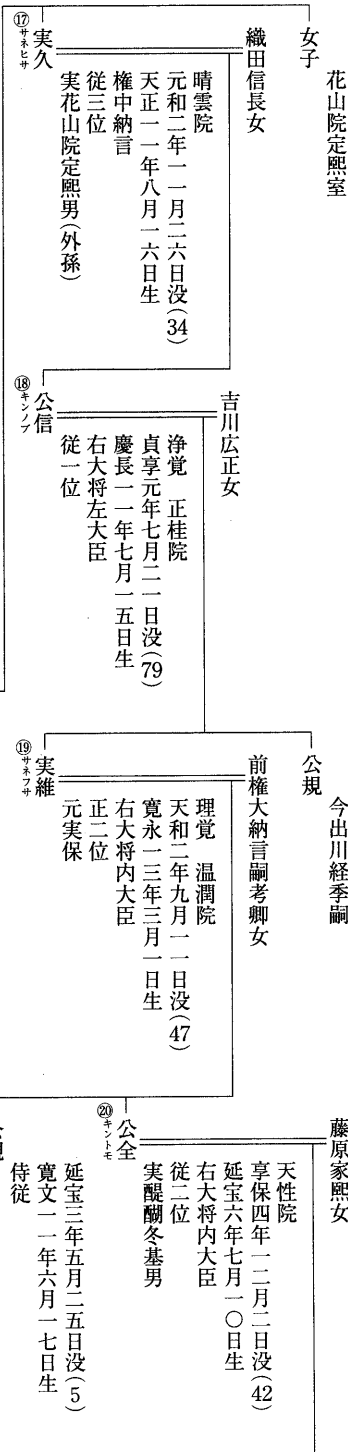
「明治十一年十二月廿五日太政官賞勲局江御差出履歴書控」(207号、208号)

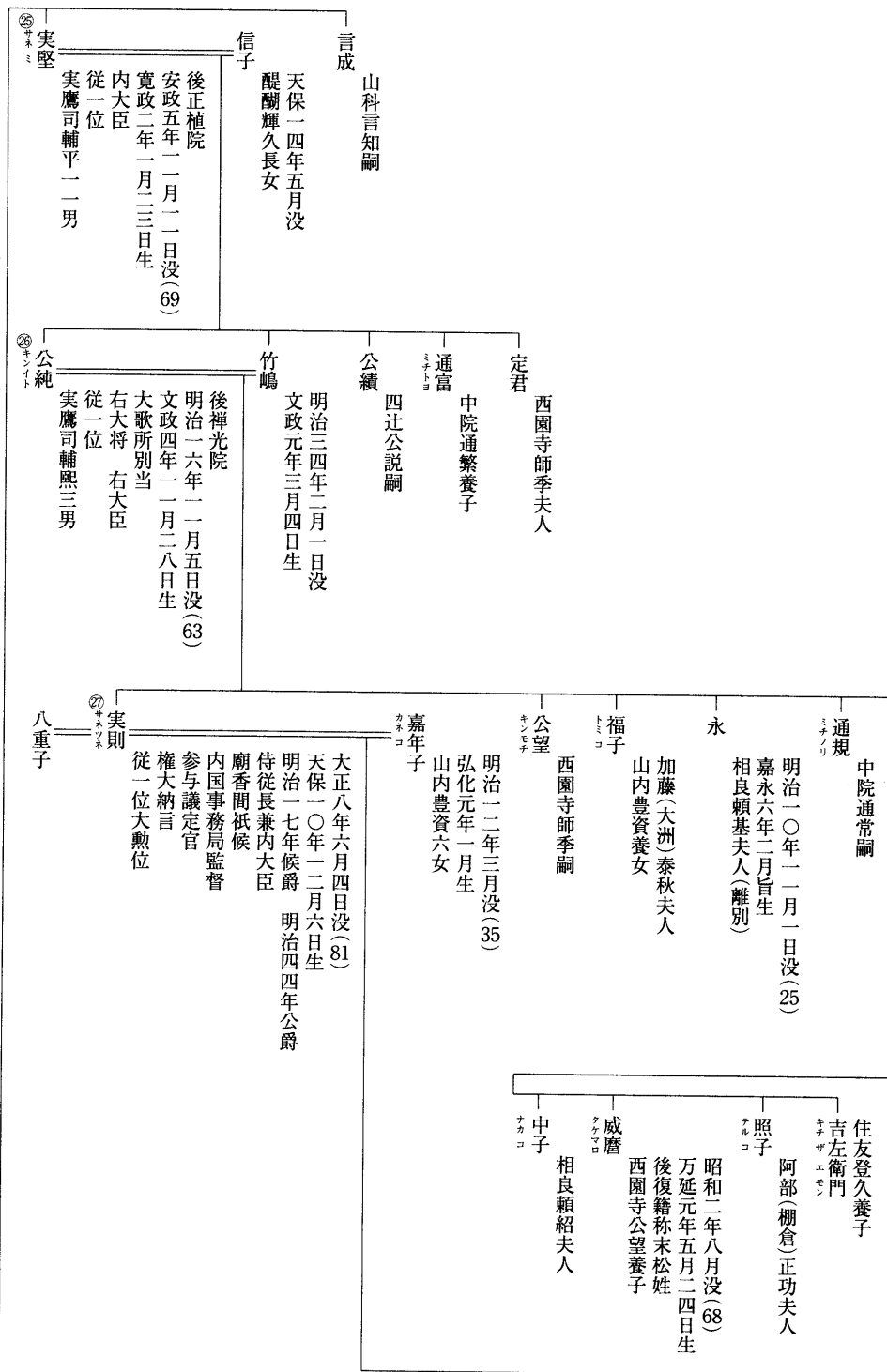
「諸願届」(197号)より作成。

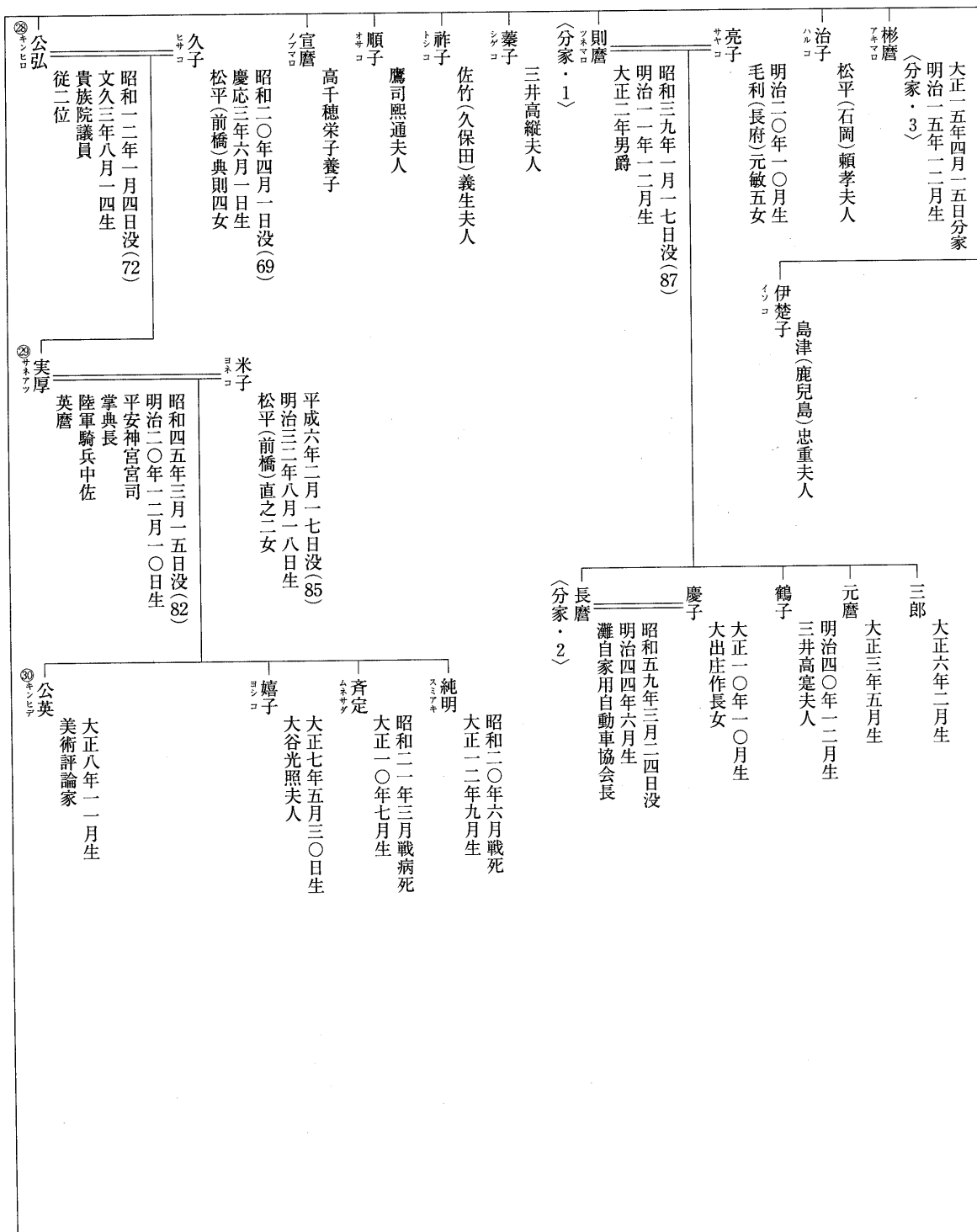
〔徳大寺家系図〕

① 実能 — ② 公能 — ③ 実定 — ④ 公繼 — ⑤ 実基 — ⑥ 公孝 — ⑦ 実孝 — ⑧ 公清

⑨ 実時 — ⑩ 公俊 — ⑪ 実盛 — ⑫ 公有 — ⑬ 実淳 — ⑭ 公胤 — ⑮ 実通 — ⑯ 公維







出典

『宮廷公家系図集覧』近藤敏喬編 東京堂出版 1994年

『公卿諸家系図』統群書類従完成会 1965年

『平成新修旧華族家系大成』下巻 吉川弘文館 1996年

1. 徳大寺家	97	2-3-4. 廻章留	113
1-1. 家記・履歴	97	2-3-5. 華族会館・第十五銀行廻達簿	114
1-2. 元服	97	2-3-6. 小遣簿	114
1-3. 交際	97	2-3-7. 冠婚葬祭記録	115
1-4. 日記	98	○照子縁組 ○藥子縁組 ○竹島葬儀	
1-4-1. 実則	98	○治子縁組 ○則磨縁組・受爵	
1-4-2. 公弘	98	○実厚縁組 ○実則葬儀 ○公弘葬儀	
○日記 ○園芸記録・日記 ○撮影日記		○嬉子縁組 ○久子葬儀 ○祭礼	
1-4-3. 実厚	100	○諸道具書付	
1-4-4. 米子	100	2-3-8. 諸願・諸届・諸伺	120
1-5. 記録	101	2-3-9. 雇用人書類	120
1-6. 書籍目録	101	2-4. 会計方	120
1-7. 有職故実	102	2-4-1. 借地・借家・土地関係書類	120
1-8. 文芸・学問	103	2-4-2. 普請関係書類	121
1-8-1. 歌道	103	○千駄ヶ谷邸 ○神田邸 ○渋谷邸	
1-9. 拓本	104	2-4-3. 諸経費書類	123
1-10. 名鑑	104	○千駄ヶ谷邸	
2. 徳大寺家家政	105	2-4-4. 領収証綴	129
2-1. 御殿表	105	○輕井沢	
2-1-1. 記録	105	2-5. 家扶宛一括文書	132
2-1-2. 糊付一括文書	106	○滋賀重身 ○島田直次郎	
2-1-3. 勘定記録	107	3. 清華家	149
2-2. 執次局	107	3-1. 尊号宣下	149
2-3. 扶局	107	3-2. 改元	149
2-3-1. 供奉記録	107	3-3. 行列・着陣	149
2-3-2. 家扶日記	108	3-4. 仙洞御歌会	149
○神田邸 ○赤坂官邸 ○千駄ヶ谷邸		3-5. 武家伝奏・議奏	150
○茅ヶ崎別荘 ○日光		3-6. 先例	151
2-3-3. 郵便発受簿	112	3-7. 建白書	151
○千駄ヶ谷邸 ○茅ヶ崎別邸		4. 宮内省	152
○輕井沢・旅行先			

4-1. 記録 .....	152
4-2. 諸願 .....	152
4-3. 内大臣官邸晩餐会記録 .....	153
5. 出所不明 .....	154
5-1. 山城国京都二条家 .....	154
5-2. 山城国京都梅小路家 .....	155
5-3. 山城国京都久世家 .....	155
5-4. 東京府相良家 .....	155
5-5. 山城国京都烏丸通今出川上ル 二本松町家屋敷売買証文連券 .....	155
5-6. 武蔵国豊嶋郡谷中本村・同新堀村 書上帳 .....	158

表題／作成・授受／備考	年代	形態 数量	整理番号
-------------	----	-------	------

## 1. 徳大寺家

### 1-1. 家記・履歴

「徳大寺殿御由緒書」(No. 237)は、文化6年(1809)段階での23代実祖<sup>さねさき</sup>(1753～1819)、子の公廸<sup>きんみち</sup>(1771～1811)、孫の実堅<sup>さねみ</sup>(1790～1858)の親族の続書を記録したもの。「御家記」(No. 22)は、明治7年(1874)から大正6年(1917)までの徳大寺実則(1839～1919)の年譜である。その作成には、家扶が深く関わっていると見られるが、表表紙の裏面に実則の「恵」印が押下されているため、1. 徳大寺家のなかに配列した。

徳大寺殿御由緒書(実祖～実堅)	文化6年	美 1冊	237
御家記 徳大寺家、徳大寺家10行罫紙 表表紙裏「恵」印あり	明治7年1月～(大正6年迄)	半罫 1冊	22
太政官賞勲局江御差出履歴書扣	明治11年12月25日	美 1冊	207
〔太政官賞勲局江御差出履歴書扣カ〕	(明治11年カ)	美 1冊	208
履歴(草案) 宮内卿兼侍従長正二位徳大寺実則		美 1冊	18

### 1-2. 元服

実則は嘉永4年(1851)3月22日に13歳で元服した。

〔東坊条聡長書状〕(賢息名字清書進上) 聡長→徳大寺中納言殿、捻封	7月1日	堅 1通	356
〔東坊条聡長名字切韻事〕(実則・実功) 権中納言聡長		折 1通	370

### 1-3. 交際

大正期の招待状が9件。

〔宮内大臣招待状〕(聡子内親王結婚祝宴招待) 宮内大臣男爵波多野敬直→従一位大勳位公爵徳大寺実則殿	大正4年5月1日	切 2通(封筒入)	358
〔宮内大臣招待状〕(宮中天長節宴会招待) 宮内大臣男爵波多野敬直→従一位大勳位公爵徳大寺実則殿	大正4年10月20日	切 2通(封筒入)	359
〔明治神宮奉賛会招待状〕(粗饌会招待) 伏見宮附別当馬場三郎→公爵徳大寺実則殿	大正4年12月6日	切 2通(封筒入)	362
〔外務大臣招待状〕(即位大礼奉祝離宮夜会案内) 外務大臣男爵石井菊次郎・同玉子→公爵徳大寺実則殿	大正4年12月日	切 2通(封筒入)	357
〔島津忠重招待状〕(天皇皇后行幸行に付来邸案内) 公爵島津忠重→徳大寺公弘殿・同令夫人	大正6年5月2日	切 2通(封筒入)	353
〔島津忠重・同伊楚子招待状〕(園遊会催に付案内) 公爵島津忠重・同伊楚子→徳大寺公弘殿・同令夫人	大正6年5月6日	切 4通(封筒入)	354

〔醍醐家・毛利家招待状〕（結婚式祝宴招待） 侯爵醍醐忠重・公爵毛利元昭・同美佐子→正三位徳大寺公弘殿・同令夫人	大正6年5月18日	切 1通(封筒入)	360
〔三井家・鷹司家招待状〕（結婚披露宴招待） 男爵三井八郎右衛門・同苞子・公爵鷹司熙通・同順子→徳大寺公弘殿・同夫人久子殿	大正7年5月1日	切 1通(封筒入)	361
〔西園寺公望書状〕（星ヶ岡招待請状） 侯爵西園寺公望→徳大寺侯爵・松平子爵侍使	(明治36年)3月16日	切 1通(封筒入)	366

## 1-4. 日記

## 1-4-1. 実則

27代徳大寺実則(1839～1919)の自筆日記1冊。明治30年(1897)2月19日から4月12日までの記事を載せる。2月19日「実則頃日依頼風邪本日為療養不参」という記事から始まる。3月4日には「正五位三井高保長男三井高縦妻ニ、予カ三女薬子廿四才申請度承諾否、伊藤重三郎ヲ以内談アリ」とあることから、実則の日記と判断した。ただし、明治40年8月に山城国田中別荘を実弟住友吉左衛門に譲渡した記事が見られるため、明治40年以降に書写した実則の日記である可能性もある。

日記	明治30年2月19日～(4月12日迄)	半 1冊	98-2
----	---------------------	------	------

## 1-4-2. 公弘

28代徳大寺公弘(1863～1937)の自筆日記24冊、園芸日記および記録19冊、撮影日記3冊がある。公弘は、東京府多摩郡千駄ヶ谷498番地を本邸とした。

## ○日記

「吾家の歴史」は警醒社書店発行の日記帳で、往来・為したる事・得たる思想・社会の出来事・雑事の項目にわけて記入するように印刷されている。明治27年(1894)の「吾家の歴史」(No.161)は、見開きに印刷された「吾家の歴史」の題字の下に墨書で「第壱」と記されている。明治34年からは博文館発行の当用日記帳を用いている。

吾家の歴史 全面革	明治27年	1冊	161
吾家の歴史	明治28年	1冊	162
吾家の歴史	明治29年	1冊	163
吾家の歴史	明治30年	1冊	164
吾家の歴史	明治31年	1冊	165
吾家の歴史	明治32年	1冊	166
吾家の歴史	明治33年	1冊	167
当用日記	明治34年	1冊	168
当用日記	明治35年	1冊	170
当用日記	明治36年	1冊	172
当用日記	明治37年	1冊	174
当用日記	明治38年	1冊	175

当用日記	明治39年	1冊	176
当用日記	明治40年	1冊	177
当用日記	明治41年	1冊	178
当用日記	明治42年	1冊	179
当用日記	明治43年	1冊	180
当用日記	明治44年	1冊	181
当用日記	明治45年	1冊	182
当用日記	大正2年	1冊	183
当用日記	大正3年	1冊	184
当用日記	大正4年	1冊	185
当用日記	大正5年	1冊	186
当用日記	大正6年	1冊	187

## ○園芸記録・日記

「ダーリヤ柱付豫定覚」(No.235-10)に「徳大寺公弘」と横書した楕円紫印が押されており、住所は「東京府多摩郡千駄ヶ谷四百九十八番地」となっている。

吐馥園栽培櫻草種類栽培成蹟花暦其他 吐馥園主人花暦, 表紙(朱筆)「類焼前ノ記録」	明治22年～(25年)	半野 1冊	235-6
群芳園花暦 花暦, 表紙(朱筆)「類焼前ノ記録」	明治25年1月～(4月)	半野 1冊	235-7
寒暖雨雪花暦 第壹号 聚芳園好華	明治31年4月～32年3月	半野 1冊	235-1
聚芳園朝顔花暦并花譜	明治31年5月～(32年)	半野 1冊	235-8
聚芳園所有種子表	明治32年2月～	半野 1冊	235-9
寒暖雨雪花暦 第貳号 聚芳園好華	明治32年4月～33年3月	半野 1冊	235-2
寒暖雨雪花暦 第参号 聚芳園好華	明治33年4月～(12月30日)	半野 1冊	235-3
当園盆栽目録・栽培法其他 卷ノ壹 吐馥園主人, 表紙(朱筆)「類焼前ノ記録」	(明治23年～25年)	半野 1冊	235-4
群芳園栽培艸花類譜 卷之貳 艸花園主華仙, 表紙(朱筆)「類焼前ノ記録」	(明治24年～25年)	半野 1冊	235-5
ダーリヤ柱付豫定覚 「徳大寺公弘」紫印あり	(明治カ)44年分	半野 1冊	235-10
三櫚園栽培ダーリヤ番號数覚	(明治44年11月)	半野 1冊	235-11
三櫚園栽培ダーリヤ番號数覚	(明治44年11月)	半野 1冊	235-12
園芸日記 第壹 聚芳園	明治37年5月～38年4月	半野 1冊	234-1
園芸日記 第貳 聚芳園	明治38年5月～39年2月 (晩春ヨリ晩冬ニ至ル)	半野 1冊	234-2

園芸日記 第参 聚芳園主	明治39年3月～40年2月	半野 1冊	234-3
園芸日記 第四 聚芳園主	明治40年3月～42年2月	半野 1冊	234-4
園芸日記 第五 聚芳園主	明治42年3月～43年2月	半野 1冊	234-5
園芸日記 第六 聚芳園主	明治43年3月～44年2月	半野 1冊	234-6
園芸日記 第七 聚芳園主	明治44年3月～大正元年	半野 1冊	234-7

## ○撮影日記

公弘が撮影した写真の場所、種類、点数、現像結果などを記録した日記。当用日記帳を「撮影日記」と訂正して利用している。

撮影日記	明治34年	1冊	169
撮影日記	明治35年	1冊	171
撮影日記	明治36年	1冊	173

## 1-4-3. 実厚

29代徳大寺実厚(1887～1970)の自筆日記1冊。6月1日の記事に「祖父上全ク御食気無シ」とあり、6月4日には「漸次御容態不良、御痛ミヲ増加シテ午後二時ヨリ御危篤ニ陥ラセラル(中略)午後七時薨去」とあり、これは大正8年(1919)6月4日に没した実則のことを指すところから、実則の孫実厚の日記と判断した。実厚は、東京市渋谷区若木町15番地に居住した。なお、No.191の「当用日記」は未使用のものであるが、便宜的にここに収めた。

当用日記 徳大寺実厚、背皮平布、破損大	大正8年	1冊	189
当用日記 記述なし(未使用)	大正14年	1冊	191

## 1-4-4. 米子

松平直之と同八重子の次女。大正5年(1916)11月9日に17才で実厚と結婚した。大正7年5月30日に長女嬉子が生まれた。同年の日記5月30日にその時の記事がみえる。また、大正8年11月に長男公英が生まれたが、同年の日記は9月半ばから12月までの記事を欠いている。

家庭日記	大正7年	1冊	188
家庭日記	大正8年	1冊	190
当用日記	昭和7年	1冊	192
当用日記	昭和8年	1冊	193
当用日記	昭和9年	1冊	194
仏教日記	昭和10年	1冊	195
仏教日記	昭和11年	1冊	196

## 1-5. 記録

「徳大寺文庫」の縦長方朱印(縦7.2×横1.9cm)、「公純」の丸朱印(直径1.6cm)、「公純之章」の方朱印(縦3.0×横3.0cm)、「徳大寺蔵書」(縦2.0×横1.0cm)、「公」(縦1.0×横1.0cm)「純」(縦1.0×横1.0cm)が押下された記録文書がある。これらは、26代公純(1821～1883)の蔵書印である。なお、公純の蔵書印が押された記録文書は、1-8. 有職故実のなかにも5点ある。

基安卿記		仮美二切 1冊	404
糸参屯記別記 「徳大寺文庫」、「公純之印」、「徳大寺蔵書」、「公」「純」 印あり、醍醐輝弘拝賀本	弘化5年1月16日	仮美二切 1冊	225
日野資愛卿考 逸史十七卷十六條裁下条 「公純之章」、「徳大寺蔵」方朱印、「徳大寺蔵書」印あり		仮美 1冊	268
騎馬仕官馬埒必携 陸軍士官学校騎兵科	明治11年9月	半 1冊	201
御巡幸沿道栃木県管内略図		折 1冊	240
〔新庄より米沢迄街道略図〕		折 1冊	241
福島県下鞆道駅村略記 印刷		冊子(20.2×14.0) 1冊	242
秋田県鞆道便覧略記 印刷		冊子(17.8×11.8) 1冊	243
貴族院規則 印刷、「徳大寺」紫印あり		冊子(14.1×9.8) 1冊	244
戊辰戦記上巻 富岡政信、明治廿三年十月廿九日出版	明治23年1月28日	仮半 1冊	211

## 1-6. 書籍目録

明治期以降に作成されたと推定される書籍目録が2冊ある。なお、家扶が作成した諸道具書付の中にも書籍目録があるので、2-3-7. 冠婚葬祭記録の項目を参照のこと。

清風館御書籍目録 鉛筆書あり		半 1冊	45
〔書籍目録〕		半野 1冊	46

## 1-7. 有職故実

いずれも、江戸期に書写された有職故実書である。「<sup>しせつはちざしょう</sup>四節八座抄 全」(No.402)の料紙は、京都市中の田畑検地帳(竖帳)の反故紙を半裁したものを紙背文書に用いており、紙背には下立売長門町、一条通り千本西へ入三丁目といった地所がみえる。

公純が収集した大嘗会関係の文書がまとまって伝存しており、「大嘗会悠紀主基辰巳節会図・豊明以押紙証之」(No.306-3)は詳細な彩色絵図で、大嘗会悠紀殿・主基殿の設営、公卿以下の配置などが記され、押紙で豊明節会との違いを説明している。なお、公純の蔵書印については、1-5. 記録の項を参照のこと。

四節八座抄 全 樋口定能編、奥書「享徳元年後八月十三日諸請新中納言 資綱卿本書写同十七日終功之、但有懈怠之日此本不審多 之追以他本可授也 参議右大弁判」、紙背あり(水帳カ)	慶安2暦冬写	仮美二切 1冊	402
新嘗祭 行事召仰次第在中	寛政3年12月	美二切 1冊	398
大嘗会三社奉幣賀茂下上使記 共二(天明七年甘露寺 篤長記・文政元年小倉豊季記) 「徳大寺文庫」「公純之章」印あり		仮美二切 1冊	218
御調度御覧備忘・大嘗会御調度御覧之儀殿下鷹司政通 公家司次第 表紙「徳大寺文庫」、「公純」印あり	嘉永元年11月27日	美二切 1冊	306-1
近江悠紀国司宰相中将公債卿・丹波主基国司右宰相中 将実愛卿風土記 多米都物 雑掌調成安、「徳大寺文庫」「公純」印あり	嘉永元年11月22日	美二切 1冊	306-2
大嘗会悠紀主基辰巳節会図・豊明以押紙証之 「徳大寺家文庫」「公純之章」印あり	嘉永元年	108×108 1鋪	306-3
式 四箇日次第 本文和歌 散状交名	嘉永元年	美二切 1冊	238
年中行事	(安政年間)	仮美二切 1冊	212
[有職年表] 板状、開閉不可、「徳大寺文庫」印	(江戸期)	美二切 1冊	304
踏歌節会次第 外弁要		美二切 1冊	213
節会略次第 三位中将参入要 実維公御説		仮美 1冊	214
節会略次第 三位中将参入要 実維公御説拔書		仮美 1冊	215
覚悟抄 上 蔵印あり		美 1冊	216-1
覚悟抄 中 蔵印あり		美 1冊	216-2
覚悟抄 下 表紙印有、「持正」印、後表紙「小川家所蔵」		美 1冊	216-3
御衣服覚		仮美 1冊	227
三條驛君様御婚礼次第		半 1冊	260
元服拝賀備忘		仮美二切 1冊	396
遷幸備忘		仮美二切 1冊	403

白馬節会次将要	美二切 1冊	407
〔故実書付〕	仮中 1冊	412
〔諸家権大納言先例書〕 方朱印あり	仮美二切 1冊	413
御物頭職掌之事(草案)	横折 4通	479
〔当世簇三義一流大双子抜粹〕 近陽在里軒住不二野於盛	仮横半 1冊	496

## 1-8. 文芸・学問

## 1-8-1. 歌道

明治期の和歌書26点。なお、江戸期の仙洞御歌会の記録文書は、3-4. 仙洞御歌会に収めた。

百首課詠 光風霽公純，黒色10行罫紙、版心「億母軒」	明治3年夏16日	仮半罫 1冊	381
亥仲夏歌詩長可給艸稿 前右槐公純(56歳)，紙背：進物目録	(明治8年カ)	仮竪二切 1冊	384
明治拾五歳々次壬午上巳以後 黒色10行罫紙、版心「億母軒」	(明治15年カ)	仮半罫 1冊	388
明治拾五藕壬午夏中百首 林下槐老，黒色10行罫紙、版心「億母軒」		仮半罫 1冊	389
日吉神社奉納下巻 会林素雄	明治28年1月	仮竪二切 1冊	393
小八幡の松風	明治29年1月26日	仮半罫 1冊	385
抄出御集第二稿 二	(明治28～32年)	美 1冊	484
抄出御集第二稿 三	(明治37年)	美 1冊	485
蜂腰箭亭集 三品羽林(花押)，黒色10行罫紙		半罫 1冊	371
うつし給の巻		仮半 1冊	372
詠草		仮半 1冊	373
うつしめつの巻		仮半 1冊	374
御歌	巳年秋より	仮半 1冊	375
〔詠草〕		仮半 1冊	376
詠草		仮半 1冊	377
詠草 裏表紙「松印」墨書		仮半 1冊	378
御詠草		仮半 1冊	379
〔詠草〕		仮半 1冊	380
詠草		仮半 1冊	382
詠草		仮半 1冊	383
奉旨匿名歌衆評 菊紋入10行罫紙、版心「貴春」		仮美罫 1冊	386

随意筆禄 光風霽月老黒色10行罫紙、「清風館」「藤原公純之印」あり		仮半罫 1冊	387
御詠草	辰年	仮半 1冊	390
御歌		仮半 1冊	391
よせ歌		仮半 1冊	392
別府八幡宮奉納汐搔祭奉燈一千二百句集		半 1冊	394

## 1-9. 拓本

勝田八重子は安政元年十一月生れで、没年は不詳。いずれも、八重子の墓石の拓本であろう。

〔拓本〕(勝田重子之墓)	95.0×19.2 1通	477-1
〔拓本〕(侯爵徳大寺実則卿妾)	88.0×15.4 1通	477-2

## 1-10. 名鑑

「補略」は毎年1月1日時点での堂上家の従五位下以上の人名、現官、訓名、年齢を記し、参議以上は前官を併記し、従一位から従三位までの人名の下には、現在の位階進叙の年月日を割註で付した朝廷の職員録である。皇親、連枝、宮廷に仕える女房などの名簿である「雲井」(別名「女房次第」)とともに、毎年1月2日に天皇に献上され、1年間その座右に置かれた。それらの写が各家に伝来している。当史料群の中には、「補任歴名」と表表紙に墨書された史料が2冊あるが、内容は「補略」の要件を備えている。「華族位次第」は、内容的には「補略」の系譜を引くものだが、旧大名家を含む華族の名鑑である。氏名、位、年齢を記し、さらに旧大名の場合は旧領地が記されている。華族会館発行の「華族名簿」は、爵位順に役職・爵位・氏名・生年・夫人名・夫人生年・住所・電話番号を付し、名前の訓付がある。

〔補略〕	安永3年正月1日	半二切 1冊	411
補任歴名	天保3年正月1日	美二切 1冊	399
補任歴名 正五位下讃岐権守藤原定徳	天保6年正月1日	半二切 1冊	400
補略 表紙「定明」	慶応2年	美二切 1冊	408
〔補略断簡〕 紐切れ		美二切 1冊	343
華族位次第	明治3年	美三切 1冊	239
華族位次第 後表紙「府県貫属華族旧公卿書名 旧諸侯書名」とあり	明治5(4)壬申年	美二切 1冊	409
華族名簿 大正8年三月三十一日調 華族会館	大正8年5月23日発行 大正8年5月20日印刷	12.6×18.6 1冊	205

表題／作成・授受／備考	年代	形態 点数	整理番号
-------------	----	-------	------

## 2. 徳大寺家家政

### 2-1. 御殿表

#### 2-1-1. 記録

No.152～155の史料は同じ装丁であり、徳大寺御殿諸大夫所(役所)の保管文書と考えられる。No.152の内題には「二條家諸大夫所留」とあるように、徳大寺家の諸大夫が他家の諸大夫所で作成、保管された記録文書を写本として集積している。No.151は、共紙の表紙に「徳大寺殿」と墨書があるが、おそらく外表紙がとれたものであろう。No.203・204は河鱒および醍醐家の家臣から徳大寺家および日野家の家臣に提出された文書の控で、宛所の物加波・滋賀氏は徳大寺家の諸大夫である。

朱印改一件は、諸大夫が関わっている記録文書として、ここに収めた。これに関する記録文書は、3-5. 武家伝奏の中にも含まれている。

西園寺賞季公右大臣御拝賀雑記写 徳大寺殿、表紙「徳大寺文庫」印あり	寛政8年9月	半 1冊	151
文久度辛酉革命改元一條拔書写 徳大寺殿、小口書「文久辛酉改元留」	文久度	半 1冊	152
右大臣御転任御拝賀雑記 諸大夫所	文久3年12月	半 1冊	153
元治度甲子革命改元一條 諸大夫所	文久3年11月12日～2月24日	半 1冊	154
家厚公右大臣御拝賀雑記 徳大寺殿詰所蔵、表紙「安政六年未三月二十八晦日御直衣始也」	安政6年	半 1冊	155
○			
御停止金銀員数廉分書 河鱒殿内津田主計(印)→徳大寺大納言様御内物加波周防守殿・滋賀右馬大允殿・日野前大納言様御内河野丹後介殿・山中左近府生殿	寅1月	半 1冊	203
御停止金銀員数廉分書 醍醐大納言殿家高津越後守(印)→徳大寺大納言様御内物加波周防守殿・滋賀右馬大允殿・日野前大納言様御内河野丹後介殿・山中左近府生殿	寅1月	半 1冊	204
○朱印改一件			
〔楽人朱印改一件返答書写〕	(天明8年)	切継 1通	497
〔某達書控〕(御朱印改之節楽人関東へ持参難儀に付当地にて改願、差戻に付達)	11月	切継 1通	662
〔菊池新八書状〕(楽人朱印写の件) 菊池新八→滋賀右馬大允様	1月24日	切継 1通	696
○			
〔公家姓書付〕 朱丸合点あり		切継 1通	702
岸君様御召	辰3月改	半 1冊	340

## 2-1-2. 糊付一括文書

本史料は、切紙および切継紙の料紙が重ねられ、各料紙の上部約1cm程が糊付けされた一括文書である。内容は、関東参向中の当主の動向を告げた書状の到来を記した書付1点、徳大寺家から諸家へ送った蜜柑に対する返礼状・受取状10点、天保期(1830~1844)の院参衆および小番の「結改」(編成替)の文書6点である。一見しただけでは関連性がないように見えるが、天保期の徳大寺家当主25代実堅(1790~1858)は、天保2年(1831)から武家伝奏(権大納言)を勤め、嘉永元年(1848)に内大臣に任じられており、天保期の結改に関する文書は、実堅が武家伝奏を勤めた機能に関わって作成、保管された文書であろう。ただし、他の史料は徳大寺家の雑掌の機能に関わって授受された文書であるため、それらが一括にされて保管された現状に鑑みると、結改の作成、あるいは保管に武家伝奏の雑掌が深く関わったことを示唆している。したがって、これらの文書を史料の内容によって分割して目録上に編成することはせず、一括文書としての集会的史料情報を重視した編成をとった。なお、3. 清華家(3-5. 武家伝奏)の中に配置することも考えたが、雑掌の機能を重視して家政組織の中に配列した。

糊付	〔非蔵人奉行・北面奉行交名〕 断簡カ		切 1通	503-1
	〔書付〕(鳴海駅・奥津駅・関東馳走所へ書状到来)		切 1通	503-2
	〔森甲斐守礼状〕(蜜柑拝領の返礼) 森甲斐守→徳大寺様雑掌御中	12月14日	切 1通	503-3
	〔六条家雑掌礼状〕(蜜柑拝領の返礼) 六条家雑掌→徳大寺様雑掌御中	12月11日	切 1通	503-4
	覚(蜜柑拝領の返礼) 千種殿取次→		切 1通	503-5
	覚(蜜柑受取状) 柳原殿役所→		切 1通	503-6
	覚(蜜柑受取状) 万里小路殿役所→	12月7日	切 1通	503-7
	〔油小路殿内雑掌礼状〕(蜜柑拝領の返礼) 油小路殿内雑掌→徳大寺様御内雑掌御中	12月10日	切 1通	503-8
	〔甘露路家雑掌礼状〕(蜜柑拝領の返礼) 甘露路家雑掌→徳大寺様御雑掌中	12月21日	切 1通	503-9
	〔山科家雑掌礼状〕(蜜柑拝領の返礼) 山科家雑掌→徳大寺様御雑掌中	12月5日	切 1通	503-10
	〔三宅左衛門尉外2名礼状〕(蜜柑拝領の返礼) 三宅左衛門尉・立入近江守・袖岡玄蕃助→徳大寺様御雑掌中	12月12日	切 1通	503-11
	〔天保11年1月結改〕	天保11年1月1日結改	切継 1通	503-12
	〔天保10年春結改〕	天保10年春改	切継 1通	503-13
	〔天保8年7月院中結改〕 付紙あり	天保8年7月1日結改	切継 1通	503-14
	〔天保8年院中結改〕	天保8年	切継 1通	503-15
	〔天保4年7月結改〕	天保4年7月1日結改	切継 1通	503-16

## 2-1-3. 勘定記録

江戸期の公家の家政組織内の勘定所役人が作成、授受に関わって保管された記録文書を取めた。

覚(春日社修復入用請取状) 大塚勘右衛門(印)→村田兵部大録様・根岸主水様・高田掃部様	明和6年12月26日	縦 1通	308
宗徳院入用覚	文政11年～(天保2年)	美二切 1冊	406
御家領御納米之覚 御役所	慶応2年	横半 1冊	297
改高反別并ニ去ル辰年収納高 下山田村→		半 1冊	299
高反別并去辰年収納高帳(控) 徳大寺家松本從六位印→京都御政府、表紙「用紙美濃紙」とあり	明治2年10月	半 1冊	302
高反別并ニ去ル辰年御収納高帳 山城国紀伊郡東九条村収納取立役重左衛門(印)・同喜惣兵衛(印)→	明治2年6月	半 1冊	298
高反別改帳 下津林村長五郎→徳大寺様御役所	明治2年6月	半 1冊	300
高反別拾ヶ年貢米収納高帳 山城国愛宕郡浄土寺村庄兵衛(印)→徳大寺様御役人中様	明治2年6月	半 1冊	301

## 2-2. 執次局

史料の表紙に「執事所」「執次局」とある。明治3年(1870)より以降の史料に、これらの部局の名称は出てこないため、扶局と分けて立項した。ただし、明治3年までの「布令廻文留」の類は、便宜的に2-3-4. 廻章留に収めた。明治3年以降も史料上に「執事」職の名称は確認できるため、「執次局」と「扶局」の関係については、十分な検討が必要である。この点については、解題を参照のこと。

御道中并御滞在中御日記 徳大寺殿執事所、板状、開閉不可	明治2年3月以後	半 1冊	47
御広間簿 御執次局	明治2年4月1日～(12月29日)	半 1冊	65
〔執次日記〕 前後欠、断簡	(明治初期)7月	半 1冊(10丁)	17

## 2-3. 扶局

## 2-3-1. 供奉記録

徳大寺実則が明治4年(1871)に氷川社例祭宣命使を命じられた際の家扶の記録。

氷川社宣命使御参向一件帖 家扶、綴込文書あり	辛未6月	半(一部野紙) 1綴	219
氷川社行幸御供奉雑記	閏十月	横半半 1冊	220
氷川社祭列帳	辛未6月14日	半三切 1冊	221

## 2-3-2. 家扶日記

神田邸・赤坂官邸は、実則付の家扶日記。大正3年(1914)から同8年までのNo.123から126は、千駄ヶ谷邸における実則付の家扶日記と推定される。明治23年(1890)9月9日から10月12日までは、実則は新宿第一御料地を拝借して神田邸から仮移転した(「日記」No.85)。千駄ヶ谷邸は、実則の子公弘付の家扶日記。他に茅ヶ崎別荘の家扶日記、実則の六女伊楚子の日光旅行の供をした家扶の日記がある。各日記の日付の下には、担当の家扶名、当直の家扶名が書かれている。なお、徳大寺家の屋敷については、解題のE. 出所の歴史を参照。

○神田邸			
御日記 徳大寺家, 8行茶色罫紙、裏打補修済み	明治4年5月21日～7月30日	半罫 1冊	66
御日記 徳大寺家, 8行茶色罫紙、補修済み	明治4年8月1日～10月29日	半罫 1冊	71
御日記 徳大寺家事務局, 8行茶色罫紙、板状開閉難	(明治4)辛未10月～12月	半罫 1冊	67
御日記春 徳大寺家, 8行茶色罫紙、補修済み	(明治5)申年1月1日～3月29日	半罫 1冊	68
御日記夏 8行橙色罫紙、虫損	(明治5)申年4月1日～6月29日	半罫 1冊	69
〔日記〕秋 8行橙色罫紙、補修済み	(明治5)申年7月1日～9月29日	半罫 1冊	70
御日記 徳大寺家10行罫紙、補修済み	明治6年7月1日～9月30日	半罫 1冊	72
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治17年10月～12月	半罫 1冊	73
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治18年4月～12月	半罫 1冊	74
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治20年1月～6月	半罫 1冊	76
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治21年1月～4月	半罫 1冊	77
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治21年5月～8月	半罫 1冊	78
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治21年9月～12月	半罫 1冊	80
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治22年1月～6月	半罫 1冊	81
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治22年7月～12月	半罫 1冊	82
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治23年1月～6月	半罫 1冊	83
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治23年7月～12月	半罫 1冊	84

日記 新宿徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治23年9月9日～10月12日	半罫 1冊	85
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治24年1月～6月	半罫 1冊	86
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治24年7月～12月	半罫 1冊	87
○赤坂官邸			
日記 官邸徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治24年8月～12月	半罫 1冊	88
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治25年1月～4月	半罫 1冊	89
日記 官邸徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治25年7月～12月	半罫 1冊	90
日記 官邸徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治26年1月～6月	半罫 1冊	91
日記 官邸徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治26年7月～12月	半罫 1冊	92
日記 官邸徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治27年1月～6月	半罫 1冊	93
日記 官邸徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治27年7月～12月	半罫 1冊	94
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治28年1月～6月	半罫 1冊	95
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治28年7月～12月	半罫 1冊	96
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治29年1月～6月	半罫 1冊	97
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治30年1月～6月	半罫 1冊	98-1
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治30年7月～12月	半罫 1冊	99
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治31年1月～6月	半罫 1冊	100
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治31年7月～12月	半罫 1冊	101
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治32年1月～6月	半罫 1冊	102
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治32年7月～12月	半罫 1冊	103
日記 徳大寺家, 表紙半分欠、徳大寺家10行罫紙	明治33年1月～6月	半罫 1冊	104
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治34年1月～6月	半罫 1冊	105
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治34年7月～12月	半罫 1冊	106
日記	明治35年1月～6月	半罫 1冊	107

徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙			
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治35年7月～12月	半罫 1冊	108
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治38年1月～6月	半罫 1冊	109
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治38年7月～12月	半罫 1冊	110
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治39年1月～6月	半罫 1冊	111
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治39年7月～12月	半罫 1冊	112
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治40年1月～6月	半罫 1冊	114
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治40年7月～12月	半罫 1冊	115
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治41年1月～6月	半罫 1冊	116
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治41年7月～12月	半罫 1冊	118
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治42年7月～12月	半罫 1冊	119
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治43年7月～12月	半罫 1冊	120
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治44年1月～6月	半罫 1冊	121
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治44年7月～12月	半罫 1冊	122
○			
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	大正3年1月～12月	半罫 1冊	123
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	大正5年1月～12月	半罫 1冊	124
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	大正7年1月～12月	半罫 1冊	125
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	大正8年1月～7月	半罫 1冊	126
○千駄ヶ谷邸			
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治20年1月～9月	半罫 1冊	75
仮日記 公弘帰国の記録	明治21年9月6日～10月28日	半 1冊	79
日記 千駄ヶ谷本邸徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙、小口「千駄ヶ谷別邸」とあり	明治41年1月～明治42年12月	半罫 1冊	117
日記 千駄ヶ谷本邸徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治44年1月～大正元年12月	半罫 1冊	150

日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	大正8年7月～12月	半罫 1冊	127
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙、後半12行罫紙	大正9年1月～12月	半罫 1冊	128
日記 徳大寺家, 徳大寺家12行罫紙	大正10年1月～12月	半罫 1冊	129
日記 徳大寺家, 徳大寺家12行罫紙	大正11年1月～12月	半罫 1冊	131
日記 徳大寺家, 徳大寺家12行罫紙	大正12年1月～12月	半罫 1冊	132
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	大正13年1月～12月	半罫 1冊	133
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙・同12行罫紙	大正14年1月～12月	半罫 1冊	134
日記 徳大寺家, 徳大寺家12行罫紙	大正15年1月～12月	半罫 1冊	136
日記(下書) 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙・同12行罫紙、136の原本カ	大正15年1月～12月	半罫 1冊	146
日記 徳大寺家, 徳大寺家12行罫紙	昭和2年1月～12月	半罫 1冊	137
日記 徳大寺家, 徳大寺家12行罫紙	昭和3年1月～12月	半罫 1冊	138
日記 徳大寺家, 徳大寺家12行罫紙	昭和4年1月～12月	半罫 1冊	139
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	昭和5年1月～12月	半罫 1冊	140
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	昭和6年1月～12月	半罫 1冊	141
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	昭和7年1月～12月	半罫 1冊	142
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	昭和8年1月～12月	半罫 1冊	143
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	昭和9年1月～12月	半罫 1冊	144
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	昭和10年1月～12月	半罫 1冊	145
日記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	昭和11年1月～12月	半罫 1冊	149
○茅ヶ崎別荘			
茅ヶ崎御滞在日記 徳大寺家, 徳大寺家12行罫紙	大正11年1月起(12月～4月)	半罫 1冊	130
日記 茅ヶ崎徳大寺家	大正14年7月～同15年12月	半罫 1冊	135
日記 (茅ヶ崎)徳大寺家, 徳大寺家12行罫紙	昭和2年1月～12月	半罫 1冊	147
日記	昭和3年1月～12月	半罫 1冊	148

茅ヶ崎徳大寺家, 徳大寺家12行罫紙			
○日光			
日誌(伊楚子旅行随行日記) 日光滞在記	(明治39年8月12日～9月2日)	半 1冊	113
伊楚子様御発車日光ヨリ大洗御滞在中一件書括	明治39年8月12日	横半 1冊(囊付)	295

## 2-3-3. 郵便発受簿

○千駄ヶ谷邸			
〔年賀発送簿〕 表紙欠	昭和3年度	半罫 1冊	349-1
御年賀発送簿 徳大寺家, 徳大寺家12行罫紙	昭和4年1月	半罫 1冊	349-2
御年賀発送簿 徳大寺家	昭和5年1月	半罫 1冊	349-3
御年賀発送簿 徳大寺家, 徳大寺家12行罫紙	昭和6年1月	半罫 1冊	349-4
御年賀発送簿 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	昭和7年1月	半罫 1冊	349-5
御年賀発送簿 徳大寺家	昭和10年度	半罫 1冊	351-6
〔年賀訪問簿〕 徳大寺家10行罫紙	昭和6年度	半罫 1冊	351-1
〔年賀訪問簿〕	昭和7年度	半罫 1冊	351-2
〔年賀訪問簿〕 徳大寺家12行罫紙		半罫 1通	351-3
〔年賀訪問簿〕	昭和8年度	半罫 1冊	351-4
年頭御挨拶控 徳大寺家	昭和9年度	半罫 1冊	351-5
郵便発着簿	大正9年4月1日	半罫 1冊	29
信書発受簿 徳大寺家, 徳大寺家12行罫紙	昭和2年	半罫 1冊	36
信書発受簿 徳大寺家, 徳大寺家12行罫紙	昭和3年同4年度	半罫 1冊	37
信書発受簿 徳大寺家, 徳大寺家12行罫紙	昭和5年度	半罫 1冊	38
信書発受簿 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	昭和6年	半罫 1冊	39
信書発受簿 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	昭和7年	半罫 1冊	40
信書発受簿 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	昭和8年	半罫 1冊	41
信書発受簿 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	昭和9年	半罫 1冊	42

信書発受簿 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	昭和10年	半罫 1冊	43
信書発受簿 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	昭和11年	半罫 1冊	44
○			
上奏書送致簿 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治41年1月～(大正元年)	半罫 1冊	28
○茅ヶ崎別邸			
郵便物発着簿 徳大寺家, 表紙裏「南湖中町友田別荘坂下建具士栗林」	大正14年7月起	半罫 1冊	30
信書発受簿 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙・同12行罫紙	大正15年	半罫 1冊	35
郵便発着簿 徳大寺家, 徳大寺家12行罫紙	昭和2年1月	半罫 1冊	31
郵便発着簿 茅ヶ崎徳大寺家, 徳大寺家12行罫紙	昭和3年1月～同年12月	半罫 1冊	32
郵便発着簿 茅ヶ崎徳大寺家, 徳大寺家12行罫紙	昭和4年1月～(6月)	半罫 1冊	33
日記 茅ヶ崎徳大寺家, 徳大寺12行罫紙	昭和4年1月～同7月	半罫 1冊	48-3
○軽井沢・旅行先			
御旅行日誌(軽井沢・伊豆修善寺・湯河原・仙石原・塩原日誌并郵便発着簿) 徳大寺家(執事印)あり	(昭和3年7月11日～同8年9月12日)	半罫 1冊	48
御旅行日誌(湯河原・塩原日誌并郵便発着簿) 徳大寺家	(昭和9年～同11年)	半罫 1冊	49
日誌並郵便発着簿 栃木県塩原温泉萬寿屋旅館徳大寺家	昭和11年7月	半罫 1冊	34

## 2-3-4. 廻章留

御布令廻文写 板状、開閉不可、後欠	明治2年1月～12月	半 1冊	1
御廻文御布令写 執事局	明治3年1月～12月	半 1冊	2
御布令廻章留	明治4年1月～12月	半 1冊	3
御廻文留 一部、茶色・橙色8行罫紙	明治5年1月～12月	半 1冊	4
御布令廻文留 徳大寺家, 茶色8行罫紙	明治6年1月～3月31日	半罫 1冊	5
御布告廻文留 徳大寺家	明治6年4月～(6月)	半罫 1冊	6
御布令並御廻文留 三 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治6年6月～9月	半罫 1冊	7
御布令及廻文留 壱	明治7年1月1日～3月31	半罫 1冊	8

徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	日		
御布令廻文留 四 徳大寺家10行罫紙、後欠(12月23日迄)	明治7年10月1日～12月31日	半罫 1冊	9
御布令廻文留 二 徳大寺家10行罫紙	明治8年4月1日～6月31日	半罫 1冊	10
御布令廻文留 一 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治9年1月1日～3月31日	半罫 1冊	11
御布令廻文留 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治9年7月1日～9月30日	半罫 1冊	12
御布令廻文留 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治10年1月1日～3月31日	半罫 1冊	13
御布令回文留 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治10年9月～(12月)	半罫 1冊	14
御布告留 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治11年1月～12月	半罫 1冊	16
〔御布告留〕 徳大寺家10行罫紙	(明治12～16年)	半罫 1冊	229

## 2-3-5. 華族会館・第十五銀行廻達簿

華族会館廻達簿 壹 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治7年6月～同8年4月	半罫 1冊	19
〔華族会館廻達簿〕 徳大寺家10行罫紙、表紙欠、小口書「九会」	(明治9年6月29日～12月31日)	半罫 1冊	15
〔華族会館廻達簿〕 徳大寺家10行罫紙、小口書「十年会」	明治10年	半罫 1冊	259
華族会館廻達簿 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治11年3月～(12月)	半罫 1冊	20
第十五国立銀行件諸留 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治12年1月	半罫 1冊	230
部長局華族会館回達簿 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治14年7月～15年12月	半罫 1冊	21

## 2-3-6. 小遣簿

徳大寺家表組織における電車代、車夫代、郵送代、筆記具・電灯などの消耗品代、出入職人の茶菓子代、掃除代などの諸経費の受払簿。大正10年(1921)から同12年までは毎月3円の下渡金、同13年からは毎月5円の下渡金で諸経費を賄っていた。

小遣簿 徳大寺家表	大正10年1月	半罫 1冊	50
小遣簿 徳大寺家, 徳大寺家12行罫紙	大正12年1月1日	半罫 1冊	51
小遣簿 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙・同12行罫紙	大正13年	半罫 1冊	52
小遣簿 徳大寺家	大正14年1月	半罫 1冊	53

小遣簿 徳大寺家, 徳大寺12行罫紙	大正15年	半罫 1冊	54
小遣簿 徳大寺家, 徳大寺12行罫紙	昭和2年	半罫 1冊	56
小遣簿 徳大寺家, 徳大寺12行罫紙	昭和3年同4年	半罫 1冊	57
小遣簿 徳大寺家, 徳大寺12行罫紙	昭和5年	半罫 1冊	58
小遣簿 徳大寺家, 徳大寺10行罫紙	昭和6年	半罫 1冊	59
小遣簿 徳大寺家, 徳大寺10行罫紙	昭和7年	半罫 1冊	60
小遣簿 徳大寺家, 徳大寺10行罫紙	昭和8年	半罫 1冊	61
小遣簿 徳大寺家, 徳大寺10行罫紙	昭和9年	半罫 1冊	62
小遣簿 徳大寺家, 徳大寺10行罫紙	昭和10年	半罫 1冊	63
小遣簿 徳大寺家, 徳大寺10行罫紙	昭和11年	半罫 1冊	55
小遣簿 背革平布角革	(昭和12年～同16年)	帳 1冊	64

## 2-3-7. 冠婚葬祭記録

ここでは、徳大寺の冠婚葬祭に関わって、執事・家扶が作成、授受、保管した記録文書を取めた。編成は一件ごとの編年順とした。「福君」は公純の長女で、山内豊資の養女となり、加藤泰秋(大洲)と結婚した。「永君」は公純の次女で、相良頼基と結婚した(後に離別)。公純は、明治16年(1883)11月5日に西京の別荘で没した(65歳)。「従一位殿御違例ニ付殿様御出京御届写」(No.202)の「従一位」は公純、「殿様」は実則のことである。公純の4女照子は、明治20年に阿部正功(棚倉)と結婚した。竹島は公純の妾室で、実則の実母にあたる。「玉江見舞雑記」(No.258)は、丁間史料に「出産御歓」とあるので、明治21年1月30日に実則の4女伊楚子が誕生した時の見舞雑記と思われるが、1丁しか記事がない。実則の長男公弘は、明治24年に松平典則(前橋)の次女久子と結婚した。実則の3女養子は、明治31年に三井高縦と結婚した。実則の4女治子は、明治36年4月6日に松平頼孝(石岡)と結婚した。実則の三男則麿は、明治39年5月24日に毛利元敏の5女亮子と結婚し、大正2年(1913)に男爵になり別家を立てた。実厚は公弘の長男(実則の孫)で、大正2年(1913)に松平直之の次女米子と婚約し、大正5年(1916)11月に結婚した。なお、「知君」「篤麿」については不詳。

知君御方御縁組一会 後表紙「紙数参拾枚」とあり	文化9年	半 1冊	256
福君様御縁組一件 徳大寺殿	慶応元年7月～(明治4年2月20日)	半 1冊	247
永君様御縁組一件 徳大寺殿	慶応2年4月～(明治4年9月)	半 1冊	248
従一位殿御違例ニ付殿様御出京御届写 徳大寺家, 赤色10行罫紙	(明治)16年1月18日	半罫 1冊	202

篤麿様御凶事日記 徳大寺殿	明治19年8月14日	半 1冊	253
玉江見舞雜記	明治21年1月30日	半 1冊	258
○照子縁組			
〔御召衣類目録〕		半 1冊	350-1
御結婚御入費	明治20年4月29日	半 1冊	350-2
御婚礼御到来物記	明治20年4月29日	半 1冊	350-3
親戚書(阿部正功)		美 1冊	350-4
御入車御当日次第		美 1冊	350-5
御打合		美 1冊	350-6
○葵子縁組			
〔封筒〕 上書「葵子様御縁組御用品請取書入」		封筒 1通	277-1-0
記(品代請取状) 小筆善太夫→徳大寺様御役所	明治30年9月18日	切継 1通	277-1-7
記(品代請取状) 小筆善太夫→徳大寺様御執事	明治30年10月30日	罫紙 1通	277-1-9
受取証(品代請取状) 小筆善太夫→徳大寺様御執事	明治30年10月31日	切 1通	277-1-8
記(品代請取状) 三河屋安兵衛→徳大寺様	10月31日	切継 1通	277-1-5
記(品代請取状) 下総屋呉服店→徳大寺様	10月31日	切継 1通	277-1-6
記(折代請取状) 奥八郎兵衛(河内屋印)→徳大寺御殿御役所	明治30年12月31日	半罫 1冊	277-1-1
記(品代請取状) 黒口屋孫左衛門(印)→徳代寺様御中	4月13日	切継 1通	277-1-2
記(品代請取状) 黒口屋孫左衛門(印)→徳代寺様御中	4月13日	切継 1通	277-1-3
〔支払先別品代書付〕		切継 1通	277-1-4
口上(縁組申出状) 三井高保使木村正幹・上島忠和→	明治30年3月11日	切 1通(包紙入)	277-9
記(婚礼道具請取状) 三井高保執事上島忠和→徳大寺実則様御使者伏田富久太郎殿	明治30年11月4日	切継 1通(包紙入)	277-10
口上覚(婚礼祝儀添状) 三井高保使上島忠和	明治30年11月10日	切継 1通(包紙入)	277-3
記(手目録)		切継 1通(包紙入)	277-12
記(手目録)		切 1通(包紙入)	277-13
記(手目録)		切 1通(包紙入)	277-14
記(手目録)		切 1通(包紙入)	277-2
手控(結納の件、家族書・宗族書・続書差出の件)		切 1通(包紙入)	277-4

手控(肴樽代書付)		切継 1通	277-5
記(手目録)		切継 1通(包紙入)	277-6
〔封筒〕 上書「受付位局願案」		封筒 1通	277-7-0
〔封筒〕〔寄留届案〕(三井高縦)		切 1通	277-7-1
〔封筒〕〔縁組願并送籍届案〕 徳大寺実則→宮内大臣宛		切継 1通	277-7-2
記(手目録)		切 1通	277-8
口上覚(結納目録添状)	4月3日	切 1通(包紙入)	277-11
御当日御土産品ノ扣 徳大寺家10行野紙		半野 1冊	277-15
御婚儀御当日次第書 徳大寺家10行野紙		半野 1冊	277-16
葵子様御結婚御歎トシテ御到来品留・葵子様御結婚ニ 付御到来物扣・明治30年11月30日御用御献立(綴)	明治31年11月	半 1綴(3冊)	284
○竹島葬儀			
〔包紙〕 上書「故竹島殿凶事書類一括」	明治34年2月	美 1通	254-1-0
〔十日祭霊前詞〕		豎 1通(包紙入)	254-1-1
〔二十日祭霊前詞〕	明治34年2月20日	切 1通(包紙入)	254-1-2
〔包紙〕〔三十日祭霊前詞〕	明治34年3月2日	切 1通(包紙入)	254-1-3
〔四十日祭霊前詞〕	明治34年3月12日	切 1通(包紙入)	254-1-4
〔五十日祭詞〕		豎 1通(包紙入)	254-1-5
〔百日祭詞〕		豎 1通(包紙入)	254-1-6
御悔長・故竹島様会葬諸君人名簿・故竹島様会葬諸君 人名(綴)		横半 1綴(3冊)	254-2
故竹嶋殿御凶事雑記(綴) 徳大寺家	明治34年2月1日	半 1綴	254-3
死亡診断書(案)(徳大寺竹島) 告成堂病院長岩佐純印	明治34年2月2日	半 1通	355
死亡届(案)(徳大寺竹嶋) 徳大寺実則印→麴町区戸籍吏丹所啓行殿	明治34年2月2日	半 1通	368
○治子縁組			
久堅町松平家御婚姻礼式御手続調写	明治36年3月	半 1冊	200
〔包紙〕 上書「治子様松平頼孝様へ御縁組御慶事書類」		袋 1通	249-0
親族書(松平頼孝)		折 1通	249-1-1
〔松平頼孝本家・一族書付〕		折 1通	249-1-2
〔松平頼孝使者口上・目録并婚姻願綴〕	(明治36年3月)	綴(6点) 1冊	249-2
〔婚礼書類綴〕	(明治36年)	綴 1冊	249-3
〔香川敬三書状〕 香川敬三→徳大寺様(島田直次郎)	3月7日	切 1通(封筒入)	249-4

治子様御慶事筆記・則麿様同三十八年八月吉辰 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	明治36年～(明治39年5月)	半罫 1冊	250
○則麿縁組・受爵			
〔毛利亮子親戚書〕	(明治39年カ)	横(22.8×59.4) 1冊	293
〔袋〕 上書「則麿様御授寿之節届書扣」	大正2年11月5日	袋 1通	278-0
〔華族会館通知状〕 華族会館→男爵徳大寺則麿殿	大正2年11月6日	切 1通	278-10
印鑑届(控) 徳大寺則麿(印)・徳大寺実則(印)→南多摩郡千駄ヶ谷町 長井田忠信殿	大正2年11月13日	半 1通	278-7
住所届(控) 徳大寺則麿(印)→宮内大臣伯爵渡辺千秋殿	大正2年11月13日	半 1通	278-8
〔徳大寺実則戸籍謄本〕 千駄ヶ谷町戸籍吏井田忠信(公印)	大正2年11月12日	美 1冊(3丁)	278-13
〔宗族書控〕	(大正2年11月18日)	半 1冊	278-2
〔徳大寺則麿履歴控〕 徳大寺家黒色10行罫紙	(大正2年11月18日)	半罫 1通	278-12
一宗創立届(控) 徳大寺則麿印→千駄ヶ谷町戸籍吏井田忠信殿	(大正2年)	半 1冊	278-1
戸籍訂正届(控) 公爵徳大寺実則印→宮内大臣殿	(大正2年)	半 1通	278-3
戸籍訂正届(控) 男爵徳大寺則麿印→宮内大臣殿	(大正2年)	半 1通	278-4
〔履歴書并添状控〕 徳大寺則麿印→宮内大臣伯爵渡辺千秋殿	(大正2年)	半 1通	278-5
印鑑証明願(控) 徳大寺則麿印→南多摩郡千駄ヶ谷町長井田忠信殿	(大正2年)	半 1通	278-6
加入申込届(控) 徳大寺則麿(印)→華族会館長公爵徳川家達殿	大正2年11月19日	半 1通	278-9
辞令写(授男爵) 天皇御璽	(大正2年)	切 1通	278-11
○実厚縁組			
実厚様御慶事筆記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	大正2年5月	半罫 1冊	251
口上手控(祝儀進物届状) 相良頼紹様・同中子様使	大正5年11月10日	切 1通	294-2
〔封筒〕 松平家家扶→徳大寺実則様御家扶御中	(大正5)11月28日	封筒 1通	294-1-0
〔封筒〕 松平家家扶書状(諸費用に付申述) 松平家石丸嶋永→徳大寺様御内中山邦太郎様	11月28日	切綴 1通	294-1-1
〔徳大寺実厚・松平米子婚礼綴〕	(大正5年)	綴 1冊(13点)	294-3
○実則葬儀			
故従一位様薨去御当時御供物及御見舞品控 徳大寺家	大正8年6月	美罫 1冊	264

故従一位様薨去御当時御玉串料控 徳大寺家	大正8年6月	美野 1冊	265
前公爵様百日祭御招待名簿 徳大寺家, 下谷御徒町加藤家12行罫紙	大正8年9月	半罫 1冊	267
○公弘葬儀			
公爵徳大寺公弘薨去ニ関スル葬送記録 徳大寺公爵家, 一部、陸軍13行罫紙	昭和12年1月8日	綴 1冊	274
公弘公薨去通知並弔賻関係書 徳大寺家	昭和12年1月	美 1冊	255
故公爵御葬儀関係証憑綴 徳大寺家	(昭和12年1月)	綴 1冊	266
正二位公弘公御一年祭記 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	昭和13年1月	半罫 1冊	273
○嬉子縁組			
嬉子様御婚儀ニ関スル記録 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	(昭和12年3月)	半罫 1冊	252
○久子葬儀			
故徳大寺久子様御葬送記録 宮内省朱色13行罫紙	昭和16年	半罫 1冊	257
○祭礼			
祭典録 徳大寺家10行罫紙	明治13年(～22年)	半罫 1冊	158
万覚帳(進物授受記録) 徳大寺家10行罫紙	(明治31年～37年)	半罫 1冊	226
○諸道具書付			
御長掉入御道具目録(茶・香・甲号・乙号・戌号長棹)	明治25年5月改調	半 1綴	276-1
〔書籍目録〕(1～64号箱)		半 1綴	276-2
〔道具目録〕(乙1～80号箱)		半 1綴	276-3
〔16号長棹道具目録〕		切 1通	276-4
〔4号長棹書画目録〕		切継 1通	276-5
記(諸道具目録)		切継 1通	276-6
記(諸道具目録)	明治26年1月11日	切継 1通	276-7
〔文書目録〕 後欠カ		切 1通	276-8
記〔諸道具目録〕		切 1通	276-9
〔諸道具目録〕(第3号長棹)		切継 1通	276-10
〔黒塗御長棹第壹号目録〕		横半 1冊	501
〔目録草案〕		半 3通	502
〔書画目録〕		切継 1通	624
〔乙五号御長棹入書画目録〕		切継 1通	625

壽(諸品御見積書) 黒江屋漆器店(印)→徳大寺家様	昭和11年12月吉日	半野 1冊	480
記(諸品目録) (鷹司)		半 1冊	481

## 2-3-8. 諸願・諸届・諸伺

戸籍謄本写学校諸願書届扣綴込 徳大寺家	明治34年12月(明治25年～大正8年)	綴 1冊	23
諸願届 公爵徳大寺家	大正8年6月(～昭和15年迄)	綴 1冊	197
要々書類 徳大寺家家扶	大正11年5月(～昭和16年3月)	綴(183点) 1冊	292
[諸届并願状控]	(明治12年～25年)	綴(165点) 1冊	283
御家流花道家元相統之儀二付請願 兵庫県播磨国揖西郡龍野町東雲齊相統人圓尾慎太郎他2名連印→徳大寺公御家令中殿, 天保7・天保10・安政2年免状写あり	明治27年6月17日	美大 1冊	217

## 2-3-9. 雇用人書類

僕婢戸籍記	明治19年12月調	半 1冊	25
傭人員増減届扣	明治32年12月(～大正1年迄)	綴 1冊	26
雇人関係書類(戸籍簿・身元保証書綴) 徳大寺家表詰所	大正11年5月起(昭和16年迄)	綴 1冊	24
雇人名簿 徳大寺家	昭和4年1月～(昭和15年迄)	半 1冊	27
表奥月給受取綴 徳大寺家, 徳大寺家10行罫紙	(明治41年1月～45年7月)	綴(半罫) 1冊	291-1
表奥月給受取綴 徳大寺家10行罫紙 一部, 徳大寺家黒色10行罫紙	(大正元年8月～8年5月)	半罫 1冊	291-2

## 2-4. 会計方

## 2-4-1. 借地・借家・土地関係書類

神田貸地代金領収元簿 徳大寺家	明治25年8月(～28年)	美 1冊	198
[委任状・土地売渡証書控綴](千駄ヶ谷字向山496-1) 付箋「貸家敷地以外土地用委任状御扣」	(大正15年7月20日)	綴(5丁) 1冊	504
[委任状・土地売渡証書控綴](千駄ヶ谷字宮下516-1) 付箋「貸家敷地以外土地用委任状御扣」	(大正15年7月20日)	綴 1冊	505-1
[委任状・土地売渡証書控綴](千駄ヶ谷字宮下511-2) 公爵徳大寺公弘	(大正15年7月20日)	綴 1冊	505-2
[委任状・土地売渡証書控綴](千駄ヶ谷字向山498) 公爵徳大寺公弘, 付箋「御住宅用委任状」	(大正15年7月20日)	綴 1冊	505-3

御長舎坪数諸届并戸数割付ニ付必用書留・明治十七年 改御邸内惣人員簿 徳大寺家、表紙「徳大寺家印」あり	(明治13年～17年)	半 1綴(2冊)	209
〔袋〕 上書「御貸家証書入」		31.0×22.0 1通	156-0
土地賃貸契約証書 印刷、未使用		美 6通	156-1
〔袋〕 貸屋敷金領収之証 印刷、未使用		28.0×19.8 10通	156-2
建物賃借契約証書 印刷、未使用		美 4通	156-3
請取之証(通帳) 印刷、未使用		33.3×24.3 1通	156-4

## 2-4-2. 普請関係書類

○千駄ヶ谷邸			
〔袋〕 上書「千駄ヶ谷御本邸内若殿様御殿増築及ヒ修繕 并ニ同御門外貸家新築工事諸積り書其他電燈工事機具類 取付個所図面共外ニ地鎮祭并ニ上棟式ノ節書付入」	明治45年4月～大正元 年9月	袋 1通	279-0
〔南御殿建仁寺垣見積書一式〕		半 13通	279-1
下水見積控之控 花井鉄五郎→徳大寺家様	3月30日	半継 2通	279-2
〔かこみ板図〕		切 3通	279-3
記(御影石代請求書) 大工万吉→徳大寺御掛計様、墨引抹消あり	6月	切 1通	279-4
〔床ノ間寸法書付〕		切 3通	279-5
千駄ヶ谷町新築貸家外囲半板塀仕様見積書 岡田金太郎(印)→徳大寺家御役所御中	明治44年6月7日	半野 1冊	279-6
千駄ヶ谷御本邸御門外御貸家新築工事仕様見積書 岡田金太郎(印)→徳大寺家御役所御中	明治44年6月	半野 1冊	279-7
〔封筒〕 上書「見積書及領収書在中」 岡田金太郎→徳大寺家御役所御中、封筒のみ	6月20日	封筒 1通	279-8
見積書 〔袋〕 福島政二郎(印)→上様		半野 1冊	279-9
内訳明細見積り書・旧御家屋根接模様替見積り書 大工職中川万吉(印)		半野 1綴(2冊)	279-10
大工職中川万吉御請負之積り其外御費用(控)	6月20日調	切 1通	279-11
大工職請負中川万吉之分御積り外御模様替御入費其他 別紙之通り		切 1通	279-12
御積書 桶政(印)→徳大寺様御中	(6月9日～8月27日)	半 6通	279-13
千駄ヶ谷御本邸外新築貸家式戸建式棟仕様見積書 岡田金太郎(印)→徳大寺家御役所御中	明治44年6月7日	半野 1冊	279-14
〔千駄ヶ谷御殿引用電灯設計図面他書類一式〕		半・切 7通(封筒 入)	279-15

請求証 大工職中川万吉→徳大寺家御会計御中 ○神田邸	大正元年9月吉日	横半 1冊	279-16
〔袋〕 上書「大正五年菊印様御住居御増築其他御模様替之 ヶ所等ニ付諸積り書及ヒ地鎮祭并ニ上棟ノ節諸書類入」		袋(24.2×29.0) 1通	280-0
〔袋〕 〔棟上ヶの節入用減願控〕		切継 1通	280-1
〔袋〕 〔地鎮祭・上棟式之節扣〕	大正5年5月	横半半 1冊	280-2
〔封筒〕 上書「御見積書在中」 でんきや来商会(千駄ヶ谷町)→		封筒 1通	281-1-0
〔封筒〕 〔領収書・請求書綴〕 来商会→徳大寺家	大正5年	綴(13通) 1冊	281-1-1
〔封筒〕 上書「大正四年台所廻り絵図」 →亀印様	(大正4年)	封筒 1通	281-2-0
〔南新御殿垣見積并絵図綴〕 花井鉄太郎→徳大寺家	(大正5年10月)	綴 1冊(7通)	281-2-1
御表門及板塀漬り書 付絵図 大工職中川万吉(印)→徳大寺家掛計御中様	大正5年10月吉日	横半 1冊	281-3-1
御玄関脇(見積書)		横半 1冊	281-3-2
御供持・外雪隠及物置建増積り書 大工職中川万吉→御掛計様	大正5年9月吉日	横半 1冊	281-3-3
〔間取図〕		23.3×55.5 1通	281-4
〔間取図并見積書綴〕		綴 1冊(3通)	281-5
〔間取図綴〕 福島紋次郎→徳大寺様	10月5日	綴 1冊(4通)	281-6
〔絵図面〕		半 2通	281-7
〔間取図図〕		方眼用紙 1通	281-8
記(見積書) 大工職中川万吉→御掛計様		切継 1通	281-9
見積書 付、御地面内盛土見積仕様書・徳大寺家新道 及空堀埋土工見積書 佐藤亀次郎(印)→中川万吉様 中川万吉→御掛計様	大正5年7月～9月15日	綴 1冊	281-10
御建増壱ト棟漬り書・御納戸式夕棟積り書・御模様替 押入建出シ漬り書・絵図(綴) 大工職中川万吉→徳大寺家御掛計御中様	大正5年2月吉日	綴 1冊	281-11
〔本邸塀平面図〕 青焼き		53.5×79.5 1舗	363
電燈会社移転願 神田区錦町一丁目拾四番地地主竹井静印ほか25名	明治25年4月	美 1冊	272
御馬車御修繕御積り書上 池田増次郎(印)→徳大寺様御中	明治25年11月17日	半野 1冊	282
○渋谷邸			
渋谷本邸建築ニ関スル書類 徳大寺家、公弘本邸	昭和2年7月(～4年)	綴 1冊	159
徳大寺公爵邸新築配置図(下渋谷)		54.8×78.4 1舗	160-1

青焼き			
排水工事平面図 青焼き		61.5×99.0 1舗	160-2
渋谷区若木町拾五番地実測図(総面積2,357坪2合1勺、縮尺120分の1図) 湯川測量工務所、青焼き	昭和13年7月	92.8×107.3 1舗	160-3
排水工事平面図 青焼き		61.0×99.2 1舗	160-4
徳大寺邸排水工事水道工事平面図 青焼き		60.3×93.4 1舗	160-5
排水工事平面図 青焼き		61.3×99.0 1舗	160-6
徳大寺邸配置図 青焼き、切取部分あり		58.3×68.3 1舗	160-7
徳大寺邸排水工事水道工事平面図 青焼き		60.3×93.8 1舗	160-8
渋谷区若木町拾五番地実測図(総面積2,358坪7合8勺、縮尺120分の1図) 湯川測量工務所、青焼き、「昭和十四年七月修正ス」とあり		94.7×110.2 1舗	160-9
〔配電図〕 大阪電気商会大阪暖房商会東京支店、青焼き 「新設電燈七拾六燈コンセントプラグ參燈」		53.7×78.6 1舗	160-10

## 2-4-3. 諸経費書類

威麿様御召		切 1通	347-1
領収之証(学費領収証) 明治法律学校会計局(印)→徳大寺威麿殿	明治25年6月3日	切 1通	347-2
領収之証(学費領収証) 明治法律学校会計局(印)→徳大寺威麿殿	明治25年6月3日	切 1通	347-3
〔日本鉄道会社第五回株式募集要綱〕 日本鉄道会社、印刷	明治25年6月	半 2通	347-4
〔借地証用紙〕 印刷 未使用		半 1冊(3丁)	347-5
薬子様御縁組御用品支払下附 徳大寺家表	明治31年3月～(11月)	横半 1冊	285
三十八年度常用部歳入歳出予算比較説明書 内歳頭男爵渡辺千秋→宮内大臣子爵田中光顕殿	明治37年1月15日	美 1冊	483
御洋行御支度費留	明治20年9月	横半 1冊	286
新調御注文控		横半 1冊	287
記(諸品数書付)		横半 1冊	288
記(品代請取証) 大黒(印)→上	8月20日	切 1通	364
〔包紙〕 上書「口上」 包紙のみ		横半 1冊	365

〔包紙〕 包紙のみ		美 1通	367
〔封筒〕 上書「必要請取書類」 封筒のみ		豎 1通	476
○千駄ヶ谷邸			
〔袋〕 上書「上書千駄ヶ谷御別邸用書類入 其一」		封筒 1通	199-0
〔封筒〕 上書「領収証在中」 野崎来蔵→徳大寺殿御家扶御中、「宮内省」印あり		袋 1通	199-2-0
〔封筒〕 〔朱主馬寮庶務書状〕（酒肴料受領の返答） 主馬寮庶務課（印）→野崎来蔵殿	2月12日	封筒 1通	199-2-1
領証 主馬寮（印）→野崎侍従属殿	2月13日	切 1通	199-2-2
〔封筒〕 木子清敬→伏田富久太郎様（内大臣官舎），岡本政広持参	1月11日	封筒 1通	199-3-0
〔封筒〕 〔木子清敬書状〕（別邸留守居採用の件） 木子清敬→伏田富久太郎様	1月11日	切継 1通	199-3-1
〔別記〕（羽根多七略歴）		切 1通	199-3-2
〔封筒〕 千駄ヶ谷村八幡神社内浅井嘉基→麴町区徳大寺家御内伏田富久太郎殿		封筒 1通	199-4-0
〔封筒〕 〔浅井嘉基書状〕（謝儀の礼状） 浅井嘉基→伏田様	7月15日	切継 1通	199-4-1
証（謝儀・酒肴料の受領証） 牛込築土神社社掌多湖全印・同赤城神社社掌船戸鑿吾印→徳大寺侯爵殿御家扶中	明治31年7月1日	半 1通	199-4-2
記（謝儀受領証） 千駄ヶ谷八幡神社社掌浅井嘉基（印）→徳大寺家御祭典御掛中様	明治31年7月1日	切 1通	199-4-3
〔封筒〕 上書「千駄ヶ谷御別荘収入并ニ地租村税等書類入」		封筒 1通	199-15-0
〔封筒〕 千駄ヶ谷別邸より一ケ年間の収入高・千駄ヶ谷及代々幡村諸税 鷹司家緑色12行罫紙		半罫 1綴（2通）	199-15-1
〔封筒〕 大野清次郎→滋賀様	7月8日	封筒 1通	199-21-0
〔封筒〕 〔地所坪数書付〕 前欠カ		切継 1通	199-21-1
〔封筒〕 鷹司家伊藤重三郎→徳大寺様御家扶御中		封筒 1通	199-24-0
〔封筒〕 〔伊藤重三郎書状〕（登記委細承知） 伊藤重三郎→滋賀重身様	10月12日	切継 1通	199-24-1
記（草刈人足書付） 「那須」印あり	（7月11日～8月3日）	半横折 1通	199-25
〔伊藤重三郎書状〕（登記書類調中） 伊藤重三郎→徳大寺様御家扶御中	2月15日	切継 1通	199-30
〔拝借人田畑坪数書付〕（中村千代松・内山栄七郎分）		切 1通	199-34

(巻込)	記(別邸田畑拝借坪付) 別邸内那須磯吉→御役所御中		半 1通	199-36
	〔向坂坪付図〕	(明治34年)	70.0×64.5 1舗	199-22
	上申書(草案) 売主鷹司熙通代人伊藤重三郎・買主徳大寺実則代人滋賀重身→麴町区才判所内藤新宿出張所御中	明治27年2月17日	半 1冊	199-12-1
	委任状(代理委任状控) 侯爵徳大寺実則	明治26年12月26日	半 1通	199-12-2
	地所建物売買二付登記願 売主鷹司熙通代人伊藤重三郎(印)・買主徳大寺実則代人滋賀重身(印)	明治26年12月26日	半 1通	199-12-3
	〔別邸寄留者氏名書付〕(戸主那須磯吉) 鷹司家緑色12行野紙		半野 1通	199-12-4
	建物売買二付御届 売主鷹司熙通代人伊藤重三郎○・買主徳大寺実則代人滋賀重身○→麴町区才判所内藤新宿出張所御中	明治26年12月26日	半 1冊	199-12-5
	蓋石架設御費用積書 森野雲三郎(印)		半野 1冊	199-12-6
	〔借用人畑坪付図〕		美 1通	199-23-1
	約定証(案文)(邸地譲渡) 徳一印→鷹一殿	明治26年12月29日	半 1通	199-23-2
	芝畑坪数書 千駄ヶ谷別邸那須磯吉(印)→御本邸御役所御中		半 1通	199-23-3
	〔証書表書写〕		半 1通	199-23-4
	地所売渡証(案文) 公爵徳川家達代理酒井忠恕→侯爵徳大寺実則殿(神田区錦町1-2)	明治28年10月1日	半 1通	199-23-5
	御積書(千駄ヶ谷御殿二階屋根張) 平山金三郎(印)→徳大寺様御役所御中	明治34年6月28日	半野 1冊	199-23-6
	千駄ヶ谷御別館井戸御入費積り 木下近次郎(印)→徳大寺様御中	明治33年8月3日	半野 1通	199-23-7
	拝借地之証(畑地拝借証文) 拝借人中村千代松(印)・証人中村小一郎(印)→徳大寺家御家扶御中	明治27年1月17日	美継 1通	199-26
	拝借地之証(田地拝借証文) 中村千代松(印)・中村小一郎(印)→徳大寺家御家扶御中	明治27年1月17日	美 1通	199-27
	記(地代書付) 御別邸那須磯吉→御本邸御役所御中	明治27年8月31日	半 1通	199-37
(封筒)	〔封筒〕 上書「千駄ヶ谷徳川家地所御買得二付書類入」 「本証類御手許へ上ル」	明治28年10月1日	切 1通	199-10-0
	〔千駄ヶ谷村畑地坪数書付〕		切 1通	199-10-1
	〔徳川家地所千駄ヶ谷村畑地坪数書付〕		切継 1通	199-10-2
	〔代々幡村諸税書付〕		切継 1通	199-10-3
	代々幡村土地台写		切 1通	199-10-4
	〔千駄ヶ谷村土地台帳謄本写〕		半 1通	199-10-5

	土地台帳謄本(千駄ヶ谷・代々幡村) 東京府収税属橘薫(公印)	明治26年12月27日	切 18通	199-10-6
	徳大寺家御持地(略図)		半 1枚	199-10-7
(袋)	借地ノ証 借地人川本金太郎(印)・保証人中村千代松(印)→鷹司家御家扶御中	明治24年7月	美 1通	199-11-1
	借地之証 小作人中村千代松(印)・受人川本平三郎(印)→鷹司家御家扶御中	明治23年3月	美 1通	199-11-2
(綴)	借地之証 高橋庄蔵印・高橋半次郎(印)→鷹司家御家扶御中	明治23年9月20日	美 1通	199-11-3
	借地之証 借主内山栄七郎(印)・証人鈴木平次郎(印)→鷹司家御家扶御中	明治23年6月28日	美 1通	199-11-4
	借地之証 借地人師岡平次郎(印)・保証人川島万助(印)→鷹司家御家扶御中	明治23年9月7日	美 1通	199-11-5
	借地之証 借地人川本金太郎(印)・保証人川本平三郎(印)→鷹司家御家扶御中	明治23年3月	美 1通	199-11-6
	借地之証 借地人川本金太郎(印)・保証人川本平三郎(印)→鷹司家御家扶御中	明治20年3月	美 1通	199-11-7
	〔福島勘太郎書状〕(屋根工事明日より着工) 福島勘太郎(麴町)→徳大寺様御役所宛	(明治)30年8月14日	切継 1通(包紙入)	199-1
	〔封筒〕 侍従職野崎来作→徳大寺家々扶物加波殿		封筒 1通	199-5-0
	〔野崎来蔵書状〕(測量の件伝達) 来蔵→徳大寺家御家扶御中	1月12日	切 1通	199-5-1
(封筒)	〔大木真輔書状〕(徳大寺家邸地測量日程) 大木真輔→野崎先生尊下	1月12日	切継 1通	199-5-2
	〔滋賀重身書状〕(測量日程不都合に付一考) 重身→清次郎殿		切継 1通	199-5-3
	〔某書状下書〕(測量図・経費等の取り計らいの件)		切継 1通	199-5-4
	〔覚書〕(工事用品調達)		切 1通	199-6
(封筒)	〔封筒〕 木子清敬→徳大寺殿御内伏田富久太郎様	8月10日	封筒 1通	199-7-0
	〔木子清敬書状〕(別邸建物修復必要箇所の報知) 木子清敬→伏田富久太郎様玉机下	8月10日	切継 1通	199-7-1
	〔風呂釜配置図〕		切 3枚	199-8
(巻)	〔地所測量境界用杭見積書〕		切 1通	199-14-1
	見積り書(地境石票見積書) 鏑木銀次郎印→徳大寺家御役所御中		半野 1通	199-14-2
(綴)	土管埋立工事費用		切 1通	199-16-1
	千駄ヶ谷御本邸道路修繕并ニ土管伏込方共御入費積書 徳大寺家10行野紙		半野 1冊	199-16-2

〔道路図〕			半 2枚	199-18
記(竹嶋・勝田石碑工事見積書) 吉川喜六(印)→徳大寺様御執事御中		4月23日	半 1通	199-29
〔工事費書付〕			切 2通	199-35-1
記(工事費書付)			切 1通	199-35-2
〔所有地所得金調書〕		明治26年4月調	切 1通	199-35-3
〔巻込〕	記(新規井戸堀大工事費見積書) 義村安造→徳大寺御殿御役所様		半 1通	199-35-4
	千駄ヶ谷御邸内御修繕積り書 福嶋勘次郎(印)→徳大寺様御中	2月29日	半罫 1通	199-35-5
千駄ヶ谷御邸内下男部屋雪隠の屋根下地取替御入費積 福嶋勘次郎→徳大寺様執事御中			半罫 1通	199-35-6
見積書(錦町下水修繕) 付、図 橋本磯右衛門(印)→大久保差配所御中		明治31年7月28日	半・切 2通	199-28
〔巻込〕	見積森 義村安造桶屋(印)→上様		半 1通	199-13-1
	記(桶新規製造見積書) 木下金次郎(印)→徳大寺様御用	明治33年10月18日	半 1通	199-13-2
〔封筒〕 上書「御見積り要中」 福嶋勘次郎→徳大寺様御役所御中		(明治)33年4月3日	封筒 1通	199-38-0
記(千駄ヶ谷屋敷工事代金見積書) 福嶋勘次郎(印)→徳大寺様御役所御中		明治33年4月3日	半罫 5通	199-38-1
〔封筒〕	〔福嶋勘次郎添状〕(別紙願上) 福嶋勘次郎(印)→徳大寺様御役所御中	4月3日	切 1通	199-38-2
	別紙拝願書 牛込要三→徳大寺家会計掛御中様		半罫 1通	199-38-3
記(流台見積并絵図) 「福嶋」印			美 1通	199-38-4
〔巻込〕	約定書 付、御縁側下雨落縁石其他御積り書・御別邸 御玄関塙キ御出来方積り書 鍋木銀次郎(印)→徳大寺家御役所御中	明治33年8月7日	半罫 1綴(3通)	199-20-1
	御積り書(屏風修繕代) 遠藤三右衛門(印)→徳大寺様御中	明治33年8月24日	半罫 1通	199-20-2
千駄ヶ谷御殿暴風被損御入費積書 福嶋勘次郎→徳大寺様執事御中		9月30日	半罫 1通	199-20-3
千駄ヶ谷御殿御台所藤井戸壺ヶ所・井戸堀御入費積り 木下金次郎(印)→徳大寺様御用、紫色10行罫紙		明治33年8月9日	半罫 1通	199-33
徳大寺千駄ヶ谷御邸道路修繕并ニ土管伏方共御入費積 書 砂崎庄次郎(印)→徳大寺御邸御役所御中		明治34年11月27日	半罫 1冊	199-17
積書(屋根取付代) 建築板金工事受負所井上與吉→徳大寺様御中		(明治)34年10月25日	切継 1通	199-31
見積り書(千駄ヶ谷御殿二階柿葺屋根取付代) 森喜三郎(印)→徳大寺様御役所御中		明治34年7月11日	半罫 1冊	199-32
千駄ヶ谷御別邸御畳表替及出表裏返し使イ刺立方御入 費積り書		明治35年5月	半 1通	199-19-1

(巻込)	中村万吉(印)→徳大寺様会計局御中			
	〔棟上祝儀諸経費書付〕		切継 1通	199-19-2
〔封筒〕	〔大久保忠義書状〕(地代上納代人派遣) 大久保忠義→御用達所御結合御中	3月14日	切 1通	199-19-3
	徳大寺家井水検査成績 宮内省茶色13行罫紙		美罫 1通	199-19-4
〔封筒〕	上書「千駄ヶ谷邸工事見積り書及神田所有地下 水工事見積り在中」		封筒 1通	199-9-0
	記(千駄ヶ谷御殿修復費見積) 木村清太郎→徳大寺様御役所	(明治)38年9月	半罫 1通	199-9-1
〔封筒〕	記(千駄ヶ谷御殿修復必要資材書上) 木村清太郎→徳大寺様御役所	(明治)38年9月	半罫 1通	199-9-2
	記(大麦・草・藁等納品書) 北多摩郡千歳村杉田七五郎(印)→徳大寺家会計掛御中	明治38年11月15日	半 1通	199-9-3
〔封筒〕	記(畳表代書上) 中村万吉→徳大寺様御会計御中	明治39年6月日	半罫 1通	199-9-4
	見積書(井戸・物置床修復) 岡田金太郎(印)→徳大寺家御役所御中様	明治39年6月6日	半罫 1通	199-9-5
〔封筒〕	御長屋三棟年子板新き見積書 岡田金太郎(印)→徳大寺家御役所御中様	明治39年6月6日	半罫 1通	199-9-6
	千駄ヶ谷村御本邸御長家修繕見積書 岡田金太郎→徳大寺家御役所御中様	5月20日	半罫 1冊	199-9-7
〔封筒〕	土管及トタン引用仕様 岡田金太郎(印)→徳大寺家御役所御中	明治39年5月2日	半罫 1通	199-9-8
	千駄ヶ谷御別邸修繕仕様見積書 岡田金太郎→徳大寺家御役所御中	明治39年4月26日	半罫 1冊	199-9-9
〔封筒〕	請求書(家根瓦修復費用) 木村清太郎→徳大寺様御中	(明治)38年10月28日	半罫 1通	199-9-10
	御殿廊下雨戸入取附積書 岡田金太郎→徳大寺様御役所御中	明治38年9月28日	半罫 1通	199-9-11
〔綴〕	記(千駄ヶ谷別邸旧御殿渡り廊下修復費) 増田久五郎→徳大寺様御役所御中	8月	半罫 1通	199-9-12-1
	記(千駄ヶ谷別邸新御殿台所修復費) 増田久五郎→徳大寺様御役所御中	8月	半罫 1通	199-9-12-2
〔封筒〕	記(千駄ヶ谷旧御殿柿葺屋根修復費他領収証) 家根職宮野兼(印)・代木村清太郎→徳大寺様御役所	(明治)38年8月日	半罫 1通	199-9-13
	門番所台所土台直シ見積書 岡田金太郎→徳大寺様御役所中	(明治)38年8月6日	半 1通	199-9-14
〔封筒〕	御台所直シ見積書 岡田金太郎→徳大寺様御役所中	(明治)38年8月6日	半 1通	199-9-15
	井戸家根流シ板張替見積書 岡田金太郎→徳大寺様御役所中	(明治)38年8月6日	半 1通	199-9-16
〔封筒〕	板塀見積書 岡田金太郎印→徳大寺様御役所中様	(明治)38年7月23日	半罫 1通	199-9-17

## 2-4-4. 領収証綴

〔領収書綴〕(他諸工事目録1点、鈴木公鹿墓誌銘事、 明治廿五年九月新潟県願主高頭忠造) 元吉芳蔵→徳大寺様御役所御中	(明治カ)25年7月	半・野 1冊	482
〔領収証綴〕	(明治30年4月分)	1綴(20点)	490
〔領収証綴〕	(5月分)	1綴(12点)	491
〔領収証綴〕	(明治30年6月分カ)	1綴(14点)	488
〔領収証綴〕	(7月分)	1綴(15点)	489
〔領収証綴〕	(明治30年)	1綴(27点)	303
〔領収証綴〕	(明治31年7月分カ)	1綴(10点)	487
〔領収証綴〕	(明治39年8月分)	1綴(18点)	492
〔領収証綴〕	明治44年1月分	1綴(24点)	507
〔領収証綴〕	明治44年2月分カ	1綴(32点)	494
〔領収証綴〕	(明治44年3月分)	1綴(38点)	508
〔領収証綴〕	明治44年4月分	1綴(26点)	509
〔領収証綴〕	5月分	1綴(26点)	510
〔領収証綴〕	(明治)44年5月分	1綴(17点)	499
〔領収証綴〕	(明治)44年6月分	1綴(18点)	498
〔領収証綴〕	(明治44年7月分)	1綴(32点)	486
〔領収証綴〕	(明治)44年8月分	1綴(23点)	500
〔領収証綴〕	明治44年9月分	1綴(21点)	495
〔領収証綴〕	明治44年10月分	1綴(26点)	493
〔領収証綴〕	大正5年12月	1綴(7点)	511-1
〔領収証綴〕	大正5年12月	1綴(7点)	511-2
〔領収証綴〕	大正5年12月	1綴(5点)	511-3
〔領収証綴〕	(昭和11年5月分)	1綴(45点)	506
昭和十二年一月四日御葬儀御供物届票綴 参考 徳大寺家	昭和12年1月4日	半 1綴(66点)	415
昭和十二年一月領収証綴 徳大寺家, 結い付袋(86点)	昭和12年1月	半 1綴(152点)	414
昭和十二年拾月分領収証綴 徳大寺家	昭和12年10月	半 1綴(120点)	425
昭和十二年二月分領収証綴 徳大寺家	昭和12年2月	半 1綴(180点)	416
昭和十二年三月分領収証綴 徳大寺家	昭和12年3月	半 1綴(148点)	417
昭和十二年四月分領収証綴	昭和12年4月	半 1綴(165点)	418

徳大寺家			
昭和十二年五月分領収証綴 徳大寺家	昭和12年5月	半 1綴(147点)	419
昭和十二年六月分領収証綴 徳大寺家	昭和12年6月	半 1綴(148点)	420
昭和十二年七月分領収証綴 徳大寺家	昭和12年7月	半 1綴(143点)	421
昭和十二年八月分領収証綴 徳大寺家	昭和12年8月	半 1綴(88点)	423
昭和十二年九月分領収証綴 徳大寺家	昭和12年9月	半 1綴(117点)	424
昭和十二年十一月分領収証綴 徳大寺家	昭和12年11月	半 1綴(124点)	426
昭和十二年十二月分綴 徳大寺家	昭和12年12月	半 1綴(126点)	427
昭和十三年一月分領収証綴 徳大寺家	昭和13年1月	半 1綴(96点)	428
昭和十三年二月分領収証綴 徳大寺家	昭和13年2月	半 1綴(75点)	429
昭和十三年三月分領収証綴 徳大寺家	昭和13年3月	半 1綴(92点)	430
昭和十三年四月分領収証綴 徳大寺家	昭和13年4月	半 1綴(82点)	431
昭和十三年五月分領収証綴 徳大寺家	昭和13年5月	半 1綴(93点)	432
昭和十三年六月分領収証綴 徳大寺家	昭和13年6月	半 1綴(79点)	433
昭和十三年七月分領収証綴 徳大寺家	昭和13年7月	半 1綴(110点)	434
昭和十三年八月分領収証綴 徳大寺家	昭和13年8月	半 1綴(55点)	435
昭和十三年九月分領収証綴 徳大寺家	昭和13年9月	半 1綴(94点)	436
昭和十三年拾月分領収証綴 徳大寺家	昭和13年10月	半 1綴(79点)	437
昭和十三年十一月分領収証綴 徳大寺家	昭和13年11月	半 1綴(40点)	438-1
昭和十三年十一月分証憑綴 徳大寺家	昭和13年11月	半 1綴(56点)	438-2
昭和十三年十二月分領収証綴 徳大寺家	昭和13年12月	半 1綴(156点)	439
昭和十四年二月分領収証綴 徳大寺家	昭和14年2月	半 1綴(78点)	441
昭和十四年三月領収証綴 徳大寺家	昭和14年3月	半 1綴(68点)	442
昭和十四年四月領収証綴	昭和14年4月	半 1綴(75点)	443

徳大寺家			
昭和十四年五月領収証綴 徳大寺家	昭和14年5月	半 1綴(97点)	444
昭和十四年六月領収証綴 徳大寺家	昭和14年6月	半 1綴(151点)	445
昭和十四年七月分領収証綴 徳大寺家	昭和14年7月	半 1綴(159点)	446
昭和十四年八月証憑綴 徳大寺家	昭和14年8月	半 1綴(109点)	447
昭和十四年九月分領収証綴 長谷戸徳大寺家	昭和14年9月	半 1綴(71点)	448
昭和十四年十月分証憑綴 徳大寺家	昭和14年10月	半 1綴(57点)	449
昭和十四年十一分月領収証綴 長谷戸徳大寺家	昭和14年11月	半 1綴(69点)	450
昭和十四年十一月分証憑綴 徳大寺家	昭和14年11月	半 1綴(48点)	451
昭和十四年十二月分領収証 長谷戸徳大寺家	昭和14年12月	半 1綴(65点)	452
十四年第一月分領収証綴 徳大寺家	(昭和)14年1月	半 1綴(106点)	440
昭和十五年一月分領収証 長谷戸徳大寺家	昭和15年1月	半 1綴(46点)	453
昭和十五年二月領収証 徳大寺家	昭和15年2月	半 1綴(53点)	454
昭和十五年三月領収証 徳大寺家	昭和15年3月	半 1綴(63点)	455
昭和十五年四月領収証綴 徳大寺家	昭和15年4月	半 1綴(37点)	456
昭和十五年五月領収証綴 徳大寺家	昭和15年5月	半 1綴(59点)	457
昭和十五年六月領収証綴 徳大寺家	昭和15年6月	半 1綴(41点)	458
昭和十五年七月証憑綴 徳大寺家	昭和15年7月	半 1綴(111点)	459
昭和十五年八月領収証綴 徳大寺家	昭和15年8月	半 1綴(54点)	460
昭和十五年九月領収証綴 徳大寺家	昭和15年9月	半 1綴(59点)	461
昭和十五年十月領収証 徳大寺家	昭和15年10月	半 1綴(41点)	462
昭和十五年十一月領収証綴 徳大寺家	昭和15年11月	半 1綴(38点)	463
昭和十五年十二月領収証綴 徳大寺家	昭和15年12月	半 1綴(70点)	464
昭和十六年一月領収証綴	昭和16年1月	半 1綴(40点)	465

徳大寺家			
昭和十六年二月領収証 徳大寺家	昭和16年2月	半 1綴(36点)	466
昭和十六年三月領収証 徳大寺家	昭和16年3月	半 1綴(42点)	467
昭和十六年四月領収証 徳大寺家	昭和16年4月	半 1綴(38点)	468
昭和十六年五月領収証 徳大寺家	昭和16年5月	半 1綴(37点)	469
昭和十六年六月領収証 徳大寺家	昭和16年6月	半 1綴(61点)	470
昭和十六年七月領収証 徳大寺家	昭和16年7月	半 1綴(48点)	471
昭和十六年八月領収証 徳大寺家	昭和16年8月	半 1綴(41点)	472
昭和十六年九月領収証 徳大寺家	昭和16年9月	半 1綴(38点)	473
昭和十六年十月領収証 徳大寺家	昭和16年10月	半 1綴(50点)	474
昭和十六年十一月領収証 徳大寺家	昭和16年11月	半 1綴(54点)	475
○軽井沢			
〔袋〕 上書「軽井沢御滞在御費用書類」	昭和2年9月	袋 1通	157-0
〔領収証綴〕		綴 1冊(77点)	157-1

## 2.5. 家扶宛一括文書

大きくは、滋賀重身を宛所とするものと島田直次郎を宛所とするものがある。両者の史料群は年代的に重ならないのでそれぞれに細目を立て、宛所の不明なもので年月日の特定できるものは編年順とし、年月日不詳のものは現配列に近い形で配列した。島田の名は、直次郎・直二郎の両方を用いている。家扶日記においても、両方の使用例が確認できる。明治30年(1897)は実則が明治天皇の京都行幸に供奉して徳大寺家京都別邸に滞在中であり、それに随行した京都別邸の島田に宛た本邸家扶伏田富久太郎らの書状がまとまっている。

徳大寺亮子<sup>さやこ</sup>は実則の3男則麿の妻。則麿は東京帝国大学工科を卒業後、三菱株式会社長崎造船所技師として勤め、明治39年に毛利元敏の5女亮子と結婚し、長崎市三菱造船所向島社宅を住所とした。しかし、造船所の給料だけでは生活が苦しく、亮子の書状でも「当地では宴会が多い」と出費の多さを苦にしている。そのため、明治39年より5年間、徳大寺家から毎月送金を受けていた。亮子の書状は、それに対する返礼状がおもな内容である。

○滋賀重身			
〔封筒〕 上書「金子在中」 桜井安定→滋賀重身殿		封筒 1通	607-0
〔桜井安定書状〕(第十五銀行株式譲渡の件) 安定→滋賀重身殿	12月19日	切継 1通	607-1

証(2円領収書) 興風会幹事(印)→徳大寺実則殿	明治18年3月18日	切 1通	607-2
〔恒屋盛庸書状〕(入興之節次第申入) 恒屋盛庸→滋賀重身様	(明治18年)8月20日	切 継 1通(封筒入)	626
〔封筒〕 上書「入社申込刷物在中」 博愛社事務所→徳大寺実則殿		封筒 1通	629-0
〔博愛社事務所送付状〕(入社申込用紙送付) 博愛社事務所(印)→徳大寺実則殿	(明治)19年11月20日	半野 1通	629-1
入社申込書 印刷		切 14通	629-2
記(永田町閑院宮邸地内建物引渡証)、付永田町閑院宮 御邸地内各所締り錠鍵目録 内匠頭堤正誼(公印)→内大臣侯爵徳大寺実則殿、宮内省 茶色13行罫紙	明治24年8月29日	罫 1綴(2通)	641
日本政府電信送達紙(イマカモツトモニツク) ヲヲサカキタハマセンサキヒダカ→ナガタマチトクタイ ジトノカンテイニテシガ	(明治25年)4月14日	切 1通	604
〔荒木正斉書状〕(類焼苦勞) 正斉→滋賀重身殿	(明治)25年4月22日	切 継 1通(封筒入)	614
〔封筒〕 裏書「相良様大坂行旅費返上請取入」 神瀬惟心→滋賀重身様		封筒 1通	636-0
記(隆磨大阪住友家に引越の節、主従4人往復旅費請取 証) 相良頼紹家扶神瀬惟心(印)→徳大寺様御家扶滋賀重身殿	明治25年5月1日	半野 1通	636-1
〔神瀬惟心添状〕(受取証送付通知) 惟心→滋賀様	(明治25年)5月1日	切 1通	636-2
〔封筒〕 羽毛田金兵衛(印)→徳大寺様執事御中		封筒 1通	637-0
〔鑄物値段書〕 羽毛田金兵衛(印)→徳大寺様御掛り御中	明治25年6月23日	半 1通	637-1
〔高千穂家家扶連名書状〕(機嫌伺) (福岡県田川郡彦山村)高千穂宣磨内能美瓢也(印)・入江 良造→徳大寺御家扶滋賀重身殿	(明治25年)8月12日	切 1通(封筒入)	627
〔能美瓢也書状〕(高千穂家負債の件) 高千穂家内能美瓢也(印)→滋賀重身殿	(明治25年)8月18日	切 継 1通(封筒入)	671
〔封筒〕 裏書「神田地所買上請書案」 当番伏田福太郎→滋賀重身殿		封筒 1通	635-0
請書(写)(神田区錦町1丁目2番地買上請書) 徳大寺実則→東京府知事富田鐵之助殿	明治25年8月29日	半 1通	635-1
〔高千穂家家扶連名書状〕(奥様入院費に付銀行借入依 頼) 能美瓢也・入江良造(印)→徳大寺御殿ニテ滋賀重身殿(赤 坂御門内)	(明治25年)9月23日	切 継 1通(封筒入)	616
〔力石八十綱書状〕(依頼一件配慮付礼状) 力石八十綱→滋賀重身殿(永田町、徳大寺様御内)	(明治25年)11月6日	切 継 1通(封筒入)	608
〔若王子遠文書状〕(山科家救助金願) 遠文→徳大寺(実則)殿	(明治25年)11月29日	切 継 1通(封筒入)	615
〔荒木正斎書状〕(借金願) 正斎(上京区岡崎町)→滋賀君(赤坂裏、徳大寺様御家扶)	(明治25年)12月14日	切 継 1通(封筒入)	634

〔封筒〕	〔物加彼懷要書狀〕(旧領地4ヶ村石高反別取調) 物加彼懷要(西京別邸)→滋賀重身殿	(明治)26年1月17日	切継 1通(封筒入)	478
	〔伏田福太郎書狀〕(中院殿金錢授受に付返答) 福太郎→滋賀殿	4月19日	切継 1通	632
	〔伏田福太郎書狀〕(中院家家計救助願) 福太郎→滋賀様	12月27日	切継 1通	619
	〔中院通規書狀〕(請書捺印依頼) 中院→滋賀老兄侍史	12月29日	切 1通	621
	〔封筒断簡〕 中院通規→□賀重身殿(見付内御殿), 上部欠		封筒 1通	622
	〔梨軒生書狀〕(種々取計礼狀) 梨軒生→滋賀老兄	23日	切 1通	609
	〔高千穂宣麿書狀〕(第十五銀行より300円借用) 宣麿→滋賀重身殿	7月22日	切継 1通	605
	〔封筒〕 中院通規→滋賀重身様, 封筒のみ、上部欠	2月23日	封筒 1通	610
	〔高千穂宣麿書狀〕(芳子実家に帰籍の件依頼) 宣麿→滋賀重身殿	12月4日	切継 1通(封筒入)	611
	〔高千穂宣麿書狀〕(耶馬溪名物マキ柿并写真進呈) 宣麿→滋賀重身殿	6月10日	切継 1通	612
	〔伏田福太郎書狀〕(別紙写通認置調印承知願) 福太郎→滋賀賢台貴下	8月28日	切継 1通	613
	〔書付〕(請書の事岩倉家へ面会にて御礼申入)		切 1通	620
	〔梨軒生書狀〕(送金領票回送延引) 梨軒生→滋賀老兄侍史	11日	切継 1通	623
	〔書留封筒〕 上書「金子入」 当番→滋賀様, 封筒のみ		封筒 1通	628
	〔大久保忠義書狀〕(工事費用に付通知) 大久保忠義→滋賀重身様		切 1通(封筒入)	630
	〔諸氏交名〕(松平康在他計13名)		切 1通	631
	〔梨軒生書狀〕(借金願) 梨軒生→滋賀老兄侍史	27日	切継 1通	633
	〔小西有惣書狀〕(寄附金の収証は後送) 有惣→滋賀様侍史	2月21日	切 1通(封筒入)	639
	〔徳大寺実則・滋賀重身書狀草案〕(隆麿帰邸の件) 徳大寺実則→広瀬宰平殿、滋賀重身→広瀬宰平殿		切継 1通(封筒入)	640
	〔能谷某書狀〕(春日神社々務よりの件勘考依頼) 能谷→滋賀幹事殿	1月12日	切 1通	642
	〔荒木高尾書狀〕(機嫌伺い) 荒木高尾→御殿様	11月10日	折 1通(封筒入)	643
〔封筒〕	吉武樗→徳大寺殿御家会様方		封筒 1通	644-0
	〔吉武樗書狀〕(地所買上連合運動の事) 吉武樗→徳大寺殿御家会様方	7月11日	切継 1通	644-1
	〔吉武樗等連署嘆願書案〕(市区改正に付土地買上値段之再考願)		半 1通	644-2

	吉武樗以下連署→東京府知事殿			
	口上(昨夜集会之通願入) 吉武樗→		切 1通	644-3
〔封筒〕	藤野禎事外一名→貴族院議員侯爵徳大寺実則殿	明治25年12月10日	封筒 1通	638-0
	上申書(写)(長野県小倉官林に離宮新設の件願) 長野県信濃国南安雲郡温村六十三番地藤野禎事印・同県 同国同郡同村六十七番地務台量平印→貴族院議員侯爵徳 大寺実則殿	明治25年11月28日	半罫 1冊(2丁)	638-1
	添申書(別紙願依頼) 長野県信濃国南安雲郡温村六十三番地藤野禎事(印)外一 名→貴族院議員侯爵徳大寺実則殿	明治25年12月10日	半罫 1通	638-2
	○島田直次郎			
〔封筒〕	徳大寺家当直→嶋田直二郎殿	(明治30年3月)28日	封筒 1通	655-0
	〔徳大寺家当直書付〕(養子婚姻用買物代払) 徳大寺家当直→徳大寺家別邸嶋田直次郎殿	(明治30年3月28日)	半 1通	655-1
〔封筒〕	伏田富久太郎・富田安敬→嶋田直次郎殿	(明治30年5月8日)	封筒 1通	654-0
	〔伏田富久太郎書状〕(電報文不明再伺) 伏田富久太郎→嶋田兄貴下	(明治30年)5月7日	切継 1通	654-1
〔封筒〕	伏田富久太郎→嶋田直二郎様	(明治30年5月11日)	封筒 1通	667-0
	〔伏田富久太郎書状〕(到着品目録) 富久太郎→嶋田様	(明治30年)5月11日	切継 1通	667-1
〔封筒〕	〔富田安敬書状〕 安敬→直次郎殿	(明治30年5月)12日	切 1通	667-2
	〔封筒〕 徳大寺家執事→嶋田直次郎殿	(明治30年5月24日)	封筒 通	699-0
〔封筒〕	〔徳大寺家当直書状〕(別紙取計依頼、令息麻疹の状態) 当直安敬→直次郎殿	(明治30年)5月24日	切継 1通	699-1
	〔当番添状〕(別紙披露依頼) 当番(伏田富久太郎)→嶋田殿	(明治30年)5月25日	切 1通(封筒入)	700
〔封筒〕	〔伏田富久太郎書状〕(西園寺様病気に付通知) 伏田富久太郎→徳大寺家嶋田直二郎殿	(明治30年)5月27日	切継 1通(封筒 入)	566
	〔伏田富久太郎書状〕(米田侍従殿養母死去) 伏田富久太郎→嶋田様	(明治30年)6月4日	切継 1通(封筒 入)	646
〔封筒〕	〔伏田富久太郎書状〕(中院家家計の件) 伏田富久太郎→嶋田直次郎殿	(明治30年)6月5日	切継 1通(封筒 入)	701
	〔封筒〕 伏田富久太郎→嶋田直二郎殿	(明治30年5月20日)	封筒 1通	648-0
〔封筒〕	〔伏田富久太郎書状〕(19日書面の趣承知) 伏田富久太郎→嶋田様	(明治30年)5月21日	切継 1通	648-1
	〔伏田富久太郎書状〕(中院富有学資の件) 伏田富久太郎→嶋田直二郎殿	(明治30年)6月6日	切継 1通	648-2
	〔某書状〕(新茶製造に付入用の節一報のこと)		切 1通	648-3

〔当番添状〕(別紙披露依頼) 当番→嶋田殿	(明治30年)6月6日	切 1通	648-4
	(明治30年)6月21日	切 1通	648-5
〔伏田富久太郎書状〕(三井銀行利子の件、第十五銀行利益配当の件、中院富有学資増額の件) 伏田富久太郎→嶋田様、書留	(明治30年)6月10日	切継 1通(封筒入)	647
〔伏田富久太郎書状〕(第十五銀行配当金の件) 伏田→嶋田様	(明治30年)6月10日	切 1通(封筒入)	668
〔封筒〕 徳大寺家従→島田直次郎殿	(明治30年)6月17日	封筒 1通	669-0
〔当番添状〕(別紙取計依頼) 当直→直次郎殿	(明治30年)6月17日	切 1通	669-1
〔封筒〕 徳大寺家従→島田直次郎殿	(明治30年)6月18日	切 1通	669-2
〔伏田富久太郎書状〕(神田貸地代納めの件他) 伏田富久太郎→嶋田直二郎殿	6月18日	切継 1通	567-1
〔伏田富久太郎書状〕(近況報告) 伏田富久太郎→嶋田直次郎殿	6月18日	切継 1通	567-2
拝借金年賦返上願(控) 右(中院富寿)貸費保証人侯爵徳大寺実則→爵位局長公爵岩倉具定殿	明治30年6月18日	半 1通	567-3
〔伏田富久太郎書状〕(中院富寿学習院退学願許可の件) 富久太郎→嶋田様	6月18日	切継 1通	568-1
〔書留封筒カ〕 東京徳大寺執事→徳大寺家島田直次郎殿	(明治30年)6月22日	切 1通	568-2
〔徳大寺家執事書状〕(品物送付) 東京徳大寺執事→徳大寺家島田直次郎殿	(明治30年)6月18日	葉書 1通	568-3
〔徳大寺家執事書状〕(羅紗の件) 東京徳大寺執事→徳大寺家島田直次郎殿	(明治30年)6月18日	葉書 1通	568-4
〔伏田富久太郎書状〕(注文白ズボン本日送付) 富久太郎→嶋田殿	(明治30年)6月20日	封筒 1通	649-0
〔伏田富久太郎書状〕(世襲財産第十五銀行に継続) 伏田→嶋田君	(明治30年)6月19日	切継 1通	649-1
〔伏田富久太郎書状〕(世襲財産第十五銀行に継続) 伏田→嶋田君	(明治30年)25日	切継 1通	649-2
〔封筒〕 徳大寺家伏田富久太郎→嶋田直二郎殿、書留	(明治30年)6月22日	封筒 1通	651-0
〔伏田富久太郎書状〕(送金、中院富寿の件、第十五銀行満期、日本鉄道株式送付外) 伏田富久太郎→嶋田様	(明治30年)6月21日	切継 1通	651-1
〔封筒〕 徳大寺家伏田富久太郎→嶋田直二郎殿親展	(明治30年)6月23日	封筒 1通	650-0

〔封筒〕	〔伏田富久太郎書状〕（公弘認印入用の件ニ付返答） 伏田富久太郎→嶋田殿	（明治30年）6月2日	切継 1通	650-1
	〔伏田富久太郎書状〕（中院富寿本日出立） 伏田富久太郎→嶋田様	（明治30年）6月22日	切継 1通	650-2
〔封筒〕	上書「大カバン鍵在中」 東京徳大寺家御留守邸当直→徳大寺家従者島田直二郎殿 （京都）		封筒 1通	672-0
	覚（フロックコート以下送付、省丁へ引渡依頼） 西京徳大寺→東京徳大寺留守邸	5月21日	切継 1通	672-1
	記（フロックコート以下請取状） 伏田富久太郎→嶋田様	5月24日	切継 1通	672-2
	〔伏田富久太郎書状〕（還幸延引、葵子入輿日程、第十五銀行株式の件披露依頼） 伏田富久太郎→嶋田殿	5月24日	切継 1通	672-3
	〔封筒〕 伏田富久太郎→嶋田直二郎殿	（明治30年6月27日）	封筒 1通	672-4-0
〔封筒〕	〔伏田富久太郎書状〕（夏衣類送付） 伏田→嶋田様	（明治30年）6月26日	切 1通	672-4-1
〔封筒〕	〔封筒〕 伏田富久太郎→嶋田直二郎殿	（明治30年5月23日）	封筒 1通	672-5-0
〔封筒〕	〔伏田富久太郎書状〕（第十五銀行営業満期ニ付株券配当金内訳報告） 伏田富久太郎→嶋田直二郎殿	（明治30年）5月22日	切継 1通	672-5-1
	〔伏田富久太郎書状〕（年賦返納の件） 伏田富久太郎（東京徳大寺家）→徳大寺家別荘嶋田直次郎殿（田中村徳大寺家別荘）	（明治30年）6月31日	切継 1通（封筒入）	563
〔封筒〕	徳大寺家執事→徳大寺家島田直次郎殿	（明治30年）7月1日	封筒 1通	673-0
〔封筒〕	〔当直添状〕（葵子書状披露依頼） 当直→直次郎殿	（明治30年）7月1日	切 1通	673-1
	〔徳大寺家執事書状〕（葡萄酒3本送付） 徳大寺家執事→嶋田直次郎殿	（明治30年）7月1日	葉書 1通	673-2
〔封筒〕	徳大寺家執事→島田直次郎殿	（明治30年7月1日）	封筒 1通	674-0
〔封筒〕	〔当直添状〕（公弘願披露依頼） 当直→直次郎殿	（明治30年）7月1日	切 1通	674-1
〔封筒〕	東京徳大寺家伏田富久太郎→嶋田直二郎殿、親展	（明治30年7月8日）	封筒 1通	663-0
	〔伏田富久太郎書状〕（勇吉病状報告） 伏田富久太郎→嶋田殿	（明治30）年7月8日	切継 1通	663-1
〔封筒〕	富田安敬→嶋田直次郎殿	（明治30年7月10日）	封筒 1通	663-2-0
〔封筒〕	〔徳大寺則麿書状〕（堀河淡波川参殿の件一報願） 則麿→嶋田直次郎殿		切 1通	663-2-1
〔封筒〕	伏田富久太郎→嶋田直次郎殿	（明治30年7月9日）	封筒 1通	663-3-0
〔封筒〕	〔伏田富久太郎書状〕（中院様債権一件示談承諾不致） 伏田富久太郎→嶋田殿	（明治30年）7月9日	切継 1通	663-3-1

〔封筒〕 〔封筒〕	〔封筒〕 徳大寺家執事→嶋田直次郎殿	(明治30年7月9日)	封筒 1通	663-4-0
	〔当直書状〕(若奥様の件披露願) 当直→直次郎殿	(明治30年)7月9日	切 1通	663-4-1
〔封筒〕 〔封筒〕	〔封筒〕 徳大寺執事→嶋田直次郎殿	(明治30年7月9日)	封筒 1通	663-5-0
	〔富田安敬書状〕(6月分支払本月より当分見合) 安敬→直次郎殿	(明治30年)7月9日	切継 1通	663-5-1
〔封筒〕 〔封筒〕 〔封筒〕 〔封筒〕	〔封筒〕 伏田富久太郎→嶋田直次郎殿	(明治30年7月11日)	封筒 1通	665-0
	〔伏田富久太郎書状〕(カウスボタンの件) 富久太郎→嶋田様	(明治30年)7月11日	切継 1通	665-1
	〔伏田富久太郎書状〕(下命の件取調) 伏田富久太郎→嶋田直次郎殿	(明治30年)7月12日	葉書 1通	665-2
	小包送票 徳大寺邸→嶋田直二郎	(明治30年7月11日)	切 1通	665-3
〔封筒〕 〔封筒〕 〔封筒〕 〔封筒〕 〔封筒〕 〔封筒〕 〔封筒〕 〔封筒〕 〔封筒〕 〔封筒〕	〔封筒〕 徳大寺家執事→嶋田直次郎殿	(明治30年7月13日)	封筒 1通	664-0
	〔当直書状〕(養子・栄寿院殿の件取計依頼) 当直→直次郎殿	(明治30年)7月13日	切継 1通	664-1
	〔封筒〕 伏田富久太郎書状(中元祝儀頂戴) 伏田富久太郎→嶋田直二郎様	(明治30年7月13日)	封筒 1通	664-2-0
	〔伏田富久太郎書状〕(勇吉病状順快) 富久太郎→嶋田君	(明治30年)7月12日	切継 1通	664-2-1
	〔封筒〕 伏田富久太郎→嶋田直二郎殿	(明治30年)7月12日	切 1通	664-2-2
	〔封筒〕 伏田富久太郎→嶋田直二郎殿	(明治30年7月13日)	封筒 1通	664-3-0
	〔伏田富久太郎書状〕(中院殿陸軍退職恩給金世子君手 許へ差上候) 伏田富久太郎→嶋田様	(明治30年)7月13日	切 1通	664-3-1
	〔伏田富久太郎・富田安敬書状〕(貴兄令息へ預り月給 より支払) 伏田・富田→嶋田君		切 1通	664-3-2
	〔封筒〕 東京徳大寺邸伏田富久太郎→徳大寺家別荘にて嶋田直二 郎殿	(明治30年7月17日)	封筒 1通	564-0
	〔伏田富久太郎書状〕(近況報告) 伏田富久太郎→嶋田賢兄	(明治30年)7月16日	切継 1通	564-1
〔封筒〕 〔封筒〕 〔封筒〕 〔封筒〕 〔封筒〕	〔伏田富久太郎書状〕(給金持参の件) 富久太郎→嶋田殿	(明治30年)7月16日	切 1通	564-2
	〔某書状〕(団扇10本到着披露) 東京徳大寺家結合→別邸嶋田直二郎殿	(明治30年)7月18日	葉書 1通	661
	〔伏田富久太郎書状〕(栄壽院殿近況) 伏田富久太郎→嶋田直次郎殿(京都愛宕郡田中村徳大寺家 御別荘)	(明治30年)7月19日	切 2通(封筒入)	562
	〔伏田富久太郎書状〕(則曆旅費の件) 伏田富久太郎→嶋田直次郎殿	(明治30年)7月21日	切継 1通(封筒 入)	697

〔伏田富久太郎書状〕(近況報告) 富久太郎→嶋田殿	(明治30年)7月22日	切継 1通(封筒入)	698
〔伏田富久太郎書状〕(解雇本日申渡、公弘妻室出京) 伏田富久太郎→嶋田直二郎殿	(明治30年)7月25日	切継 1通(封筒入)	653
〔徳大寺則麿書状〕(18日女子誕生報告) 徳大寺則麿→徳大寺家嶋田直次郎様	(明治40年)12月19日	葉書 1通	534
〔徳大寺亮子書状〕(品物請取礼状) さや子→嶋田様・おその様・おまさ様	(明治41年)1月19日	切継 1通(封筒入)	531
〔徳大寺亮子書状〕(礼状) 長崎東中町徳大寺内→徳大寺家内嶋田直次郎様	(明治41年)10月12日	絵葉書 1通	544
〔徳大寺亮子書状〕(袖代人探し、15円送付依頼) さや子→直次郎様	(明治41年)10月21日	切 3通(封筒入)	540
〔徳大寺亮子書状〕(袖都合次第帰京許可) 徳大寺亮子→徳大寺様御内嶋田様	(明治41年)10月20日	葉書 1通	545
〔徳大寺亮子書状〕(袖代人に付報告) 徳大寺さや子→徳大寺様内嶋田直次郎殿	(明治41年)10月23日	葉書 1通	543
〔徳大寺亮子書状〕(本日午後出立予定通知) 徳大寺亮子→徳大寺家内嶋田直次郎様	(明治41年)10月31日	葉書 1通	536
〔徳大寺亮子書状〕(則麿様名詞200枚送付願状) 亮子→直次郎様	(明治41年)11月28日	半 1通(封筒入)	538
〔徳大寺亮子書状〕(鮭請取礼状) →徳大寺様御奥嶋田直次郎殿	(明治41年)12月11日	葉書 1通	537
〔高千穂宣麿へ貸出物品送付状目録〕	(明治)41年2月14日	切 1通	710
受領書(郵便物受領書 1点、小為替金受領書 3点) (嶋田直次郎→長府毛利家扶中川富五郎宛)	(明治41年)3月	切 4通	528
〔徳大寺亮子書状〕(廻金受取返事) 長崎より→徳大寺家内嶋田直次郎様	(明治41年)4月20日	葉書 1通	535
〔徳大寺亮子書状〕(廻金及小包受取の返事) 東中町徳大寺内→徳大寺様内嶋田直次郎様	(明治41年)6月21日	葉書 1通	533
〔鉄道并兼業買取公債交付額利息書付〕	(明治41年)7月~12月)	切 1通	688
〔柴田袖書状〕(中元祝儀礼状) 袖(徳大寺家内柴田袖子)→(徳大寺様御表ニテ)嶋田直次郎様	(明治41年)8月2日	切継 1通(封筒入)	532
〔徳大寺伊楚子書状〕(為換請取状) 徳大寺伊楚子→徳大寺家嶋田直次郎様	(明治41年)9月1日	葉書 1通	522
〔徳大寺伊楚子書状〕(月謝請取、領収書等送付) 徳大寺伊楚子→徳大寺家嶋田直次郎殿、付、買納品目録 2通、郵便物受領書 1通、小為替金受領書 4通、領収書 1通あり	(明治41年)9月3日	切継 9通(封筒入)	524
〔徳大寺伊楚子書状〕(為替請取、帽子代他支払依頼) 徳大寺伊楚子→徳大寺家嶋田直次郎殿、付請求書	(明治41年)9月8日	切継 2通(封筒入)	523
〔封筒〕 徳大寺さや子→嶋田直次郎様	(明治41年)9月31日	封筒 1通	548-0
〔徳大寺亮子書状〕(20年送付依頼) さや子→直次郎様	(明治41年)10月1日	切 2通	548-1
郵便物受領証 徳大寺家嶋田直次郎→徳大寺亮子	(明治41年)10月6日	切 1通	548-2

〔徳大寺亮子書状〕(下駄受取礼状) 長崎さや子→徳大寺家内島田直次郎様	通常為替金受領証書(20円) 富士見町郵便局→長崎桜町(郵便局)	(明治41年)10月6日	切 1通	548-3
		(明治41年)10月5日	絵葉書 1通	548-4
〔柴田袖書状〕(暇願) 袖→島田直次郎		(明治41年カ)10月15日	切継 1通(封筒入)	539
		(明治41年カ)10月30日	半 2通(封筒入)	560-1
〔徳大寺亮子書状〕(12円送付依頼) さや子→直次郎様		明治41年11月2日	切 1通	560-2
		明治41年11月2日	切 1通	560-3
〔徳大寺亮子書状〕(為替受取礼状) 長崎→徳大寺家御内島田直次郎殿		(明治42年1月20日)	葉書 1通	546
		(明治42年)2月21日	葉書 1通	547
〔徳大寺亮子書状〕(為替受取、鶴子様子報告) 長崎徳大寺→徳大寺様御内島田直次郎様		(明治42年4月)14日	葉書 1通	550
		(明治42年)4月24日	葉書 1通	555
〔徳大寺亮子書状〕(袖の件に付通知) 徳大寺亮子→徳大寺様御内島田直次郎様		(明治42年5月3日)	封筒 1通	694-0
			半 1通	694-1
〔封筒〕 日本鉄道株式会社清算事務所→徳大寺実則殿 明治四十二年四月二十三日株主総会議案 印刷		明治42年5月3日	半 1冊	694-2
		明治42年5月日	綴 1冊	694-3
〔残余財産分配手続通知〕 日本鉄道株式会社清算事務所, 印刷		(明治42年カ)	切 1通	694-4
		(明治42年)5月7日	葉書 1通	556
〔甲種登録国債登録変更請求書・清算勘定残余金領収書・公債端金領収書綴控〕 株主徳大寺実則印→日本鉄道株式会社専務清算人青山幸宜殿		(明治42年)5月14日	葉書 1通	520
		(明治42年)6月7日	半・切 3通(封筒入)	512
〔徳大寺伊楚子書状〕(諸品買求) 徳大寺いそ子→徳大寺家内嶋田直次郎殿, 領収証2点同封		(明治42年6月7日)	葉書 1通	514
		(明治42年)6月21日	葉書 1通	519
〔徳大寺亮子書状〕(聞き合わせの局に付返答) 徳大寺亮子→徳大寺様御内島田直次郎様		(明治42年)7月3日	葉書 1通	518
		(明治42年)7月22日	絵葉書 1通	521
〔徳大寺亮子書状〕(小包請取状) 造船所徳大寺内→徳大寺様御内島田直次郎様		(明治42年)8月12日	葉書 1通	677
〔徳大寺亮子書状〕(請取状) 徳大寺内→徳大寺家内島田直次郎様, 「唐津虹之松原新茶屋熊沢旅館」写真				
〔徳大寺伊楚子書状〕(為替拝受)				

信州伊楚子→嶋田直次郎殿			
〔徳大寺亮子書状〕(為替受取、佃煮送付願) 長崎三菱社宅徳大寺内→徳大寺様御内嶋田直次郎様	(明治42年)8月19日	葉書 1通	561
〔徳大寺伊楚子書状〕(黒崎へ支払依頼) 徳大寺伊楚子→(徳大寺家表)嶋田直次郎殿	(明治42年)8月22日	切継 1通(封筒入)	603
〔封筒〕 軽井沢徳大寺伊楚子→徳大寺家嶋田直次郎殿, 封筒のみ	(明治42年)8月25日	封筒 1通	551
〔徳大寺伊楚子書状〕(為替拝受) 軽井沢伊楚子→嶋田直次郎殿	(明治42年)8月27日	葉書 1通	678
〔徳大寺亮子書状〕(九月分請取礼状) →徳大寺家嶋田直次郎様	(明治42年)9月20日	葉書 1通	571
〔徳大寺亮子書状〕(為替受取、近況伺) →徳大寺家内嶋田直次郎殿	(明治42年)10月21日	葉書 1通	549
電報送達紙 コウジマチ局→トクダイジツネマロ, 文面「タカチヲカ ズマロシスイハイヤメロイサイアトヨリトクダイジ」	(明治42年)11月12日	切 1通	557
〔徳大寺亮子状〕(電報文面不明に付再報願) 徳大寺内→嶋田直次郎殿	(明治42年カ)	切継 1通	558
〔徳大寺兩人書状〕(高千穂和磨死去の香典送付) 徳大寺兩人→直次郎様	(明治42年)11月16日	切継 1通(封筒入)	559
〔徳大寺亮子書状〕(為替小包名詞請取礼状) 亮子→直次郎様	(明治42年)12月21日	切継 1通(封筒入)	542
〔徳大寺亮子書状〕(小包及小為替請取) 東中町徳大寺内→直次郎様	(明治42年)12月31日	半 1通(封筒入)	541
領収証書 裏書「金五十銭絹子なほし代横浜本町二十六番 ミセス ボックス」とあり	(明治42年)	切 1通	570
〔徳大寺亮子書状〕(彬磨、北条家令嬢と縁組の由承知) 亮子→直次郎殿	(明治43年)1月20日	切継 1通(封筒入)	602
〔力石八十綱書状〕(祝品小包披露) 加藤家力石八十綱→徳大寺侯爵御内嶋田直次郎殿	(明治)43年4月4日	葉書 1通	583
〔徳大寺亮子書状〕(三井高縦死去の由承知) (徳大寺さや子)→直次郎様	(明治43年)7月23日	切継 1通(封筒入)	601
〔徳大寺亮子書状〕(鶴子の種痘証送付) 亮子→直次郎様	(明治43年)9月25日	半 1通(封筒入)	600
世襲財産事故届(案) 爵氏名印・親族議員連署同→宮内大臣子爵渡辺千秋殿, 「宮」の透かしあり	明治43年月日	切継 1通	690
世襲財産券面記入取消願(軍事公債元資償還に付記入 取消願) 爵氏名印・親族議員連署同→宮内大臣子爵渡辺千秋殿	明治43年月日	切 1通	695
〔封筒〕 男爵高千穂家旧臣城島時太郎外一同→侯爵徳大寺実則様	(明治43年)10月6日	封筒 1通	684-1-0
〔男爵高千穂家旧臣3名連名書状〕(選挙運動費等負債 の件) 英彦山磐村良繁(印)・城島時太郎・広沢幸二(印)→侯爵 徳大寺実則様御家扶嶋田直次郎様外御中	明治43年10月3日	切継 1通	684-1-1
〔封筒〕	(明治43年)1月14日	封筒 1通	684-2-0

〔封筒〕	高千穂宣麿(渋谷町中渋谷402)→徳大寺家嶋田直次郎殿			
	〔高千穂宣麿書状〕(昨13日彦山より帰京、病中不快) 宣麿→嶋田直次郎殿	1月14日	切継 1通	684-2-1
〔封筒〕	〔領収証〕(学習院遊泳中の費用領収) 高千穂宣麿		切 1通	684-2-2
	〔高千穂和麿書状〕(海水浴費用請取の礼状) 和麿→御祖父様	6月16日	切継 1通	684-2-3
〔封筒〕	〔高千穂家内せつ書状〕(礼状) (高千穂家内)せつ→島田様	(6月17日)	切継 1通(封筒入)	684-2-4
	〔封筒〕 磐邨良繁→徳大寺殿御内嶋田直次郎殿、親展	(明治44年9月11日)	封筒 1通	684-3-0
〔封筒〕	〔英彦山有志惣代5名連名書状〕(男爵難題一件に付願) 英彦山有志惣代磐村良繁(印)・広沢幸二・城島時太郎・ 入江良造・壬寅小大郎→徳大寺殿御内嶋田直次郎様	9月10日	切継 1通	684-3-1
	〔高千穂宣麿書状〕(国元に送金、解決の礼状) 高千穂宣麿→徳大寺家御家扶中	(明治44年)9月13日	切継 1通(封筒入)	684-4
〔封筒〕	〔高千穂宣麿言上書〕(豊前神職高橋久司の奸計による 諸費1400円に付救済願) 宣麿→家蔵公	7月9日	切継 1通(封筒入)	684-5
	〔封筒〕 上書「四十四年中高千穂家負債ニ付嘆願書類」		封筒 1通	684-6-0
〔封筒〕	〔惣代2名連名書状〕(礼状) 惣代広沢幸二・磐村良繁(印)→徳大寺御殿嶋田直次郎殿 外御中		美折 1通(封筒入)	684-6-1
	〔高千穂俊麿書状〕(染筆願) 高千穂俊麿→島田直次郎殿、「高千穂用箋」使用、親展	明治44年11月3日	野 1通(封筒入)	684-7
〔封筒〕	〔封筒〕 住友銀行(大阪)→ <sup>(破損)</sup> □爵徳大寺実則殿		封筒 1通	685
	〔徳大寺亮子書状〕(近況報告) 徳大寺さや子→徳大寺様御内嶋田直次郎様	(明治43年11月12日)	葉書 1通	599
〔封筒〕	〔徳大寺亮子書状〕(莊原好一死去香典送付の件) 三菱社宅徳大寺亮子→徳大寺家御内嶋田直次郎殿	(明治43年)11月21日	葉書 1通	587
	〔徳大寺亮子書状〕(代金請取礼状) 三菱社宅徳大寺内→徳大寺様御内嶋田直次郎様	(明治43年)12月20日	葉書 1通	586
〔封筒〕	〔世襲財産広告費内蔵寮へ納入通知〕 宗秩寮(印)→侯爵徳大寺実則殿、宮内省茶色13行罫紙	明治43年12月27日	美野 1通	708
	納金証書(控) 侯爵徳大寺実則→宗秩寮総裁侯爵久我通久殿	明治43年12月28日	半 1通	712
〔封筒〕	財産目録(控) 所有主従一位侯爵徳大寺実則・親属会議員従三位徳大寺 公弘・同正二位公爵鷹司熙通・同正三位子爵加藤泰秋・ 同従三位子爵阿部正功→宮内大臣子爵渡辺千秋殿(宛名抹 消)	明治43年月日	美 1通	687
	〔世襲財産増加願案〕 徳大寺家10行罫紙		半野 1冊(2丁)	711
〔封筒〕	〔徳大寺亮子書状〕(兩人への御年玉の礼状) 亮子→島田様	(明治44年)1月15日	半 1通(封筒入)	588
	〔徳大寺亮子書状〕(竹島殿11年祭の餅料送付礼状) 亮子→島田様	(明治44年)1月24日	切継 1通(封筒入)	589

〔封筒〕	〔徳大寺亮子書状〕(4月頃の上京断念) 徳大寺亮子→徳大寺家御内島田直次郎様	(明治44年)2月11日	葉書 1通	584
	〔徳大寺亮子書状〕(上京の件断状) 徳大寺内→徳大寺家御内島田直次郎殿	(明治44年)3月16日	葉書 1通	585
〔封筒〕	〔徳大寺亮子書状〕(島津家よりの土産品の礼状) さや子→島田直次郎様	(明治44年)3月27日	切継 1通(封筒入)	590
	〔封筒〕 徳大寺内→徳大寺家御内島田直次郎様	(明治44年)4月25日	封筒 1通	592-0
〔封筒〕	〔徳大寺亮子書状〕(案内状断りの依頼) さや子→直次郎様	(明治44年)4月25日	半 1通	592-1
	〔招待状〕(婚儀御披露) 侯爵徳川圀順・同英子→徳大寺則麿殿・令夫人亮子殿	明治44年4月21日	葉書 1通	592-2
〔封筒〕	〔徳大寺則麿書状〕(電報拝見、仲麿と市役所に届候) なかさき則麿→徳大寺家扶御中	(明治44年)6月26日	葉書 1通	598
	〔徳大寺亮子書状〕(子供の名間違って仲麿と市役所へ届に付詫状) なかさき亮子→徳大寺家島田直次郎殿	(明治44年)6月29日	葉書 1通	597
〔封筒〕	〔徳大寺亮子書状〕(市役所と相談無事に済) 長崎徳大寺→徳大寺家島田直次郎殿	(明治44年)7月4日	葉書 1通	594
	〔徳大寺亮子書状〕(三井よりの小包請取状) なかさき徳大寺→徳大寺家島田直次郎様	(明治44年)7月22日	葉書 1通	595
〔封筒〕	〔封筒〕 三菱社宅徳大寺→島田直次郎様	(明治44年)8月3日	封筒 1通	593-0
	〔徳大寺亮子書状〕(近況報告) さや子→御中様	8月3日	切継 1通	593-1
〔封筒〕	〔徳大寺亮子書状〕(暑中見舞并鶴子歯痛近況) →直次郎様	8月3日	切継 1通	593-2
	〔徳大寺亮子書状〕(佃煮送付依頼) 徳大寺家→徳大寺家島田直次郎様	(明治44年)8月14日	葉書 1通	515
〔封筒〕	〔徳大寺亮子書状〕(佃煮礼状) なかさき徳大寺→徳大寺家島田直次郎様	(明治44年)8月22日)	葉書 1通	513
	〔徳大寺亮子書状〕(島津様よりの小包請取状) 長崎徳大寺→徳大寺家島田直次郎様	(明治44年)8月24日	葉書 1通	596
〔封筒〕	〔徳大寺亮子書状〕(39年より5ヶ年の送金謝辞、以後は遠慮) 亮子→島田様	(明治44カ)12月15日	切継 1通	591
	〔大正2年4月10日中尉様江差出候扣〕(動産・不動産目録)		切 1通	709
〔封筒〕	〔封筒〕 浜口伊蔵(伊勢国)→公爵徳大寺実則様(千駄ヶ谷), 親展	(大正5年)2月22日	封筒 1通	657-0
	〔浜口伊蔵書状〕(上様染筆調頂戴願) 浜口伊蔵→徳大寺実則御邸執事様	大正5年2月22日	切継 1通	657-1
〔封筒〕	〔封筒〕 浜口伊蔵書状(染筆軸装絹送付) 浜口伊蔵→徳大寺様御執事様	大正5年3月6日	切継 1通	657-2
	〔封筒〕 梶川定治(富山)→公爵徳大寺実則殿	(大正5年)9月15日)	封筒 1通	676-0
〔封筒〕	〔梶川定治書状〕(「武士道」染筆願)	(大正5年)9月15日)	半 1通	676-1

封筒	梶川定治(印)→徳大寺実則閣下			
	〔名刺〕(軍隊布教師高野山殉教師・忠勇顕彰会地方委員中邨亮道)	名刺 1通	676-2	
	〔名刺〕(忠勇顕彰会婦人地方委員・洋鉄商中村照子)	名刺 1通	676-3	
	〔坂田広吉書状〕(染筆願) 坂田広吉(印)→徳大寺執事御中	(大正6年)7月21日 切継 1通(封筒入)	676-4	
	〔大僧都増田鳳明等書状〕(漢詩揮毫願) 北海道根室国根室町常惺寺住職大僧都増田鳳明(印)・信徒総代林清治郎(印)・同石正文精(印)・佐々木若松(印)→徳大寺侯爵閣下御執事殿	(大正6年10月)19日 折 1通(封筒入)	676-5	
	〔巖手日報社禿氏岳山書状〕(染筆願) 巖手日報社禿氏岳山→公爵徳大寺実則閣下執事御中	(大正6年)8月11日 切継 1通(封筒入)	676-6	
	〔巖手日報社禿氏岳山書状〕(料絹小包にて送付) 巖手日報社禿氏岳山→公爵徳大寺実則閣下執事御中	(大正6年)8月(7日) 切継 1通(封筒入)	676-7	
	〔藤内章書状〕(染筆願) 藤内章→公爵徳大寺閣下御執事様	(大正6年)11月3日 切継 1通(封筒入)	676-8	
	〔常惺寺住職増田鳳明書状〕(染筆願) 常惺寺増田鳳明→徳大寺家執事殿	(大正6年)11月1日 切継 3通(封筒入)	676-9	
	〔封筒〕 岡谷真詮→徳大寺公爵家御執事御中	(大正5年5月2日) 封筒 1通	676-10-0	
	〔岡谷直詮書状〕(詠歌染筆願) 岡谷直詮→徳大寺家御執事御中	(大正5年)4月28日 切継 1通	676-10-1	
	〔岡谷直詮書状〕(公爵病氣承知) 岡谷直詮→公爵徳大寺家御執事御中	(大正5年)5月1日 切継 1通	676-10-2	
	〔藤内観一郎書状〕(染筆願) 藤内観一郎→公爵徳大寺実則様	(大正5年)3月29日 切継 1通	676-11	
	〔封筒〕 西牡礪波郡西野尻村教育会古瀬正勝→上埜安太郎様(麻布)	(大正6年9月24日) 封筒 1通	676-12-0	
	贈従五位宮永良蔵先生之碑建設趣意書 西野尻村教育委員会(公印), 印刷	大正6年8月 24.3×54.1 1通	676-12-1	
	〔石塔図〕 印刷	26.5×19.6 1通	676-12-2	
	〔封筒〕 上埜安太郎(富山)→中山執事殿	(大正6年)10月17日 封筒 1通	676-13-0	
	〔上埜安太郎書状〕(揮毫願) 上埜安太郎→中山執事殿, 付紙あり	(大正6年)10月17日 切継 1通	676-13-1	
	〔名刺〕(衆議院議員上埜安太郎)	名刺 1通	676-13-2	
	〔水谷久澄書状〕(染筆願、干瓢献上) 水谷久澄(三重)→徳大寺家御執事御中, 書留	大正6年11月10日 美 1通(封筒入)	676-14	
	〔神田淑書状〕(揮毫願) 神田淑→徳大寺公爵閣下御執事様	(大正6年)11月1日 切継 1通(封筒入)	676-15	
	〔封筒〕 恒川平一(名古屋)→徳大寺公爵家執事御中	(大正6年6月5日) 封筒 1通	676-16-0	
	〔恒川平一書状〕(病氣全快後、染筆願) 恒川平一→中山邦太郎様	(大正6年)6月5日 切継 1通	676-16-1	

〔恒川平一書状〕(中元国産漬物献上、染筆願) 恒川平一→徳大寺公爵閣下執事御中	(大正6年)7月3日	切継 1通	676-16-2
〔辰巳長三郎書状〕(歌染筆願) 大和茅野山辰巳長三郎→公爵閣下御侍史様	(大正5年)12月9日	切継 1通(封筒入)	680
〔封筒〕 上書「定期預金証書」 住友銀行東京支店→、封筒のみ	大正6年12月30日	封筒 1通	689
〔封筒〕 上書「一月十二日住友支店へ委任状持参相渡候事」 住友銀行(大阪)→公爵徳大寺実則殿	(大正7年1月10日)	封筒 1通	686-0
〔臨時株主総会召集通知書 社長取締役住友吉左衛門→株主各位、印刷	大正7年1月9日	半 1通	686-1
送金添書(797円) 宮内省本金庫(印)→徳大寺実則殿	大正7年1月11日	14.7×20.4 1通	691
〔封筒〕 十五銀行→公爵徳大寺実則殿	(大正7年7月1日)	封筒 1通	692-0
預金申込書 十五銀行日本橋支店・同丸之内支店	大正7年7月1日	19.5×32.6 1通	692-1
〔定時株主総会開催通知〕 十五銀行取締役頭取松方巖→殿	大正7年7月1日	半 1通	692-2
〔純益金配当金受取通知〕 十五銀行→公爵徳大寺実則殿	大正7年7月16日	18.1×11.5 1通 (封筒入)	692-3
送金添書(797円) 宮内省本金庫→徳大寺実則殿	大正7年7月6日	14.8×20.4 1通	675
〔封筒〕 内蔵寮→徳大寺実則殿、「宮内省」印あり	(大正7年10月5日)	封筒 1通	705-0
〔書付〕(金27円55銭) 徳大寺家中山邦太郎→京都住友男爵邸物加波中次郎宛、鉛筆書		切 1通	705-1
〔自治会通知〕(選挙権拡張問題決議文通知) 自治会→徳大寺実則殿、印刷	大正8年1月22日	葉書 1通	580
〔桜菊会本部通知〕(神官神職を優待し以て国民思想の養成に尽さしむ可し) 神武天皇祭・明治天皇祭桜菊会(→公爵徳大寺実則殿)、印刷	大正8年1月	冊子 1冊(封筒入)	579
〔義弘公三百年祭之典委員長書状〕(寄付の礼状) 義弘公三百年祭之典委員長熊野英→公爵徳大寺実則殿	大正8年3月1日	切 1通(封筒入)	578
〔封筒〕 →徳大寺実則殿、封筒のみ、封筒裏「宮内省」、「興風会印」印あり	(大正8年3月7日カ)	封筒 1通	552
衆議院議員選挙法改正案別表ニ対スル意見 印刷	(大正8年3月11日)	冊子 1冊	554
山梨県別表修正ニ対スル陳情書 山梨県選出衆議院議員望月小太郎・河西豊太郎、印刷	大正8年3月12日	冊子 1冊	582
〔東京市特殊小学校後援会長書状〕(通常総会開期通知) 東京市特殊小学校後援会長法学博士男爵阪谷芳郎→公爵徳大寺実則殿、印刷	大正8年3月15日	葉書 1通	581
〔封筒〕 国士会本部→公爵徳大寺実則閣下、「秘進展」	(大正8年3月18日)	封筒 1通	553-0

〔封筒〕 請願書(写) 印刷	大正8年3月	冊子 2冊	553-1
〔封筒〕 〔国土会書状〕(別冊熟覽願) 国土会会長有吉喜兵衛・同顧問河野春庵→徳大寺公爵閣下, 印刷	大正8年3月日	切 1通	553-2
〔御歌所長・東宮大夫通達〕(皇太子成年式奉祝歌詠進題通知) 御歌所長子爵入江為守・東宮大夫男爵濱尾新→公爵徳大寺実則殿	大正8年3月26日	切 1通(封筒入)	577
〔封筒〕 兼松義稔→公爵徳大寺実則殿御執事中	大正8年3月29日	封筒 1通	575-0
〔封筒〕 〔兼松義稔書状〕(別紙の如く録誌改変願) 兼松義稔→徳大寺公閣下	大正8年3月29日	切継 1通	575-1
樋口真吉先生碑文		半野 1通	575-2
〔御歌所長・東宮大夫通達〕(皇太子成年式奉祝歌詠進) 御歌所長子爵入江為守・東宮大夫男爵濱尾新→公爵徳大寺実則殿, 印刷	大正8年4月15日	切 1通(封筒入)	573
〔栃木県足利郡町村長一同・上都賀郡足尾町長連名書状〕(足利区地方裁判所新設に付謝意) 足利町長川島平五郎以下16名→公爵徳大寺実則閣下, 印刷	大正8年4月	切 1通(封筒入)	572
〔封筒〕 裏書「地所契約書扣」		封筒 1通	681-0
〔封筒〕 土地賃借契約証書(控) 徳大寺家, 徳大寺家10行野紙		半野 1冊	681-1
土地賃借契約証書(控)	大正8年	美野 1冊	681-2
〔徳大寺伊楚子書状〕(長野より参候男2人に付報告) 徳大寺伊楚子→島田直次郎殿	8月27日	切継 1通	516
〔徳大寺伊楚子書状〕(黒崎洋服屋へ支払依頼) 徳大寺伊楚子→島田直次郎殿	5月3日	切 1通(封筒入)	517
〔故泰磨五十日祭志〕 →富田常次郎殿		切継 1通	525
〔桶野猪次郎書状〕(殿様の祝順一葉恵与願) 大日本歌道奨励会会員桶野猪次郎→徳大寺(伊楚子)殿	7月27日	半 1通(封筒入)	526
〔徳大寺伊楚子書状〕(換金請取、支払依頼、樋野氏の件断) 徳大寺伊楚子→島田直次郎殿	8月3日	切継 1通	527
〔毛利家家人男女交名〕		切継 1通	529
〔中川富五郎書状〕(家扶就任に付挨拶状) 長府毛利邸中川富五郎→島田直次郎様侍使	2月5日	切継 1通	530
〔富田安敬書状〕(近況報告) 安敬→直次郎殿	6月21日	切継 1通	565
〔封筒断簡〕 徳大寺家家従→□□直次郎殿, 上半分欠		封筒 1通	569
〔封筒断簡〕 東京徳大寺家伏田□□□□→徳大寺別邸島田直二郎殿, 下半分欠		封筒 1通	574
〔名刺〕(公爵山内家谷丑次)		名刺 1通	576

〔伏田富久太郎書状〕(納金額変更) 伏田→嶋田君		切 1通	652
〔相良家家扶書状〕(結婚祝儀御二方様招待) 相良家家扶→徳大寺様御家扶中	5月6日	切継 1通(封筒入)	658
〔伏田富久太郎添状〕(書状至急披露依頼) 伏田富久太郎→嶋田様	6月16日	切 1通	666
〔伏田富久太郎書状〕(則庵第一高等学校工科試験及第の件披露) 伏田富久太郎→嶋田様	7月14日	切継 1通	670
〔徳大寺亮子書状〕(鶴子紋付、白木に注文) 社宅徳大寺亮子(印)→島田直次郎殿	9月18日	半 1通(封筒入)	679
〔袋〕 上書「豊前国田川郡英彦山高千穂家往復書類入」 袋のみ		袋 1通	682
御使者口上控(婚儀土産進上) 伯爵松平基則様御使者善貝純一郎	4月29日	切 1通	683
〔金額書付〕(6,941円75銭)		切 1通	693
〔封筒〕 風呂豊大(菊坂町)→茅ヶ崎徳大寺家御別邸執事御中	3月8日	封筒 1通	703-0
〔身元保証書〕		半 1通	703-1
〔身元書付〕		切継 1通	703-2
〔封筒〕 横浜いと(茅ヶ崎町足立別荘)→山本純一様(千駄ヶ谷)	3月8日	封筒 1通	704-0
〔横浜いと書状〕(風邪見舞) いと→山本様	3月8日	切継 1通	704-1
〔預金内訳〕 (住友銀行)→徳大寺実則殿		12.1×14.3 1通	706
〔株券換算書付〕 鉛筆書		切 1通	707
〔封筒〕 上書「領収書入」 北前信葛→物加波殿、封筒のみ、裏面「宮内省」印あり		封筒 1通	645
記(旅費并旅用途金注文)		半横折 2通	617
記(諸用途金注文)		切継 1通	618
〔書付〕(明治12年銀行投標の事他)		切 1通	606
〔封筒〕 齊藤松次郎(岩手)→徳大寺嬉子(渋谷区長谷戸53)	(昭和10年2月7日)	封筒 1通	656-0
〔齊藤松次郎書状〕(詠進歌を色紙又は短冊にて再送依頼) 齊藤松次郎→徳大寺嬉子様、岩手県上閉伊那宮守村齊藤松次郎用箋	昭和10年2月7日	半罫 1通	656-1
〔新年詠進勅題〕 齊藤松次郎、印刷	昭和10年1月1日	切 1通	656-2
塚沢内外月報第229号 孔版	(昭和10年)2月末日発行	半 1通	656-3
〔封筒〕 子爵加藤泰通(麴町)→公爵徳大寺実厚殿		封筒 1通	659-0

〔住友孝書状〕（負傷見舞） 住友孝→公爵徳大寺実厚様	7月25日	切継 1通	659-1
〔封筒〕 上書「分譲略図」 住友信託株式会社東京支店→		封筒 1通	660-0
〔分譲家格表并分譲略図〕（若木町） 「住友信託株式会社東京支店」		半野・半 5通	660-1

表題／作成・授受／備考	年代	形態 数量	整理番号
-------------	----	-------	------

### 3. 清華家

#### 3-1. 尊号宣下

尊号宣下次第	寛永20年	美二切 1冊	339
尊号宣下開関解陣次第		美二切 1冊	338

#### 3-2. 改元

〔包紙〕 〔源棟亮條事定国解写〕 〔源久治條事定国解写〕 〔中原富治條事定国解写〕 〔合見参五位已上用途絹綿注文写〕 〔内蔵寮請文写〕	上書「改元慶安明暦寛文延宝等度條事定国解写 四通」	美 1通	369-0
	越中守従五位下源朝臣棟亮	正保5年2月12日 堅継 1通	369-1
	正六位上守出羽守源朝臣久治	承応4年4月10日 堅 1通	369-2
	正五位下行摂津守中原朝臣富治	寛文13年9月15日 堅継 1通	369-3
	正六位上行少属藤井宿祢久任・正六位上行允藤井久行	文久2年1月16日 堅 1通	369-4
		天保元年12月10日 堅 1通	369-5

#### 3-3. 行列・着陣

宝永4年(1707)11月27日に近衛家熙が関白に就任した行列書1点。その他は、年代不詳。

関白宣下行列	宝永4年11月27日	堅三切 1冊	224
〔行列書〕		美三切 1冊	410
左大將御着陣次第		美二切 1冊	342-1
左大將御着陣次第		美二切 1冊	342-2

#### 3-4. 仙洞御歌会

享保期(1716～1736)の霊元院(1654～1732)の御歌会記が12点ある。この時期の徳大寺家当主は、21代実憲(1714～1740)。なお、徳大寺家に伝わる明治期の和歌書・詠草は、1-8-1. 歌道の項を参照。

院御会始	寛永11年1月12日	横美 1冊	325
公宴七夕和歌 奥書「題者冷泉前中納言」「奉行俊清」	享保2年七夕	美二切 1冊	326
法皇柿本社両所御法楽和歌	享保8年3月18日	半 1冊	337
鞍馬毘沙門天御法楽	享保15年1月21日	横美 1冊	327
御当座御会	享保15年8月27日・9月	横美 1冊	328

水無瀬宮御法楽廿二日・御月次廿四日・聖廊御法楽廿五日・公宴御当座十四日・院御当座三月六日・公宴御当座三月十九日 綴紐切れ	13日・10月7日		
公宴月次和歌御会	享保16年2月	横美 1冊	329
月次和歌御会	享保17年7月24日	横美 1冊	330
月次御会	享保18年9月24日	横美 1冊	331
享保廿年七月廿四日公宴御月次・同年同月廿五日院聖廊御法楽・同年八月四日公宴当座御会	享保19年5月24日	横美 1冊	332
院御会始	享保20年	横美 1冊	333
院月次和歌御会	享保21年1月21日	横美 1冊	334
内府公当座写(重陽当座御会)	享保21年4月18日	横美 1冊	335
	嘉永7年	美 1冊	336

## 3-5. 武家伝奏・議奏

武家伝奏あるいは議奏の役務により、作成、授受、保管された記録文書を収めた。「御由緒留」(No.236)は、難波、三条西、山科、小倉、平松、庭田、勧修寺、舟橋、中御門の各家について、享保2年(1717)時の当主の親族続書を調査した文書の留帳である。各家の家臣(諸大夫)から徳大寺家・庭田家の家臣に宛てて提出されているので、あるいは2. 徳大寺家政の項目に配列すべきかもしれないが、享保2年は徳大寺公全と庭田重条が武家伝奏を勤めており、その関係で作成された文書である機能を重視してここに収めた。

No.305およびNo.395の一件文書は無年号ではあるが、徳大寺実堅が武家伝奏を勤めた時期に作成、授受、保管された記録文書である。関連史料として、2-1-1. 記録に徳大寺の諸大夫が関わった朱印改の史料がある。また、実堅の武家伝奏期の結改の文書が2-1-2. 糊付一括文書の中にある。

御由緒書留 表紙「一校了」	享保2年3月	半 1冊	236
〔包紙〕 上書「写 口上覚」		美 1通	307-0
口上覚(近江国栗太郡全勝寺新田開発御尋に付口上覚) 前大路治部卿・磯田和泉守・進藤日向守・安田撰津守	寅12月	半 1冊	307-1
〔諸家領知関係文書目録〕		横半 1冊	305
〔難波伊予守書状〕(関東判物写取調延引) 一條殿御内難波伊予守→徳大寺大納言様・日野前大納言様雑掌御中	12月14日	切 1通	395-1
〔亮長・純海書状〕(輪王寺准后宮家来従五位上頼入) 亮長・純海→徳大寺大納言殿・日野前大納言殿、もとは折紙カ	4月13日	切 1通	395-2
〔松平慶行書状〕(官位謝礼) 松平因幡守(花押)→徳大寺大納言殿人々御中、もとは折紙カ	6月3日	切 1通	395-3
〔亮長・純海申状〕(輪王寺准后宮家来謝礼の件) 亮長・純海→徳大寺大納言殿・日野前大納言殿、もとは折紙カ		切 1通	395-4
〔稟考・純海申状〕(日光山藤本院年階)	12月7日	切 1通	395-5

稟考・純海→徳大寺大納言殿・日野前大納言殿、もとは折紙カ			
〔白川侍従家領文書目録〕 白川侍従	天保8年12月	折 1通	395-6
〔白川侍従知行書上〕 白川侍従内浅利甲斐(印)→徳大寺大納言御内淡川伊勢守殿・滋賀右馬大允殿・日野前大納言御内山中左近府生殿・河野藏人殿	天保8年12月	折 1通	395-7

## 3-6. 先例

先例や故実を勘考するために作成、保管された記録文書等を取めた。

〔包紙〕 上書「享保八年五月十七日諸社炎上之勘進大外記官務上ル写、櫛笥中納言殿ヨリ来ル」	享保8年	美 1通	341-0
〔大外記師岑・左大師盈春勘例写〕 大外記師岑・左大史盈春	(享保8年カ)5月16日	縦継 1通	341-1
〔包紙〕 〔撰家門跡之先規に付申詞案〕		半 1通	352-0
遷宮之事 源某(花押)	元禄12年9月23日	折 1通	352-1
〔遷宮之儀次第案〕		折 1通	352-2
〔当山開山聖一國師由緒〕	(安永以降)	切継 1通	352-3
〔当室御門跡由緒〕		切継 1通	352-4
		切継 1通	352-5

## 3-7. 建白書

〔包紙〕 上書「十一月 大沢采女建白写」		半 1通	309-0
〔源清臣建白書〕(園并韓神社再堂願) 源清臣	慶応3年11月	折 3通	309-1
〔公卿建白留〕	(慶応3年カ)	美 1冊	269

表題／作成・授受／備考	年代	形態 数量	整理番号
-------------	----	-------	------

## 4. 宮内省

### 4-1. 記録

徳大寺実則が宮内省に出仕した機能により、作成、授受され、徳大寺家に保管された記録文書を収めた。料紙に宮内省罫紙を用いている。細かな編成はとらずに、編年順とした。

宮内(教部)省職制(草稿) 橙色8行罫紙		半罫 1冊	210
孝明天皇御事蹟略年表 宮内省茶色13行罫紙		美罫 1冊	223
〔内国事務即時施行・同追日施行〕		横美 1冊	233
〔勅語案〕(在日外国人、仏蘭子公使他宛) 太政官・外務省・宮内省茶色8行罫紙		美罫 1冊	263
具視卿見込書写 表紙「評決之分朱書」とあり	明治2年1月	美 1冊	222
英国女帝三男廿五歳渡于日本国参朝拜龍顔御接待次第	明治2年7月	美 1冊	270
〔還幸行程次第〕 宮内省茶色13行罫紙	明治14年	美罫 1冊	246
〔諸旧儀再興等之事内密書付〕 岩倉具視→内閣御中	明治16年1月	美罫 1冊	289
廣嶋大本営御供奉中日記 徳大寺家	明治28年1月～(4月30日)	半 1冊	231
京都大本営御供奉中日記 徳大寺家	明治28年5月1日～(5月30日)	半 1冊	232
〔明治天皇崩御関連官報・宮内省通知綴〕 一部, 宮内省茶色13行罫紙	(明治45年～大正2年)	1綴	261

### 4-2. 諸願

侍従長・内大臣を勤めた徳大寺実則に対する嘆願書で、様々な願い出がある。なお、No. 512以降の同様の文書については、宛所が実則であっても、その実見後に家扶が保管した可能性もあるので、現配列を解体せず、2-5. 家扶宛一括書状のなかに配列した。

飢饉救助之御参考書 藤宮三九朗(印)→侍従長徳大寺実則殿御取次衆中	明治19年3月19日	美罫 1冊(袋付)	262
御願(華族願) 士族新田貞康→東京府知事男爵高崎五六殿	明治22年2月3日	半 1冊	271-1
新田俊純家筋概略		半 1冊	271-2
明治二年十月新田正統御調之砌り新田家ニ於テハ横瀬 又ハ由良ト称セシハ如何ノ訳ナルカト御尋ニ付即チ 由来相認メ奉呈仕り候写書 従五位新田貞時印→皇居弁事御傳達所御中	明治2年1月	美 1冊	271-3
内願書	明治21年	半 1冊	271-4

山梨縣南都留郡明見村桑原英成外四名連印→侍従長正二位勲一等侯爵徳大寺実則殿御家令御披露			
上(王法仏法威儀再興願) 兵庫県下川辺郡長尾村西宗寺住職平民僧阪萱隆(印)→徳大寺大臣実則卿閣下御本人様	明治24年12月21日	美 1冊	290
陳情書 北信八州会・東北会・関西会・関東自由会・九州団体・愛国同盟倶楽部(個人名省略)	明治26年1月	美野 1冊	245

## 4.3. 内大臣官邸晩餐会記録

実則は明治24年(1891)8月に赤坂門内に内大臣官邸を与えられ、同月30日に神田本邸から赤坂官邸に移った。その官邸における晩餐会の一件記録。

〔内大臣官邸晩餐会諸文書綴〕	明治27年(1月31日)	綴 1冊	275-1
〔内大臣官邸晩餐会諸文書綴〕	明治27年(2月2日)	綴 1冊	275-2

表題／作成・授受／備考	年代	形態 数量	整理番号
-------------	----	-------	------

## 5. 出所不明

### 5-1. 山城国京都二条家

No.311は徳大寺家を宛所とするため、作成の契機としては徳大寺家と無関係ではないが、文書の様式から見れば、徳大寺家に提出した文書の控として二条家に伝来すべき文書である。また、二条家の領地から同家の勘定所役人に提出された年貢勘定目録が伝来している。これらは付紙で疑問点が付されるなど、年貢勘定目録が作成され、提出された後に、新たな目的で再利用された形跡があるが、詳細は不明。

(紙 縫)	東照宮以来二條家代々由緒之事(康道・光平・綱平) 端裏書「貞享元年甲子十一月廿四日千種中納言殿江被遣 トメ但九條様江御談合有之」	(貞享元年)	縦継 1通	310
	二條左大臣殿御親族(控) 藤木木工頭印・北小路丹波守印→徳大寺右大將様御雜掌 中・庭田前大納言様御雜掌中、表紙端書「享保二丁酉年 三月廿五日二徳大寺右大將殿へ被遣候留」	享保2年3月	美 1冊	311
	掟(乗馬作法規定)		美 1冊	312
	二條様御領壬生村丑年御勘定目録 地方役人濱崎与三兵衛(印)・岩崎善右衛門(印)→村田兵 部大録殿・根岸主水殿・高田掃部殿、端裏付箋「丑年壬 生村一通」	明和6年12月	美継 1通	313
	二條様御領細川中村丑御年貢米御勘定書 年寄金石衛門(印)・寺田半左衛門(印)→村田丹波介様・ 根岸主水様・高田掃部様	明和6年12月	美継 1通	314
	二條様御領山中村丑年御年貢御勘定目録 山中村庄屋勘右衛門(印)・同村年寄伝右衛門(印)・同断 兵左衛門(印)・同断重右衛門(印)・同断甚右衛門(印)→ 村田兵部大録様・根岸主水様・高田掃部様	明和6年12月	美継 1通	315
	丑ノ年御勘定書(二條様御領田尻村) 丹波国田尻村庄屋幸八(印)・年寄弁藏(印)→高田掃部 様・根岸主水様・村田丹波助様、端裏書「田尻」	明和6年12月	美継 1通	316
	二條様御領細川瀧村寅之御年貢御勘定書 庄屋徳平(印)・年寄浅四郎(印)→御代官衆中様、端裏書 「瀧村」	明和7年12月	美 1通	317
	二條様御領東九條村丑御年貢御勘定目録 年寄七郎左衛門(印)・同平三郎(印)・与介代文藏(印)・ 庄屋田中文吾(印)・同伝兵衛(印)→村田兵部大録様・根 岸主水様・高田掃部様、端裏付箋「丑九條村二通」	明和6年12月	美継 1通	318
	二條様御領見世村丑年御歳貢米御勘定 江州志賀郡見世村庄屋白子五左衛門(印)・同年寄同庄五 郎(印)・同年寄同彦兵衛(印)→御代官中様、端裏付箋 「丑見世村一通」	明和6年12月	美継 1通	319
	二條様御家領中ノ庄村丑巳年御物成御勘定書 和州中ノ庄村年寄弥八(印)・同断長藏(印)・定使新藏 (印)・庄屋勘右衛門(印)→高田掃部様・根岸主水様・村 田丹波介様、端裏付箋「丑ノ年中庄村一通」	明和6年12月	美継 1通	320
	二條様御家領細川上村丑年御勘定目録 庄屋千右衛門(印)・年寄重右衛門(印)→高掃部様・根主	明和6年12月	美継 1通	321

水様・村丹波介様			
寅ノ年御勘定(二條様御領田尻村) 丹波国桑田郡田尻村庄屋幸八(印)・年寄弁蔵(印)→村田 兵部大録様・根岸主水様・高田掃部様	明和7年12月	美継 1通	322
二條様御領細川中村寅御年貢米御勘定書 年寄金右衛門(印)・庄屋喜兵衛(印)→村田兵部大録様・ 根岸主水様・高田掃部様, 端裏書「細川中村」	明和7年12月	美継 1通	323
覚(山城国川筋普請高役米納入届状控) 二條殿御内河野大炊頭印→御勘定所	天明6年11月	美継 1通	324

## 5-2. 山城国京都梅小路家

嘉永4年(1851)の勘解由次官梅小路定輯の書状留。なお、梅小路家文書に関しては、当館所蔵「山城国京都久世文書」(『史料館所蔵史料目録』第31集)中の諸家文書として伝来している。

〔定輯書状留帳〕 朝儀大夫藤定輯, 表紙「定輯」印あり	嘉永4年2月27日	半二切 1冊	401
--------------------------------	-----------	--------	-----

## 5-3. 山城国京都久世家

安永10年(1781)の非参議久世通根(37歳)の日記。古記録として徳大寺家が収集した可能性もあるが、写本かどうかの判断が難しかったため、5-3. 山城国京都久世家として立項した。なお、久世家文書に関しては、「山城国京都久世文書」(『史料館所蔵史料目録』第31集)として当館で所蔵している。

安永十丑年日記 正三位通根	安永10年1月1日～2月 29日	美二切 1冊	405
------------------	---------------------	--------	-----

## 5-4. 東京府相良家

明治期の相良家の職員給与規則(東京本邸と人吉事務所)。徳大寺家との関係では、実則の妹中子が相良頼紹(人吉)と結婚し、以後も徳大寺家からさまざまな援助を受けている。

相良家職員給与規則(草稿)		半野 1冊	206
---------------	--	-------	-----

## 5-5. 山城国京都烏丸通今出川上ル二本松町家屋敷売買証文連券

烏丸通今出川上ル二本松町の土地売買証文の連券。いずれも明和4年(1767)の沽券状改に伴って作成された割印願状(割印あり)に、土地が売買されるごとに証文が糊継され、天保8年(1837)棧内蔵の購入をもって最後とする。徳大寺家の家臣に棧内蔵なる人物は見え、4点の継証文以外に関連史料も伝存しない。

家屋敷之事(烏丸通今出川上ル二本松町南側沽券状割 印願) 持主木具屋又左衛門(印)・年寄岩国屋七左衛門(印)・五人 組木屋助十郎(印)・同木屋忠七印, 奥書「右之通御座 候以上、町代本間又右衛門(印)・早川新四郎(印)」, 割印 あり	明和4年11月	堅 1通	228-1
永代賣渡申地屋敷之事 賣主木具屋又左衛門(印)・乍五人組吹拳人丹波屋忠兵衛 (印)・西洞院一条上町賣請人八文字屋半兵衛(印)→年寄 岩国七左衛門殿、五人組町中, 奥書「右之通買得相違無	安永9年11月25日	堅 1通	228-2

	之候以上、町代本間又右衛門(印)・早川新四郎(印)」			
(連券)	永代賣渡申地屋敷之事 賣主町中・年寄岩国屋七左衛門(印)・五人組木屋重兵衛(印)・乍五人組吹拳人丹波屋忠兵衛(印)・町中惣代木具屋次兵衛(印)→森河内守殿, 奥書「右之通買得相違無之候以上、町代本間又右衛門(印)・早川新四郎(印)」	安永10年1月21日	豎 1通	228-3
	永代賣渡申家屋敷之事 賣主森ゆく(印)・証人夫柏栄(印)・年寄木屋重兵衛(印)・五人組尾張屋喜平治(印)・乍五人組吹拳人丹後屋宗助(印)・室町今出川上町賣受人長沢屋清治郎(印)→芝本和泉守殿, 奥書「右之通買得相違無之候以上、町代本間又右衛門(印)・梅村七左衛門(印)」	享和元年9月26日	豎 1通	228-4
	永代賣渡申家屋敷之事 賣主近江屋喜右衛門(印)・吹拳人小森屋源三郎(印)・上立賣通室町東入町賣請人丹後屋伊八(印)→年寄十兵衛殿・五人組町中	文政4年7月	豎 1通	228-5
	永代賣渡申家屋敷之事 賣主町中・年寄木屋十兵衛(印)・乍五人組吹拳人松屋重右衛門(印)・町中惣代濱国屋清吉(印)→小森屋源三郎殿	文政4年9月	豎 1通	228-6
	永代賣渡申家屋敷之事 賣主小森屋さよ(印)・同伴忠藏(印)・年寄丹後屋平七(印)・五人組木屋重兵衛(印)・吹拳人木屋常三郎(印)・上京片岡町賣受人山国屋悦藏(印)→棧内藏殿	天保8年11月	豎 1通	228-7
	家屋舗之事(烏丸通今出川上ル二本松町沽券状改に付割印願状) 持主福原伊織(印)・年寄岩国屋七左衛門(印)・五人組木屋助十郎(印)・同木屋忠七(印), 町代本間又右衛門・早川新四郎連印奥書あり	明和4年11月	豎 1通	296-1-1
	永代売渡申家屋敷之事(烏丸通二本松町東側) 賣主山口大之助(印)・年寄木屋重兵衛(印)・五人組小森屋源三郎(印)・乍五人組吹拳人尾張屋喜平次(印)・千本今出川上町賣受人美濃屋新藏(印)→茗荷屋佐兵衛殿, 町代本間又右衛門・杉原政五郎連印奥書あり	文化9年8月23日	豎 1通	296-1-2
(連券)	永代売渡申家屋敷之事 賣主茗荷屋佐兵衛(印)・年寄木屋重兵衛(印)・五人組丸岡屋善兵衛(印)・同小森屋源三郎(印)・吹拳人木屋伝藏(印)・相国寺境内石橋町賣受人讃岐屋弥助(印)→蛭子屋喜右衛門殿, 町代安藤又右衛門・杉原政五郎連印奥書あり	文化11年6月9日	豎 1通	296-1-3
	永代売渡申家屋敷之事 賣主蛭子屋喜右衛門(印)・吹拳人木屋重兵衛(印)・上京瓢箪之図子町賣請人井口屋貫治(印)→年寄尾張屋喜平治殿・五人組町中, 町代安藤又右衛門・梅村七左衛門連印奥書あり	文政元年8月29日	豎 1通	296-1-4
	永代売渡申家屋敷之事 賣主町中・年寄丹後屋平七(印)・五人組木屋重兵衛(印)・吹拳人木屋常三郎(印)・町中惣代尾張屋勝次郎(印)→棧内藏殿	天保8年11月	豎 1通	296-1-5
	家屋舗之事(烏丸通今出川上ル二本松町沽券状改に付割印願状) 持主木具屋又左衛門(印)・年寄岩国屋七左衛門(印)・五人組木屋助十郎(印)・同木屋忠七(印), 町代本間又右衛門・早川新四郎連印奥書あり	明和4年11月	豎 1通	296-2-1
	永代売渡申地屋舗之事 賣主木具屋又左衛門(印)・乍五人組吹拳人丹波屋忠兵衛(印)・西洞院一条上町賣請人八文字屋半兵衛(印)→年寄岩国屋七左衛門殿・五人組町中, 町代本間又右衛門・早	安永9年11月25日	豎 1通	296-2-2

(連券)	川新四郎連印奥書あり			
	永代売渡申地屋鋪之事 賣主町中・年寄岩国屋七左衛門(印)・五人組木屋重兵衛(印)・乍五人組吹拳人丹波屋忠兵衛(印)・町中惣代木具屋次兵衛(印)→森河内守殿、町代本間又右衛門・早川新四郎連印奥書あり	安永10年1月21日	豎 1通	296-2-3
	永代売渡申家屋敷之事 賣主森ゆく(印)・証人夫柏栄(印)・年寄木具屋重兵衛(印)・五人組尾張屋喜平治(印)・乍五人組吹拳人丹後屋宗助(印)・室町今出川上ル町賣受人長沢屋清治郎印→芝本和泉守殿、町代本間又右衛門・梅村七左衛門連印奥書あり	享和元年9月26日	豎 1通	296-2-4
	永代売渡申家屋鋪之事 賣主近江屋喜右衛門(印)・吹拳人小森屋源三郎(印)・上立賣通室町東入町賣受人丹後屋伊八(印)→年寄十兵衛殿・五人組町中	文政4年7月	豎 1通	296-2-5
	永代売渡申家屋鋪之事 賣主町中・年寄木屋十兵衛(印)・乍五人組吹拳人松屋重右衛門(印)・町中惣代濱田屋清吉(印)→小森屋徳松殿	文政4年9月	豎 1通	296-2-6
	永代売渡申家屋鋪之事 賣主播磨屋庄兵衛(印)・年寄丹後屋吉兵衛(印)・五人組若狭屋長兵衛(印)・吹拳人木屋重兵衛(印)・中町竹屋町上町賣受人坂本屋八兵衛(印)→棧内蔵殿	安政4年4月	豎 1通	296-2-7
	家屋鋪之事(烏丸通今出川上ル二本松町南側沽券狀割印願狀) 持主木具屋又左衛門(印)・年寄岩国屋七左衛門(印)・五人組木屋助十郎(印)・同木屋忠七(印)、町代本間又右衛門・早川新四郎連印奥書あり	明和4年11月	豎 1通	296-3-1
	永代売渡申地屋鋪之事 賣主木具屋又左衛門(印)・乍五人組吹拳人丹波屋忠兵衛(印)・西洞院一条上町賣請人八文字屋半兵衛(印)→年寄岩国屋七左衛門殿・五人組町中、町代本間又右衛門・早川新四郎連印奥書あり	安永9年11月25日	豎 1通	296-3-2
	永代売渡申地屋鋪敷之事 賣主町中・年寄岩国屋七左衛門(印)・五人組木屋重兵衛(印)・乍五人組吹拳人丹波屋忠兵衛(印)・町中惣代木具屋次兵衛(印)→森河内守殿、町代本間又右衛門・早川新四郎連印奥書あり	安永10年1月21日	豎 1通	296-3-3
	永代売渡申家屋敷之事 賣主森ゆく(印)・証人夫柏栄(印)・年寄木具屋重兵衛(印)・五人組尾張屋喜平治(印)・乍五人組吹拳人丹後屋宗助(印)・室町今出川上ル町賣受人長沢屋清治郎(印)→芝本和泉守殿、町代本間又右衛門・梅村七左衛門連印奥書あり	享和元年9月26日	豎 1通	296-3-4
(連券)	永代売渡申家屋鋪之事 賣主近江屋喜右衛門(印)・吹拳人小森屋源三郎(印)・上立賣通室町東入町賣受人丹後屋伊八(印)→年寄十兵衛殿・五人組町中	文政4年7月	豎 1通	296-3-5
	永代売渡申家屋鋪之事 賣主町中・年寄木屋十兵衛(印)・乍五人組吹拳人松屋重右衛門(印)・町中惣代濱田屋清吉(印)→小森屋源三郎殿	文政4年9月	豎 1通	296-3-6
	永代売渡申家屋鋪之事 賣主小森屋さよ(印)・同俣忠蔵(印)・年寄丹後屋平七(印)・五人組木屋重兵衛(印)・吹拳人木屋常三郎(印)・上京片岡町賣受人山国屋悦蔵(印)→棧内蔵殿	天保8年11月	豎 1通	296-3-7

## 5-6. 武蔵国豊嶋郡谷中本村・同新堀村書上帳

武蔵国豊嶋郡谷中本村、及び新堀村の組頭から東京郡政支配所に提出された書上帳。徳大寺家との関連が不明であるため、出所不明の中に立項した。

合綴	牧野八太夫様領反別帳 谷中本村	寛延3年10月	半 1冊	348-1-1
	人別扣帳 東京郡政御支配所地方三番組谷中本村天王寺領百性権三郎		半 1冊	348-1-2
	上(窮民拝借願状) 地方三番組谷中本村組頭惣兵衛(印)→	明治2年4月	半 1冊	348-1-3
	上(新堀村養福寺門前借長屋願状) 地方三番組新堀村組頭太郎兵衛(印)→	明治2年6月	半 1冊	348-2-1
	上(新堀村諏訪社内借長屋願状) 地方三番組新堀村組頭太郎兵衛(印)→	明治2年6月	半 1冊	348-2-2
	上(新堀村内屋敷地書上) 地方三番組新堀村組頭太郎兵衛(印)→東京府郡政方御役所	明治2年4月	半 1冊	348-2-3
合綴	上(新堀村村諸入用高書上) 地方三番組新堀村組頭太郎兵衛(印)→東京府郡政方御役所	明治2年4月	半 1冊	348-2-4
	橋関梓御普請白普請所書上帳 新堀村組頭太郎兵衛(印)→東京府郡政御役所	明治2年8月	半 1冊	348-2-5
	上(納米畑求辻書上) 武州豊嶋郡新堀村組頭太郎兵衛(印)→東京府郡政御役所	明治2年5月	半 1冊	348-2-6
	上(百姓政右衛門御救育所入願) 新堀村百姓組頭文左衛門(印)・組頭太郎兵衛(印)→東京府郡政御役所	明治2年8月	半 1冊	348-2-7
	上(富民・貧民惣人数書上) 新堀村年番組組頭太郎兵衛(印)→		半 1冊	348-2-8

35M 45B

# 山城国京都二条家文書目録

解題……………p. 161

目次……………p. 180

目録……………p. 181

## 山城国京都二条家文書目録 解題

- A. 史料群記号 35M 45B  
 B. 史料群名 やましらのくにきょうと に じょうけ もんじょ  
 山城国京都二条家文書  
 C. 数 量 35Mは442点、桐製文書箱1個(43.5×36.8×44.0cm)。  
 45Bは12点。

### D. 伝来の経緯

35Mについては、1960年度に京都の古書店から購入した。45Bについては、1970年度に明治期の記録文書12冊を古書店から追加購入した。

### E. 出所の歴史

二条家は藤原北家の嫡流九条家の分家で、五摂家(近衛・九条・二条・一条・鷹司)の一つである。鎌倉中期の九条道家の次男良実(1215～1269)が二条京極第を居所としたことから、二条を家名とした。また、銅駝御殿とも呼ばれた。良実以降の系図、および江戸期の14代昭実(1556～1619)から25代斉敬なりゆき(1816～1878)までの歴代年譜を参考資料に掲げた。昭実は、親徳川派の公卿として知られる。その子康道(1607～1666)以降、二条家では代々徳川將軍の猶子となり、偏諱をうけるのを通例とした。江戸時代の二条家の屋敷の位置は、今出川御門外一町東にあった。江戸時代の家禄は1708石5斗で、寛文5年(1665)の朱印改めでは第1表のようにになっている。

二条家の当主、および嫡子は、五摂家の家格に応じて朝廷における役務を果たした。摂家では7～8歳で元服し、その日に「禁色雑袍昇殿を聴す」という宣下を受け、従五位下もしくは正五位下に叙せられる。それから一段進んで推叙される越階により、近衛権少将、続いて権中将に進む。両官とも左右8人づつの定員があるので、摂家の場合は定員外の任命となった。さらに、四位、三位と進んで三位の中將となり、参議を経ずに権中納言、権大納言と進み、大臣が空くのをまってまず内大臣となり、右大臣・左大臣・関白と進む。大臣・納言・参議は毎月朔日・15日に御札に参内するのと、公事に召された時に参仕する。これ以外に、納言以下は禁裏番役を勤めた。関白になると、毎日巳刻(午

第1表 二条家寛文五年領知村高

	単位:石
山城国紀伊郡東九条村	520.0
山城国愛宕郡西賀茂村	56.1
山城国葛野郡壬生村	100.8
大和国添上郡中庄村	342.3
近江国滋賀郡山中村	180.8
近江国滋賀郡見世村	91.0
丹波国桑田郡細河村	399.4
丹波国桑田郡田尻村	18.1
計	1708.5

出典:『寛文朱印留』下

前10時頃)に参内して、八景間を詰所とし、議奏や武家伝奏と合議をおこない、八ツ時(午後3時頃)に退出した。関白は通常5年から10年で辞職した(下橋1979)。江戸期には、昭実が関白(在職1585～91、再任1615～19)、康道が摂政(在職1635～47)、光平が関白(在職1653～63)・摂政(在職1663～64)、綱平が関白(在職1722～26)、斉敬が関白(在職1863～66)・摂政(在職1867)に就いた。

25代斉敬の時に明治維新を迎えた。斉敬は維新後も京都に残り、明治3年(1870)12月17日に京都府貴族となり、同日これまでの家禄を廃され、永世現米818石の朱印を与えられた。同4年6月5日に隠居し、同5年4月25日から東京邸(東京第3大区5小区牛込津久土前

町19・20番)に滞在した後、同7年10月2日より京都邸(西京第11区今出川寺町西へ入、常磐石井殿町607番地邸)に戻った(「親族書」45B-No.1)。明治17年(1884)26代基弘(1859～1928)のとき公爵になった。

二条家は、歌道を家職とした。菩提寺は二尊院(京都市右京区嵯峨)。九品寺(京都南区東九条上御霊町)に歴代の墓がある。

江戸時代の摂家は、諸大夫以下の家臣によって構成される家政組織をもつ。『地下家伝』によれば、二条家の諸大夫として隠岐、北小路、津幡、西村、河野、藤木、松波、広瀬、櫛田、山本、侍として小西、村田、稲田、初川、山口、根岸、高田、山本、野間、関口、山梨、小幡、喜頭、熊谷の家があった。摂家の諸大夫は、正六位から立って正三位まで進み、官は省の輔・寮の頭・職の亮・司の正などに任じられた地下官人である。また、内蔵助として春日祭・賀茂祭・石清水の放生会などに宣命使として参向し、主人拝賀の時の先駆などを勤めた。諸大夫の下には侍がおり、さらに用人・近習・中小姓・勘定方・青士・茶道などがいた。これらは士分で、その下に小頭・中番・下僕がいた(下橋1979)。

家政組織のなかで記録の作成に必要な諸紙の内訳は、安政6年

第2表 安政6年(1859)二条家年間必要諸紙内訳

紙種類	数量	代金
伊勢奉書(3匁8分)	25帖	95匁
杉原(2匁3分)	20帖	46匁
美濃紙(1匁5分)	45帖	67匁5分
巻紙(13匁5分 千枚に付)	13000枚	175匁5分
半紙(5匁)	35束	175匁
越前中奉書(8匁8分)	7帖	61匁6分
中鷹紙(8匁8分)	5帖	44匁
白紅水引(2匁8分 百把に付)	600把	16匁8分
備中檀紙(4匁3分)	12枚	51匁6分
小計1		733匁
奥御祐筆間渡一ヶ月分		
越前小奉書	1帖	5匁8分×12
地奉書	1帖	3匁6分×12
杉原	1帖	2匁3分×12
美濃紙	1帖	1匁5分×12
半紙	5折	1匁2分5厘
小計2(1ヶ年分)		159匁6匁5分
奥御祐筆一ヶ年分臨時用		
越前小奉書	5帖	29匁
越前小奉書	5帖	45匁
地奉書	5帖	18匁
杉原	5帖	11匁5分
美濃紙	10帖	15匁
小計3		118匁5分
内々番所御日記大半紙300枚宛洪表紙付	4冊	46匁
同所言上帳次半紙100枚洪表紙付	1冊	2匁5分
同所御用申送帳次半紙200枚洪表紙付	1冊	3匁9分
口番所日記次半紙300枚表紙付	1冊	5匁6分
御役所日記次半紙300枚表紙付	1冊	5匁6分
剪紙届書写帳次半紙300枚表紙付	1冊	5匁6分
御側日記表紙付	1冊	5匁6分
御勘定所日記表紙付	1冊	5匁6分
御勘定銭帳次半紙400枚表紙付	1冊	7匁4分
元方帳上半紙200枚横帳表紙付	1冊	4匁3分
御勘定所買上帳次半紙280枚	1冊	5匁3分
同米出入帳次半紙200枚表紙付	1冊	3匁9分
同木柴出入帳	1冊	3匁9分
御進物出入帳	1冊	3匁9分
奏者所日記四季次半紙200枚宛	4冊	15匁6分
献上物返し帳次半紙150枚此分紙数減少	1冊	3匁2分
奥向江金銀返し帳次半紙150枚表紙付	1冊	3匁2分
諸席帳面用半紙	3束	16匁5分
口取紙	300枚	1匁5分
洪表紙	7枚	1匁2分5厘
小計4		150匁3分5厘
総計(小計1+小計2+小計3+小計4)		銀1貫161匁5分

(1859)段階では第2表のようになっていた。同年の筆墨の入用を記した第3表では、内々番所・役所・御側・勘定所・使番・奏者番・祐筆役・添番・清所・台所といった部局に分かれている。安政6年の家臣の給録表である第4表にみえる約50名の士分の家臣が、これらの役職を分掌したと思われる。士分以外には、大部屋6人、小遣2人、掃除番2人、髪結1人、川原御殿掃除番1人の計12人に、御馬別当1人がいた。以上の表方に加え、奥向の女中が約20人前後働いていた。

F. 年 代 永享5年(1433)～明治15年(1882)

### G. 全体構造と内容

35M史料群と45D史料群が同一出所であることはその内容から明らかだが、受け入れ年が大きく隔たっているため、慎重を期して両者を一つの史料群に統合することは避けた。したがって、以下ではそれぞれに全体構造と内容を解説することにした。

#### G-1. 35M史料群の全体構造と内容

35M史料群の内容年代は、永享5年(1433)の日付をもつ「兵部省移写」(No.93)が最も古い。ただし、大半の史料は江戸期に作成されたもので、年代はほぼ江戸期全般にわたっている。作成年代が特定できる史料で最も古いのは、寛永13年(1636)1月～2月までを記した「御奏者所日次記」(No.14)である。

本史料群の発生の契機は、二条家の家の機能に基づいて作成、授受、保管された私的な史料群と、二条家の撰家としての家職の機能に関わって作成、授受、保管された公的な史料群の2系統がある。さらに、前者は当主とその家族の個人的活動、あるいは当主とその家族による

狭義の家組織の機能のもとで作成、授受、保管された史料群と、諸大夫以下の家臣によって構成され

第3表 筆墨一ヶ年分

	筆(本)	墨(挺)
内々番所	24	4
役所	24	4
御側	12	2
勘定所	20	3
使番	12	3
祐筆役	30	10
添番	12	2
台所	12	2
計	146	30

第4表 御給録一年分

名 前	石高	名 前	石高・扶持
北小路大蔵権大輔	20	野間多次郎	銀86匁
松波大炊頭	10	川野昆三郎	玄米2.25
西村図書頭	10	大村弾正	
隠岐兵部権少輔	10	倉橋主殿	
西村大舎人頭	10	奥村主裕	
津幡	10	上田正親	
藤木甲斐守	10	井崎主税	
北小路撰津守	5	堀司馬	
隠岐肥後守	5	石原多膳	
松波河内守	5	7人	28.00
高田近江守	5.5	松原真之丞	
野間左衛門権大尉	5.5	福井金之丞	
野間三河介	5.5	棚橋平之丞	
櫛田左近将監	5	大村善之進	
岡本織部	5	4人	14.00
村田左門	5	福井弥三郎	3.2
高田式部		安原喜右衛門	3.15
村山大進		佐々木仙太郎	3.15
高嶋右衛門		磯崎友蔵	3.00
青井縫殿		岩田徳三郎	3.00
隠岐内記		宮城源次	銀172匁
岡本左近		柳瀬幸三郎	銀172匁
浜崎左内		大部屋6人	
岡大監		小遣2人	
小出蔵人		掃除番2人	
入江伊織		髪結1人	
大塚要人		川原御殿掃除番1人	
関口監物		12人	銀1貫920目 (一人一年160目宛)
鈴木勘ヶ由		御馬別当1人	3.00
根岸采女			
14人	58.5		

る家政組織の機能に基づいて作成、授受、保管された史料群とに分けられる。したがって、35M史料群は、おもに次の3つの発生の契機を異にする史料群の集合体と考えられる。

1. 二条家の当主とその家族による家組織の機能に基づいて作成、授受、保管された史料群
2. 二条家の家臣による家政組織の機能に基づいて作成、授受、保管された史料群
3. 二条家の摂家という家職の機能に関わって作成、授受、保管された史料群

そこで、出所内組織を示す大項目として、それぞれ1. 二条家、2. 二条家家政、3. 摂家の3項目を立てた。これ以外に、本史料群には二条家を本来の出所としない他家の記録が含まれている。これを4. 出所不明として立項した。

本史料群の総点数は442点である。そのなかで中心をなすのは、3. 摂家に類別される公的な職務のもとで作成、授受、保管された記録文書である。特に、朝議が決定されるまでの手続き文書が多く含まれるのが最大の特徴であろう。以下、各大項目ごとに史料群の構造と内容を説明する。

#### 1. 二条家(114点)

二条家の当主とその家族による狭義の家組織の機能に基づいて作成、授受、保管された史料群を収めた。点数は114点と少ない。中項目では、当主や家族の個人別に項目を立てるのが理想であるが、本史料群の断片的な遺存状況からそれらを判断するのは困難である。そのため、中項目では史料の内容による類別により編成した。さらに細分化が必要な場合は小項目を立て、個人が特定できる場合は個人名を細目に立てた。

家文書の中心となる系図・家譜の類、領知朱印状といった文書は、本史料群のなかに伝存していない。官位叙任文書についても口宣・位記は伝存せず、関連文書がわずかにある。公家の家史料に特徴的に見られる当主日記は、17代綱平(1662～1672)のものと推定される日記が1冊あるのみに過ぎない。また一つの特徴である古記録や有職故実書も、本史料群にはほとんど伝存していない。ただし、家職の歌道・詠草関係の史料は比較的よく伝存している。

以上のような史料群構造から、中項目は1-1. 官位叙任、1-2. 冠婚葬祭、1-3. 交際、1-4. 信仰、1-5. 当主日記、1-6. 記録、1-7. 古記録、1-8. 文書目録、1-9. 有職故実、1-10. 文芸・学問、1-11. 名鑑の11項目を立てた。中項目の内容については、目録本文中の各項目ごとに解説する。内容的に関連のある項目の関係を簡単に補足しておくと、1-6. 記録は江戸時代に二条家において作成され、保管された一次的な記録を扱い、一次的な記録でも他家に伝来した日記などの記録を書写した場合は1-7. 古記録で扱った。記録性が高くても二次的な編纂書である有職故実書の類は、1-8. 有職故実で扱った。

#### 2. 二条家家政(26点)

ここでは、二条家の家政組織において作成、授受、保管された記録文書を収録した。点数は26点と少ない。機能的には、2-1. 内々番所、2-2. 役所、2-3. 勘定所、2-4. 奏者所という4つの表組織内の部局と、2-5. 奥向の計5つの機構のもとで作成、授受、保管された記録文書が確認できる。これ以外に記録文書を作成、授受、保管した部局としては、前掲第3表から御側部屋、御使番部屋、添番部屋、清所、茶番所、表御門番所、御台所、大部屋があったが、それらの記録文書は当史料群には伝存していない。ただし、勘定所および役所関係の記録文書は京都教育大学に、内々番所関係の記録文書は慶

応大学にまともって所蔵されている。

各部局では、それぞれ日記を作成した。第3表では、「内々番所御日記」「口番所日記」「御役所日記」「御側日記」「御勘定所日記」「奏者所日記」の文書名がみえる。そのうち、本史料群に伝存するのは、「奏者所日記」のみである。これ以外には、「御玄関日記」の表題をもつ日記があり、この日記を作成した部局がどこであるかを特定することが目録編成の上で必要となる。

参考までに他の公家文書の事例を示すと、まず久世家文書(『史料館所蔵史料目録』31集)には「御役所日記」と「御玄関日記」の2系統の日記が伝存する。前者は明らかに役所において作成された日記であり、内容は久世家における年中行事、当主および家臣の動向が記録される。後者の作成部局は表紙に「久世殿詰所」とあり、内容的には諸家からの使者の往来、音信物の授受、玄関の出入りを記録している。「御役所日記」と内容的に重複する部分もあるが、両者は明らかに作成の契機を異にする別系統の記録である。逆に言えば、「御玄関日記」は公家の家政組織の中心である「役所」で作成された日記ではない。

次に、清水谷家の「御玄関日記留」は表紙に「執次所」と記されたものがあり(『史料館所蔵史料目録』63集)、梅小路家の「御玄関日記」は「梅小路家表詰所」(明治6年、No.220)とある(『史料館所蔵史料目録』31集)。玄関日記を作成した部局の名称はそれぞれ「詰所」「執次所」「表詰所」と異なるが、内容からは同系列の記録と見られる。また、史料の表題から、「詰所」「執次所」「表詰所」とは、公家屋敷の表玄関詰所であるとみてよいだろう。

ところで、公家屋敷の表玄関に詰めて諸家からの進物を受け取る役は、奏者番の仕事であった。この点を併せて考えると、上記の「御玄関日記」を作成した部局は奏者所であり、「御玄関日記」と「奏者所日記」は表題は異なるが同系列の日記であったと考えられる。内容的にも、両者には表玄関における二条家と諸家との間での書状・音信物の往来、およびそれぞれの使者の名が記されるという共通点を指摘できる。

ただし、「奏者所日記」と「御玄関日記」は、形態的には大きな相違点がある。前者は2ヶ月間を記した薄目の半紙判の書冊であるのに対し、後者は1年分を1冊に記し、料紙も大美濃判を用いた重厚な書冊で、延享3年(1746)の日記は厚さが約7.5cmもある。そのため、形態だけを見ると、「御奏者所日記」と「御玄関日記」は異なる系統の日記ではないかとの印象を得る。また、第3表の帳簿名には「奏者所日記」の名称がみえ、1年で4季4冊、1冊は次半紙200枚とされているため、安政期には奏者所日記の存在が確認できる。「奏者所日記」が後年の写であるため、形態が原状を失っている可能性がなくもないが、奏者所の機能の解明も含めて今後の課題であろう。

なお、上記の日記の他に、本史料群のなかには奥向の日記がある。点数は1点と少ないが、公家の奥向の史料の遺存状況が良くない点からみても、この分野における希有な史料である。

### 3. 撰家(301点)

ここでは朝廷組織における二条家の撰家としての家職に関して、作成、授受、保管された記録文書を取めた。従来の目録では、「勤仕」あるいは「家職」といった項目に該当する。今回、「撰家」という大項目を立てた理由は、近年の目録編成において大項目には出所内組織(機構)を示すことが求めら

れていることにある。一般的な機能を示す「勤仕」は、出所内組織を示す表現として適切ではない。また、「家職」といった場合、二条家の摂家としての家格に基づく職務と歌道の2つの家職がある。つまり、「家職」という大項目を立てた場合、摂家の公的な職務の元での記録文書をここに配することは問題はないが、歌道という家職の位置づけが不明瞭となり、目録利用者に混乱を呈しかねない。

次に、「禁裏(禁中)」あるいは「禁裏役」を大項目として採用することも考えたが、従来の目録で大項目に「勤仕」を採用した理由は、禁裏と仙洞(洞中)の区別をすることの難しさにあり、両者への勤仕を意味するものとして単に「勤仕」と表記して上記の問題の解決をはかったものである(原島陽一「久世家文書目録解題」『史料館所蔵史料目録』31集)。現在の研究段階でも遺存する史料のみから両者を厳密に判断することは難しいので、大項目には禁裏・仙洞を包括し、しかも出所内組織を示す表現を用いる必要がある。そこで、本目録においては、家職の一つである「摂家」を大項目に採用することで、家職のもつ二重の意味を明確にし、二条家のまた一つの家職である歌道を作成の契機とする史料については、1. 二条家(1-10-1. 歌道)のなかに収めている。

摂家といえども、当主が摂政・関白に就任するまでには、正五位から始まって官位を進める段階あり、その間にそれぞれの官位に応じた朝廷の儀式への参仕や禁裏役を勤め、それらの機能に関わって記録文書が作成、授受、保管された。したがって、ここに収めた記録文書は必ずしも摂政・関白期の記録文書に限らないが、記録文書が二条家に授受され、保管される過程には、二条家の摂家としての家格が大きな影響を与えている。

なお、出所内組織は、摂政・関白、大臣、納言以下といった各官職による編成も考えられるが、遺存する史料の点数、および現状から判断して現実的な編成ではない。そこで、史料群の出所をさらに官職ごとに特定する作業は、今後の公家史料研究、および公家社会研究の進展に委ねることにし、ここではそれぞれの朝儀を遂行する上で機能的に関連する史料群をまとめ、中項目をたてることにした。

有職においては、節会・官奏・叙位・除目は四ヶの大事とされた(橋本1992)。節会は、時代とともに形式化し、江戸時代には有名無実になったものもあったが、基本的に大儀、中儀、小儀の区別があった。大儀は、朝賀・即位・外国使節の上表式の3つ、中儀は、元日宴会、正月7日の白馬、正月17日の大射、11月の新嘗祭、外国使節の饗宴であった。小儀は、告朔、正月上卯日、授位任官(叙位・除目)、正月16日踏歌、正月18日賭射、5月5日節句、7月25日相撲、9月9日重陽、出雲国造神賀詞奏上、皇后・皇太子冊名、百官賀表、遣唐使、將軍の節刀授賜があった。この他に、臨時に大嘗祭などの節会があり、また賀茂祭や臨時神楽などの神事がある。これらの儀礼が執行される過程には、太政官が天皇に奏聞して直裁を請う官奏という意志決定の段階がある。そうした官奏に関わる江戸時代の手続き文書が遺存している点は、当館所蔵の二条家文書の特質の一つである。特に、官位執奏(叙位・除目)に関わる手続き文書が比較的多く見られる。

そこで、中項目は史料の遺存状況から、各儀礼ごとに3-1.大葬・即位、3-2.改元、3-3. 五節会、3-4. 行幸、3-5. 神事、3-6. 法会、3-7. 立親王・立后、3-8. 着陣、3-9. 官奏雑事、3-10. 叙位・除目、3-11. 諸願・諸届、3-12. 日光奉幣使、3-13. 江戸幕府、3-14. 先例、3-15. 勤番の15項目を立て、儀礼を挙行するまでの手続き文書から、儀礼の場における次第書や行列書までを含めて配列した。また、項目内に

においては、一括された史料群をできるだけ一件文書としてまとめるように努めた。

叙位と除目は実際には同時に進行する場合が多いので、1つの中項目として扱った。以下では、本史料群の特質の1つである官位叙任の手続き文書のライフサイクルを理解するために、公家の官位昇進の手続きについて簡単に説明しておく。

公家の官位昇進は、申請により旧例に従い、摂家による官位勅問など諸吟味、手続きを経て勅許された(橋本1991)。これに直接関わるのは、関白、武家伝奏、蔵人で、堂上以上の場合は、まず官位申文(小折紙)が本人より武家伝奏に提出されて内見を受け、その後職事に付し、職事より関白の許に届けられ、関白の内覧を経た上で議奏に付し、議奏から天皇に披露するという手続きがとられた。天皇からの勅問に対し、摂家が勅答・吟味を奉上了後に勅許となり、上卿が宣旨・位記を発給した。官位執奏を願う者が提出する申文には上包が付けられ、包紙には諱名、年齢、中置年数を上書した。申文には例書が付されたが、堂上の場合は家格によって官位昇進の方向・速度が決まっていたから、その家の旧例に添って年齢・中置により、官職については欠員の具合を勘案しながら小折紙を職事に差出し、内覧を経て披露された。旧例にもいくつかの段階があり、自家の先例である「家例」、同等の人の例を借りる「勘例」、1～2等上の所の例を借りる「傍例」があり、競望の場合は、家例、勘例、傍例の順で選考の参考にされた(下橋1979)。

#### 4. 出所不明(1点)

二条家を本来の出所としない記録文書が1点ある。

##### G-2. 45B史料群の全体構造と内容

明治6年(1873)から同15年にかけて、二条家の扶局のもとで、作成され、保管された史料12冊がある。史料No5(表紙欠)の6丁目表には、「東京第三大区五小区牛込津久土前町十九・二十番地 二條殿扶局日次記」と記され、4丁目裏、7丁目表には「銅駝」の方朱印(1.6×1.6cm)、「二条家扶」の方朱印(1.5×1.5cm)が押下されている。東京邸(本館)の家扶の名は藤木経立で、京都邸の家扶(西京詰)の名は石束錫福であった。家扶の人員、職掌等は、各家々により差があると思われるが、当主の下に置かれ、家政事務、内外の応接、会計、家従以下の雇任などの任務を主に担っていた。本史料群からも、それらの機能を断片的ながらうかがうことができる。したがって、大項目には5、扶局を立てた。中項目は、史料群の遺存状況から判断して内容および文書類型による類別をとり、5-1. 親族調、5-2. 日次記、5-3. 書状留、5-4. 布告留、5-5. 華族会館・宗族・第十五国立銀行記事の5つを立てた。

##### H. 形態の特徴

35M史料群の形態の特徴は、ほとんどが和紙を料紙に用い、墨書されている。一部に指図(彩色)がある。

35M史料群の一部の史料は、桐製文書箆筒に保管されていた。前面に扉があり、左側中央に鉤が1カ所ある。内側には三段の引き出し(40.7×34.5×11.7cm)がある(口絵写真①②参照)。天板には金具の把手が付けられており、非常の際の持ち出しが考慮されていたものと思われる。

扉の表側には、右から①「(朱書)調済 二十番」と書かれた張紙(18.0×5.4cm)、②「詩歌 宣命類即位 大嘗会 節会 改元 笏紙 諸列 補略 御記 御書状 次第 勅答 元服 御詠草 勘文

日光山神忌」と書かれた張紙(16.3×14.8cm)、③「35M 二条家なるか?」と書かれた張紙(約25.5×9.5cm)の3つがある。③は文部省史料館で購入時に張られたものと推測できる。

①はどの段階で付けられた張紙か不明だが、二条家には文書箱の類が20個は少なくとも伝存していたことがわかる。②は二条家において本文書筆筭が現用されていた段階で付けられたと考えらる。

各引き出しには、左側に和紙に墨書された張紙があり、上から「土地関係」「日記及び雑」「詠草懷紙」とある。当館所蔵史料群のなかには、「土地関係」はほとんど見られないので、これも二条家の段階で付された張紙と推測されるが、扉の張紙②と比べると内容にかなり異同がある。また、35Mの史料群をすべてこの文書箱に収めるのは物理的に不可能であり、かつ「笏紙」はいつさい当史料群の中に伝存していないため、②の張紙によって文書が管理されていた段階での史料が散逸している点を確認できる。要するに、35M史料群が当館所蔵となった段階で、すでに文書筆筭は原秩序を失っており、史料の混入や散逸があったと考えられる。

45B史料群は、半紙判の8行罫紙(版心書はない)を料紙として用いた書冊11冊と、半紙判の和紙を料紙として用いた書冊1冊。いずれも墨書。虫喰いが甚だしく、特に表紙の破損がひどい。紐切れも著しかったようで、史料館に受け入れ後に紙縫で新たに綴られた形跡がある。それらのうち、ままだ錯簡もみられるようなので、利用にあたっては注意が必要である。

## 1. 整理の方針

史料整理にあたっては、現配列に従って通し番号を付け、整理番号とした。紐、紙縫、包紙などで一括された文書は、現状に従って枝番号をつけ、目録上にもそれを反映させた。ただし、一括された史料群のうち、No.17、No.18については、明らかに作成の契機が異なると判断されたので、一括状態の一部を解体して目録上に配列した。現配列を確認したい場合は、閲覧室常備の現配列目録を利用してほしい。目録編成上で判断にまよった史料については、各中項目において説明を加えた。

なお、文書筆筭と史料の整理番号との関係を示すと、No.104～141までが上段引き出し、No.142～177が中段引き出し、No.178～208が下段引き出しに収められた史料である。それ以外のNo.1～103、No.209～212は、文書筆筭の外に保管されていた史料群である。

## J. 関連史料の所在

現在確認できる二条家文書は、次の7カ所がある。

1. 明治大学刑事博物館。238点。既刊目録あり。
2. 慶応義塾大学所蔵二条家文書。
3. 京都教育大学所蔵二条家文書。
4. 神宮文庫寄託二条家文書。
5. 東京大学史料編纂所二条家文書。
6. 交通博物館所蔵二条家文書。41点。
7. 国文学研究資料館・史料館所蔵徳大寺家文書中の二条家文書。本目録山城国京都徳大寺家文書を参照。

## K. 利用上の注意点

現配列目録の利用希望者は、その旨を閲覧室で申し出てください。

#### **L. 参考文献**

『明治大学刑事博物館目録』第15集(1959年)

下橋敬長『幕末の宮廷』(東洋文庫353、平凡社、1979年)

新見吉治「五摂家の家礼と家臣」(徳川林政史研究所『研究紀要』昭和46年度、1972年)

橋本政宣「寛延三年の『官位御定』をめぐって」(『東京大学史料編纂所研究紀要』2、1991年)

文部省科学研究費補助金報告書(代表橋本政宣)『近世武家官位をめぐる朝幕藩関係の基礎的研究』(1997年)

松澤克行「近世武家官位叙任手続きと朝廷－十七世紀後期の公家日記から－」(同上報告書所収)

橋本政宣「江戸幕府における『武家官位叙任』の選考について」(同上報告書所収)

<付記>

京都教育大学所蔵二条家文書の閲覧では、西山克氏にお世話いただきました。末筆ながら、この場を借りて御礼申し上げます。

#### **M. 参考資料**

<二条家略系図>

<二条家年譜>

灌頂院

寛永三年閏四月二日没(69)

兼補東寺長者

三寶院門跡 大僧正 准三后

金剛輪院再興 醍醐寺座主

足利義昭猶子

義演

関白左大臣

鷹司忠冬養子

信房

後中院

元和五年七月一四日没(64)

從一位 准三后

左大臣関白 氏長者 内覧

弘治二年一月一日誕生

昭実

兼孝

関白左大臣

九条家相統

晴良

後淨明珠院

天正七年四月二九日没(54)

大永六年四月一六日誕生

大染金剛院

明応二年一月二日没(78)

応永二年五月六日誕生

持通

政嗣

如法寿院

文明二年九月二日没(37)

嘉吉三年誕生

尚基

後如法寿院

明応六年一〇月一〇日没(27)

文明三年誕生

福照院

応永七年二月二七日没(28)

永徳三年誕生

満基

師嗣

後香園院

應永七年一月二二日没(45)

延文元年誕生

良基

普光園院

文永元年一月一九日没(55)

建保三年誕生

良実

師忠

香園院

曆応四年一月一四日没(88)

建長六年誕生

兼基

光明照院

建武元年八月二二日没(68)

文永五年誕生

道平

後光明照院

建武二年二月四日没(49)

弘安十年誕生

持基

尹房

後大染金剛院

天文二〇年八月二九日於周防生害(56)

明応五年一〇月二日誕生

後福照院

文安二年一月三日没(56)

明徳元年誕生

後心院

天和二年一月二二日没(59)

從一位 摂政

左大臣 関白 氏長者 内覧

寛永元年十二月二三日誕生

光平

後陽成院皇女貞子内親王

康道

昭実

寛文六年七月二八日没(60)

從一位 能排諧

左大臣 摂政 氏長者 内覧

慶長一二年一月二四日誕生

実九条幸家二男

康道

昭実

康道

昭実

光台院  
安永三年八月一四日没(84)  
有栖川宮職仁親王御息所

辰君  
寛政二年一月一九日没(75)  
皇太后  
桜町女御 青綺門院

舎子  
無量寿院  
安永二年一月二日没(51)  
法印 園城寺長吏  
円満院門跡 大僧正

祐常  
後竜華寿院  
安永六年五月八日没(51)  
興福寺別当  
大乘院門跡 大僧正

隆遍

常歡喜院  
元文三年六月一八日没(21)  
從二位  
右大臣  
享保三年一月六日誕生

宗熙  
むねひろ

家女房

後敬信院  
宝曆四年一月一八日没(28)  
皇太子傳 右大臣 從一位  
享保一二年五月二〇日誕生  
実九条幸教二男

宗基  
むねもと

前田綱紀卿女

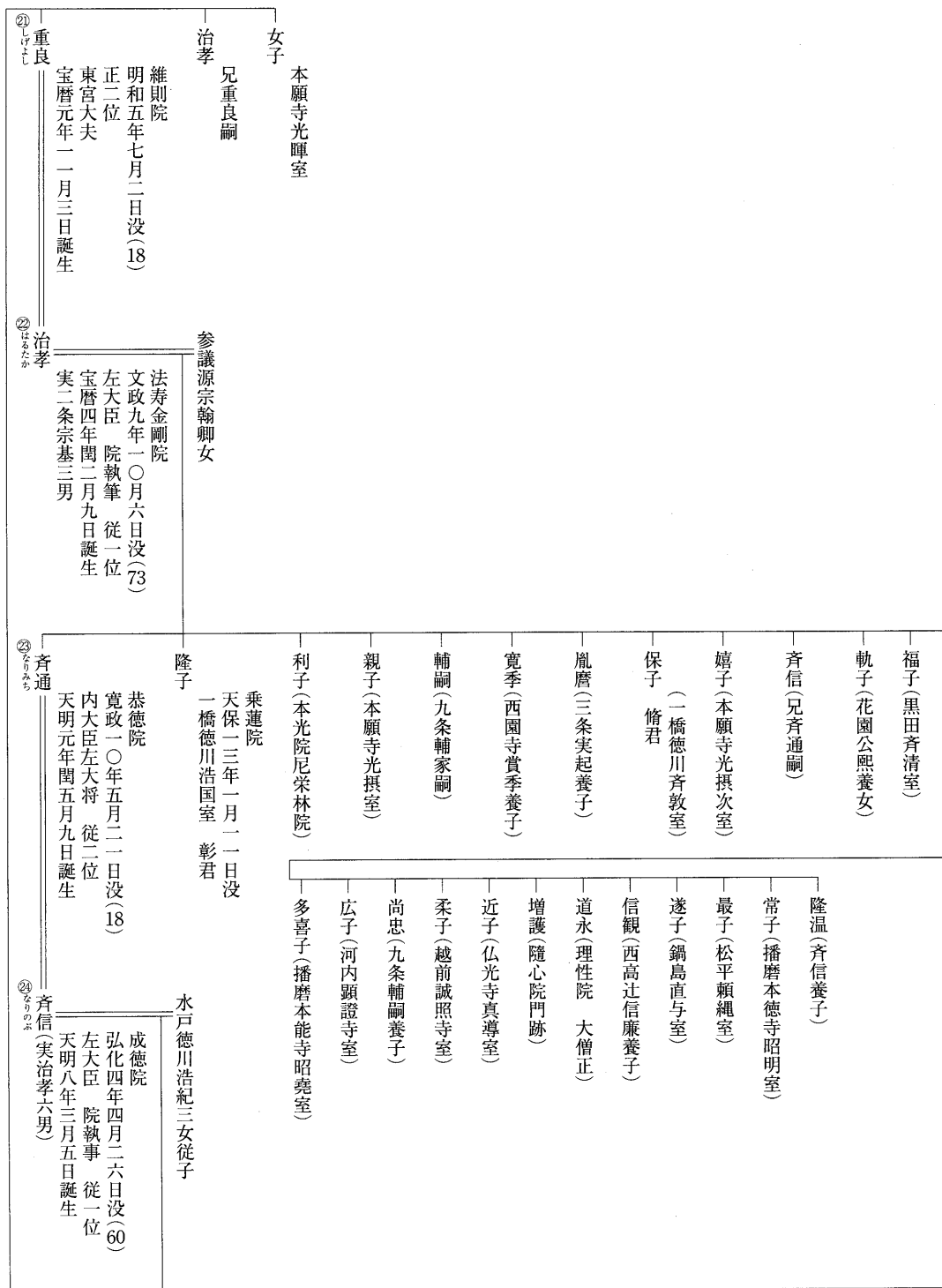
女子(徳川綱重室)  
靈元院皇女榮子内親王

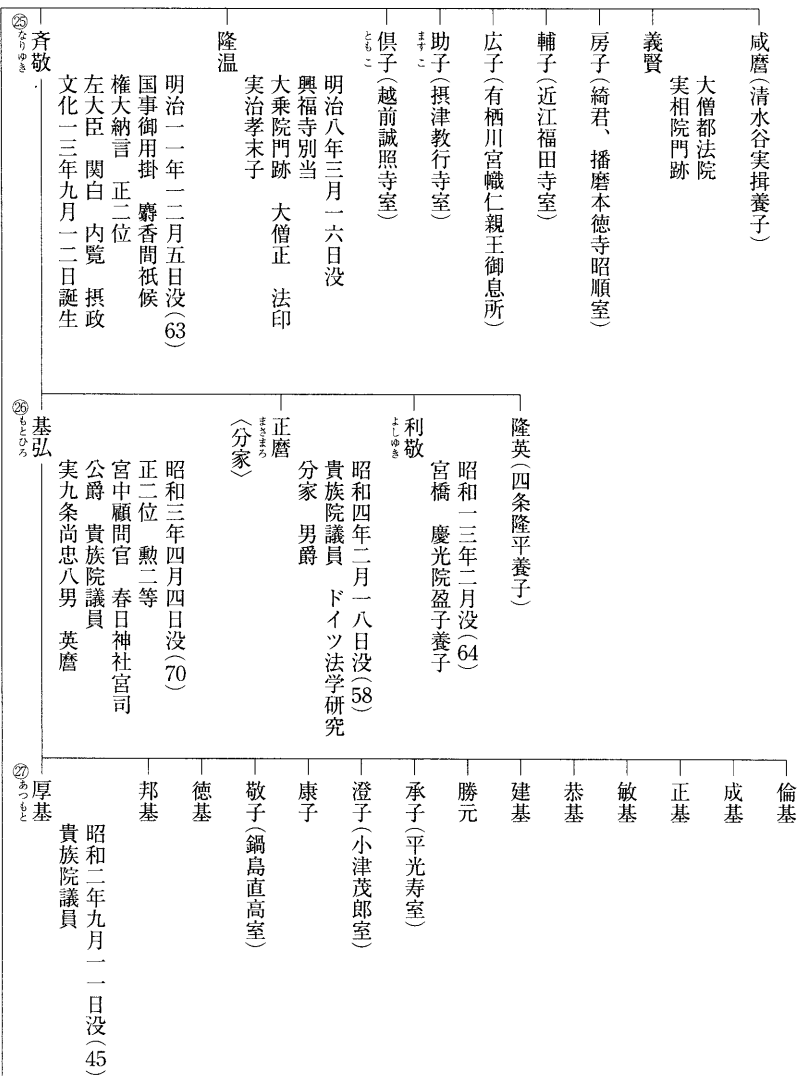
吉忠  
よしただ

安祥院  
元文二年八月三日没(49)  
從一位 贈准三后  
左大臣 関白 氏長者 内覧  
元禄二年六月二〇日誕生

敬信院  
享保一七年二月六日没(61)  
從一位 出家法名円覚  
左大臣 関白 氏長者 内覧  
母後水尾院皇女賀子内親王  
実九条兼春二男

網平  
あみへ





## 二 条 家 年 譜

<p><b>昭 実</b></p> <p>弘治 2.11. 1 誕生</p> <p>永祿11.12.16 叙正五位下(13歳)</p> <p>永祿11.12.28 元服聴禁色昇殿</p> <p>永祿11.12.29 任侍從</p> <p>永祿12. 1.16 任左少将(14歳)</p> <p>永祿12. 4.29 叙従四位上 越階</p> <p>永祿12.11.27 転左中将</p> <p>永祿13. 1.10 叙従三位 中将如元(15歳)</p> <p>元龜 2. 2.14 任権中納言 中将如元(16歳)</p> <p>元龜 3.11.26 叙正三位(17歳)</p> <p>元龜 3.12.16 任権大納言</p> <p>元龜 4. 6.27 叙従二位(18歳)</p> <p>天正 2. 1. 5 叙正二位(19歳)</p> <p>天正 5.11.19 兼左大将(22歳)</p> <p>天正 5.11.20 任内大臣</p> <p>天正 5.11.20 大将還 宣旨</p> <p>天正 5.12.28 奏慶</p> <p>天正 7. 1.20 転右大臣 大将如元(24歳)</p> <p>天正 7. 4.29 服解 父公</p> <p>天正12.12. 転左大臣 大将如元(29歳)</p> <p>天正13. 2.12 詔為関白氏長者一座左大臣(30歳)</p> <p>牛車隨身兵仗内覧等 宣下</p> <p>天正13. 4.10 辞左大臣</p> <p>天正13. 7. 9 叙従一位</p> <p>天正13. 7.11 辞職</p> <p>慶長10. 8.24 准三后</p> <p>慶長20. 7.28 詔為関白氏長者内覧牛車兵仗等如元之由 宣下(60歳)</p> <p>元和 5. 7.14 辞職</p> <p>元和 5. 7.14 没(64歳)</p> <p><b>康 道</b></p> <p>慶長12. 1.24 誕生</p> <p>慶長18.12. 7 元服聴禁色昇殿(7歳)</p> <p>慶長18.12. 7 叙正五位下</p> <p>慶長18.12.11 任左少将</p> <p>慶長19. 6.20 叙従四位下 少将如元(8歳)</p> <p>慶長20. 1. 5 叙従三位 少将如元(9歳)</p> <p>慶長20.12.27 転左中将</p> <p>元和 2. 7. 4 任権中納言 中将如元(10歳)</p> <p>元和 5. 3.29 任権大納言(13歳)</p> <p>元和 5.11.25 叙正三位</p> <p>元和 6. 1. 5 叙従二位(14歳)</p> <p>元和 6. 8.17 兼右大将</p> <p>元和 7. 1.12 任内大臣(15歳)</p> <p>元和 7. 1.16 大将還 宣旨</p> <p>元和 8. 1. 5 叙正二位(16歳)</p> <p>元和 9. 1. 6 転左大将(17歳)</p> <p>寛永 2. 8.27 辞大将(19歳)</p> <p>寛永 6. 9.13 転右大臣</p> <p>寛永 9.12.28 転左大臣</p> <p>寛永12.10.10 詔為摂政氏長者内覧牛車隨身兵仗等</p>	<p>宣下(29歳)</p> <p>寛永14.12.24 辞左大臣(30歳)</p> <p>寛永16.12.29 叙従一位(33歳)</p> <p>寛永21. 8.19 除服 将服之</p> <p>正保 4. 1. 3 辞職(41歳)</p> <p>正保 5. 3. 5 牛車兵仗如元</p> <p>寛文 6. 7.28 没(60歳)</p> <p><b>光 平</b></p> <p>寛永 1.12.13 誕生</p> <p>寛永11.閏7.8 元服聴禁色昇殿(11歳)</p> <p>寛永11.閏7.8 除正五位下</p> <p>寛永11.閏7.12 任左少将</p> <p>寛永11. 8. 2 叙従四位下</p> <p>寛永11.10.28 転左中将</p> <p>寛永12. 1. 5 叙従三位 中将如元(12歳)</p> <p>寛永12. 7.16 任権中納言</p> <p>寛永14.10.16 任権大納言(14歳)</p> <p>寛永14.12.30 叙正三位</p> <p>寛永15. 1. 7 兼右大将(15歳)</p> <p>寛永15.12.23 辞大将</p> <p>寛永16. 1.14 還任右大将</p> <p>寛永16.12.29 叙従二位</p> <p>寛永17. 1. 5 叙正二位</p> <p>寛永19. 1.19 任内大臣(19歳)</p> <p>寛永19. 1.19 大将還 宣旨</p> <p>寛永20. 7.11 転左大将</p> <p>正保 4. 7. 3 転右大臣(24歳)</p> <p>正保 4. 7. 3 大将還 宣旨</p> <p>正保 5. 1. 7 奏慶</p> <p>正保 5. 2. 3 除服出仕</p> <p>慶安 4. 2. 2 辞大将</p> <p>慶安 4. 2. 2 兵仗如元</p> <p>慶安 5. 1. 7 為一上</p> <p>慶安 5. 2. 9 辞退(29歳)</p> <p>慶安 5. 2.21 還任</p> <p>慶安 5. 9.15 転左大臣</p> <p>承応 2. 9.21 詔為関白氏長者内覧牛車隨身兵仗等 宣下(30歳)</p> <p>明暦 3. 3. 8 叙従一位(34歳)</p> <p>明暦 4. 4.27 辞左大臣(35歳)</p> <p>寛文 3. 1.26 改関白為摂政 依受禪也(40歳)</p> <p>寛文 4. 9.17 辞職(41歳)</p> <p>寛文 6. 7.28 喪父(43歳)</p> <p>天和 2.11.13 没(59歳)</p> <p><b>綱 平</b></p> <p>寛文12. 4.13 誕生</p> <p>天和 2.11.10 元服聴禁色雑袍昇殿等(11歳)</p> <p>天和 2.11.10 叙正五位下</p> <p>天和 2.11.11 任左権少将</p> <p>天和 2.11.12 服解 父</p> <p>天和 3. 1.15 除服復任</p>
---	--

## 二 条 家 年 譜

天和 3. 2. 1 叙従四位下 少将如元(12歳)  
 天和 3. 7. 29 叙従三位 越階 少将如元  
 天和 3. 12. 15 任権中納言  
 天和 3. 12. 15 転左権中将  
 天和 4. 12. 23 任権大納言(13歳)  
 貞享 2. 9. 14 叙正三位(14歳)  
 貞享 4. 1. 13 叙従二位(16歳)  
 貞享 4. 4. 9 着直衣 代始  
 貞享 4. 4. 27 勅授帶劔  
 貞享 4. 4. 28 奏慶 依即位灌頂也  
 元禄 6. 11. 12 兼右大将(22歳)  
 元禄 6. 12. 18 奏慶  
 元禄 6. 12. 28 為右馬寮御監  
 元禄 9. 8. 2 服解 養母  
 元禄 9. 9. 27 除服復任  
 元禄12. 1. 22 転左大将(28歳)  
 元禄12. 1. 24 為左馬寮御監  
 元禄17. 2. 26 任内大臣(33歳)  
 元禄17. 2. 26 大将還 宣旨  
 元禄17. 3. 21 奏慶着陣  
 元禄17. 12. 26 叙正二位  
 宝永 3. 11. 25 辞大将(35歳)  
 宝永 3. 11. 25 賜隨身兵仗  
 宝永 5. 1. 7 着陣  
 宝永 5. 1. 21 転右大臣(37歳)  
 宝永5. 閏1. 14 拝賀着陣  
 宝永 5. 2. 16 兼皇太子傅 立坊日  
 宝永 6. 6. 21 停傅 依受禪也  
 宝永 6. 6. 24 着陣 服後  
 正徳 3. 1. 6 為一上(42歳)  
 正徳 3. 1. 7 着陣  
 正徳 4. 1. 1 着陣  
 正徳 5. 8. 12 転左大臣(44歳)  
 正徳 5. 10. 25 奏慶着陣  
 正徳 5. 12. 27 叙従一位  
 享保 7. 1. 13 詔為関白氏長者内覧牛車隨身兵仗等  
     宣下(51歳)  
 享保 7. 1. 13 拝賀  
 享保 7. 1. 25 与奪一上於右大臣  
 享保 7. 5. 3 辞左大臣  
 享保11. 6. 1 辞関白(55歳)  
 享保14. 4. 29 出家 法名圓覚(58歳)  
 享保17. 2. 6 没(61歳)

### 吉 忠

元禄 2. 8. 13 誕生  
 元禄 9. 2. 18 元服聴禁色雑袍昇殿等(8歳)  
 元禄 9. 2. 18 叙従五位上  
 元禄 9. 2. 27 任左権少将  
 元禄10. 2. 16 叙正五位下  
 元禄10. 12. 26 叙従四位下(9歳)  
 元禄11. 1. 9 叙従四位上  
 元禄11. 4. 12 転左権中将

元禄11. 4. 12 叙正四位下  
 元禄11. 12. 15 叙従三位 中将如元  
 元禄12. 10. 28 任権中納言 中将如元  
 元禄14. 2. 17 叙正三位  
 元禄17. 2. 29 任権大納言(16歳)  
 宝永 4. 2. 10 叙従二位(19歳)  
 宝永5. 閏1. 21 勅授帶劔  
 宝永5. 閏1. 21 奏慶着陣  
 正徳 2. 12. 21 兼右大将(24歳)  
 正徳 2. 12. 27 奏慶着陣  
 正徳 2. 12. 27 為右馬寮御監  
 正徳 3. 7. 19 転左大将  
 正徳 3. 7. 21 為左馬寮御監  
 正徳 5. 8. 12 任内大臣  
 正徳 5. 8. 12 大将還 宣旨  
 正徳 5. 11. 16 奏慶着陣  
 正徳 6. 12. 25 叙正二位  
 享保 2. 1. 16 着陣  
 享保 3. 1. 28 辞左大将(30歳)  
 享保 3. 1. 28 賜隨身兵仗  
 享保 4. 1. 16 着陣 服後  
 享保 4. 11. 30 辞内大臣(31歳)  
 享保 4. 12. 1 還任内大臣  
 享保 7. 5. 3 転右大臣  
 享保 7. 5. 27 拝賀着陣  
 享保11. 1. 1 着陣  
 享保11. 6. 2 為一上 与奪関白  
 享保11. 9. 15 転左大臣  
 享保11. 10. 11 拝賀着陣  
 享保13. 6. 7 着陣 服後  
 享保14. 11. 14 叙従一位(41歳)  
 享保15. 1. 16 着陣  
 享保17. 2. 6 喪父  
 享保17. 3. 28 除服復任  
 享保18. 10. 15 着陣  
 享保21. 8. 27 詔為関白氏長者内覧牛車隨身兵仗等  
     宣下  
 享保21. 8. 27 拝賀  
 享保21. 8. 28 与奪一上於右大臣  
 享保21. 8. 28 直衣始  
 元文 2. 8. 3 辞関白左大臣  
 元文 2. 8. 3 没(49歳)

### 宗 熙

享保 3. 11. 6 誕生  
 享保13. 11. 18 元服聴禁色雑袍昇殿等(11歳)  
 享保13. 11. 18 叙従五位上  
 享保13. 11. 22 任左権少将  
 享保13. 12. 21 叙従四位下 越階  
 享保14. 2. 28 転左権中将(12歳)  
 享保14. 2. 28 叙正四位下 越階  
 享保14. 12. 4 叙従三位 中将如元  
 享保15. 5. 28 任権中納言 中将如元(13歳)

## 二 条 家 年 譜

享保15. 9. 18 兼左大将  
 享保15. 12. 25 為左馬寮御監  
 享保16. 11. 28 拝賀着陣  
 享保16. 12. 18 叙従三位(14歳)  
 享保18. 5. 9 任権大納言 左大将如元(16歳)  
 享保19. 1. 1 拝賀着陣  
 享保21. 2. 14 叙従二位(19歳)  
 元文 2. 6. 29 任内大臣(20歳)  
 元文 2. 6. 29 還大将 宣旨  
 元文 2. 8. 3 喪父公  
 元文 2. 9. 24 除服復任  
 元文 2. 11. 26 拝賀  
 元文 3. 1. 24 転右大臣 大将如旧  
 元文 3. 6. 18 辞右大臣左大将等 未奏大臣慶  
 元文 3. 6. 18 没 父公重服中(21歳)

### 宗 基

享保12. 5. 9 誕生  
 元文 3. 8. 13 当家相統  
 元文 4. 9. 19 元服聴禁色雑袍昇殿等(13歳)  
 元文 4. 9. 19 叙従五位上  
 元文 4. 9. 23 任左権少将  
 元文 4. 11. 8 叙従四位下 越階  
 元文 4. 12. 21 転左権中将  
 元文 5. 1. 28 叙従四位下 越階(14歳)  
 元文 5. 5. 28 叙従三位 中将如元  
 元文 5. 8. 1 任権中納言 中将如元  
 寛保 2. 1. 7 拝賀着陣  
 寛保 2. 1. 25 叙正三位  
 寛保 2. 7. 2 任権大納言(16歳)  
 寛保 3. 9. 19 勅授帶劔  
 寛保 3. 9. 19 拝賀着陣  
 寛保 3. 9. 27 叙従二位(17歳)  
 寛保 3. 12. 15 兼右大将  
 寛保 3. 12. 27 為右馬寮御監  
 寛保 4. 1. 5 奏慶着陣  
 延享 2. 5. 10 叙正二位(19歳)  
 延享2. 閏12. 24 任内大臣 陣 宣下  
 延享2. 閏12. 24 大将還 宣旨  
 延享2. 閏12. 24 拝賀着陣  
 延享2. 閏12. 25 直衣始  
 延享 3. 12. 24 転左大将 御推任(20歳)  
 延享 3. 12. 26 為左馬寮御監  
 延享 4. 1. 1 着陣  
 延享 4. 3. 16 兼皇太子傳 立坊日(21歳)  
 延享 4. 4. 7 辞大将  
 延享 4. 4. 7 賜隨身兵仗  
 延享 4. 5. 2 停傳 依受禪也  
 延享 5. 3. 7 辞内大臣(22歳)  
 延享 5. 3. 9 還任  
 延享 5. 8. 29 着陣  
 寛延 2. 11. 15 転右大臣 於陣 宣下(23歳)  
 寛延 2. 11. 15 賜官次 宣旨

寛延 2. 11. 15 拝賀着陣  
 宝暦 2. 1. 10 叙従一位(26歳)  
 宝暦 2. 1. 16 拝賀着陣  
 宝暦 4. 1. 18 辞右大臣  
 宝暦 4. 1. 18 没(28歳)

### 重 良

宝暦元. 11. 3 誕生  
 宝暦 7. 9. 27 元服聴昇殿(7歳)  
 宝暦 7. 9. 27 叙従五位上  
 宝暦 7. 9. 27 聴禁色雑袍  
 宝暦 7. 9. 30 任右権少将  
 宝暦 7. 12. 22 叙従四位下 越階  
 宝暦 8. 1. 11 転左権中将(8歳)  
 宝暦 8. 2. 10 叙正四位下 越階  
 宝暦 9. 1. 9 叙従三位 中将如元(9歳)  
 宝暦 9. 1. 29 任権中納言 中将如元  
 宝暦 9. 10. 10 拝賀着陣  
 宝暦10. 12. 17 任権大納言(10歳)  
 宝暦10. 11. 16 勅授帶劔  
 宝暦10. 11. 16 拝賀着陣  
 宝暦10. 11. 26 叙正三位  
 宝暦12. 8. 25 賜桃園院御服  
 宝暦12. 9. 24 除服宣下  
 宝暦13. 7. 30 着陣  
 宝暦13. 8. 1 叙従二位(13歳)  
 宝暦13. 9. 24 兼任右近大将  
 宝暦13. 10. 4 為右馬寮御監  
 宝暦13. 10. 8 拝賀着陣  
 明和 3. 2. 1 叙正三位(16歳)  
 明和 4. 1. 7 着陣  
 明和 5. 2. 19 兼春宮大夫 立太子日 大将如元  
 明和 5. 7. 2 辞権大納言大将大夫等  
 明和 5. 7. 2 没(18歳)

### 浩 孝

宝暦 4. 2. 9 誕生  
 明和 6. 12. 16 元服(16歳)  
 明和 6. 12. 16 叙従五位上  
 明和 6. 12. 16 聴昇殿禁色  
 明和 6. 12. 18 任左権少将  
 明和 6. 12. 22 叙従四位下  
 明和 7. 1. 5 叙正四位下(17歳)  
 明和 7. 8. 4 転左権中将 小除日  
 明和 7. 8. 4 叙従三位  
 明和 8. 4. 18 任権中納言 中将如故(18歳)  
 明和 8. 4. 20 拝賀着陣  
 明和 9. 1. 9 叙正三位(19歳)  
 明和 9. 2. 14 任権大納言  
 明和 9. 3. 19 勅授帶劔  
 明和 9. 3. 19 拝賀着陣  
 安永 2. 1. 9 叙従二位(20歳)  
 安永 3. 1. 1 着陣

## 二 条 家 年 譜

安永 4. 1. 6 叙正二位(22歳)  
 安永 4. 1. 7 着陣  
 安永 9. 7. 服解 母  
 安永 9. 8.26 除服出仕復任  
 天明 2. 1.16 着陣 服後  
 天明 2. 2.30 兼右近大將(29歳)  
 天明 2. 3.23 為右馬寮御監  
 天明 2. 3.25 拝賀着陣  
 天明 2. 3.27 直衣始  
 天明 9. 8.19 転左近大將 推任(36歳)  
 天明 9.10. 6 為左馬寮御監  
 天明 9.12.13 着陣  
 寛政 2. 2.22 賜前書綺門院御服  
 寛政 2. 3.23 除服宣下  
 寛政 3.11.28 任右大臣(38歳)  
 寛政 3.11.28 大將還 宣旨  
 寛政 3.11.28 賜官次 宣旨  
 寛政 3.11.28 拝賀  
 寛政 3.12. 1 着陣  
 寛政 3.12. 2 直衣始  
 寛政 3.12. 4 為院執筆  
 寛政 3.12.15 覧吉書  
 寛政 4. 1. 6 賜官次 宣旨  
 寛政 4. 1.14 賜官次 宣旨  
 寛政 4. 2. 6 辞大將  
 寛政 4. 2. 6 賜隨身兵仗  
 寛政 4. 3. 6 拝賀着陣  
 寛政 4. 3. 7 直衣始  
 寛政 7.11.28 為一人 関白与奪  
 寛政 8. 2. 4 着陣  
 寛政 8. 2. 4 叙従一位(43歳)  
 寛政 8. 2.25 拝賀着陣  
 寛政 8. 4.24 転左大臣  
 寛政 8. 4.24 賜官次 宣旨  
 寛政 8. 4.24 拝賀着陣  
 寛政 8. 4.26 直衣始  
 寛政 8. 9.26 賜官次 宣旨  
 寛政10.12.17 着陣 服後  
 享和 3.10.16 着陣 服後  
 文化 1.12.16 着陣 服後  
 文化 4.11.19 着陣 服御  
 文化 6.11.24 着陣 服御  
 文化10.11.17 着陣 服御  
 文化10.12.16 賜後桜町院御服  
 文化11. 1.16 除服 宣下  
 文化11. 4. 2 辞左大臣隨身兵仗等 依老病(61歳)  
 文政 9.10. 6 没(73歳)

### 齊 通

天明元. 閏5.9 誕生  
 天明 7.12.25 元服(7歳)  
 天明 7.12.25 叙従五位上  
 天明 7.12.25 聴昇殿禁色等

天明 7.12.27 任右近衛権少將  
 天明 8. 1.15 叙従四位下 越階(8歳)  
 天明 9. 1.14 転右近衛権中將(9歳)  
 天明 9.12. 1 叙正四位下 越階  
 寛政 3.12.22 叙従三位 中將如元(11歳)  
 寛政 3. 8.27 任権中納言 中將如元  
 寛政 3. 9.16 拝賀  
 寛政 3. 9.24 直衣始  
 寛政 3. 9.26 着陣  
 寛政 6. 1.13 任権大納言(14歳)  
 寛政 6. 2.16 勅授帶劔  
 寛政 6. 2.16 拝賀着陣  
 寛政 6. 2.19 直衣始  
 寛政 6. 8.29 服解 母  
 寛政 6.10.20 除服出仕復任  
 寛政 7.11.27 叙正三位(15歳)  
 寛政 9. 2.26 叙従二位(17歳)  
 寛政 9. 3.27 任内大臣  
 寛政 9. 3.27 兼左近大將  
 寛政 9. 3.27 為左馬寮御監  
 寛政 9. 3.27 拝賀  
 寛政 9. 3.30 直衣始  
 寛政 9. 4. 5 着陣  
 寛政10. 1.26 辞大將御監  
 寛政10. 5.18 賜隨身兵仗  
 寛政10. 5.21 辞内大臣  
 寛政10. 5.21 辞隨身兵仗  
 寛政10. 5.21 没 号恭徳院(18歳)

### 齊 信

天明 8. 3. 5 誕生  
 寛政13. 2.19 元服聴昇殿(14歳)  
 寛政13. 2.19 叙従五位上  
 寛政13. 2.19 拝賀  
 寛政13. 2.19 聴禁色  
 寛政13. 2.23 任左近衛権少將 推任  
 寛政13. 4. 7 叙従四位下 越階  
 寛政13. 8. 8 転権中將 推任  
 享和 2.12.22 叙正四位下 越階(15歳)  
 享和 3. 2.19 叙従三位 中將如旧(16歳)  
 享和 4. 1.24 任権中納言 中將如旧(17歳)  
 享和 4. 4.27 拝賀  
 享和 4. 5. 3 直衣始  
 享和 4. 5. 4 着陣  
 文化 2.12.15 着陣 服後  
 文化 3.10.27 着陣 服後  
 文化 3.12.19 叙正三位(19歳)  
 文化 4. 1.16 着陣 服後  
 文化 5. 1. 7 着陣 服後  
 文化 5. 6.24 任権大納言(21歳)  
 文化 5. 9.15 勅授帶劔  
 文化 5. 9.17 拝賀着陣  
 文化 5. 9.19 直衣始

## 二 条 家 年 譜

文化 6. 1. 7 着陣 服後  
 文化 6. 2. 10 叙従二位(22歳)  
 文化 6. 12. 25 着陣 加階服等之後  
 文化10. 10. 27 叙正二位  
 文化10. 12. 16 賜後桜町院御服  
 文化11. 1. 16 除服 宣下  
 文化12. 2. 26 任内大臣(28歳)  
 文化12. 2. 26 兼右近大将  
 文化12. 2. 26 為右馬寮御監  
 文化12. 2. 26 拝賀  
 文化12. 2. 28 直衣始  
 文化12. 3. 2 本陣着陣  
 文化12. 12. 4 遷左大将  
 文化12. 12. 4 為左馬寮御監  
 文化12. 12. 17 着陣  
 文化13. 12. 22 着陣 服後  
 文化14. 3. 16 着陣 服後  
 文政 3. 1. 17 辞大将御監等  
 文政 3. 1. 17 賜隨身兵仗  
 文政 3. 2. 13 拝賀着陣  
 文政 3. 2. 17 直衣始  
 文政 3. 10. 15 転右大臣(33歳)  
 文政 3. 10. 15 賜官次 宣旨  
 文政 3. 10. 15 拝賀着陣  
 文政 3. 10. 19 直衣始  
 文政 5. 11. 22 着陣 服後  
 文政 6. 3. 21 為院執筆  
 文政 6. 3. 27 為一上 関白与奪  
 文政 6. 6. 25 着陣  
 文政 6. 6. 26 覽吉書 院司後  
 文政 6. 12. 4 着陣 服後  
 文政 7. 1. 5 転左大臣(37歳)  
 文政 7. 1. 5 賜官次 宣旨  
 文政 7. 1. 5 拝賀着陣  
 文政 7. 1. 6 直衣始  
 文政 7. 5. 7 叙従一位 推叙  
 文政 7. 5. 20 拝賀着陣  
 文政 9. 10. 6 服解 父  
 文政 9. 11. 28 除服出仕復任  
 文政10. 12. 17 着陣 服後  
 文政13. 11. 21 着陣 服後  
 天保 7. 10. 20 着陣 服後  
 天保11. 12. 20 賜光格天皇御服  
 天保12. 1. 20 除服 宣下  
 天保12. 12. 27 着陣  
 天保13. 9. 28 着陣 服後  
 天保14. 10. 14 着陣 服後  
 天保15. 10. 13 着陣 服後  
 弘化 2. 11. 17 着陣 服後  
 弘化 4. 4. 26 辞左大臣隨身兵仗等  
 弘化 4. 4. 26 没(60歳)

### 齊 敬

文化13. 9. 12 誕生  
 文政 7. 5. 25 元服聴昇殿(9歳)  
 文政 7. 5. 25 叙従五位上  
 文政 7. 5. 25 拝賀  
 文政 7. 5. 25 聴禁色雑袍  
 文政 7. 5. 28 任左権少将 剩闕  
 文政 7. 6. 4 叙従四位下 越階 小除目次  
 文政 7. 8. 10 転右権中将  
 文政 7. 10. 19 叙正四位下 越階  
 文政 8. 1. 25 叙従三位 中将如旧 推叙(10歳)  
 文政10. 12. 19 叙正三位(12歳)  
 文政11. 2. 4 任権中納言 推任 中将如旧(13歳)  
 文政11. 3. 18 拝賀着陣  
 文政11. 3. 21 直衣始  
 天保 2. 6. 23 任権大納言(16歳)  
 天保 2. 10. 26 勅授帶劔  
 天保 2. 10. 27 拝賀着陣  
 天保 2. 10. 28 直衣始  
 天保 3. 1. 27 叙従二位(17歳)  
 天保 3. 11. 10 着陣 階後  
 天保 7. 12. 15 着陣 服後  
 天保 9. 10. 28 叙正二位(23歳)  
 天保 9. 11. 11 着陣 階後  
 天保11. 11. 18 着陣 服後  
 天保13. 12. 24 着陣 服後  
 天保14. 10. 15 着陣 服後  
 天保15. 1. 24 服解 母  
 天保15. 3. 14 除服出仕復任  
 弘化 2. 11. 27 着陣 服後  
 弘化 4. 4. 26 服解 父  
 弘化 4. 6. 21 除服出仕復任  
 嘉永 1. 10. 28 着陣 服後  
 嘉永 1. 11. 24 着陣  
 嘉永 5. 11. 22 着陣 服後  
 嘉永 6. 12. 25 着陣 服後  
 安政 3. 11. 14 着陣 服後  
 安政 6. 1. 16 着服 服後  
 安政 6. 3. 27 兼左近衛大将(44歳)  
 安政 6. 3. 27 為左馬寮御監 推補  
 安政 6. 3. 28 任内大臣 大将御監等如元  
 安政 6. 3. 28 拝賀  
 安政 6. 3. 30 直衣始  
 安政 6. 4. 8 着本陣  
 安政 6. 4. 8 着陣  
 安政 7. 1. 7 着陣 服後  
 万延 1. 9. 28 着陣 服後  
 文久 1. 12. 7 着陣 服後  
 文久 2. 1. 4 転右大臣 大将御監等如元賜官位宣旨  
 文久 2. 1. 4 拝賀着陣  
 文久 2. 1. 20 直衣始  
 文久 2. 5. 11 辞大将左馬寮御監等  
 文久 2. 5. 11 賜隨身兵仗

## 二 条 家 年 譜

文久 2. 9.28 叙従一位 推叙(47歳)	文久 3.12.24 直衣始 今夜宿侍始
文久 2.12. 5 拝賀着陣	文久 3.12.25 着陣
文久 2.12. 8 直衣始	慶応 2. 9. 4 辞職
文久 3. 9.15 蒙内覧 宣旨	慶応 2. 9. 8 辞職 二度
文久 3. 9.28 着陣	慶応 2. 9. 8 勅答不許
文久 3.12.23 転左大臣(48歳)	慶応 2.12. 7 除服出仕 別勅
文久 3.12.23 詔為関白氏長者牛車隨身兵仗等宣下	慶応 3. 1. 9 改関白為摂政 依踐祚也(52歳)
文久 3.12.23 拝賀	

出典：「公卿諸家譜」（清水谷家文書 No.222-6）

## 35M

1. 二条家	181
1-1. 官位叙任	181
○光平 ○治孝	
1-2. 冠婚葬祭	181
1-2-1. 元服・成人	181
1-2-2. 婚礼	181
1-3. 交際	182
1-4. 信仰	183
1-5. 当主日記	183
1-6. 記録	183
1-7. 古記録	183
1-8. 文書目録	183
1-9. 有職故実	184
1-10. 文芸・学問	184
1-10-1. 歌道	184
1-10-2. 漢文	185
1-10-3. 随筆	186
1-10-4. 入木道	186
1-11. 名鑑	186
2. 二条家家政	187
2-1. 内々番所	187
2-2. 役所	187
2-2-1. 諸願・諸届・諸伺	187
2-2-2. 留書・記録	188
2-3. 勘定所	188
2-4. 奏者所	188
2-5. 奥向	189

3. 摂家	190
3-1. 大葬・即位	190
3-2. 改元	190
3-3. 五節会	191
3-4. 行幸	192
3-5. 神事	192
3-6. 法会	193
3-7. 立親王・立后	194
3-8. 着陣	194
3-9. 官奏雑事	195
3-10. 叙位・除目	196
○交名・位署	
3-11. 諸願・諸届	198
3-12. 日光奉幣使	199
3-13. 江戸幕府	199
3-14. 先例	200
3-15. 勤番	201

4. 出所不明	202
---------	-----

## 45B

5. 扶局	203
5-1. 親族調	203
5-2. 日次記	203
5-3. 書状留	203
5-4. 布告留	203
5-5. 華族会館・宗族・第十五国立銀行記事	204

表題／作成・授受／備考	年代	形態 数量	整理番号
-------------	----	-------	------

## 1. 二条家

### 1-1. 官位叙任

位記・宣旨は伝存しない。16代光平(1624～1683)の関白転任の際の請状1点、22代治孝(1754～1826)が左大臣に転任した際に座次を右大臣の上とする宣旨案3点がある。各当主の官位は、M. 参考資料の二条家年譜を参照のこと。

○光平 〔二条光平関白職請状案〕	承応2年9月21日	折 1通	49
○治孝 〔光格天皇宣旨案〕(右大臣二条治孝転任左大臣) 大外記兼助教中原朝師資奉	寛政8年4月24日	竪 1通	31-3
〔光格天皇宣旨案〕(左大臣宜令列右大臣上) 大外記兼助教中原朝師資奉	寛政8年4月24日	竪 1通	31-4
〔光格天皇宣旨案〕(左大臣宜令列右大臣上) 大外記兼助教中原朝師資奉	寛政8年9月26日	竪 1通	31-5

### 1-2. 冠婚葬祭

小項目として、1-2-1. 元服・成人 1-2-1. 婚礼の2つを立てた。ここに収めたものの以外で元服に関連するものには、2-1. 内々番所に、斉敬が將軍徳川家斉から偏諱を与えられた際の内々番所の記録「若君様江関東より御一字被進諸調向」1冊(No.7)がある。また、婚礼では2-4. 勘定所に「脩君様御用代残調帳」1冊(No.27)がある。

#### 1-2-1. 元服・成人

25代斉敬(1816～1847)が11代將軍家斉の偏諱をもらった際に文章博士高辻以長が草した名字状がある。栄君については不詳。

〔包紙〕 御名字事(斉敬・斉成・斉親・斉忠・斉嗣) 少納言菅原以長	〔包紙〕	竪(53.6×67.5) 1通	18-9-0
	〔包紙〕	折(53.9×67.7) 1通	18-9-1
	〔元服次第草案〕	切継 1通	101
〔包紙〕 〔名字状〕(栄君)	〔包紙〕	竪 1通	169-0
	〔名字状〕(栄君)	折 1通	169-1

#### 1-2-2. 婚礼

元禄13年(1700)に18代二条吉忠(1689～1737)と前田綱紀(加賀金沢102万石)の娘が婚礼した時の一件文書。

○吉忠			
〔包紙〕	〔包紙〕 上書「今度吉忠婚礼ニ付本庄芸州座敷鋳道具等書付給候様ニ被申越候段、則書付可有之候写也、元禄十三十二月 御厨子黒廂等ハ一条殿書写遣之、道具ハ少々此方ニ而吟味申付少々不同有之也」	元禄13年12月	美 1通 97-0-1
	〔包紙〕 上書「婚礼道具之飭等之図也」		美 1通 97-0-2
	〔某仮名消息案〕		豎 1通 97-1
	〔某仮名消息〕 →しん大納言殿へ		折 1通 97-2
〔包紙〕	〔包紙〕		豎 1通 99-0
	〔包紙〕 上書「従加賀宰相殿江尻御止宿之御飛札御到来御返書之留」		美 1通 99-1-0
	〔二条綱平書状写〕(去24日京都発輿、来6日着府予定) 綱平→加賀宰相殿	3月1日	切継 1通 99-1-1
	〔屋敷略図〕		美 1通 99-2
	〔目録案〕(白・実赤)		折 1通 99-3
	〔覚書〕(家宣公実父院号)		切継 1通 99-4

## 1-3. 交際

二条家と親族、あるいは他家との間の私的な往復書簡、進物目録など。

〔包紙〕	上書「返上」		美 1通 139-0-1
	〔包紙〕		美 1通 139-0-2
	〔某返状〕(7月19日変動静謐に付報謝)		折 1通 139-1
	口上(装束に付問状草案) 綱□ <sup>(X)</sup> →地欠		折 1通 161
〔包紙〕	口上(鴨居の件) 捻封		半 1通 140
	〔南殿桜植樹覚〕		切継 1通 52
	〔摂政某書状〕(雪海苔の返礼) 摂政→内府公	仲春20日	折 1通 57
	〔摂政九條輔実書状〕(示給の趣承知) 輔実→	(正徳6年)6月19日	折 1通 86
〔包紙〕	〔目録〕(御まな一折)		豎 2通(礼紙1通) 144
	〔ミ和子書状〕(年頭祝儀) ミ和子→御とふ様江		折 1通 187
	〔むね子書状〕(寒中見舞) むね子→右府様		折 1通 188
	〔藤木経文書状〕 破損大	(明治カ)	切継(封筒入) 1通 208

## 1-4. 信仰

二条家が菩提寺二尊院(天台宗)に什物を寄付した際の請取状1点、八幡皇太神・天照皇太神・護王大明神の三神を祭る日少宮の絵像ならびに託宣の刷物2点、包紙1点。

〔二尊院義室什物請取状〕 二尊院議室(印), 前欠カ 〔包紙〕 上書「日少宮御絵像・三社御託宣」 〔日之少宮絵像〕 〔日少宮三社託宣〕	延享3年3月	縦継 1通	153
		縦 1通	170-0
		65.6×29.7 1通	170-1
		65.6×30.0 1通	170-2

## 1-5. 当主日記

17代綱平(1672～1732)のものと推定される日記断簡1点。日次記の体裁をとっているが、日記というよりは備忘録に近い。文中に「予」とあり、自筆と推測されるが、検討の余地がある。なお、他の当主の動向については、家政組織のなかで作成された2-4. 奏者所の日記、2-5. 奥向の日記からも知ることができる。

〔某日記〕 〔二条綱平カ〕, 断簡	(宝永～享保)	折(19.3×14.4) 1冊	177
----------------------	---------	--------------------	-----

## 1-6. 記録

江戸時代に二条家において作成され、保管された記録文書を収めた。なお、関連項目として、1-7. 古記録、1-9. 有職故実を参照のこと。

〔拝任請状留〕 〔包紙〕 上書「一條様御元服次第」 御元服次第 〔年代記〕(伊勢一社奉幣派遣～京都火事) 後欠 〔戒名并没年書付〕 断簡	(天文14～16年)	美 1冊	11
		23.0×16.0 1袋	33-0
		美二切 1冊	33-1
	寛文9年9月～同11年3月	縦継 1通	92
		美 12通	206

## 1-7. 古記録

永仁院中記 破損大		美 1冊	209
共綱卿記 讓位之条々 清閑寺共綱	寛文3年1月(～2月)	美 1冊	10

## 1-8. 文書目録

覚(編旨・女房奉書他)	巳6月9日	縦継 1通	166
-------------	-------	-------	-----

## 1-9. 有職故実

二条家の当主が朝儀の先例を調べるために収集した有職故実に関する書冊、書付、および古記録の抜粋。二条家の秘儀としては、「即位 灌 頂」が同家に限る「天下一伝之事」とされた(No.159)。なお、他家との有職故実の問答については、1-3. 交際に書状が少しある。朝儀の次第については、3. 撰家の各項目を参照のこと。

雑々次第(南都記雅昵序・行幸次第・改元定次第・同 次第・仗儀次第・夜前次第・御讓位次第・御八講次 第・曼陀羅供次第・改元定習日)	延宝8年8月写	美二切 1冊	15
〔包紙〕 上書「九條内大臣植基公ヨリ舞踏伝授之時被下 也、植基公御自筆也 舞踏次第」		33.0×50.4 1通	35-0
〔包紙〕 舞踏作法		折(52.2×67.5) 1通	35-1
〔上巳の故実書付〕		切継 1通	55
〔故実書付断簡〕 前後欠		小本 1冊(4丁)	56
〔直衣始次第書付草案〕 紙背「補略」とあり		半 1通	67
〔門号起事他書付〕 帯紐あり		美横折 2通	94
表(故実備忘)		美二切 1冊	100
唐織物之事		折 2通	123
〔玉葉御記抜粋〕 頼胤		折 1通	134
〔包紙〕 上書「一條殿に借用平緒之図」		豎 1通	150-0
〔包紙〕 平緒図		豎継 1通	150-1
〔包紙〕 切平緒おれの図		豎継 1通	150-2
〔包紙〕 上書「即位 灌 頂 名字之心覚書入」		豎 1通	159-0
〔包紙〕 〔即位灌頂心覚〕		折 1通	159-1
〔儀式次第書〕 前欠		豎継 1通	31-2
延宝七年夏比ふ有職方種々寄書 中は白紙		小(5.5×7.4) 1冊	181

## 1-10. 文芸

1-10-1. 歌道、1-10-2. 漢文、1-10-3. 随筆、1-10-4. 入木道、の4項目を立てた。

## 1-10-1. 歌道

二条家の家職である歌道の奥義書、および詠草22点。

〔包紙〕 星夕手向七首和歌 齊敬		折 1通	76-1
------------------------	--	------	------

〔紙綴〕	〔仁義礼智信詠草五首〕		切(23.0×19.5) 5通	76-2
	近來風躰(歌連歌の事)		美 1通	76-3
	〔詠草一首〕		美 1通	76-4
	〔後崇光院御記日次書付〕		切 1通	76-5
	〔詠草六題〕 齊慶上		折 1通	76-6
	豎詠草		豎綴 1通	201
	〔詠草三題〕 齊信		折 1通	72
	〔和歌短冊・奉書認様〕		豎 1通	189
	〔詠草一題〕 信子書		豎 1通	190
	〔詠草〕		小 1冊	191
	〔詠草〕		折 3通	192
	他望自詠料紙短尺以下染筆留	甲子8月改	半二切 1冊	193
	〔詠草五題〕 齊敬		切綴 1通	194
	〔詞寄〕 光雄	寛文3年2月10日	美二切 1冊	196
	〔御歌会記〕 出題治部卿 奉行尹隆, 前欠		半(3丁) 1冊	197
	応安六年二月北野天神百韻御連歌表八句之写		切 1通	198
	〔詠草〕		美横折 2通	199
	〔包紙〕 上書「齊信」		美 1通	202-0
	〔詠草一題〕(鶯嶺曉鐘)		折 1通	202-1
〔包紙〕	〔詠草一題〕(歳暮) 宗熙		折 1通	203
	〔詠草十五題〕 齊敬		切綴 1通	204

## 1-10-2. 漢文

〔包紙〕	〔新刊經解目錄〕		美 1冊(9丁)	133
	〔毛詩注釈〕		折本(10.0×4.6) 1冊	168
	宝永七年庚寅三月十三日小集(二十七首)		横 1冊	200
	賀甘露文 右中弁臣藤原朝臣光潔頓首百拝	享保14年8月23日	豎綴 1通	155
	〔包紙〕 上書「甘露詩并序点付」 蒙山瑞恕		美 1通	205-0

〔甘露詩〕 蒙山瑞恕		卷(28.0×96.5) 1通	205-1
---------------	--	--------------------	-------

## 1-10-3. 随筆

徒然草抄拔書		美二切 1冊	59
--------	--	--------	----

## 1-10-4. 入木道

〔瑞巖院殿御記讀写〕 端裏書「入木道二入」		半 1通	195
--------------------------	--	------	-----

## 1-11. 名鑑

〔補略〕	(享和3年)	半三切 1冊	63
〔補略〕	嘉永3年1月1日	美三切 1冊	142

表題／作成・授受／備考	年代	形態	数量	整理番号
-------------	----	----	----	------

## 2. 二条家家政

### 2-1. 内々番所

内々番所で中心に作成された記録は、「内々番所日記」である。安政期には1年間を四季にわけて4冊が作成されていた。この系統の日記は当館所蔵史料群中には含まれていないが、慶応大学図書館所蔵の二条家文書の中に「内々番所日記」約1000冊を所蔵している。他に、「内々番所言上帳」「内々番所御用申送帳」「口番所日記」各1冊づつが毎年作成されていた。当館所蔵文書には、文政7年(1824)25代齊敬(1816～1878)が11代江戸幕府將軍徳川家斉から偏諱を与えられた際に、二条家の内々番所が担当した儀式次第や役割分担を記した記録1点が伝わるのみである。これは、内々番所で臨時的に作成された記録に位置付けられる。

若君様江関東より御一字被進諸調向 内々番所	文政7年2月5日	半 1冊	7
--------------------------	----------	------	---

### 2-2. 役所

当史料群には役所日記が伝存していないので、二条家の役所の機能についての全体像はつかみ得ないが、役所は二条家の家政組織を統括する部局と考えられ、二条家当主の役務を助け、諸家の進物等の準備、二条家の年中行事を営み、家臣への給金の差配などを担当した。そこで、小項目には史料の遺存状況から、2-2-1. 諸願・諸届・諸伺 2-2-2. 留書・記録の2つを立てた。ここでは役所において作成、授受、保管された記録文書を収めることを基本としたが、2-2-2. 留書・記録の中には必ずしも役所で作成されたものとは特定できないが、家臣団に関わる内容であることから判断して便宜的に配置したものがある。

#### 2-2-1. 諸願・諸届・諸伺

〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕	〔隨身調子筑後守・富左近将曹願書一件〕	(安永7年閏7月)	美 1冊	18-11
	〔近衛府富左近将曹届状〕(立親王宣下次第相授・実方祖父死去服穢)	9月1日	折 1通	65
	近衛府富左近将曹→二条左大將様諸大夫御中、一部欠		切継 1通	50
	〔松波周防守上階の件に付書付草案〕		折 4通	51
	〔松波周防守一件に付書状草案〕	文久4年1月	美 1通	173-0
	〔包紙〕 上書「戸田和太郎・小堀数馬」		切継 1通	173-1
	〔戸田和太郎・小堀数馬門人攻馬の節馬場へ召連に附伺状〕		半 1通	156-0
	〔包紙〕 上書「願書并由緒書」 御内上田右兵衛大尉		折 1通	156-1
	奉願上口上覚(医業相統願) 御内上田右兵衛大尉		折 1通	156-2
	〔上田家由緒書付〕			

## 2-2-2. 留書・記録

〔浦賀沖異国船渡来に付留書〕	(嘉永6年)	半 1冊	18-10
御隨身人之事	天明2年春3月(宝暦13年11月)	半 1冊	18-1
補家司儀		横美 1冊	62
〔御表御殿御次第并御裏御殿御次第〕		折本(13.4×7.6) 1冊	167

## 2-3. 勘定所

勘定所で作成され、保管された記録としては、安政期には「勘定所日記」「勘定銭帳」「元方帳」「勘定所買上帳」「同米出入帳」「同木芝出入帳」「進物出入帳」が恒常的に作成されていた。その他、知行所の村々からの「物成並差引勘定帳」、「宗門改帳」、諸種の書付などが提出され、保管された。本史料群には、以上のような恒常的に作成、授受、保管された記録文書はほとんど伝来せず、臨時的に作成された婚礼勘定記録1点、および諸願2点があるのみである。

「脩君」は22代治孝(1754～1826)の4女保子のことで、寛政10年(1798)11月5日に江戸に到着し、江戸城奥に入り、11月25日に一橋徳川斉敦と婚礼をあげた。「脩君様御用代残調帳」(No.27)は、その際の諸代金の支払帳である。この時に随行した家臣や帳簿を作成した部局等是不明だが、内容から勘定所に保管された文書と推定した。No.207は、宛所が「二条御所御役人中様」となっているが、勘定所役人を省略して「役人」と称することがあり、また知行所の支配は勘定所の役人が担当していることから、ここに配置した。

脩君様御用代残調帳	寛政10年12月改	横半 1冊	27
乍恐奉願上候口上(貸金返済願) 四条烏丸東入町上原屋弥兵衛(印)→二條様御勘定所御役人中様	慶応3年9月7日	美 1通	127
二条様江願書之内抜書写(山論) (愛宕山福寿院役者中谷大式→二条御所御役人中様)	宝暦11年4月	美継 1通	207

## 2-4. 奏者所

奏者所は、公家屋敷の表玄関における出入りを掌握した機関で、表玄関に詰めて、公家・武家・寺社からの使者の往来や音信物の請取を担当した。それらの日々の日記が「御奏者所日記」、もしくは「御玄関日記」と呼ばれる記録である。日記には、表玄関における二条家と諸家との間での書状・音信物の往来、およびそれぞれの使者の名が記される。なお、奏者所と玄関の関係については、解題(G. 全体構造と内容)を参照のこと。

御奏者所日記	寛永13年1月～2月	半 1冊	14
御玄関日記	宝永6年1月～12月	美大(29.0×20.8) 1冊	1
御玄関日記	宝永7年1月～12月	美大(30.0×21.2) 1冊	2
御玄関日記	元文6年1月～12月	美大(31.3×23.3)	3

御玄関日次記	延享3年1月～3月	1冊 美大(31.6×22.5) 1冊	4
--------	-----------	---------------------------	---

## 2-5. 奥向

二条家の奥向で作成された文書として、「御日次」の表題をもつ安永10年(1781、4月2日天明に改元)の日記1冊がある。表紙左下に「御中老共」とあり、これは奥向の中老が記した日記と推測できる。本文書の出所内組織を奥向と特定した根拠は、16日に「御安さん後初て御ゆいめし」とある記事による。この時の二条家当主は22代治孝で、その妻室は水戸徳川宗翰の娘翰子(嘉君)であり、天明元年(1781)閏5月9日に長男斉通が誕生している。閏5月18日からは「若君様」と見え、上記の安産とは斉通の誕生を意味すると思われる。また、日記には水戸家や江戸からの音信物が届いているので、本記録は翰子付の中老が記した日次記であることを裏付けている。

御日次 御中老共	安永10年1月～12月	美 1冊	5
-------------	-------------	------	---

表題／作成・授受／備考	年代	形態／点数	整理番号
-------------	----	-------	------

### 3. 撰家

#### 3-1. 大葬・即位

大葬ならびに即位に関わる一件記録を収めた。〔孝明天皇大葬用留〕(No.132)は、慶応3年(1867)1月8日から27日までの孝明天皇の大葬に関わり、摂政内覧二条斉敬が関係部局から到来した文書や儀式次第を書留めた記録。同年1月9日、斉敬は明治天皇の摂政内覧となった。また、先帝が生前に葬礼の方法を遺言し、それを天皇に奏上する儀式である遺詔<sup>いじょうのそう</sup>奏<sup>そう</sup>に関わる次第書が5点ある。

〔寛永20年10月3日官府3通 勅府3通 吉書3通 内舎人差文1通 御讓位宣命18日由奉幣宣命21日御即位宣命〕  桃園院御葬送行烈(行列書)  〔孝明天皇大葬用留〕  〔紙綴〕開関解陣次第(草案) 〔紙綴〕開関解陣次第  〔包紙〕上書「卯十月十一日山中法眼より差出候書取二通也」 〔包紙〕天子御神号(花山～光明) 斎部富嗣謹撰  〔包紙〕上書「三月十九日申刻御詔定より御所様可被着諒闇御服日時」 〔包紙〕〔陰陽権助保源諒闇御服日時勘文案〕 陰陽権助保源  奏遺詔次第 元和度遺詔陣儀略次第・御誦経定被付行次第 享保奏遺詔警固固開・渡御倚廬・還御倚廬・開関解陣(次第)  奏遺詔次第・渡御倚廬次第 奉遺詔次第(元文度作進)	寛永20年10月	継 1巻	30
	宝暦12年8月22日 (慶応3年)	美四切 1冊	26
		堅二切 1冊(36丁)	132
		美二切 1冊	16-1
		美二切 1冊	16-2
		半 1通	165-0
		切 1通	165-1
		美 1通	182-0
	3月11日	折 1通	182-1
		堅二切 1冊	8
		美二切 1冊	21
		堅二切 1冊	23
	宝暦12年8月25日	美二切 1冊	24
		美二切 1冊	34

#### 3-2. 改元

寛永度・弘化度・慶応度などの改元の一件記録がある。

寛永度條事定次第 右大臣輔実公作進		折本(23.2×19.0)1通	40
條事定次第		堅二切 1冊	18-2
年号勘文奏聞次第		折 1通	18-3
〔新宰相中将年号勘文次第〕		折 1通	18-4
〔年号勘文下書〕		折 1通	18-5

〔中納言・宰相着座次第〕		折 1通	18-6
〔改元難陳〕(嘉延)		折 1通	18-7
〔包紙〕		半 1通	18-8-0
〔改元群議判詞〕(嘉徳・弘化上奏)		折 1通	18-8-1
〔改元難陳〕(嘉永・文久・嘉延・萬安・萬延・嘉徳・弘化)		折 1通	18-8-2
年号之事	(慶応元年)	折 1通	41-3
年号之事	(慶応元年)	折 1通	41-4
年号之事	(慶応元年)	折 1通	41-5
〔年号勘文案〕 式部大輔菅原在光	(慶応元年)	折 1通	41-6
〔年号勘文案〕 文章博士菅原修長	(慶応元年)	折 1通	41-7
〔年号勘文案〕 式部権大輔菅原長熙	(慶応元年)	折 1通	41-8
〔改元難陳草案〕		折 1通	163

## 3-3. 五節会

五節会とは、1月1日の元日節会(朝賀・朝拝・拝賀とも)、1月7日の白馬節会<sup>あおうまのせちえ</sup>、1月16日の踏歌節会<sup>とうかのせちえ</sup>、5月5日の端午節会、新嘗祭翌日の11月中辰日<sup>とよあかりせちえ</sup>の豊明節会の5つである。ただし、本史料群の中に端午節会に関する史料は見られない。

〔元日節会交名案〕		折 1通	122
〔拝賀他雑例〕		美 2通	79
〔白馬節会次第覚書〕 上書「せちえ」 帯紐あり		切継 1通	29
〔白馬節会交名〕		折(宿紙) 1通	113
〔白馬節会交名〕		折(宿紙) 1通	114
〔白馬節会交名案〕		折 1通	121
〔踏歌節会交名〕		折(宿紙) 1通	116
〔包紙〕 上書「踏歌坊家奏之形 料紙剛紙」		美 1通	146-0
〔踏歌行列書〕	安政6年1月16日	美継 1通	146-1
豊明節会次第		美二切 1冊	28
〔豊明節会交名〕		折(宿紙) 1通	115
〔包紙〕 上書「節会用」		美 1通	102-0
〔合見参次侍従五位已上交名案〕	享和2年11月25日	豎継 1通	102-1
〔合見参非侍従五位已上交名案〕	享和2年11月25日	豎 1通	102-2
〔包紙〕 帯札上書「元日節会」		美 1通	102-3-0

〔合見参次侍従五位已上交名案〕	安政6年1月1日	美継 1通	102-3-1
〔合見参非侍従五位已上交名案〕	安政6年1月1日	美 1通	102-3-2
〔包紙〕 帶札上書「豊明節会」		美 1通	102-4-0
〔合見参五位已上絹綿注文案〕	安政6年11月15日	美 1通	102-4-1
〔合見参次侍従五位已上交名案〕	安政6年11月15日	美継 1通	102-4-2
〔合見参非侍従五位已上交名案〕	安政6年11月15日	美 1通	102-4-3
〔包紙〕 帶札上書「白馬節会」		美 1通	102-5-0
〔合見参五位已上絹綿注文案〕	安政6年1月7日	美 1通	102-5-1
〔合見参次侍従五位已上交名案〕	安政6年1月7日	美継 1通	102-5-2
〔合見参非侍従五位已上交名案〕	安政6年1月7日	美 1通	102-5-3
〔包紙〕 上書「踏歌見参録法之形」	安政6年	美 1通	152-0
〔合見参五位已上交名案〕	安政6年1月16日	美継 1通	152-1
〔合見参五位已上絹綿注文案〕	安政6年1月16日	美 1通	152-2

## 3-4. 行幸

享保7年(1722)3月27日、同年1月13日関白職を辞した九条輔実の邸に靈元院が行幸した際の一件記録で、行幸図、次第書、九条家屋敷図がある。二条綱平は輔実の後任として1月13日に関白に就任したが、同年5月3日に同職を辞任した。

〔包紙〕 上書「九条前関白輔実公江御幸」	享保7年3月27日	美 1通	42-0
〔包紙〕 上書「九条前関白江御幸行列」	享保7年2月27日	半 1通	42-1-0
〔包紙〕 九条前関白輔実公江御幸行列(行列書)	享保7年3月27日	切継 1通	42-1-1
〔包紙〕 上書「享保七年三月廿三日坊城弁来、廿七日九条前関白輔実公江院御幸之御行列」	享保7年3月23日	美 1通	42-2-0
〔包紙・紙継〕 〔行列書〕	(享保7年3月23日)	切継 1通	42-2-1
〔包紙〕 上書「享保七年三月十日九条前殿下輔実公江院御幸ノ覚書昨日約束申候、則来」	享保7年3月10日	美 1通	42-3-0
〔包紙〕 〔院御幸次第書〕		折 1通	42-3-1
〔院御幸次第書〕		折 1通	42-4
〔屋敷図〕		36.5×50.4 1舗	42-5
〔屋敷図〕		36.4×50.4 1舗	42-6
〔行幸先例書付〕		折 2通	164
行幸之節右府殿御列書		美三切 1冊	210

## 3-5. 神事

〔包紙〕 上書「九條家江返進之事 勘例 三枚」		36.5×13.8 1通	36-0
-------------------------	--	--------------	------

〔中宮御祓陪膳に付勘例写〕(三長記抜粹)		32.6×15.0 1通	36-1
〔東宮御着除事勘例写〕(三長記抜粹)		32.6×46.5 1通	36-2
〔御祓事勘例写〕(兵範記抜粹)		32.6×31.3 1通	36-3
〔久世通熙奉書写〕(祇園臨時祭再興) 通熙	(慶応元年)5月18日	折 1通	41-9
〔包紙〕	上書「御料 慶応元年十一月廿二日議奏柳原より被示候書付也」	美 1通	41-11-0
	〔柳原光愛達状〕(雲龍院・悲田院御陵参向延引) 光愛→関白殿諸大夫中, 折封	5月22日 折 1通	41-11-1
	〔柳原光愛伺状〕(参向告文・幣物等に付伺) 光愛→関白殿諸大夫中, 折封	5月22日 折 1通	41-11-2
	〔告文案草〕	折 1通	41-11-3
〔包紙〕	上書「神宝行列 社家行列」	半 1通	43-0
	〔神宝行列書〕	切継 1通	43-1
	〔社家行列書〕	切継 1通	43-2
〔包紙〕	上書「賀茂臨時祭行列 奉行甘露寺弁殿差被出」	甲子年11月29日 半 1通	44-0
	〔賀茂臨時祭行列書〕	切継 1通	44-1
	網平公左大臣殿御奏慶行列(行列書) 行列奉行萩原主殿・吉田外記	半四切 1冊	45
〔包紙〕	上書「稻荷社還幸行列」	元治元年4月9日 半 1通	46-0
	稻荷社還幸行列(行列書)	元治元年4月9日 切継 1通	46-1
	当日早旦寢殿以下敷設之事	豎美 1冊	64
〔包紙〕	上書「内々柳原より相廻り候御願文案写也」	慶応2年9月 美 1通	87-0
	〔国土安穩五穀豊饒万民快樂の願文案写〕	折 1通	87-1
	〔御幣紙〕	切(28.0×4.0) 2通(包紙入)	87-2
〔当宮新御殿造作武辺江通達願案〕		4月 折 1通(包紙入)	131
御蔭山神幸行列 表紙付札「乙丑四月二十日柳原中納言殿被差上」		慶応元年4月18日 豎三切 1冊	211
〔包紙〕	上書「神宝行列 社家行列」	半 1通	212-0
	〔神宝行列書〕	切継 1通	212-1
	〔社家行列書〕	切継 1通	212-2

## 3-6. 法会

〔妙功德院内親王尊儀御中院御法会記〕		延享3年3月 横 1冊	178
〔包紙〕	上書「洞中御法会次第」	文政11年10月9日 豎(46.0×65.5) 1通	37-0
	〔行道次第〕	切(18.1×17.4) 1通	37-1

〔包紙〕	〔法会次第〕	切継 1通	37-2
	御懺法講次第	折本 1冊	37-3
	常行三昧次第・法華三昧次第	折本 1冊	37-4
	〔行道次第〕	折 1通	37-5
	曼陀羅供次第	美二切 1冊	37-6

## 3-7. 立親王・立后

No.186は、袋上書から関白兼左大臣二条光平が明暦4年(1658、万治元年)1月28日の識仁(後の靈元天皇)の親王宣下の上卿を勤めた際の一件記録を入れた袋と見られるが、残念ながら袋のみしか伝存していない。齊敬が内大臣を勤めていた万延元年(1860)9月28日に睦仁(後の明治天皇)の儲君親王宣下があり、その際の勘文案、儀式次第が伝来している。明和8年(1771)5月9日の立后(皇太后富子)の節は、二条家当主は22代治孝(16歳、中納言)であるため、No.20の史料伝来の経緯はよくわからない。立后関係の文書をここに収めたが、それらの相互の関係についても今後の検討を要する。なお、No.74〔宗尊親王女嘉門院書付〕は、小奉書紙の折紙に「宗尊親王／一品中務卿征夷大將軍／女／永嘉門院」(／は改行)とあるのみで、江戸期に作成されたものと見られる。

〔袋〕 上書「明暦四年立親王宣下靈元院 作進次第留一通 外二次第同上三通 細記一冊 上卿光平卿」 紙背(内大臣宗基詠草)，袋のみ		41.0×50.0 1通	186	
	〔八條宮・有栖川宮親王宣下次第〕	(寛文9年2月)	折 1通	85
	〔立坊節会次第〕	(宝永以前)	折本(17.2×9.4) 1冊	184
	立親王宣下次第 草	(万延元年カ)	美二切 1冊	22-1
	〔儲君様名字勘文に付順達〕 No.22-1の丁間史料	9月4日	切 1通	22-2
	〔菅原在光名字勘文案〕 式部大輔菅原在光		美 1通	66-1
	〔文章博士菅原在光名字勘文案〕 正三位行式部大輔兼文章博士菅原朝臣在光	万延元年9月3日	美 1通	66-2
	立后次第・本宮次第	明和8年5月9日	美二切 1冊	20
	〔准后宣下・内親王宣下召物覚〕(女御・美喜宮)		折 1通	73
	〔宗尊親王女永嘉門院書付〕		折 1通	74
	勅答のおもむき(女御五句以後の件)		折 1通	75
	国母准后門号例(案)		折 1通	78

## 3-8. 着陣

着陣とは、公卿が新任・昇任の後にはじめて陣座に着する儀式のこと。No.13以外は、いずれも包紙に包まれた一件文書である。なお、No.89は、二条光平の拝賀着陣年月日についての問答であり、必ずしも光平期に作成、授受された記録とは限らない。

左大将殿御着陣儀次第	横 1冊	13
------------	------	----

〔包紙〕	上書「着陣次第」	半 1通	38-1-0
	〔包紙〕 着陣次第(草案)	折 1通	38-1-1
	〔包紙〕 着陣次第(草案)	折 1通	38-1-2
	着陣次第(草案)	折 1通	38-2
	着陣次第(草案)	折本 1冊	38-3
〔包紙〕	〔包紙〕	美 1通	89-0
	〔光平公勅授帶劔・帶劔拝賀・内大臣拝賀着陣・関白後拝賀年月日の問状案〕	折 1通	89-1
	〔光平卿拝賀着陣年月日答状案〕	折 1通	89-2
	〔光平公内大臣関白拝賀年月日答状案〕	折 1通	89-3
	中納言大将兼任例(承暦2年他)	折 1通	89-4
	〔参内次第覚〕	折 1通	89-5
	〔某断状控〕(勅授帶劔・摂政御拝賀儀追而申上)	切 1通	89-6
	〔着陣次第〕	升折 1冊	90
	〔包紙〕	美 1通	171-0
	〔包紙〕 〔摂政并前関白勘考座席図〕	美 1通	171-1
〔包紙〕	〔座席図草案〕	美 1通	171-2

## 3-9. 官奏雑事

諸司諸国からの上申文書を太政官より天皇に奏上し、裁許を仰ぐ政務である官奏に関わって作成、授受、保管された記録文書のうち、まとまりを欠くもの、あるいは現段階で機能の特定を判断しにくいものをここで一括してまとめた。

〔包紙〕	〔安倍泰福日時勘申案〕(新殿木作始の日時陣儀の日時)	延宝2年12月13日	豎 1通	70
	安倍泰福			
	太政官符(写)(伊勢国司発遣)	宝永6年6月21日	豎 1通	98
	修理東大寺大仏長官正五位上行主殿頭兼左大史小槻宿禰判奉			
	〔伊予国司解案〕(御封庸米進上)	寛政8年4月24日	豎 1通	106
	守源朝臣康德, 端裏書「可成返抄 別当少納言清原朝臣(花押)」			
	〔包紙〕		豎 1通	105-0
	〔能登国司解案〕(給鉤匙開検不動倉状)	文久2年1月4日	豎 1通	105-1
	従五位下行守源朝臣善重			
	〔加賀国司解案〕(給鉤匙開検不動倉状)	文久2年1月4日	豎 1通	105-2
〔包紙〕	守従五位下藤原朝臣慶直			
	〔三善亮功請状案〕(馬料韓櫃捌合事)	文久2年1月4日	豎 1通	105-3
〔包紙〕	造興福寺判官正五位下行右大史兼算博士三善朝臣亮功			
	〔伊予国司解案〕(御封庸米進上)	安政6年3月28日	豎 1通	107
〔包紙〕	守従五位下藤原朝臣寿久, 端裏書「可成返抄 神祇伯兼			
	右近衛權少将資訓王(花押)」			

〔包紙〕	上書「詔書覆奏次第 三通」		半 1通	158-0
	詔書次第		折 1通	158-1
	詔書覆奏次第		折 1通	158-2
	詔書覆奏次第		折 1通	158-3
〔包紙〕	上書「詔書位署写」		半 1通	174-0
	〔位署写〕	(寛政頃)	豎 1通	174-1
	〔目録雛形〕 端裏書「兵部省江録絹結始雛形」		豎 1通	175
〔包紙〕	上書「大乘院当御門主ヨリ四代前鷹司信房公御 息後理趣院殿信尊寺務御再任之節寛永廿年四月三日ニ被 附候長者宣写 但右同月同日ニ被附候 長者宣外ニ今三 通有之候得共宛所同然故写不被進候」		美 1通	31-1-0
	〔右少弁資慶長者宣写〕 左少弁資慶→大納言僧都御房	寛永20年4月3日	折 1通	31-1-1
	〔国解・作名書付〕(慶長・筑後守典豊)		折 1通	172
	〔僧道光上表文案〕 前欠	延宝戊午年月日	豎 1通	91
	〔王政復古に付確定書付〕		折 1通	81

## 3-10. 叙位・除目

叙位・除目の機能に関わって作成、授受、保管された記録文書を収めた。まとめたものとしては、斉敬が関白内覧を勤めた文久3年(1863)の一連の記録文書があり、公家の官位叙任手続きを詳細に知ることができる。細目として、○交名・位署を立てた。これは、必ずしも叙位・除目に関わって作成、あるいは利用された記録文書とは限らないが、本項目の関連項目として扱った。

兵部省移(案)(大納言西園寺公名大將軍兼任) 正六位上行少録・正六位上行少丞→卿從三位行藤原朝臣 親信・大輔從四位下行卜部宿禰兼勝・少輔從五位下行源 朝臣持常・權少輔正五位下行惟宗朝臣相豊	永享5年12月15日	豎 1通	93
口宣案(法橋康知叙法眼) 上卿山科大納言・藏人頭中弁藤原熙房奉	承応3年2月15日	豎(宿紙) 1通	108
勘例(叙從五位上) 綴跡あり	(寛永10~14年)	折 1通	160
〔後西天皇宣旨〕(叙法橋) 左大史兼算博士小槻宿禰(忠利花押)奉	寛文2年3月28日	豎 1通	112
〔某官位申詞書付〕(池尻勝房叙位他)	(元禄4年カ)	折 1通	48
〔鷹司房輔・同兼熙官位申詞書付〕 房輔・兼熙	(元禄4年カ)	横 1冊	143
〔某官位申詞書付〕		折 1通	154
〔包紙〕 上書「申左近衛權中将雅康朝臣 申正三位具偁 卿 右兩人小折紙被差扣候 寄書并追加」	宝永4年12月日	豎 1通	32-0
〔官位寄書〕 端裏書「当日分」	(享保4年カ)	折 1通	32-1
〔内大臣官位申詞書付〕(隆兼・友親叙位、以益受領之 子細)		折 1通	32-2

〔関白・大臣官位申詞書付〕(宣顯・益通叙位他)	(享保4年カ)	折 1通	32-3
	当日平野社官ノ事并上階之仰被出留	折 1通	32-4
〔口状・勘例・傍例案綴〕	(享保18年カ)	横 1冊(23丁)	103
〔叙位任官申文并勘例留〕	(享保21年カ)	折(漉返紙) 4通	104
〔包紙〕 上書「享保六年二月廿日賀茂 <sup>(摺切)</sup> □□関白左大臣右大臣前摂政前殿下内大臣左大将参内」	(享保6年2月20日)	縦 1通	61-0
〔賀茂社家社職転補新補勅許の輩御礼書付〕	2月25日	切 1通	61-1
〔五家相続の仁躰被為仰出候御礼書付〕	2月22日	切 1通	61-2
〔賀茂五家流罪追放一件日次〕		横 1冊	61-3
〔九条尚実・二条宗基連署状下書〕(社家官位停止の件に付申状) 尚実・宗基→摂政殿, 前欠	(寛延3カ)10月3日	切継 1通	54
〔包紙〕 上書「九條内大臣種基公ヨリ被下也」	寛保3年1月25日	美 1通	53-0
〔小折紙〕(女叙位)		折 1通	53-1
〔摂政官位申詞書付〕	(寛延3年カ)	折 1通	47
〔関白叙任・直衣始・与奪一上於右大臣勘例〕	(享保～寛政)	横 1冊	149
〔包紙〕		半 1通	162-0
口上覚(位階願) 出納職修→	子5月	折 1通	162-1
官位内覧勅問 (二条斉敬)	(文久3年)	縦二切 1冊	25
〔藤原隆董申状并家例・叙日留状〕	(文久3年カ)	折 1通	118
〔包紙〕 上書「上 権禰宜正六位荒木田守存」		美 1通	145-0
〔荒木田守存関五位栄爵に付祈祷忠勤状〕 権禰宜正六位上荒木田守存上	文久3年10月19日	縦 1通	145-1
〔包紙〕 上書「梅宮神主從三位申願例書 九条家被廻之事」	慶応元年5月	半 1通	41-1-0
〔梅宮神主橘定栄例書写〕		折 1通	41-1-1
〔上包写〕(橘定栄 56歳)		折 1通	41-1-2
〔推任申詞〕(真乗院僧正任大僧正)		折 1通	41-2
〔包紙〕 上書「津守神主願写 住吉社前神主中廿三年從三位津守国福六十六歳」	慶応元年5月	半 1通	41-10-0
奉願口上覚(写) 住吉社前神主津守三位→勸修寺様御雜掌中	慶応元年5月	折 1通	41-10-1
叙日(写)		折 1通	41-10-2
家例(写)		切 1通	41-10-3
家例(写)		折 1通	41-10-4
勘例(写)		折 1通	41-10-5
〔津守国福申状写〕(正三位)		折 1通	41-10-6

〔某官位申詞書付草案〕(和氣正輔内舎人拝任他)		折 1通	58
〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕	〔〔包紙〕 上書「史父子同位之例」	半 1通	120-0
	〔〔包紙〕 安倍亮守父子同位の例書〕	折 1通	120-1
	〔〔包紙〕 上書「難波 <sup>5</sup> 権大納言願書持参也 但し陽明家も同様願書被廻候事」	半 1通	137-0
	〔〔包紙〕 権大納言拝任之事(難波宗弘権大納言拝任願状)	半 1通	137-1-0
	〔〔包紙〕 権大納言拝任之事(難波宗弘権大納言拝任願状)	折 1通	137-1-1
	〔〔包紙〕 権大納言拝任之事(難波宗弘権大納言拝任願状)	半 1通	137-2-0
	〔〔包紙〕 権大納言拝任之事(難波宗弘権大納言拝任願状)	折 1通	137-2-1
	〔〔包紙〕 某辞官願〕	折 1通	137-3
	〔〔包紙〕 左右大臣辞官等事書付〕	折 1通	137-4
	〔〔包紙〕 河合社禰宜職競望に付申詞書付〕	折 1通	128
○交名・位署			
〔大蔵省主殿寮諸司交名案〕		折 1通	124
〔〔包紙〕 東宮職・春宮坊位署案〕		豎 1通	125-0
〔〔包紙〕 中宮職位署案〕		折 1通	125-1
〔〔包紙〕 中宮職位署案〕		豎 1通	157
〔〔包紙〕 中宮職位署案〕		宝永5年2月27日 豎継(宿紙) 1通	109
〔〔包紙〕 中宮職位署案〕		宝永5年2月27日 豎継(宿紙) 1通	110
〔〔包紙〕 中宮職位署案〕		宝永5年2月27日 豎継(宿紙) 1通	111
〔〔包紙〕 左近衛府合中将家已下府生以上交名写 →内大臣正二位兼大将藤原朝臣〕		安政6年4月8日 豎 2通(札紙1通)	119

## 3-11. 諸願・諸届

摂家としての二条家の機能により、諸家からさまざまな諸願や諸届が提出された。それらの記録文書をここに収めた。

〔紙紐〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕 〔包紙〕	〔〔紙紐〕 忌部茂承願状〕(諸神事御用) 内舎人神祇少史忌部茂承	美 1冊	95-1
	〔〔包紙〕 内舎人勤功書付〕	(文久～元治) 折 1通	95-2
	〔〔包紙〕 上書「有栖川宮 <sup>5</sup> 使ヲ以被申越候也、表向伝奏へ被差出候由候事」	卯年5月14日 半 1通	96-0
	〔〔包紙〕 某願状写〕(妙勝定院宮拝領の現米300石の件)	折 2通	96-1
	〔〔包紙〕 上平主税著書内覧願状〕 上平主水	11月 折 1通	117
	〔〔包紙〕 上書「十月十二日奥向へ差出 東越中守願書」	(10月12日) 切 1通	126-0
	〔〔包紙〕 奉内願口上書(大礼加役願草案) 松尾社権神主正四位下為秀(花押)→	月日 切 1通	126-1
	〔〔包紙〕 上書「卯五月十日御道具掛り冷泉中納言被持参	(5月10日) 半 1通	130-0-1

〔包紙〕	候書取ニ付手元ニ留置候也 右之鶴沢深真之願之事」			
	〔包紙〕 上書「鶴沢深真」		美 1通	130-0-2
〔包紙〕	〔鶴沢深真願状〕（御殿修復御絵御用拜命願）	5月	折 1通	130-1
	鶴沢法眼深真→冷泉中納言様御雑掌中・庭田中納言様御雑掌中・梅溪宰相中將様御雑掌中			
〔包紙〕	〔包紙〕 上書「東塔院僧正」		半 1通	179-0
	奉願口上書（東寺定額八名長者法務の宣下願状写）	4月	横 1冊	179-1
〔包紙〕	東寺定額東塔院僧正善宝・観智院僧正覚宝・宝菩提院権僧正乘禪・仏乘院法印大僧都欽宝・真性院法印大僧都政宝・増長院少僧都法眼享宝・宝厳院少僧都法眼密禪・宝輪院法眼承宝→飛鳥井中納言殿・野宮中納言殿			
	〔包紙〕 上書「卯四月五日從兩曹別紙写書差出候也」	（4月5日）	美 1通	180-0
〔包紙〕	御口上覚（大乘院・一乘院門跡使二名外国人出南の件に付届状写）		折 1通	180-1
	〔某御室御跡相続に付願状案〕	10月	切継 1通	183

## 3-12. 日光奉幣使

正徳5年(1715)二条綱平(右大臣)が日光東照宮百年忌の奉幣使を勤めた際の記録が4点ある。

〔包紙〕	覚(日光道中賄下行記) 下札あり	2月	切継 1通	129
	〔包紙〕 上書「正徳五巳未歳二月十日」 奉行万里小路中納言尚房・外山主殿光和・三条西中將公福	(正徳5年2月10日)	豎 1通	151-0
〔包紙〕	就日光山百回遠忌開結丹經三部并阿弥陀經心經筆者目錄	正徳5年4月17日	折 1通	151-1
	日光御參向道中日次記并日光江江戸迄道中日記共	正徳5年4月・5月	美 1冊	12

## 3-13. 江戸幕府

江戸幕府との関わりで、作成、授受、保管された記録文書を収めた。No.185は、鷹司家が文政10年(1827)に1000石、九条家が安政6年(1859)に500俵を江戸幕府より加増された際の経緯を問い合わせた一件記録。

〔包紙〕	〔包紙〕		半 1通	141-0
	禁制(濫妨狼藉・放火・竹木伐採禁制写) 御朱印→興福寺	慶長5年9月21日	切(16.5×28.0) 1通	141-1
〔包紙〕	〔青門宮修復関東申入の件に付書付〕	(享保10年)	折 1通	60
	寛政五年丑三月十六日自関白左府殿江伝達從左府殿依約諸治孝江被伝、直ニ関白江返却之旨申来、披見之上即剋令返却之事、両卿江尋札之書付写(尊号宣下一件)	(寛政5年)	美 1冊	135
〔包紙〕	〔包紙〕 上書「九鷹聞合書也」		半 1通	185-0
	〔関白鷹司政通加増一件留帳〕	(文政10年)	半 1冊	185-1
〔包紙〕	〔関白九条尚忠加増一件留帳〕	(安政6年)	半 1冊	185-2
	〔式部少輔某書状写〕(在職中役料に付返答)	1月8日	切継 1通	185-3

式部少輔→治部権大輔			
〔牧式部少輔某書状写〕(在職中役料支給無に付返答) 牧式部少輔→北小路治部大輔様	1月9日	切継 1通	185-4
〔信濃小路民部少輔某書状写〕(在職中役料に付返答) 信濃小路民部少輔→北小路治部権大輔	1月8日	切継 1通	185-5
〔秀忠・家光・家綱他宣下日次・上卿・奉行書付〕		折 1通	77
〔將軍家院号(尊氏～家綱)〕		折 1通	80-1
〔將軍家院号不知分(義榮～家康)〕		折 1通	80-2
〔徳川家茂將軍宣下江戸参向日次記〕 (二条宗基カ), 前欠	延享2年	切継 1通	136
〔江戸参向進物代調帳〕		半二切 1冊	138

### 3.14. 先例

先例の故実を考勘するために作成された記録文書を収めた。No.17、No.68、No.69は一括文書である。

〔包紙〕 紐札「勘文」とあり		半 1通	17-1-0
〔彗星出現に付先例書〕		半 2通	17-1-1
〔柏之事に付勘例案〕		折 1通	17-1-2
〔平緒之事に付勘例案〕		折 2通	17-1-3
〔紺地劔の装束藍革に付勘例案〕		折 1通	17-1-4
〔類例(摂関代参の事)〕		折 1通	17-1-5
〔劔の事に付先例書〕		美 6通	17-2
〔弁官転任に付勘例案〕		折 1通	17-3
雑々例(召使の事・節会雨儀の事)		折 1通	17-4
〔享保11年右大臣慶賀参入次第先例覚〕		美 1通	17-5
〔即位勘例拔書〕		美 1冊	17-6
〔立太子勘例案〕		横 1冊	17-7
〔近衛大将拝賀着陣勘例案〕		切継 1冊	17-8
〔為徳卿勘文留〕(清涼殿障子の事)		美 1冊	17-9
〔装束の事に付書付〕		切 1通	39
〔包紙〕 上書「幼主之時毎日御拝事」		美 1通	68-0
覚(うねめ奉公旧例)		折 1通	68-1
〔幼主執政勘例案〕		折 1通	68-2
〔永久元年出御勘例案〕		折 1通	68-3
〔某日次記断簡〕		切 1通	69-1
〔延享4年正月小朝拝次第書付〕		美 1通	69-2

〔除目・参内装束・臨幸外日次書付〕 〔為記〕(永正3年章長侍読勅許の記) 〔宝永5年侍読の記〕 〔聴直衣・御侍読勘例案〕 〔包紙〕 上書「紀伝御侍読事」 御読書始事(堀河院～後光明院) 神祇官古図並新撰地図二 〔陪膳次第〕 〔玉葉・山塊記抜粹〕(幣發遣の先例) 東宮御元服参仕備忘	(寛永20年)	美 1通	69-3
		折 1通	82
		折 1通	83
		折 1通	84
		美・半 2通	88-0
		折 2通	88-1
		美 1冊	6
		横美 1冊	9
		折 1通	71
		小(13.7×10.2) 1冊	148

## 3-15. 勤番

諸奉行 非常参勤 〔包紙〕 上書「諸奉行一冊 非常参勤一冊 享十年九月十五日石井前中納言に來ル」 〔包紙〕 諸奉行 非常参勤 〔享和4年御番結改并諸奉行書付〕	享保7年2月	美二切 1冊	19-1
		美二切 1冊	19-2
	享保7年2月	美 1通	19-3-0
	享保10年9月	美二切 1冊	19-3-1
	享保10年9月	美二切 1冊	19-3-2
	(享和4年1月13日)	折本(14.7×5.1) 1冊	147

表題／作成・授受／備考	年代	形態 数量	整理番号
-------------	----	-------	------

#### 4. 出所不明

「此御所様」とあり、文体は仮名書きなので、「御所」と呼ばれる人物の女中が記した日記と見られる。また、「二条様」より音物の献上を受けているため、「御所」とは二条家以外の人物であることから、他家の日記と判断した。虫喰いが激しく、綴じ紐も切れた状態で、前後欠である。

〔某日記〕		美二切 1冊	176
-------	--	--------	-----

表題／作成・授受／備考	年代	形態	数量	整理番号
-------------	----	----	----	------

## 5. 扶局

### 5-1. 親族調

「親族書」1冊。二条基弘(16歳9ヶ月)の略歴を記し、父方親族の続書、位階、名前、さらに母方親族、実父方親族、実母方親族、宗族戸主、親族戸主等と続く。明治9年(1876)6月に督部長岩倉俱視に提出された「親族書」の控と見られる。基弘の年齢、料紙(8行罫紙)、筆跡などからみて、家扶が作成したものであろう。

親族書(控) 三部華族従五位二條基弘	明治9年6月	半罫 1冊	1
-----------------------	--------	-------	---

### 5-2. 日次記

26代当主基弘の東京邸(牛込津久土前町)に置かれた扶局のもとで、二条家の家扶が記した日次記。No.5・6は、8行罫紙で、下小口書に記載年を記す点で共通するが、No.9は12行罫紙(一部9行罫紙)を用い、小口書はない。したがって、両者は別系統の日記である可能性も残るが、内容から判断してここに収めた。

〔二条家扶日次記〕	明治9年1月～6月	半罫 1冊	5
二条家日次記	明治9年7月～12月	半罫 1冊	6
〔二条家扶日次記カ〕	明治12年1月～2月	半罫 1冊	9

### 5-3. 書状留

No.4は表紙が虫喰破損のため、判読不能。内容は、京都邸の石東錫福が作成した記録で、東京本館の家扶藤木経立との往復書状・勘定書や、他家の家扶との書状などの留書。No.12は1月30日付の藤木経立の書状2点の留書。

御□□□通留(書状・証文等留書)	明治11年1月～同15年12月	半 1冊	4
〔書状留〕(遺物分配)		半罫 1冊	12

### 5-4. 布告留

東京牛込の二条家本邸に廻達された布告の留書。いずれも下小口に記載年と「御布告留」の墨書がある。

御布告留 銅駝坊記、二条家8行罫紙	明治6年1月～12月	半罫 1冊	2
御布告留 銅駝坊記、二条家8行罫紙	明治8年1月～同9年12月	半罫 1冊	3
〔御布告留〕 表紙欠	明治10年1月～同11年12月	半罫 1冊	7

## 5-5. 華族会館・宗族・第十五国立銀行記事

No.8の表紙に「会館・宗族・銀行記事」とある。会館とは明治7年(1874)6月に創設された華族会館のこと。銀行とは、同10年5月に岩倉俱視の主唱により華族の資産保全を目的として設立された第十五銀行のこと。本記録は華族会館および第十五国立銀行の運営に関わって、二条家宗族間、あるいは華族会館・第十五国立銀行から発給された書状、通達、会則、委任状などの留書であり、それらのいくつかの原本は丁間にはさみ込まれている。内容的には、華族会館、第十五国立銀行の運営のみならず、二条家宗族の結合関係、保有株数などの資産状況、および学習院設立の動向などを知ることができる。なお、二条家宗族については、5-1. 親族調を参照のこと。

〔会館・宗族・銀行記事〕	(明治11年)	半罫 1冊	10
会館・宗族・銀行記事	明治11年～12年	半罫 1冊	8
〔会館・宗族・銀行記事〕	(明治13年～15年)	半罫 1冊	11

33H

山城国京都堀之上町  
万屋小堀家文書目録

解題……………p. 207

目次……………p. 217

目録……………p. 218

## 山城国京都堀之上町万屋小堀家文書目録 解題

- A. 史料群記号 33H  
B. 史料群名 やましらのくにきょうとほりのうえまちよろずやこほりけもんじょ  
山城国京都堀之上町万屋小堀家文書  
C. 数 量 929点、文書箱1個(44.6×24.6×29.3cm)。  
D. 伝来の経緯

小堀家の旧店舗地(京都六角高倉通堀之上町)は1957年に松井ホテルに売却され、同年秋に旧店舗が取り壊された。当館(当時は文部省史料館)は、その翌年にあたる1958年度に東京の古書店から小堀家文書を購入した。東京経済大学図書館では、1980年4月に飛騨高山の古物商から桐製の文書筆笥1つと文書箱3つに入れられた史料を購入している。それら文書箱の箱書から史料の保管状況の手がかりが得られるので、以下に紹介しておく。

文書箱はいずれも箱蓋表書に「帳面入」とある(写真1)。箱側面には箱番号が付されており、それによれば第1番、第3番、第4番の箱が伝存し、第2番箱を欠くことがわかる。各箱の側面書と箱蓋裏書を示すと、次のようである。

<1番箱>(27.2×55.4×26.0cm)

箱側面「第壺番 勘定帳面蔵 弘化第三年三月吉辰 貴置作之」

箱蓋裏書「此勘定帳面者元祖式代之帳面也、目出度帳面候得者、大切ニ持伝候事 弘化三年三月吉祥日 三代主貴置 此箱拵候事」

<3番箱>(28.2×56.2×27.5cm)

箱側面書「第三番 勘定帳面入 嘉永五壬子年吉辰 小堀三代貴置」

箱蓋裏書「嘉永五壬子年吉辰 勘定帳入箱 受持法花名者福不可量 三代目貴置(花押)(経文略)」

<4番箱>(28.4×56.4×32.8cm)

箱側面書「第肆番 勘定帳面入箱 小堀貴峯作之」

箱蓋裏書「明治六癸酉年吉辰 勘定帳入箱

受持法花名者福不可量 四代目貴峯(花押)

(経文略)」

まず、3代目当主貴置は弘化3年(1846)3月に初代と2代の記録之書を保管するために、第1番箱を作成して、「勘定帳面蔵」とした。東京大学経済学部図書館の受け入れ時には、明和8年(1771)から文化2年(1805)までの35年間69冊の「勘定帳」がこの中に入れられていた。第3番箱は、嘉永5年(1852)に貴置によって作られ、受け入



写真1

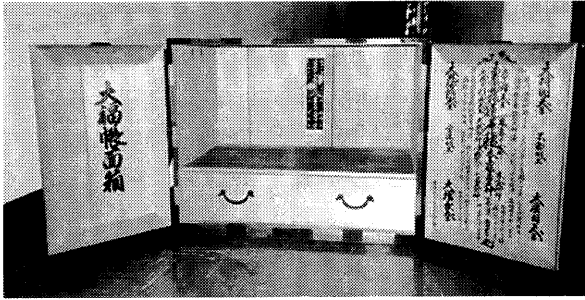


写真 2

れ時には文化 3 年(1806)から安政 5 年(1858)までの「勘定帳」50冊が入れられていた。第 4 番箱は明治 6 年(1873)に 4 代目貴峯によって作られ、受入時点では安政 6 年(1859)から明治 3 年(1870)までの「勘定帳」24冊、明和 9 年(1772)から安永 8 年(1779)までの「延方勘定帳」14冊、「大福帳書拔」8 冊、「勘定下書」など54冊が入れら

れていた。つまり、「勘定帳」は明和 8 年(1771)から明治 3 年まで143冊が伝来し、文政10年(1827)～安政元年(1854)、明治 8 (1875)～同14年(1881)を欠くのみである。2 代貴達が没するのは文政 9 年(1826)なので、それ以前の勘定帳は完全に残っていることになるが、それらが第 3 番箱に入っていたとなると、第 2 番箱にはいかなる帳簿が入っていたのかが不明となる。その点で、小堀家から文書が手放される段階で文書箱と文書の対応関係が崩れていたことを窺わせる。

次に、文書筆筭(77.0×46.8×61.4cm)は、右扉表に「有用水」、左扉表に「火用心」と墨書がある(口絵写真⑦参照)。右扉裏には日蓮宗の経文、4 代目貴峯の署名、「慶応貳年寅三月天赦日調之」との作成日、左扉裏には「大福帳面箱」との墨書がある(写真 2)。つまり、この文書筆筭は、4 代目貴峯が慶応 2 年(1866)に「大福帳面箱」として作成したものである。東京経済大学図書館には明治 5 (1872)～9 年、同10～16年、同17～24年、同24年の大福帳 4 冊が伝わる。この他に受け入れ時点でこの筆筭にいれられていたのは、「競視記」4 冊、「金銀算用帳」1 冊、「中勘定帳」1 冊など、厚めの帳簿類である。

ところで、当館には貴置が文久 2 年(1862)に作成した桐製の文書箱(44.6×24.5×29.5cm)1 つが伝存している(口絵写真⑧)。箱蓋表書には「勘定書附入」、箱蓋裏書には、次の墨書がある。

「 文久貳年戌年初秋天赦日好之 慈眼視衆生福聚海無量  
小堀四代目貴峯(花押)  
所願不虛亦於現世得其福報 」

当館で本史料群を受け入れた時点で、どの史料がこの文書箱に入っていたかは記録されていないので、残念ながら文書箱と文書の対応関係は判明しない。

以上のように、小堀家では先祖代々の記録文書の保存箱を作り、大切に保管してきた。現在のご当主小堀甚一氏の話では、先代要造氏は1945年10月19日に亡くなられ、その時甚一氏は1歳であったため、文書の存在については不詳とのことであった。当館の史料受け入れと東京経済大学図書館の受け入れは、約20年ほどの開きがあり、その点について東京経済大学図書館編『小堀家文書目録』の解題において村上勝彦氏による精力的な追跡調査の報告があるが、解明されるにいたっていない。今後、散逸した第 2 番箱、あるいはその他の関連文書が発見されることを期待したい。

## E. 出所の歴史

小堀家の初代甚兵衛は近江彦根の出身で、同家の由緒書によれば彦根藩士小堀七右衛門の子だとい

う。幼少の頃に京都の両替商万次屋萩田次兵衛方に奉公に出て、宝暦12年(1762)甚兵衛が28歳の時に京都六角高倉通堀之上町で両替商を創業した。万屋を屋号とし、初代から5代まで甚兵衛の名を世襲した。初代甚兵衛は寛政12年(1800)に64歳で隠居し、名を甚右衛門と改めた。養子の源兵衛貴達(佐倉清兵衛の弟)が2代目甚兵衛を襲名し、小堀家経営の基礎を作り、商業も次第に拡大した。貴達は長女つるの婿養子に中井甚右衛門の弟源三郎貴置を迎えた。文政9年(1826)8月24日に貴達が没し、貴置が3代目甚兵衛を襲名した。貴置が相続した時には、江戸に出店をねらう両替仲間との間に入出りがあり、貴置は苦境に立たされたようである。しかし、貴置の代に万屋は活況を呈し、文政2年(1819)4月には7月と12月の決算のみでは勘定が把握できなくなり、「中勘定改月」として3月15日・5月15日・9月15日・11月15日を勘定改日に定める帳簿改革を実施した。貴置は安政3年(1856)12月13日に実子亀太郎に家督を譲り、要蔵と改名した。4代目甚兵衛貴峯は、相続した翌年の安政4年(1857)に「帳簿始め」として帳簿改革に着手し、先代まで「訳書」を委細に記していたのを止め、以後は「大勘定帳」を第一とした。その一方で、3代までに蓄積された小堀家の経営を維持することを帳簿の末尾に繰り返し記しており、慶応元年(1865)に「別而米高値前代未聞」の物価により経営が悪化した時には、「勘定帳」の巻末に先祖への申し訳を記している(東京経済大学所蔵文書)。貴峯は藤田キヌの孫清次郎を養子に迎えた。

小堀家の当主は、日蓮宗に深く帰依した。「家系略図」(小堀甚一氏所蔵文書)によれば、近江彦根上川原町妙源寺に墓所があった。京都では、日蓮宗頂妙寺(京都市東左京区仁王門通川端東入大菊町)を菩提寺とした。堀之上町の住居は、居宅55坪、物置5坪5合、土蔵(六軒)43坪5合、総計104坪であった(No.98)。明治2年(1869)には下鴨村塔之段町の百姓甚兵衛として、鴨社内の免除地の田中従四位某の所持地を買得している。

家業の両替商は、江戸中期から明治期にかけて京都－江戸間の両替活動、大名貸、近江商人への貸付、維新政府への御用金上納などをおこなった。その組織構造の解明は今後の研究によって明らかになるであろうが、概略を示すと源泉方・年済方・蔵入方・余力方・通競方・補入方・別口方・入方・殖集方に分かれていた。なお、小堀家が金融業を停止した時期は特定できていない。

**F. 年 代** 天保2年(1831)～大正5年(1916)

## **G. 全体構造と内容**

本文書群はその出所内組織から、次の2つに分けることができる。

1. 小堀家の当主とその同苗集団による活動の所産として作成、授受、保管された史料群
2. 両替商としての商業組織の機能により、作成、授受、保管された史料群

したがって、それぞれ1. 小堀家、2. 両替商の2項目を立てた。以下、各項目ごとに史料群の全体構造と内容について述べることにしたい。

### 1. 小堀家(484点)

ここでは、小堀家の当主とその同苗集団による家組織の機能に基づいて作成、授受、保管された記録文書を収めた。史料総数は484点で、本史料群の約半数を占めている。内容的には、明治期の4代貴峯(1826～1895)の活動に関わって作成、授受、保管された記録文書が中心である。

本項目に配列した史料群の一部には、「小堀殿御用中村清兵衛」といった宛所を持つものがある。中村はおそらく小堀家の番頭格にあたるものであろう。小堀家で当主の家計と、いわゆる元方が管理する家産の分離が進んでいたとすれば、狭義の家組織とは別に番頭から奉公人手代までを含めた元方組織の機能を反映させた目録編成をとることが望ましいが、本史料群の中に元方組織を発生させる契機とする記録文書はほとんど遺存していない。そのため、小堀家の番頭等を宛所とする記録文書に関して、内容が小堀家に関わる場合は本項目の中に配列した。なお、東京経済大学図書館所蔵文書(以下、経済大文書と略称)の「貸借帳」(No.179)の表表紙には、「中奥永代帳」と記されている。この「中奥」の組織の解明も、今後に残された検討課題である。

中項目では史料群を発生させる契機となった内容により、1-1. 由緒書、1-2. 相続、1-3. 不動産売買、1-4. 冠婚葬祭、1-5. 北野神社奉納、1-6. 普請、1-7. 交際、1-8. 記録、1-9. 学問・文芸、1-10. 講の10項目を立てた。

小堀家の系図および永代過去帳は、小堀家の現当主小堀甚一氏が所蔵されている。それゆえか、当館所蔵文書、あるいは経済大文書中には、系図、由緒書などの文書は含まれていない。中項目に1-1. 由緒書の項目を立てたが、これは3代貴置が作成した由緒書の下書1点のみである。小堀家では4代貴峯以外は養子を迎えた。1-2. 相続には、貴峯が藤田清次郎(五代清房)を養子に迎える際の一件史料がある。貴峯は熱心な日蓮宗の信者であったが、1-6. 普請に配列した史料からは、方位や吉凶日について陰陽師とのこと細かなやりとりが見える。自らも家相および吉相の関係について探求していたことが窺える文書があり、他家の屋敷図を収集して家相について調べている。1-7. 交際からは、貴峯の交流関係を知ることができるが、特に家督を継ぐ前の亀太郎時代から、池坊や千家に出入りをしていたのがわかる。小堀家の居宅は六角堂のすぐ近くであり、池坊本家とは地理的にも近い。ことに三井八郎右衛門と花道を通じて交流しているのが目を引く。なお、各中項目の機能および内容については、目録本文で解説する。

## 2. 両替商(445点)

小堀家の両替商の営みにより成立した店組織の機能のもとで、作成、授受、保管された記録文書を収めた。商家では、いわゆる「表」と呼ばれる組織である。点数は445点であるが、そのうちの212点が「惣差引書抜帳」という決算関係帳簿で、慶応2年(1866)から明治26年(1893)までのものがほぼ揃っている。経済大文書とあわせて小堀家文書の特徴を考えるならば、両替商の決算関係文書が体系的に伝来しているといえるであろう。帳簿相互の関係については今後の研究のなかで明らかにされるだろうが、以下に目録編成を理解する上で必要な点に限り簡単な説明を加えておきたい。

小堀家では1月と7月に決算をし、これを「大勘定」と呼んだ。これにより、1月より7月14日までと7月より12月晦日迄の勘定改帳が毎年2冊作成された。経済大文書には、その系統の「勘定帳」が明和8年(1771)から明治3年(1870)まで143冊ある。これと併行して、「延方勘定帳」が明和9年(1772)から安永8年(1779)まで14冊ある。当館所蔵史料群の中には「勘定帳」の表題をもつ天保期の史料が6冊あるが、これは作成月が2月、4月、7月、8月、10月となっているので、上記の「勘定帳」とは別系統のものである。

小堀家では経営が「繁栄」するにつれて年2度の勘定では不十分となり、文政2年(1819)4月より「中勘定改月」として3月15日・5月15日・9月15日・11月15日を定めた。こうして作成されたのが「中勘定帳」で、経済大文書の中には文政2年(1819)7月から天保5年(1834)7月までの勘定を記載した「中勘定帳」(No.180)が伝存している。

安政4年(1857)春に貴置は諸帳面の関係を次のように記している(No.33)。

一、勘定諸帳面之儀者中勘定之書抜表手尻を写、其外別貸付并ニ内之入替方・待合方・成就方・年々元済等有之候分、其廉ニ差引相記、全之処を過不足何程且又新永之口・年々銀高相増候得者、夫々記帳可致事、都而委相記大勘定源泉方江差出し可申候事也、

つまり、中勘定帳を台帳として書抜表手尻が写され、それに貸付や返済等の子細、過不足、増銀などをすべて記帳して、大勘定源泉方へ提出することとした。

「中勘定帳」の表題をもつ史料は、経済大文書、当館所蔵文書をあわせてもこの1冊のみであるが、当館所蔵文書の中には「大宝栄」の表題をもつ帳簿(No.30)があり、その1丁目には「参番中勘定帳面」とある。記載は明治元年(1868)から始まり、帳簿に記された番号から見ても、「中勘定帳」は経済大文書の「中勘定帳」1冊(1番)と当館所蔵文書「大宝栄」1冊(3番)の間、天保6年(1835)から慶応3年(1867)までの2番を欠くことがわかる。

ただし、「中勘定帳」と「大宝栄」を比較すると、ともに半紙横折列帳綴の帳簿で形態的に類似しているが、「大宝栄」は明治2年(1869)4月8日に貴峯が決算報告を記した後、同28年までの記事を欠く。再開された記事は、新別口がわずかに40円の収入があるのみで、あとは日本鉄道株の配当金、菊屋町・四条町借家からの入金、旧公債・新公債の利子が主な収入源となっている。貴峯は明治28年6月に70歳で没しているの、この記事の再開は5代甚兵衛清房(24歳)によってなされたものであろうが、経営内容に占める金融活動の比重が後退しているのがわかる。「大宝栄」の大正5年(1916)の書抜では、本殖方1,445円余、別備方526円余、利息方153円余が計上されているので、大正期にも金融活動は続けられたと見られるが、小堀家の店組織の機能は実質的に貴峯の代に終了したとみなしえよう。また、「大宝栄」の後半107丁は白紙のままであり、いわゆる「中勘定帳」の機能も大正5年に停止したといえよう。

「競視記」によれば、小堀家の勘定方は「大源泉」「年済方」「余力方」「大蔵入方」「補入方」「通競方」「別口方」「入方」「殖集方」の9つに分かれていた。当館所蔵史料群の中には、嘉永4(1851)～明治16年(1883)の「別口方・新別口方并仕訳方之覚」がある。

こうした小堀家の決算帳簿の系列とは別に、顧客の貸付金額を管理する台帳が「大福帳」である。明治26年(1893)までは、1番・福・2番・3番・4番・5番および栗田口帳という大福帳が作られていたが、同年7月1日に商法が実施されたことに伴って大福帳の口取りが変更され、以後は海と五番の大帳(大福帳)の2冊のみを作り、他の帳簿も出入帳2冊、天秤物出入留1冊、札金出入帳1冊、高合帳1冊に整理された。この時、貴峯は「依之、小両替商と可心得」と書き記している(No.115-2)。明治期の小堀家の経営に、商法施行が与えた影響は無視できないものがある。

「取引先通帳扣」(No.32)は、取引先の名前と通帳の丁数書いたもので、万屋の取引先の全容がわ

かる。上位の取引先では、金屋宇右衛門、万屋忠兵衛、津国屋次郎右衛門、銭屋又兵衛、伊勢屋甚兵衛、万屋治兵衛、松居久左衛門、同太七、升屋喜兵衛、銭屋彦太郎、小林吟右衛門、銭屋留次郎、嶋屋與兵衛、伊勢屋甚兵衛、甲屋治郎兵衛、三井八郎右衛門、越後屋喜右衛門、日野屋吉右衛門、糸屋長左衛門、銭屋又兵衛らであった。公家では近衛家に出入りし、大名貸では淀、鯖江、吉田、松山、紀伊、彦根、郡山藩や京都所司代などに貸付ていた。経済大文書の「貸付帳」には、貸付を返済しない大名に対し、朱書で呪詛文言が書かれている。なお、当館所蔵史料群の中に大名貸関係の史料は断片的な文書しか伝来していない。

以上のような史料群の遺存状況から、2-1. 惣差引書抜帳、2-2. 仕分方・別口方書抜帳、2-3. 勘定帳、2-4. 改書抜・改、2-5. 勘定諸帳簿、2-6. 勘定心得、2-7. 契約文書、2-8. 取引先通帳、2-9. 帳簿注文、2-10. 大名貸、2-11. 両替仲間、2-12. 総区長取替金一件、2-13. 為替会社、2-14. その他の14項目を立てた。詳細については、目録本文の各項目で説明する。

## H. 形態の特徴

諸家からの年賀、暑中見舞、寒中見舞など書状の紙背を料紙に用い、綴紐に水引を用いた横折帳が多い(形態に(水引)と記載した)。また、日蓮宗の経文が書かれた記録文書がある。一部に列帳綴の史料がある。

### 1. 整理の方針

当史料群はこれまで史料仮目録Bで閲覧・利用に供してきた。この目録は仮整理を終えた整理番号1番から110番までの史料情報を提供したもので、東京経済大学図書館編『小堀家文書目録』の巻末に史料館所蔵「京都万屋小堀家文書」として掲載されている。今回の整理では史料1点ごとの目録記述をするにあたり、一部に仮目録で採用された史料名称を変更したものがあるが、史料番号は仮番号と一致するように整理した。111番以降は、これまで史料仮目録Bに掲載されていなかった未整理文書群である。

史料は紐で一括りにされた状態のものが多かった。その状態がいつどの段階でなされたものかは判明しないが、基本的に関連性があるまとまりであると判断しえた。また、一括文書の中には無年号文書や備忘的な書付が多く含まれていたため、現状を解体した場合には、それらの文書を史料群全体の中に位置づけにくくなることが懸念された。そこで、目録編成上では一括の状態を解体せず、できるだけ現状通りの配列を採用することにした。したがって、各項目に収められた史料は内容的には必ずしも厳密な分類になっていない。たとえば、No.112の一括文書は、陰陽師瀬尾多門・松浦茂等に家相方位、普請吉日などを占わせた文書が中心であるため、1-6. 普請の項目に一括して配列したが、その中には旅行吉日、家名譲渡吉日などを占わせた普請以外の鑿文も含まれている。また、松浦茂の書状は1-7. 交際のなかに配列した一括文書の中にも散見されるが、その中には普請吉日の返答書が含まれている。このように、1-6. 普請と1-7. 交際は、現配列による編成を採用したため、相互に内容が入り交じっている。ただし、No.190の一括史料群のみは利用の便宜を考え、内容から判断してNo.190-1～21とNo.190-22～66の前後2つのまとまりに分割し、前者は1-6. 普請、後者は1-7. 交際に配列した。

#### **J. 関連史料の所在**

1. 東京経済大学図書館所蔵小堀家文書203件、および文書箱 4 個。創業期の明和 8 年(1771)から昭和12年(1937)にかけての経営文書を所蔵。
2. 小堀家所蔵文書。同家の永代過去帳等13点を所蔵している。
3. 丸屋ホテル(小堀家旧住居地)所蔵文書 1 点。

#### **K. 利用上の注意点**

小堀家が所蔵する永代過去帳など13点の文書は、1998年度にマイクロフィルムで収集しているので紙焼本(P9807)が利用できる。

#### **L. 参考文献**

村上勝彦「小堀家文書の追跡調査」(『日本歴史』494号、1989年)

東京経済大学図書館『小堀家文書目録』(1985年)

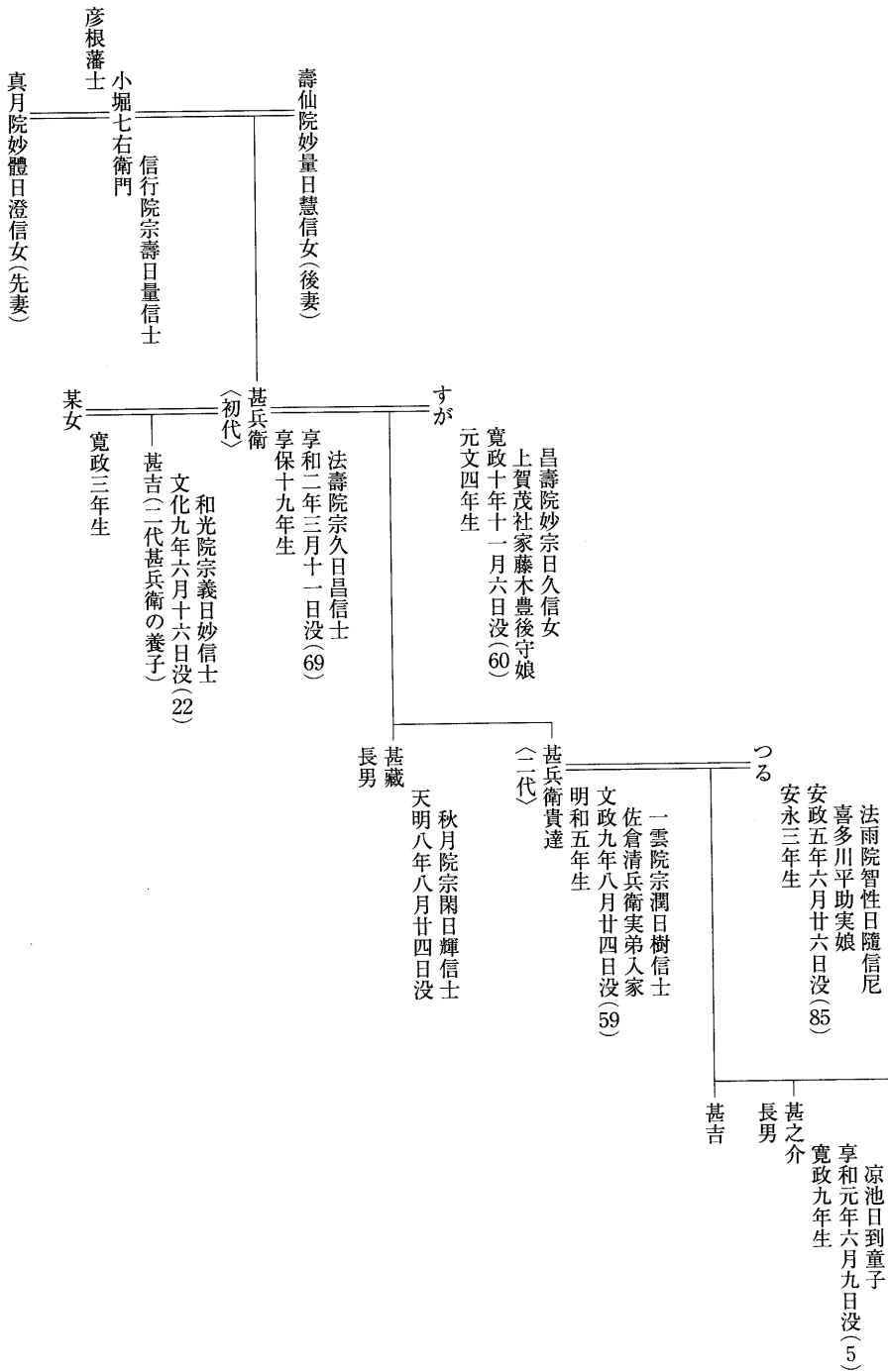
<付記>

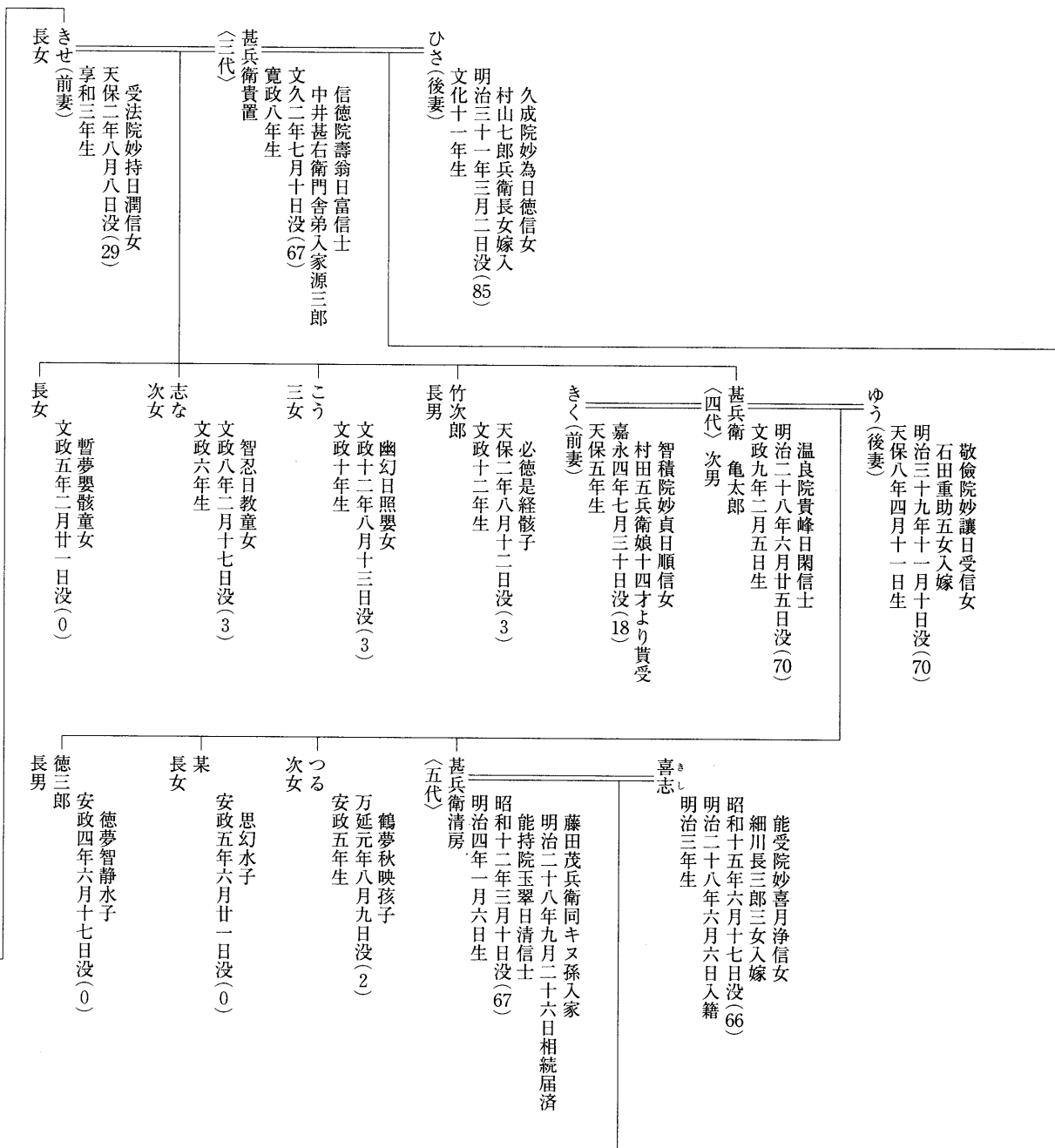
小堀家第八代当主小堀甚一氏には、貴重な文書の撮影を快くご許可いただきました。末筆ながら心より御礼申し上げます。また、東京経済大学図書館細井一、鈴木伸介の両氏には、史料閲覧等において多大なご協力をいただきましたことを御礼申し上げます。

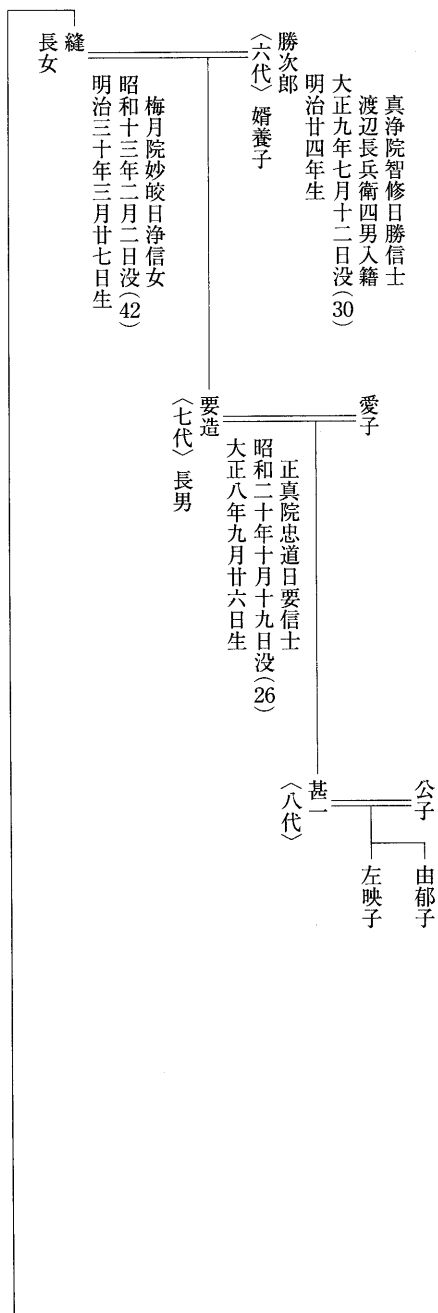
#### **M. 参考資料**

<小堀家略系図>

〔小堀家略系図〕







1. 小堀家	218
1-1. 由緒書	218
1-2. 相続	218
1-3. 不動産売買	219
1-4. 冠婚葬祭	220
1-5. 北野神社奉納	220
1-6. 普請	222
○方位鑿文 ○屋敷図・家相	
1-7. 交際	228
1-8. 記録	234
1-9. 学問・文芸	234
1-9-1. 書画	234
1-9-2. 茶道	234
1-10. 講	235
2. 両替商	236
2-1. 惣差引書抜帳	236
2-2. 仕分方・別口方書抜帳	244
2-3. 勘定帳	246
2-4. 改書抜・改	246
2-5. 勘定諸帳簿	249
2-6. 勘定心得	249
2-7. 契約文書	249
2-8. 取引先通帳	250
2-9. 帳簿注文	250
2-10. 大名貸	251
2-11. 両替仲間	252
2-12. 総区長取替金一件	252
2-13. 為替会社	252
2-14. その他	252

表題／作成・授受／備考	年代	形態 数量	整理番号
-------------	----	-------	------

## 1. 小堀家

### 1-1. 由緒書

〔由緒書案〕(No.44)には、初代甚兵衛が安永元年(1772)36歳の時に開業したとあるが、小堀家所蔵の「家系略図」では宝暦12年(1762)の開業とする。東京経済大学図書館には、明和8年(1771)年以降の勘定帳が伝来するので、万屋の創業期については慎重に検討する必要がある。他に、初代から3代貴置までが相続した元方銀高の差引を記し、朱書の訂正や書き込みがある。

〔由緒書案〕 紙背文書あり		横半 1冊	44
------------------	--	-------	----

### 1-2. 相続

亀太郎は4代貴峯のこと。安政3年(1856)年12月13日に家督を相続して4代目甚兵衛を襲名し、3代貴置は隠居して要蔵と改名した。その祝儀関係の史料は、1-7.交際の中に配列した(No.109-42、109-65、110-4-4)。No.108は、5代甚兵衛清房(藤田清次郎)との養子縁組に関する一件書類。No.74は、明治5年(1872)から7年にかけて4代甚兵衛、妻ゆう、母ひさがそれぞれ作成した譲状。

奉願口上書(倅亀太郎改名相続に付扶持方被下度願状下書) 墨引抹消あり、後欠 ○		美切 1通	93
〔封筒〕 上書「御願届書類」 小堀		封筒 1通	108-1
〔戸籍写〕		美 1通(包紙入)	108-2
相続届(控) 藤田キヌ・同清次郎→下京区长中邨藤兵衛殿	明治24年2月20日	半野 1通	108-3
御請書(控) 藤田清次郎→京都府知事北垣国道殿	明治24年2月20日	半野 1通	108-4
養子送籍届(控) 藤田キヌ→下京区长中邨藤兵衛殿	明治24年2月20日	半野 1通	108-5
婦女相続及退隠者他家縁組願(控) 藤田清次郎・祖母キヌ・清次郎貰受人小堀甚兵衛→京都府知事北垣国道殿	明治24年2月	半野 1冊(2丁)	108-6
〔封筒〕 〔婦女相続及退隠者他家縁組願並戸籍写綴〕 藤田清次郎・祖母キヌ・清次郎貰受人小堀甚兵衛→京都府知事北垣国道殿	明治24年2月	半野綴 1冊(3丁)	108-7
養子入籍届(控) 小堀甚兵衛印→京都市下京区长辻信次郎殿	明治25年3月10日	半野 1通	108-8
〔藤田キヌ並孫清次郎略歴〕		半野 1通	108-9
婦女相続及退隠者他家縁組願(下書) 明治25年2月9日決裁	明治24年2月9日	半野 1通	108-10
〔願書下書カ〕		半野 1通	108-11

京都府知事北垣国道宛，前欠			
〔包紙〕	独孫庵嫡願 端書「不用」 ○		半罫 1冊 108-12
	〔包紙〕 上書「讓狀三通」 小堀甚兵衛	明治5年11月24日	半 1通 74-0
	讓り狀之事(堀之上町居宅屋敷死後母ひさ・夫甚兵衛 へ讓狀) 讓主小堀ゆう(印)→六角通堀之上町戸長和田嘉十郎殿・ 町中，朱割印有り	明治5年11月16日	豎 1通 74-1
	讓狀之事(堀之上町居宅家屋敷、母ひさ・妻ゆうへ讓 狀) 讓主小堀甚兵衛(印)→六角通堀之上町戸長和田嘉十郎 殿・町中，朱割印有り	明治5年11月18日	豎 1通 74-2
	死後讓り御願書(当町第四百十壹番地、死後妻ゆう・ 甥清兵衛へ讓狀) 持主小堀甚兵衛(印)→下京第四区堀之上町惣代木田弥兵 衛殿・伍組頭町中，下京第四区黒色罫紙使用	明治7年7月	半罫 1通 74-3

## 1-3. 不動産売買

明治2年(1869)に貴峯が山城国愛宕郡下鴨村塔之段町の鴨社免除地内の土地を買得したことに伴う一件文書がある。〔屋敷地永代売渡証文写〕(No.69)は、No.66～67、71-1までの証文の写帳。No.73は、3代目貴置が買得した堀之上町の4カ所の土地を元治元年(1864)10月26日松井五郎右衛門に沽券状4通とともに譲渡した際の記録。場所、面積、隣人名を載せる。同様に、No.99は、菊屋町の借家を売却した時の控。

〔細紙〕	〔木村若狭所持屋敷地新券并改新券証文〕 一社役人鴨脚新三位(印)・鴨脚周防守(印)・北大路下総 守(印)・南大路遠江守(印)・林長門守(印)，裏朱書「券 証御下ケ渡ニ付反古也」	安政6年11月	豎継 1通 68
	永代売渡申屋鋪地之事(屋敷地永代売渡証文) 讓り主木村若狭(印)・親類惣代木村喜亦(印)・仲ヶ間証 人桜井筑前(印)→お政殿	安政6年12月5日	豎 1通 66-1
	永代売渡申地屋鋪地之事(屋敷地永代売渡証文) まさ(印)・証人宮田加賀(印)→田中隠岐守様	文久元年4月日	豎 1通 66-2
	御讓り申候家敷地之事(塔之段町山吹屋甚兵衛跡地屋 敷譲渡証文) 林修理(印)・桜井市兵衛(印)→田中隠岐守殿	文久元年5月	美切 1通 67-1
	御讓り申上候家敷地之事(塔之段町山吹屋甚兵衛後跡 地屋敷譲渡証文) 木村若狭(印)→林修理様	万延元年12月日	美切 1通 67-2
	覚(屋敷地代金百両請取証文) 隠岐守印→萬屋甚兵衛，糊継	已(明治2)7月29日	切 1通 66-3-1
	永代讓り渡申屋敷地之事(屋敷地永代譲渡証文) 讓主田中隠岐守(印)・証人河崎和泉守(印)→塔之段町甚 兵衛との	明治2年7月	美 1通 66-3-2
	普請御願(鴨社免除地之内家建願状) 下鴨村塔之段町願主百姓甚兵衛(印)・東隣家北大路從四 位(印)・塔之段町組頭伊左衛門(印)・年寄平右衛門 (印)・庄屋市郎兵衛(印)→御地頭様御役人中様，付、屋	明治2年9月	美継 1通 70

敷図			
譲り渡申屋敷地之事(屋敷地譲渡証文) 塔之段町譲り主甚兵衛(印)・証人親類儀兵衛(印)→徳之助殿、付紙「当時に中井とき所持」	明治3年4月	半 1通	71-1
譲り渡申屋敷地之事(屋敷地譲渡証文) 愛宕郡第二区下鴨村塔之段町譲り主中井とき(印)・証人小林儀兵衛(印)→岡田豊七殿、印紙添付	明治8年2月19日	美 1通	71-2
〔屋敷地永代売渡証文写〕	(安政6年～明治3年)	半 1冊	69
覚(旧券状一通預状) 下鴨村戸長(朱印)→	8年4月5日	半 1通	72-1
〔地券改屋敷図〕	(明治7年2月改)	美 1通	72-2
○			
〔包紙〕 上書「古券三通 六通堺町東入・同堺町も四軒目・同万猪方券状預」		切 1通	73-0
〔覚(堀之上町買得地所四ヶ所譲渡之覚)〕	元治元年1月26日	切継 1通	73-1
一札(菊屋町借家売渡に付一札控) 売受人村松伊介・売主小堀甚兵衛→堺町通菊屋町年寄服部次助様	明治4年9月	切 1通	99

## 1-4. 冠婚葬祭

信行院は初代甚平衛と3代貴置の3男利三郎の号。

婚礼式御客其外所持扣帳 小堀姓	(天保4年12月22日)	横美(水引) 1冊	59-1
婚姻一式其外所持覚帳 小堀	(天保5年12月15日)	横美(水引) 1冊	59-2
婚礼祝儀物到来之扣 小堀姓		横美(水引) 1冊	60
七月六日頂妙寺墓参り包銀之覚		切継 1通	94
信行院十三回忌献立		切継 1通	105
目録(花田次兵衛様・おうめ様宛扇子・酒・肴目録) 万屋甚兵衛		切 1通	117
全快覚	(明治27年)	横半(水引) 1冊	87

## 1-5. 北野神社奉納

小堀家では北野神社の毎年の御翠簾の仕立料、修復料、および神鏡磨の費用を奉納していた。翠簾師は大久保武右衛門(京都寺町通竹屋町下ル)と前田平八(丸太町寺町東江入)、鏡屋は松田幸平が用達であった。

〔封筒〕 上書「北野御本社御請取証并ニ御翠簾御神鏡磨請取」		封筒 1通	79-1-0
〔願札〕 小堀甚兵衛		切 59通	79-1-1
〔北野神社社務所領収証綴〕	(明治8～23カ)	綴 1冊(25通)	79-2

(北野社務所→小堀甚兵衛)			
仮証(寄付品社納証) 北野神社社務所(印)→小堀甚兵衛殿	明治20年6月20日	切 1通	79-3
証(御宮金物代金請取証) 若林久兵衛(印)→小堀様	辰6月6日	切 1通	79-4
記(仕立代請取証) 鏡や事松田宰平(印)→北野御役所様	寅12月	切 1通	79-7
記(仕立代請取証) (御翠簾所大久保武右衛門印)→小堀様	8月10日	切 1通	79-9
記(北野神社御翠簾他取替作料見積書) 前田平八→小堀様	9月6日	切 1通	79-13
記(小堀方有志分前田平八へ支払依頼) 北野神社社務所当直, 前田平八署名・印あり	明治13年12月25日	切 1通	79-14
記(御翠簾代請取証) (御翠簾所大久保武右衛門印)→北野御神社御社務所御中	13年12月30日	切 1通	79-11
〔仕立代・修復料請取証綴〕 大久保武右衛門(印)→小堀甚兵衛様	明治14年10月2日	半野 1綴(2通)	79-24
記(仕立代請取証) 翠簾師大久保武右衛門(印)→小堀様	明治15年12月15日	半野 1通	79-20
〔代金請取証〕 (御翠簾所大久保武右衛門印)→小堀甚兵衛様	16年12月25日	切 1通	79-12
覚(仕立代請取証) 鏡屋松田宰平(印)→北野様御役所様	明治15年12月26日	切綴 1綴(2通)	79-6
〔北野社務所支払依頼綴〕 北野神社社務所(印)→小堀甚兵衛様	16年12月26日	半野・切 1綴(2通)	79-10
御翠簾御修繕清算書 御翠簾師大久保武右衛門(印)→小堀甚兵衛様	明治16年12月30日	半野 2通	79-15
証(北野神社奉納御翠簾仕立料請取証) 翠簾師大久保武右衛門(印)→小堀甚兵衛様	16年12月23日	半野 1通	79-16
〔北野神社社務所支払依頼綴〕 北野神社社務所(印)→小堀甚兵衛	明治16年12月25日	半野 1綴(2通)	79-17
証(作料見積) 御簾細工所御翠簾師前田平八→小堀甚兵衛様	12月31日	切 1通	79-18
記(仕立代請取証) 翠簾師大久保武右衛門(印)→小堀甚兵衛様	明治17年2月23日	半野 1通	79-19
記(仕立代請取証) 大久保武右衛門(印)→小堀甚兵衛様	明治21年12月16日	半野 1通	79-21
覚(品代書付) 松田宰平	12月	半野 1通	79-22
記(仕立代請取証) 大久保武右衛門(印)→小堀甚兵衛様	明治22年12月21日	半野 1通	79-23
記(仕立代請取証) (御翠簾所大久保武右衛門印)→小堀甚兵衛様	明治24年12月23日	切 1通	79-8
記(仕立代請取証) (御翠簾所大久保武右衛門印)→小堀甚兵衛様	明治25年12月23日	切 1通	79-5

## 1-6. 普請

堀之上町の居宅普請、土蔵普請、借家普請などの一件文書。いずれも明治期のものである。No.112は瀬尾多門・松浦茂等に、家相方位、普請吉日などを占わせた一件文書である。明治期の陰陽師の動向を知ることができる。なお、松浦茂の書状は、1-7. 交際の中にもあるので、参照のこと。No.119は、貴峯が「地面家建ハ大切之物」という考えから、他家の地相・家相による現在の吉凶を検討するために書写した絵図面で、一部には松浦氏を通じて入手したものもある。絵図は精粗があるが、明治期の商家の屋敷図95点がまとまって利用できる。

〔封筒〕 〔封筒〕	上書「沽券 堀之上町永々万代 小堀甚兵衛居宅」 朱書付紙「永代所持沽券名前覚」、紙背：掛屋宛請取書包紙	切 1通	98-0
	〔小堀甚兵衛居宅坪数扣〕 屋敷図あり	美 3通	98-1
	○		
	明治十六未年太陰曆十一月節中 東備土蔵取払手始作事之覚・明治十七申年太陰曆二月節中 巽備土蔵取払奥行三間之借家新調之建井戸掘替普請作事之覚 紙背文書あり	(明治16・17年) 18.0×38.1(水引) 1冊	107-1
	従来之新土蔵巾五間ヲ今般相改六間ニ致候普請之覚 紙背文書あり	明治21年太陽曆4月8日 5月3節中 17.8×22.6(水引) 1冊	107-2
	向家借家皆造普請兼而入口対正凶相ニ付此度附直シ并ニ井戸西之鎮江堀直し候作事之覚 方位撰者松浦氏、紙背文書あり	明治23年8月節中 17.8×22.5 1冊	107-3
	未申之方五疊敷改築之覚帳 松浦茂氏撰定、紙背文書あり	明治4年3月7日ヨリ着手 横美(水引) 1冊	107-4
	積り書帳(六帖土蔵普請代見積明細書) 河内屋清兵衛→小堀様	午1月10日 横半 1冊	107-5
	御積り書(九帖土蔵普請代見積書) 大工清兵衛→小堀様	明治19年3月 横半 1冊	107-6
	覚(五月分材木代・大工手間賃請取帳) 大工清兵衛→小堀様	7月前 横半 1冊	107-7
	覚(三月分材木代・大工手間賃請取帳) 大工清兵衛→小堀様	5月前 横半 1冊	107-8
	覚(九月分材木代・大工手間賃請取帳) 大工清兵衛→小堀様、中土蔵普請分	11月前 明治20年10月31日払 横半 1冊	107-9
	覚(三月四月分材木代・大工手間賃請取帳) 大工清兵衛→小堀様、小乾蔵普請分	(明治21年)4月27日 横半 1冊	107-10
	覚(材木代請取帳) 大工清兵衛→小堀様、借家家分	5月前 横半 1冊	107-11
	覚(材木代・雇人賃銀請取帳) 大工清兵衛→小堀様、借家家分	(4月～6月分) 横半 1冊	107-12
	六帖敷座敷折廻縁側床廻り木材明細区別書 中村清兵衛(印)→小堀様、「西村用紙」	明治40年7月4日 美野 1冊	107-13
	堺町四条町御借家式ヶ所新ノ築見積明細書 中村清兵衛(印)→小堀様	明治40年2月14日 美野 1冊	107-14

綴	覚(四条町借家普請見積書) 中村清兵衛(印)→小堀様	(明治)40年7月4日	半野 1冊	107-15
	御家根用之通(材木代・手間賃請取帳) 北尾三左衛門→小堀甚兵衛様	明治19年4月	横半 1冊	107-16-1
	記(石代請取状) 中村久吉→小堀様	(明治)19年4月30日	切 1通	107-16-2
	覚(手間賃他請取状) 石田清兵衛→小堀様御用向中村様	5月前	切 1通	107-16-3
	記(竹代他請取状) ひさ吉→小堀様	5月前	切 1通	107-16-4
	御家根用之通(材木代・手間賃請取帳) 北尾三左衛門→小堀甚兵衛様	明治18年11月	横半 1冊	107-17
	○方位鑿文			
	〔包紙〕 上書「方鑿書 小堀様」		半 1通	112-1-0
	〔封筒〕 上書「方位鑿書」	元治元年10月撰	封筒 1通	112-1-1-0
	〔瀬尾某書状〕(糸屋町 〆 本宅へ移候方鑿) 瀬尾→小堀大人	10月6日	切継 1通	112-1-1-1
	〔瀬尾某書状〕(店方三条 〆 西向丁へ移方鑿) 瀬尾→小堀様	12月20日	横折 1通	112-1-1-2
	〔瀬尾多門書状〕(店方三条 〆 引移方鑿) 瀬尾多門→小堀甚兵衛様	蠟月晦日	切 4通	112-1-1-3
	〔瀬尾多門書状〕(土蔵方位) 瀬尾→小堀様	11月25日	切 1通	112-1-1-4
封筒	鑿々(土蔵潰・西隣普請吉凶) 瀬尾(印)→小堀様	11月1日	切 1通	112-1-1-5
	方鑿(土蔵引始・本宅移吉日) 業明撰(瀬尾印)→小堀様	11月18日	切 1通	112-1-1-6
	鑿々(蔵引始・店柱建吉日) 瀬尾業明(花押)→小堀御氏	10月6日	切 1通	112-1-1-7
	方鑿(店引移他吉日)		切 1通	112-1-1-8
	〔普請入用書付〕		切 1通	112-1-1-9
	〔居宅間口書付〕		切 1通	112-1-1-10
	〔左官住所名前書付〕		切 1通	112-1-1-11
	〔封筒〕 上書「記 目出土申酉年普請日撰」		封筒 1通	112-1-2-0
	〔方鑿〕(土蔵修復吉日) 松浦→小堀様		切継 1通	112-1-2-1
	〔錢蔵取払他普請日程〕		切 1通	112-1-2-2
	方鑿(本宅普請吉日) 付、上便所普請吉日 松浦(印)→小堀様	未11月	切継・切 2通	112-1-2-3
	〔瀬尾渡書状〕(土蔵修復他吉日)	10月28日	切継 1通	112-1-2-4
	鑿文(本宅座敷上棟吉日) 松浦(印)→小堀様	申3月	切継 1通	112-1-2-5
包紙	方鑿(西隣借家普請上棟他吉日)	丑2月	切継 1通	112-1-3

瀬尾業明撰(瀬尾印)→小堀御氏			
〔某書付〕(経備之事)		切(15.6×3.5) 1通	112-1-4
〔地相竈窺書付〕		切 1通	112-1-5
〔瀬尾某書状〕(天降の事) 瀬尾→小堀様	11月1日	切 1通	112-1-6
〔瀬尾某書状〕(北ノ正當に大將軍の銘柄) 瀬尾→小堀様	3月4日	切継 1通	112-1-7
〔瀬尾多門書状〕(新西蔵普請吉日) 多門→甚兵衛様	4月11日	切継 1通	112-1-8
〔瀬尾某書状〕(蔵間普請吉日) 瀬尾→小堀様	4月10日	切継 1通	112-1-9
〔瀬尾某書状〕(菊屋町方角) 瀬尾→小堀様, 図あり	8月7日	切継 1通	112-1-10
〔瀬尾某書状〕(清水坂5 帰宅吉日) 瀬尾→小堀様	12月16日	切継 1通	112-1-11
〔一行坊書状〕(普請泊番人の件) 北野一行坊→小堀様	10月27日	切 1通	112-1-12
〔方位と家相の心得〕		切継 1通	112-1-13
〔松浦某書状〕(足量の事) 松浦→小堀様	3月9日	切 1通	112-1-14
〔借家普請并井戸堀直方鑿〕		切 1通	112-1-15
〔普請方鑿〕		切 1通	112-1-16
〔包紙〕 上書「撰吉辰書」 鈴木氏之撰		切 1通	112-1-17-0
〔家名譲受吉辰書〕	安政乙丑年	切 1通	112-1-17-1
〔瀬尾渡書状〕(普請方鑿) 瀬尾渡→小堀様	9月4日	切 1通	112-1-18
〔東江某書状〕(方替の方位) 東江→小堀大人	9月10日	切 1通	112-1-19
呈九星飛宮之秘運動而謹鑿文 長生館主人誌(松浦印)	巳雪有	切継 1通	112-2
星命四柱真訣八域秘令謹旌之(明治4年1月6日生男) 伊藤飯生子		折 1通	112-3
〔松浦茂書状〕(菊屋町方位) 松浦茂→小堀様	6月14日	切継 1通	112-4
記(借家改造普請吉日) (松浦弘印)	未2月10日	切継 1通	112-5
相伝秘書		5.0×15.0 1冊	112-6
記(仮住居5 入京の吉日) (松浦弘印), 墨引抹消あり	立9月5日	切継 1通	112-7
〔鈴木方・阿部方量の数撰法〕		切 1通	112-8
記〔屋根修繕他吉日〕 (松浦弘印)	辰10月10日	切 1綴(2通)	112-9

起例一覽 全 松浦佳宝・同最陽著，印刷	上元乙丑年仲夏発兌	畳 1通(封筒入)	112-10
〔小島茂兵衛鑿文綴〕 ○屋敷図・家相	(明治22~27年)	半罫 1綴(20通)	112-11
〔袋〕 上書「地面家建ハ大切之物ニ付他家之地相家相之形 ニ寄現在吉凶為弁之写置候図面入」		袋 1通	119-0
〔大坂三井店高麗橋間取図〕		36.7×51.5 1舗	119-1
〔東洞院蛸薬師下ル大原氏宅地荒増図面〕		26.6×61.5 1舗	119-2
〔井上大丸家図面〕 松浦宅にて	明治23年10月4日写	23.8×28.2 1舗	119-3
〔宝町通西側間口丸五間図面〕		24.6×34.6 1舗	119-4
〔間之町押小路下ル藤井家居宅図面〕		38.3×73.3 1舗	119-5
上原氏凡家図		28.4×21.2 1舗	119-6
〔封筒〕 上書「江戸丁子治様図面・江戸丁子甚様図面」 松浦→小堀様		封筒 1通	119-7-0
東京丁字星家全図		美(27.8×40.0) 1舗	119-7-1
〔封筒〕 小林吟右衛門様御別家江戸富沢町丁子屋治兵衛様宅相 図面		32.6×44.3 1舗	119-7-2
〔松浦茂添状〕 茂→貴峯様	6月4日	切 1通	119-7-3
〔烏丸三条上ル山本氏新規の座敷図〕	明治初年頃	半(24.1×33.3) 1舗	119-8
出水松屋家相		22.0×27.9 1舗	119-9
〔七条古長地面凡の所図面〕		切(15.4×26.6) 1通	119-10
〔六角喜多川孫家図面〕		切(25.8×20.2) 1舗	119-11
〔大坂八百屋屋町家略図〕		切(28.0×22.0) 1舗	119-12
大坂境筋垣内清之図略		切(24.6×17.0) 1舗	119-13
〔小野善助旧地屋敷図〕		切(17.2×24.0) 1舗	119-14
〔指吸氏隠居方屋敷図〕		半(25.0×34.5) 1舗	119-15
〔泉州堺指吸家縮図〕		切(26.0×13.9) 1舗	119-16
六角堀之上町之南側信濃七之旧地(家敷図)		美(27.8×40.7) 1舗	119-17
〔封筒〕 上書「太極定」		封筒 1通	119-18-0
〔屋敷図案〕		切(16.6×6.5)(16.1×39.7)(16.0×33.1) 3通	119-18-1

袋	〔小松原福井氏屋敷略図〕		切(16.8×14.3) 1舗	119-19
	〔屋敷略図〕		半(24.5×33.7) 1舗	119-20
	〔屋敷略図家相〕		切(24.0×32.3) 1舗	119-21
	〔一条笹藤氏家略図〕		切(16.3×22.3) 1舗	119-22
	〔間之町通り藤井家略図〕		半(24.7×34.0) 1舗	119-23
	〔井上大丸家略図〕		24.7×24.2 1舗	119-24
	蛸薬師森氏凡家図 紙背：万病感応丸包紙		28.6×23.8 1舗	119-25
	〔富久田氏家略図〕		半(25.1×34.5) 1舗	119-26
	〔藤井御両様家略図〕		33.0×16.8 1舗	119-27
	〔株式公債商某家家相〕 付紙あり		切(15.3×16.2) 1舗	119-28
	〔畳数吉相〕		半(24.5×32.3) 1通	119-29
	明治廿一年灘屋佐兵衛様宅図		27.7×22.0 1舗	119-30
	高新様図面		27.5×34.3 1舗	119-31
	〔新土蔵方位吉相〕 (松浦弘印)	3月1日	美(27.8×40.5) 1舗	119-32
	〔包紙〕 上書「いせ市様御図面返上」		半 1通	119-33-0
	〔伊勢市家家相〕		30.5×20.0 1舗	119-33-1
	〔松浦茂書状〕(二階押入場所吉相) 松浦茂→小堀様	11月16日	切 1通	119-33-2
	〔伊勢市方位〕		切 1通	119-33-3
	〔伊勢市方家略図〕		切(15.5×13.5) 1通	119-33-4
	〔伊勢市方家略図〕		切(21.5×28.8) 1通	119-33-5
包紙	〔袋〕 上書「東隣借家・向家借家・丸屋町借家・菊屋町借家・四条町借家家図入」		袋 1通	119-34-0
	〔中立売町屋敷図〕		半(25.0×33.8) 1舗	119-34-1
	〔出格子略図〕		切(17.0×9.7) 1舗	119-34-2
	丸屋町借家図面 押紙あり		切(27.8×22.6) 1舗	119-34-3
	菊屋町借家図面		美(27.8×39.9) 1舗	119-34-4
	向家図面		美(28.0×43.3)	119-34-5

<div> <div>袋</div> <div>向家図面、押紙付</div> <div>東隣家借家(図面) 付紙あり</div> <div>明治四十年二月新築家屋堺町通四条下ル借家図面 〔屋敷図〕</div> <div>〔屋敷側面図〕</div> <div>〔北川正面図〕</div> <div>〔西側妻入母家図〕</div> <div>座敷貳拾分壹之絵 付紙あり</div> <div>○</div> <div>〔瓦師・手伝人数手問賃書上〕 鉄尾房吉(印)→小堀御店</div> <div>〔向家上棟祝儀分交名〕</div> <div>〔洛東頂妙寺修覆明細書〕</div> <div>〔包紙〕 上書「惣積り書 請取入」 大工清兵衛</div> <div>覚(金20円請取証) 大工清兵衛→小堀様</div> <div>覚(金40円請取証) 大工清兵衛→小堀様</div> <div>覚(金20円請取証) 大工清兵衛→小堀様</div> <div>覚(明治20年8月中土蔵造作費明細書) 大工清兵衛→小堀様</div> <div>覚(明治20年加茂御別所分造作費請取帳) 大工清兵衛→小堀様</div> <div>積り書(土蔵普請) 手伝方中新→小堀殿御用中村清兵衛様</div> <div>御積り書(土蔵他普請) 左官徳次郎→中村清兵衛様</div> <div>義捐金領収之証(京都・大坂水害) 中外電報社・日出新聞社募集掛(印)→小堀甚兵衛殿、(下 京第四組六角高倉東入堀之上町)</div> <div>証(神楽所神饌所社務所建築費寄付金請取証) 八坂神社々務所(朱印)→小堀甚兵衛殿</div> <div>証(寄付金請取証) 京都府紀念祭(印)・京都鉄道期成同盟会(印)→小堀甚兵 衛殿</div> <div>〔土蔵上棟祝儀分書付〕</div> </div>		1舖	
		切(27.8×23.6) 1舖	119-34-6
		35.9×26.8 1舖	119-34-7
		40.6×79.5 1舖	119-34-8
		27.8×19.7 1舖	119-34-9
		39.9×55.8 1舖	119-34-10
		美(28.0×39.8) 1舖	119-34-11
		美(27.9×40.0) 1舖	119-34-12
		36.7×81.3 1舖	119-34-13
	(明治)19年3月25日	半罫 1通	109-1
		横半 1通	109-2
	安政6年6月	折 1通	109-3
		半 1通	109-4-0
<div> <div>包紙・糊付</div> </div>	3月31日	切 1通	109-4-1
	5月29日	切 1通	109-4-2
	6月27日	切 1通	109-4-3
	(明治20年)8月30日	横半 1冊	109-5
	明治20年7月	横半 1冊	109-6
	明治19年3月	横半 1冊	109-7
	明治19年3月	切継 1通(包紙入)	109-8
	明治18年7月17日	切 1通(包紙入)	109-9
	明治25年8月	切 1通(包紙入)	109-10
	明治25年12月24日	切 1通(包紙入)	109-11
	(4月11日～18日)	切 1綴(3通)	109-12

覚(巽土蔵用牡丹餅代) (四条通大福印)→万甚様	4月22日	切 1通	109-13
覚(材木代金請取証) (竹屋町通柳馬場角吉田吉次郎印)→小堀様	5月10日	切継 1通	109-14
覚(代金書上)		横半 2通	109-15
記(二階修復造作吉日鑿文) (松浦弘印)	11月19日	切 1通	109-16
記(造作日限吉日鑿文) (松浦弘印)	辰12月25日	切 1通	109-17
覚(金百疋請取証) 身延十万部寺(印)→京都万屋甚兵衛様	3月26日	横半 1通	109-18
覚(御経料請取証) 身延役僧(印)→京都万屋甚兵衛殿	巳3月23日	切 1通	109-19
〔玄関上塗日程〕		切 1通	109-20
〔玄関上塗日程〕		切 1通	109-21

## 1-7. 交際

4代貴峯宛の書状が中心である。なお、解題で説明したように、ここでは現配列を尊重した配列をとり、内容的に関連すると判断できる史料についても、現配列を崩して細かく再編成することはしなかった。そのため、項目編成上の厳密さを欠いている

〔三井八郎右衛門書状〕(百花式御本持参) 八郎右衛門→亀太郎様	3月	切継 1通	90-1
〔三井八郎右衛門書状〕(持病に付本日不参加、池坊様にも連絡) 三井八郎右衛門→□堀亀太郎様	3月10日	切継 1通	90-2
○			
〔安田太蔵書状〕(開業祝宴招待) 安田太蔵(京都市室町六角南入)→小堀甚兵衛殿		22.5×29.3 1通 (封筒入)	110-1
〔封筒〕 東京皇典講究所長伯爵山田顕義→小堀甚兵衛殿		封筒 1通	110-2-0
〔封筒〕 國学院設立趣意書 山田顕義	明治23年7月	27.0×39.2 1通	110-2-1
〔封筒〕 全国有志諸君に向て賛成を請ふ文 國学院(東京市麹町区飯田町5丁目)	明治23年11月	27.0×39.2 1通	110-2-2
〔金錢差引書〕		切 29通	110-3
〔某書状〕(素品進呈)		切継 1通	110-4-1
〔松浦茂書状〕(商法施行延期の件) 松浦茂→小堀様	12月7日	切継 1通	110-4-2
〔紙縫〕 御答(四尺蛇の件) 常通→小堀様	明治6年8月28日	折 1通	110-4-3
〔萬屋次兵衛書状〕(家督改名祝儀の品請取礼状) 萬屋次兵衛→萬屋甚兵衛様	2月22日	折 1通	110-4-4
口上之覚(加茂川并高野川筋浚に付上納銀差加願状)	安政3年5月6日	切 1通	95

六角通高倉東へ入町万屋甚兵衛→下古京八組御年寄衆中様			
〔露国皇太子入京時美術品出品に付礼状〕 京都市参事会→小堀甚兵衛殿	明治24年5月28日	切継 1通	101
○			
〔県下震災救恤金寄付に付感謝状〕 岐阜県知事從三位勲三等小崎利準(公印)→京都府京都市 下京元四組堀ノエ町小堀	明治26年1月6日	切 1通	102
承認状(軍資金献納) 陸軍恤兵監陸軍騎兵中佐正六位勲四等大藏平三(公印)→ 小堀甚兵衛殿	明治27年12月4日	24.4×31.7 1通	103-1
領収証書(金5円) 中央金庫(印)→小堀甚兵衛殿	明治27年12月21日	18.2×11.6 1通	103-2
覚(寄付金五両受納之請状) 宝塔寺日寛(印)→小堀甚兵衛様御支配人衆中	4月9日	切 1通	104
○			
〔去年濟方諸藩に貸附の分申年々公債50ヶ年賦の所証 書を相譲り候に付金高月々の利息見積〕		半横折 1通	116-1-1
〔証文覚〕(淀・鯖江・吉田・松山・和歌山・久居・彦 根)		切 1綴(2通)	116-1-2
〔土御門殿内医師中川遠江書付〕		切 1綴(3通)	116-2
〔21年～23年配当金・利子の覚〕		切継 2通	116-3
新版てうし新まんざい		小 1冊	116-4
〔方位円〕		切 4点	116-5
〔京都盲啞院慈善会招待状〕 京都盲啞院慈善会→小堀甚兵衛殿、付、参聴券3通、菓子 券1通	明治28年10月25日	切 5通(封筒入)	116-6
〔散文〕		折 1通	116-7
〔内外科医師鈴木七平・鈴木格次郎診療案内写〕		切 1通	116-8
〔太宰府神社保存金募集依頼并規則〕 太宰府神社宮司西高辻信巖・欄宜浦橋信淳・主典小野好 廉・主典大城谷俊誠、印刷	明治20年11月	23.0×41.3 1通	116-9
〔日出新聞記事写〕(薩長破談・憲法政治中止の権言)	(明治27年2月9日)	半 1通	116-10
〔包紙〕 上書「午私五月廿三日堀へ下り廿六日帰宅候 事」		切 1通	116-11-0
〔献立目録〕		半横折 1通	116-11-1
東山芭蕉堂に月を賞す・良夜の余興 野波書、印刷	18年9月13日	切 1通	116-12
八坂神社奉納発句合 印刷	明治4年臘月	升 1冊	116-13
〔句集〕(庚辰1月) 断簡、印刷		小 1冊(13丁)	116-17
〔御神号札〕(南無天満自在天神) 木村氏へ→		切(24.5×4.9) 1 通(包紙入)	116-18

名産鮎鮎広告 福井県越前国敦賀郡匹田本店川尻まさ、印刷	明治27年	切 1通	116-19
〔東京より入京の吉日〕	明治23年	切 1通	116-20
御神筆(火用心) 印刷		49.0×18.1 1通	116-21
〔御神筆〕(火要鎮) 印刷		66.6×24.0 1通	116-22
大白小朱(朱印見本)		29.7×12.2 1通 (封筒入)	116-23
〔包紙〕 上書「御挨拶」 包紙のみ		半 1通	116-24
〔包紙〕 上書「摩利支天御鏡餅代金五十銭」 願主小堀甚兵衛→本法寺様、包紙のみ		半 1通	116-25
〔土蔵普請吉日書付〕		切(16.3×21.8) 1通	116-26
〔祇園社神饌備願〕	(明治22年)	切 2通	116-27
〔土産目録] 指吸→小堀様		切(18.0×15.1) 1通	116-28
〔肴目録] 治郎市		切 1通	116-29
○			
証(神影軸物代金請取証) 大仏師職七條彦一代北村助蔵(印)→小堀甚兵衛様	18年6月24日	切 1通	109-22
〔季料請取証] 齊藤安行(印)→小堀甚兵衛様、印刷	5月15日	切 1通	109-23
〔家根用材木代金書付] 北尾三左衛門→小堀様	明治19年5月	横美 1通	109-24
キ(四条町請負残金領取証) 中村清兵衛(印)→小堀様	明治40年9月4日	切 1通	109-25
記(召衣代金請取証) 三上店→小堀様御用	(明治19年)9月13日	切 1通	109-26
〔松浦茂書状〕(普請吉日) 松浦茂→小堀御主人様	5月18日	切継 1通	109-27
〔中井藤太郎病状書付〕	(明治6年10月以降)	切 3通	109-28
〔藤井源四郎書状〕(見舞) 藤井源四郎→小堀甚兵衛様	4月23日	切 1通	109-29
〔藤河五郎左衛書状〕(割符方継目調印の件) 藤川五郎左衛門→小堀御両主	11月5日	切 1通	109-30
〔書状下書〕(紋付上下肴一具)		切 1通	109-31
〔次作書状〕(絵図面返上) 次作→甚兵衛様	19日	切 1通	109-32
〔松浦茂書状〕(裏町 5 境目高塀造作の吉日) 松浦茂→小堀様	3月17日	切継 1通	109-33
〔源四郎書状〕(価格二期払方の件) 源四郎→小堀御老主		切継 1通	109-34

〔松浦茂書状〕(西方修造吉凶) 松浦茂→小堀様	12月12日	切継 1通	109-35
〔神事供衆振舞規則大略〕		切 2通	109-36
〔家元書状〕(華道書加筆延引) 家元→会頭職	11月4日	切 1通	109-37
〔別口方口取入金等書付〕		切 7通	109-38
〔次作書状〕(千家茶事招待) 次作→亀太郎様	4月18日	切継 1通	109-39
〔別口方口取入金等書付〕		切 23通	109-40
〔万屋次兵衛書状〕(改名祝儀進上) 万屋次兵衛→万屋要蔵様・万屋甚兵衛様	卯12月27日	折 1通(包紙入)	109-41
〔松浦茂書状〕(暮風の時修復の件) 松浦茂→小堀様	9月13日	切継 1通	109-42
〔ばゝ書状〕(菓子の礼状) ばゝ→利三郎へ		切継 1通	109-43
〔次作書状〕(鶴頭花籠の礼状) 次作→甚兵衛様		切 1通	109-44
〔次作書状〕(図画贈答の礼) 次作→甚兵衛様	菊月	切継 1通	109-45
〔采野為吉書状〕(進物礼状菓子返礼) 采野為吉→小堀甚兵衛様	4月27日	切 1通(封筒入)	109-46
〔松浦茂書状〕(竈衣掛の吉日) 松浦茂→小堀様	1月10日	切継 1通	109-47
〔封筒〕 天賞堂(東京)→小堀甚兵衛様, 封筒のみ	(明治23年2月4日)	封筒 1通	109-48
〔重潤書状〕(秘蔵の茶器・画等の件) 重潤→小堀玉芝君	(万延元年)臘月25日	切継 1通	109-49
覚(妙経三部受納証) 身延七面山役僧(印)→京都万屋甚兵衛様	3月25日	切 1通	109-50
〔松浦茂書状〕(建増の吉凶) 茂(印)→貴峯様	12月2日	切 1通(封筒入)	109-51
〔某書状〕(光琳・応挙軸物購入の件)		切 1通	109-52
〔閑唱寺書状〕(御礼の詠草) 越前福井御坊閑唱寺→村山七郎兵衛様	2月26日	折 1通	109-53
〔山本弥太郎書状〕(御膳拝領の礼状) 山本弥太郎→小堀甚兵衛様	4月27日	切継 1通	109-54
〔指吸千太郎書状〕(鏡餅の礼状) 指吸千太郎→小堀甚兵衛様	12月16日	折 1通	109-55
〔松浦茂書状〕(送籍吉日) 松浦茂→小堀御主人様	(明治24年)11月28日	切継 1通(封筒)	109-56
〔某書状〕(歌仙奉納句の件)	11月20日	切継 1通	109-57
〔小林吟次郎書状〕(年賀) 小林吟次郎→小堀甚兵衛様	18年1月17日	切継 1通	109-58
〔通集メ名前記〕		切 8通	109-59

〔松浦茂書状〕(取込中に付同行不可) 茂→小堀御主人様	2月26日	切継 1通	109-60
〔源四郎書状〕(進物礼状) 源四郎→小堀様	1月19日	切継 1通	109-61
〔中嶋助左衛門書状〕(女子出生の件問合) 中嶋助左衛門→万屋甚兵衛様, 前欠	(9月27日)	切継 1通(包紙入)	109-62
〔長生館主人書状〕(一年吉日)	午12月2日	切継 1通	109-63
〔荻田次兵衛書状〕(新土蔵上棟吉日) 荻田次兵衛→小堀甚兵衛様	12月21日	折 1通(包紙入)	109-64
〔齊藤新助書状〕(家督・隠居祝儀進上) 齊藤新助→小堀甚兵衛様・小堀要造様	2月1日	折 1通(包紙入)	109-65
〔包紙〕 上書「高尾氏 <sup>5</sup> 御世話之御品之内下立売七本松 妙光寺様へ相納申候書附也」	明治7年太陰曆7月9日	半 1通	109-66-0
〔包紙〕 請書(奉納物請取証) 神力山妙光寺日澍→万屋甚兵衛御元衛	明治7年8月20日	折 1通	109-66-1
○			
〔包紙〕 上書「改年賦証文」 紙背: 銭屋六兵衛・同与兵衛・同又兵衛所持家屋敷書付		堅 1通	113-1
〔借金返済次第書付〕		切継 1通	113-2
差入申絵図約定一札之事(家屋敷永代売渡証文下書) 近江屋忠七・親類証人近江屋八兵衛・同帯屋彦兵衛→万 屋要蔵殿	文久元年12月	半 2通	113-3
〔卯七月七日改差引書付〕		切継 1通	113-4
諱仲芳賊乞膳(写) 肥州八代庄正法寺快專		32.1×63.0 1通	113-5
〔御覺料奉納礼状〕 齊藤安行(印)→小堀甚兵衛様	5月18日	切継 1通	113-6
覚(金請取) 順妙寺→小堀様	3月8日	切継 1通	113-7
手荒者名前記	明治27年4月19日	横半半 1冊	113-8
〔備忘綴〕		切 1綴(6通)	113-9
〔包紙〕 上書「印判司」 尾沢善輔(印)		包紙 2通、切2通	113-10
〔封筒〕 上書「おし鮎」		封筒 2通	113-11
〔差図〕		31.5×43.0 1通	113-12
〔包紙〕 上書「壳扇庵」 宮脇新兵衛		半 1通	113-13-0
〔包紙〕 〔鈴木出張所広告〕(癩病療治他) 全科医師本家鈴木七兵衛・同格治郎, 印刷		半 1通	113-13-1
御薫物諸品(広告)、付香袋 印刷		切 2通	113-13-2
〔塩松亭罌紙〕		切 14通	113-14
〔封筒〕 上書「青物」 青錦社		封筒 1通	113-15

## 1. 小堀家 山城国京都堀之上町万屋小堀家文書

〔封筒〕 上書「柳さくら」 東洞院東入鳥居又七		封筒 1通	113-16
〔封筒〕 上書「ゆふ東風」 青錦社		封筒 2通	113-17
〔封筒〕 上書「すゝめ留」		封筒 1通	113-18
〔封筒〕 上書「はつ東風」 青錦社		封筒 1通	113-19
〔封筒〕 上書「庵之春」 付紙「金砂女君」		封筒 3通	113-20
〔封筒〕 上書「万寿無疆」 大草園		封筒 1通	113-21
〔封筒〕 上書「歳旦」		封筒 1通	113-22
萩の万可幾(句集) 印刷		小冊子 1冊	113-23
〔下絵〕 (ぼたん)		切 1通	113-24
〔袋〕 上書「や津橋」 玄鶴堂		袋 1通	113-25
〔包紙〕 上書「印シ苗字下書也 福井老先生筆」 (高倉通四条南松浦茂印)あり		半 1通	113-26
〔小堀甚兵衛宛書付〕 断簡		切 1通	113-27
〔箱寸法書略図〕		半 1通	113-28
〔明治21年吉日〕		横美・半 1綴	113-29
〔方位家相に付書付〕		切 1通	113-30
〔包紙〕 上書「軍人江贈興金請取」	明治27年	半 1通	113-31
〔包紙断簡〕 上書「明治廿八年五月おきし婚礼滞りなく 相祝幾久敷く目出度納書付入」	明治28年	袋 1通	113-32
〔袋〕 上書「万袋物提物類」 綾小路角春田市太郎		袋 1通	113-33
〔包紙〕 指吸千太郎→小堀甚兵衛様		袋 1通	113-34
〔包紙〕		豎 1通	113-34
年賦銀請取方之事		切 2通	113-35
〔小堀甚兵衛名札〕	11月29日から7日間	切(25.6×6.2) 1通	113-36
〔包紙〕 上書「打しもり懐紙」		切(24.5×26.8) 1通	113-37
〔神前鏡餅御備願下書〕		切 1通	113-38
〔布〕		1点(包紙入)	113-39
嘉永三年十二月晦日改 紙背：進物目録包紙		横折 1通	113-40
〔揮毫〕 (閑雲)		34.5×48.4 1通	113-41

〔封筒〕 上書「津登」 雀庵編		封筒 1通	113-42
〔白紙〕		切 1通	113-43

## 1-8. 記録

区内之学校より前代未聞之義申来候ニ付以来心得之扣	(明治10年1月2日～明治27年)	半 1冊	55
堺行日記帳(諸経費書付)	(明治)	半三切(水引) 1冊	89
世間之事 書写 紙替文書あり	(明治)	横半半 1冊	111
〔小野組失敗の聞書〕		半 1冊	77-2
〔旧慣諮問案并応答書写〕(手形為替并商取引の旧慣取調)	(明治22年)	半罫 1冊	57
拔萃(銀行成規 附三井銀行用借用金証書)		小冊子 1冊	78
年中之氣候ニ仍而人民心得之事		半 1冊	61
淡雅雜著之内抜記		半 1冊	62
兼而御頼申入置候事(雇人に付当店家風) 辻店→各宿元御一同中, 板刷	明治14年1月	美 1通	100
〔近世考見録写〕(嶋田八郎右衛門他)		美 1冊	77-1
〔包紙〕 上書「十二徳」	明治12年9月13日	半 1通	106-0
フランクリン自警十二徳記 印刷	明治12年9月13日	20.6×26.5 1通	106-1
宝来		切 1通	106-2

## 1-9. 学問・文芸

## 1-9-1. 書画

入木篇目抄 上 下は表紙のみ		美 1冊	114
〔菊花図〕 文亀筆		93.4×25.4 1軸	114-2
一字書 手本		中本 1冊	114-3
西谷洪水先生書		折本 1冊	114-4
金銀目手本 貴置筆		半 1冊	52

## 1-9-2. 茶道

4代貴峯は亀太郎時代から茶道、華道を嗜んだようで、1-8. 交際の中にもその文化交流を窺わせる書状がある。No.58は、堺屋甚助を通しての茶道具や茶掛の購入記録。

〔包紙〕 上書「価下扣」		美 1通	58-0
--------------	--	------	------

## 1. 小堀家 山城国京都堀之上町万屋小堀家文書

<div> <div>包紙</div> <div> <div>包紙</div> </div> </div>	目録(茶掛) 堺屋甚助印→万屋甚兵衛殿、下札あり、端書「細川」	弘化3年5月2日	横美 1冊	58-1
	<div> <div>包紙</div> <div>上書「道具帳ニ添、入用之書付」</div> </div> 小堀		半 1通	58-2-0
	〔茶道心得覚〕		半 1冊	58-2-1
	〔入用之書付〕		折 1通	58-2-2
	〔入用之書付〕		折 1通	58-2-3
	〔細川氏道具類値付目録〕	弘化3年5月	横 1冊	88

## 1-10. 講

覚(稻荷講出銀177匁余請取状) 津国屋喜左衛門(印)→平田作十郎様・小堀甚兵衛様	安政3年5月22日	切 1通	96
--	-----------	------	----

表題／作成・授受／備考	年代	形態 数量	整理番号
-------------	----	-------	------

## 2. 両替商

### 2-1. 惣差引書抜帳

いずれも半紙横折帳。表紙に「書抜」とのみしかないものもあるが、「惣差引書抜帳」が正式名称であろう。内容は、1 番大福帳・福大帳・2 番大福帳・3 番大福帳・4 番大福帳・5 番大福帳の毎月の惣差引を記載した決算帳簿である。

寅七月三日書抜	(慶応2年カ)	横半 1冊	1-1
寅八月三日書抜	(慶応2年カ)	横半 1冊	1-2
寅九月三日惣指引書抜	(慶応2年カ)	横半 1冊	1-3
寅十月三日惣指引書抜	(慶応2年カ)	横半 1冊	1-4
寅十一月三日惣指引書抜	(慶応2年カ)	横半 1冊	1-5
寅十二月二日書抜	(慶応2年カ)	横半 1冊	1-6
慶応三卯二月三日惣指引書抜	(慶応3年)	横半 1冊	2-1
慶応三卯二月晦日惣差引書抜 三月分	(慶応3年)	横半 1冊	2-2
慶応三卯四月三日惣指引書抜	(慶応3年)	横半 1冊	2-3
[指引帳]	(慶応3年)	横半 1冊	2-4
慶応三卯五月朔日惣指引書抜	(慶応3年)	横半 1冊	2-5
慶応三卯五月二日惣指引書抜	(慶応3年)	横半 1冊	2-6
慶応三年卯七月三日惣指引書抜	(慶応3年)	横半 1冊	2-7
慶応三年卯八月三日惣指引書抜	(慶応3年)	横半 1冊	2-8
卯九月三日惣差引書抜	(慶応3年カ)	横半 1冊	2-9
卯十月三日惣指引書抜	(慶応3年カ)	横半 1冊	2-10
卯十一月三日惣指引書抜 右後日十一日ニ相改書抜別ニ有之	(慶応3年カ)	横半 1冊	2-11
卯十一月十一日惣指引書抜	(慶応3年カ)	横半 1冊	2-12
辰六月二日書抜帳	(明治元年カ)	横半 1冊	3-1
辰七月三日指引書抜	(明治元年カ)	横半 1冊	3-2
辰八月三日書抜帳	(明治元年カ)	横半 1冊	3-3
辰九月三日書抜帳	(明治元年カ)	横半 1冊	3-4
辰十月三日書抜	(明治元年カ)	横半 1冊	3-5
辰十一月三日書抜	(明治元年カ)	横半 1冊	3-6
辰十二月二日書抜	(明治元年カ)	横半 1冊	3-7
巳二月三日書抜帳	(明治2年カ)	横半 1冊	4-1

巳二月晦日書拔帳	(明治2年カ)	横半 1冊	4-2
巳四月三日書拔帳	(明治2年カ)	横半 1冊	4-3
巳五月二日書拔帳	(明治2年カ)	横半 1冊	4-4
巳六月二日書拔帳	(明治2年カ)	横半 1冊	4-5
巳七月三日書拔帳	(明治2年カ)	横半 1冊	4-6
巳八月三日書拔帳	(明治2年カ)	横半 1冊	4-7
巳九月三日書拔帳	(明治2年カ)	横半 1冊	4-8
巳十月三日書拔帳	(明治2年カ)	横半 1冊	4-9
巳十一月三日書拔帳	(明治2年カ)	横半 1冊	4-10
〔十一月十一日書拔帳〕 仮綴	(明治2年カ)	横半 1冊	4-11
巳十二月二日書拔帳	(明治2年カ)	横半 1冊	4-12
午二月三日書拔帳	(明治3年カ)	横半 1冊	5-1
午二月晦日書拔帳	(明治3年カ)	横半 1冊	5-2
四月三日書拔帳	(明治3年カ)	横半 1冊	5-3
午五月三日惣書拔	(明治3年カ)	横半 1冊	5-4
午六月二日書拔帳	(明治3年カ)	横半 1冊	5-5
午七月四日書拔帳	(明治3年カ)	横半 1冊	5-6
午八月三日書拔帳	(明治3年カ)	横半 1冊	5-7
午九月三日書拔帳	(明治3年カ)	横半 1冊	5-8
午十月三日書拔帳	(明治3年カ)	横半 1冊	5-9
午閏十月三日書拔帳	(明治3年カ)	横半 1冊	5-10
午十一月三日書拔帳	(明治3年カ)	横半 1冊	5-11
午十二月二日書拔帳	(明治3年カ)	横半 1冊	5-12
未二月三日書拔帳	(明治4年カ)	横半 1冊	6-1
未三月朔日書拔帳	(明治4年カ)	横半 1冊	6-2
未四月三日書拔帳	(明治4年カ)	横半 1冊	6-3
未五月三日書拔帳	(明治4年カ)	横半 1冊	6-4
未六月二日書拔帳	(明治4年カ)	横半 1冊	6-5
未七月三日書拔帳	(明治4年カ)	横半 1冊	6-6
未八月三日書拔帳	(明治4年カ)	横半 1冊	6-7
酉一月廿日書拔帳	(明治6年カ)	横半 1冊	7-1
酉二月四日書拔帳	(明治6年カ)	横半 1冊	7-2
酉三月三日書拔帳	(明治6年カ)	横半 1冊	7-3
酉四月三日書拔帳	(明治6年カ)	横半 1冊	7-4

酉五月三日書拔帳	(明治6年カ)	横半 1冊	7-5
酉六月三日書拔帳	(明治6年カ)	横半 1冊	7-6
酉八月三日書拔帳	(明治6年カ)	横半 1冊	7-7
九月三日書拔帳	(明治6年カ)	横半 1冊	7-8
酉十月三日書拔	(明治6年カ)	横半 1冊	7-9
十一月二日書拔帳	(明治6年カ)	横半 1冊	7-10
酉十二月三日書拔帳	(明治6年カ)	横半 1冊	7-11
戌五月三日書拔 小堀	(明治7年カ)	横半 1冊	8-1
戌六月三日書拔 小堀	(明治7年カ)	横半 1冊	8-2
戌七月三日書拔 小堀, 朱書「此時速ニ算当合也」	(明治7年カ)	横半 1冊	8-3
戌八月三日書拔 小堀, 朱書「此時速ニ算当合也」	(明治7年カ)	横半 1冊	8-4
戌九月三日書拔 小堀, 朱書「此時速ニ算当合也」	(明治7年カ)	横半 1冊	8-5
戌十月三日書拔 小堀, 朱書「此時速ニ算当合也」	(明治7年カ)	横半 1冊	8-6
戌十一月三日書拔 小堀, 朱書「算当合也」	(明治7年カ)	横半 1冊	8-7
戌十二月三日書拔 小堀, 朱書「速ニ合也」	(明治7年カ)	横半 1冊	8-8
亥二月三日書拔 小堀	(明治8年カ)	横半 1冊	9-1
亥三月三日書拔 小堀	(明治8年カ)	横半 1冊	9-2
亥四月三日書拔 小堀	(明治8年カ)	横半 1冊	9-3
亥五月三日書拔 小堀	(明治8年カ)	横半 1冊	9-4
亥六月三日書拔 小堀, 朱書「速ニ算当合也」	(明治8年カ)	横半 1冊	9-5
亥七月三日書拔 小堀, 朱書「速ニ合也」	(明治8年カ)	横半 1冊	9-6
子二月三日書拔帳	(明治9年カ)	横半 1冊	10-1
子三月三日書拔帳	(明治9年カ)	横半 1冊	10-2
子四月三日書拔帳	(明治9年カ)	横半 1冊	10-3
子五月三日書拔帳	(明治9年カ)	横半 1冊	10-4
子六月三日書拔帳	(明治9年カ)	横半 1冊	10-5
子七月二日書拔帳	(明治9年カ)	横半 1冊	10-6
子八月三日書拔帳	(明治9年カ)	横半 1冊	10-7

子九月三日書拔帳	(明治9年カ)	横半 1冊	10-8
子十月三日書拔帳	(明治9年カ)	横半 1冊	10-9
子十一月三日書拔扣 小堀	(明治9年カ)	横半 1冊	10-10
子十二月三日書拔 小堀	(明治9年カ)	横半 1冊	10-11
丑二月四日書拔 小堀	(明治10年カ)	横半 1冊	11-1
丑三月三日書拔 小堀	(明治10年カ)	横半 1冊	11-2
丑四月三日書拔 小堀	(明治10年カ)	横半 1冊	11-3
丑五月三日書拔 小堀	(明治10年カ)	横半 1冊	11-4
丑六月三日書拔 小堀	(明治10年カ)	横半 1冊	11-5
丑七月三日書拔 小堀	(明治10年カ)	横半 1冊	11-6
丑八月四日書拔 小堀	(明治10年カ)	横半 1冊	11-7
丑九月三日書拔 小堀	(明治10年カ)	横半 1冊	11-8
丑十月三日書拔 小堀	(明治10年カ)	横半 1冊	11-9
丑十一月三日書拔 小堀	(明治10年カ)	横半 1冊	11-10
丑十二月四日書拔 小堀	(明治10年カ)	横半 1冊	11-11
寅二月三日書拔 小堀	(明治11年カ)	横半 1冊	12-1
寅三月三日書拔 小堀	(明治11年カ)	横半 1冊	12-2
寅四月三日書拔 小堀	(明治11年カ)	横半 1冊	12-3
寅五月三日書拔 小堀	(明治11年カ)	横半 1冊	12-4
寅六月三日書拔 小堀	(明治11年カ)	横半 1冊	12-5
寅七月三日書拔 小堀	(明治11年カ)	横半 1冊	12-6
寅八月三日書拔 小堀	(明治11年カ)	横半 1冊	12-7
寅九月三日書拔 小堀	(明治11年カ)	横半 1冊	12-8
寅十月三日書拔 小堀	(明治11年カ)	横半 1冊	12-9

寅十一月三日書拔 小堀	(明治11年カ)	横半 1冊	12-10
寅十二月三日書拔 小堀	(明治11年カ)	横半 1冊	12-11
卯二月三日書拔 小堀	(明治12年カ)	横半 1冊	13-1
卯三月三日書拔 小堀	(明治12年カ)	横半 1冊	13-2
卯四月三日書拔 小堀	(明治12年カ)	横半 1冊	13-3
卯五月三日書拔 小堀	(明治12年カ)	横半 1冊	13-4
卯六月三日書拔 小堀	(明治12年カ)	横半 1冊	13-5
卯七月三日書拔 小堀	(明治12年カ)	横半 1冊	13-6
卯八月三日書拔 小堀	(明治12年カ)	横半 1冊	13-7
卯九月三日書拔 小堀	(明治12年カ)	横半 1冊	13-8
卯十月三日書拔 小堀	(明治12年カ)	横半 1冊	13-9
卯十一月三日書拔 小堀	(明治12年カ)	横半 1冊	13-10
卯十二月三日書拔 小堀	(明治12年カ)	横半 1冊	13-11
辰二月三日書拔 小堀	(明治13年カ)	横半 1冊	14-1
辰三月三日書拔 小堀	(明治13年カ)	横半 1冊	14-2
辰四月三日書拔 小堀	(明治13年カ)	横半 1冊	14-3
辰五月三日書拔 小堀	(明治13年カ)	横半 1冊	14-4
辰六月三日書拔 小堀	(明治13年カ)	横半 1冊	14-5
辰七月三日書拔 小堀	(明治13年カ)	横半 1冊	14-6
辰八月三日書拔 小堀	(明治13年カ)	横半 1冊	14-7
辰九月三日書拔 小堀	(明治13年カ)	横半 1冊	14-8
辰十月三日書拔 小堀	(明治13年カ)	横半 1冊	14-9
辰十一月三日書拔 小堀	(明治13年カ)	横半 1冊	14-10

辰十二月三日書拔 小堀	(明治13年カ)	横半 1冊	14-11
巳二月三日書拔 小堀	(明治14年カ)	横半 1冊	15-1
巳三月三日書拔 小堀	(明治14年カ)	横半 1冊	15-2
巳四月三日書拔 小堀	(明治14年カ)	横半 1冊	15-3
巳五月三日書拔 小堀	(明治14年カ)	横半 1冊	15-4
巳六月三日書拔 小堀	(明治14年カ)	横半 1冊	15-5
巳七月三日書拔 小堀	(明治14年カ)	横半 1冊	15-6
巳八月三日書拔 小堀	(明治14年カ)	横半 1冊	15-7
巳九月三日書拔 小堀	(明治14年カ)	横半 1冊	15-8
巳十月三日書拔 小堀	(明治14年カ)	横半 1冊	15-9
巳十一月三日書拔 小堀	(明治14年カ)	横半 1冊	15-10
巳十二月三日書拔 小堀	(明治14年カ)	横半 1冊	15-11
午二月三日書拔 小堀	(明治15年カ)	横半 1冊	16-1
午三月三日書拔 小堀	(明治15年カ)	横半 1冊	16-2
午四月三日書拔 小堀	(明治15年カ)	横半 1冊	16-3
午五月三日書拔 小堀	(明治15年カ)	横半 1冊	16-4
午六月二日書拔 小堀, 表紙朱書あり、朱印	(明治15年カ)	横半 1冊	16-5
午七月三日書拔 小堀	(明治15年カ)	横半 1冊	16-6
午八月三日書拔 小堀	(明治15年カ)	横半 1冊	16-7
午九月三日書拔 小堀	(明治15年カ)	横半 1冊	16-8
午十月三日書拔 小堀	(明治15年カ)	横半 1冊	16-9
午十一月三日書拔 小堀	(明治15年カ)	横半 1冊	16-10
午十二月三日書拔 小堀	(明治15年カ)	横半 1冊	16-11

子三月三日書拔 小堀	(明治21年カ)	横半 1冊	17-1
子四月三日書拔 小堀	(明治21年カ)	横半 1冊	17-2
子五月三日書拔 小堀	(明治21年カ)	横半 1冊	17-3
子六月三日書拔 小堀	(明治21年カ)	横半 1冊	17-4
子七月三日書拔 小堀	(明治21年カ)	横半 1冊	17-5
子八月三日書拔 小堀, 朱書「此算当合也」	(明治21年カ)	横半 1冊	17-6
子九月三日書拔 小堀	(明治21年カ)	横半 1冊	17-7
子十月三日書拔 小堀	(明治21年カ)	横半 1冊	17-8
子十一月三日書拔 朱書「算当合」	(明治21年カ)	横半 1冊	17-9
子十二月三日書拔 小堀, 朱書「算当合」	(明治21年カ)	横半 1冊	17-10
丑十一月三日書拔 小堀, 朱書「当算凡合也」	(明治22年カ)	横半 1冊	18-1
丑十二月三日書拔 小堀	(明治22年カ)	横半 1冊	18-2
寅二月三日書拔 小堀	(明治23年カ)	横半 1冊	18-3
寅三月三日書拔 小堀	(明治23年カ)	横半 1冊	18-4
寅四月三日書拔 小堀, 朱書「算当済」	(明治23年カ)	横半 1冊	18-5
寅五月三日書拔 小堀, 朱書「算当合」	(明治23年カ)	横半 1冊	18-6
寅六月三日書拔 小堀, 朱書「速算当合」	(明治23年カ)	横半 1冊	18-7
七月三日書拔 小堀, 朱書「算当合也」	(明治23年カ)	横半 1冊	18-8
寅八月三日書拔 小堀, 朱書「算当速二合也」	(明治23年カ)	横半 1冊	18-9
寅九月三日書拔 小堀	(明治23年カ)	横半 1冊	18-10
寅十月三日書拔 小堀	(明治23年カ)	横半 1冊	18-11
寅十一月三日書拔 小堀, 朱書「算当合也」	(明治23年カ)	横半 1冊	18-12
寅十二月四日書拔 小堀, 朱書「算当不合」	(明治23年カ)	横半 1冊	18-13

卯二月三日書拔 小堀	(明治24年カ)	横半 1冊	19-1
卯三月三日書拔 小堀	(明治24年カ)	横半 1冊	19-2
卯四月三日書拔 小堀	(明治24年カ)	横半 1冊	19-3
卯五月三日書拔 小堀, 算当競	(明治24年カ)	横半 1冊	19-4
卯六月三日書拔 小堀	(明治24年カ)	横半 1冊	19-5
卯七月三日書拔 小堀	(明治24年カ)	横半 1冊	19-6
卯八月三日書拔 小堀	(明治24年カ)	横半 1冊	19-7
卯九月三日書拔	(明治24年カ)	横半 1冊	19-8
卯十月三日書拔 小堀	(明治24年カ)	横半 1冊	19-9
卯十一月三日書拔 小堀	(明治24年カ)	横半 1冊	19-10
卯十二月三日書拔 小堀	(明治24年カ)	横半 1冊	19-11
辰二月三日書拔 小堀, 算当合ス也	(明治25年カ)	横半 1冊	20-1
辰三月三日書拔 小堀, 朱書「正算合也」	(明治25年カ)	横半 1冊	20-2
辰四月三日書拔 小堀, 朱書「算当合也」	(明治25年カ)	横半 1冊	20-3
辰五月三日書拔 小堀, 朱書「凡算当合」	(明治25年カ)	横半 1冊	20-4
辰六月三日書拔 小堀, 朱書「算当合」	(明治25年カ)	横半 1冊	20-5
辰七月三日書拔 小堀	(明治25年カ)	横半 1冊	20-6
辰八月四日書拔 小堀, 朱書「算当合」	(明治25年カ)	横半 1冊	20-7
辰九月四日書拔 小堀, 朱書「算当合ス也」	(明治25年カ)	横半 1冊	20-8
辰十月三日書拔 小堀	(明治25年カ)	横半 1冊	20-9
辰十一月三日書拔 小堀	(明治25年カ)	横半 1冊	20-10
辰十二月三日書拔 小堀	(明治25年カ)	横半 1冊	20-11
巳二月三日書拔 小堀	(明治26年カ)	横半 1冊	21-1
巳三月三日書拔	(明治26年カ)	横半 1冊	21-2

小堀			
巳四月三日書拔 小堀	(明治26年カ)	横半 1冊	21-3
巳五月三日書拔 小堀	(明治26年カ)	横半 1冊	21-4
巳六月二日書拔 小堀	(明治26年カ)	横半 1冊	21-5
巳七月三日書拔 小堀	(明治26年カ)	横半 1冊	21-6
巳八月三日書拔 小堀	(明治26年カ)	横半 1冊	21-7
巳九月二日書拔 小堀, 算当済	(明治26年カ)	横半 1冊	21-8
巳十月二日書拔 小堀, 朱書「算当合ス」	(明治26年カ)	横半 1冊	21-9
書拔 小堀店, 紙背文書あり	明治29年1月4日(～明治42年)	横 1冊	22
○			
第壹番 〆 伍番大福帳書拔并栗田大帳共	明治4年12月改	横半 1冊	26
式番大帳之口々書拔 栗田大帳書拔 改印、出入済印あり	明治20年春	横半 1冊	27
〔第一番 〆 伍番大福帳書拔〕	安政6年春改	横綴(水引) 1冊	28-1
〔第一番 〆 伍番大福帳書拔〕		横綴(水引) 1冊	28-2
〔一番 〆 五番大福帳書拔〕	(元治元年冬)	横半 1冊	36
〔一番 〆 五番大福帳并栗田帳書拔〕	慶応2年	横半 1冊	37
〔辰年九月十九日迄一番 〆 五番大福帳〕	辰年	横半 1冊	39-4
〔辰年九月十三日迄一番 〆 五番大福帳〕		横半 1冊	39-5
〔安政三年丙辰九月十六日改〕 紙背文書あり	安政3年9月16日改	横半 1冊	39-6
〔古金類所持之分書拔〕	辰年	横半 1冊	39-7
金札書拔 紐切れ		横半 1冊	39-8
当座之内書	(安政6年)	横半 1冊	39-9
〔大福帳書拔〕		横半 1冊	39-10

## 2.2. 仕分方・別口方書拔帳

いずれの帳簿も小堀甚兵衛宛の賀状、寒中見舞、暑中見舞の書状折紙の紙背を料紙に用いているため、備考欄に「紙背文書あり」の注記は省略した。綴紐は水引を用い、丁数は5枚前後の薄目の帳簿である。もとは仕分方と別口方は別々に綴られていたが、安政4年以降には合綴となっている。

嘉永四亥年仕分ケ方		横綴(水引) 1冊	23-1
-----------	--	-----------	------

上己御祝儀 後欠カ	嘉永4年12月改	横 1通	23-2
嘉永五壬子年極月廿九日仕分ケ方覚書留		横(水引) 1冊	23-3
嘉永五壬子暮別口方		横(水引) 1冊	23-4
嘉永六丑年十二月卅日仕分方覚		横(水引) 1冊	23-5
安政元年寅極月卅日改仕分方之覚		横(水引) 1冊	23-6
安政貳卯極月改別口方書拔		横(水引) 1冊	23-7
安政三辰之暮別口方書拔		横(水引) 1冊	23-8
〔別口方安政四年巳暮貸附并仕分方之覚〕		横綴(水引) 1冊	23-9
〔安政五年極月改目出度別口方書拔并仕分方之覚〕		横綴(水引) 1冊	23-10
文久貳戌年十二月改別口方書拔		横綴(水引) 1冊	24-1
文久三年極月卅日改別口方書拔		横綴(水引) 1冊	24-2
慶応元乙丑極月改		横 2通	24-3
〔別口方書拔并仕分方覚〕	慶応元年12月改	横綴(水引) 1冊	24-4
慶応貳寅年極月卅日改		横 2通	24-5
〔別口方書拔并仕分方覚〕	慶応2年12月改	横綴(水引) 1冊	24-6
〔別口方書拔并仕分方覚〕	慶応3年12月改	横綴 1冊	24-7
〔別口方書拔并仕分方覚〕	明治元年12月改	横綴 1冊	25-1
〔別口方・新別口方書拔并仕分方覚〕		横綴(水引) 1冊	25-2
〔別口方書拔并仕分方覚〕	明治2年12月改	横綴(水引) 1冊	25-3
〔別口方書拔并仕分方覚〕	明治3年12月改	横綴(水引) 1冊	25-4
〔別口方書拔并仕分方覚〕	明治4年12月改	横綴(水引) 1冊	25-5
〔別口方書拔并仕分方覚〕	明治5年12月改	横綴(水引) 1冊	25-6
〔別口方・新別口方書拔并仕分方之覚〕	明治6年	横綴(水引) 1冊	25-7
〔別口方・新別口分書拔并仕分方之覚〕	明治7年	横綴(水引) 1冊	25-8
〔別口方・新別口方之分書拔并仕分方之覚〕	明治8年	横綴(水引) 1冊	25-9
〔別口方・新別口方之分書拔并仕分方之覚〕	明治9年	横綴(水引) 1冊	25-10
〔別口方・新別口方書拔并仕分ケ方覚〕	明治10年	横綴(水引) 1冊	25-11
〔別口方・新別口方書拔并仕分方之覚〕	明治11年	横綴(水引) 1冊	25-12
〔別口方・新別口方書拔并仕分方之覚〕	明治12年改	横綴(水引) 1冊	25-13
〔別口方・新別口方書拔并仕分方之覚〕	明治13年改	横綴(水引) 1冊	25-14
〔別口方書拔并仕分方覚〕	明治15年改	横綴(水引) 1冊	25-15
〔別口方・新別口方書拔并仕分ケ方覚〕	明治16年改	横綴(水引) 1冊	25-16

## 2-3. 勘定帳

表表紙に朱書で1番から3番、墨書で4番から6番までの通し番号が付けられている。東京経済大学所蔵文書の「勘定帳」は天保期のものを欠くが、本史料群は天保期のものながらそれらの「勘定帳」を補うものではなく、別系統の帳簿である。なお、辻本氏については不詳。

朱書「第壹番」 天保貳年卯七月勘定帳	(天保2年)	横半 1冊	34-1
朱書「第貳番」 天保貳辰二月三日勘定帳 辻本氏	(天保2年)	横半 1冊	34-2
朱書「第三番」 天保三年辰八月四日勘定帳 辻本	(天保3年)	横半 1冊	34-3
第四番 天保四年巳二月七日勘定帳 辻本	(天保4年)	横半 1冊	34-4
第五番 天保四巳十月三日勘定帳	(天保4年)	横半 1冊	34-5
第六番 天保五年甲午四月六日迄勘定帳 但、巳十月 三日迄翌年四月迄	(天保5年)	横半 1冊	34-6
子年十月三日迄勘定帳扣		横半 1冊	35

## 2-4. 改書抜・改

小堀(万屋)甚兵衛宛の年賀、暑中見舞、寒中見舞などの書状折紙の紙背を料紙に用いている。内容的には7月改と12月改めの2期に、惣差引改書抜と総持高の改めを記載する2系統の文書が作成されている。文書作成の機能としては、大勘定の日付で改められているので、「勘定帳」の作成と連動して作成された一連の文書群と見られる。一括状態で保管されており、一部には無年号文書や現段階では内容の特定できない文書もあるため、現状通りに配列した。そのため、年代がやや前後している。なお、No.113の一括文書の中に、本文書群と関連性があると思われる〔卯七月七日改差引書付〕(No.113-4)が1点含まれている。

〔弘化6年12月差引書抜〕 紙背：進物目録	(弘化6年12月)	折 1通	38-1
〔弘化3年～5年差引書抜〕	(弘化3～5年)	折 1通	38-2
午年七月十四日改書抜 紙背：近江や定助書状(暑中見舞)		横 1通	38-3
午極月改書抜 紙背：村田七右衛門書状(暑中見舞)		横 1通	38-4
安政貳年卯極月書抜ノ惣差引 紙背：米や平三郎書状(年始)	安政2年12月	折 1通	38-5
安政三辰年七月書抜ノ 紙背：殿村伊太郎書状(寒中見舞)	安政3年7月	横半 1通	38-6
安政五年七月十四日ノ 紙背：殿村伊太郎書状(寒中見舞)	安政5年7月14日	横半 1通	38-7
〔安政5年書抜〕 紙背：加嶋屋作之助書状(歳暮進上)	安政5年	折 1通	38-8
明治貳年七月改書抜	明治2年7月	横半 1通	38-9

明治貳年巳極月改(書拔)	明治2年12月	横半 1通	38-10
明治貳年七月十四日改 紙背：近江屋定助書状(年始)	明治2年7月14日	横美 1通	38-11
明治貳年極月十四日改 紙背：近江屋定助書状(寒中見舞)	明治2年12月	横美 1通	38-12
明治三庚午年七月十四日改 紙背：錢屋清次郎書状(寒中見舞)	明治3年7月14日	横美 1通	38-13
明治三午年十二月改 紙背：村田七右衛門書状(年賀)	明治3年12月改	横美 1通	38-14
明治四年七月十四日改 紙背：丁子屋吟次郎書状(年賀)	明治4年7月14日	横美 1通	38-15
明治四未年極月三十日改 紙背：中屋四郎兵衛(年賀)	明治4年12月30日	折 1通	38-16
〔申年分入金書拔〕	申年	横半 1通	38-17
〔手扣〕	辰年	横半 1通	38-18
年々八十ノ日五朱利盛算用 紙背：小堀貴置宛包紙		横半 1通	38-19
〔惣勘定心得〕 綴穴あり		横半 1通	38-20
〔安政3年12月書拔〕		美堅切 2通	38-21
〔勘定帳断簡〕		横半 3通	38-22
〔辰年入金書拔〕 紙背：羽二重越之覚		横半 1通	38-23
覚(酉年入金書拔) 紙背：酒屋宗左衛門書状(寒中見舞)・殿村伊太郎書状(年賀)		横 1冊	38-24
〔勘定改書拔〕 紙背：早崎雅四郎宛万屋甚兵衛書状(暑中見舞)		折 1通	38-25
〔改勘定書拔〕 紙背：尾本証兵衛宛万屋甚兵衛書状(寒中見舞)		折 1通	38-26
〔書拔下書〕 墨引抹消あり		折継 1通	38-27
〔午7月14日改〕	(午7月14日)	折 1通	38-28
〔諸方書拔〕 紙背：近江屋権兵衛書状(寒中見舞)		折 1通	38-29
〔勘定改書拔〕 紙背：田中屋弥兵衛・弥三郎書状(年始)		折 1通	38-30
〔勘定改書拔〕 紙背：藤野四郎兵衛宛万屋甚兵衛書状(寒中見舞)		折 1通	38-31
〔勘定改書拔〕 紙背：木屋孫兵衛書状(年賀)		折 1通	38-32
〔勘定改書拔〕 紙背：進物目録		折 1通	38-33
〔勘定改書拔〕 紙背：大南久太郎・植田平馬・横河分輔書状(栗進上)		横折 1通	38-34

安政三辰年極月改 紙背：近江屋半次郎書狀(年賀)	安政3年12月	折 1通	38-35
安政五年七月十四日ノ(書拔) 紙背：中村金九郎書狀(年賀)	安政5年7月14日	折 1通	38-36
安政四巳極月晦日迄ノ(書拔) 紙背：塚本彦兵衛書狀(年賀)	安政4年12月30日	折 1通	38-37
〔勘定改書拔〕 紙背：中村四郎兵衛書狀(年始)		折 1通	38-38
〔子年勘定下書〕		折 1通	38-39
丑七月十四日改書拔 紙背：米屋長兵衛書狀(年賀)	(慶応元年)	折 1通	38-40-1
慶応乙丑元年七月十四日改 紙背：錢屋忠三郎書狀(年賀)	慶応元年7月14日	横美 1通	38-40-2
慶応式寅七月十四日改 紙背：境屋次郎兵衛書狀(年賀)	慶応2年7月14日	折 1通	38-41-1
慶応式寅年七月改再改高 紙背：近江屋檜之助書狀(暑中見舞)	慶応2年7月14日	折 1通	38-41-2
慶応三卯年七月十四改日 紙背：近江屋半次郎書狀(中元祝儀)	慶応3年7月14日	折 1通	38-42-1
慶応三卯七月書拔 紙背：松永伊兵衛書狀(暑中見舞)	慶応3年7月14日	折 1通	38-42-2
慶応三丁卯極月三十日改 紙背：錢屋忠三郎書狀(寒中見舞)	慶応3年12月30日	折 1通	38-43-1
〔慶応三年十二月書拔カ〕		横半 1通	38-43-2
子七月改 紙背：村田七右衛門書狀(年賀)		折 1通	38-44-1
子七月改(書拔) 紙背：鴻池庄兵衛書狀(年賀)		横半 1通	38-44-2
〔辰7月改書拔〕 紙背：今屋長吉郎書狀(暑中見舞)		折 1通	38-45-1
慶応四戊辰年七月十四日改 紙背：近江屋定助書狀(寒中見舞)	慶応4年7月14日	横半 1通	38-45-2
明治元戊辰極月廿九日改 紙背：近江屋定助書狀(年賀)	明治元年12月	横美 1通	38-46-1
明治元辰極月改(書拔)	明治元年12月	横半 1通	38-46-2
文久三亥年七月十四日改 紙背：米屋伊太郎書狀(寒中見舞)	文久3年7月14日	折 1通	38-47-1
文久三亥年七月(書拔)	文久3年7月14日	横美 1通	38-47-2
文久三癸亥年極月三十日改 紙背：殿村伊太郎書狀(年賀)	文久3年12月	折 1通	38-48
文久三年亥極月改書拔ノ 紙背：長田作次郎書狀(年賀)	文久3年12月	折 1通	38-49
文久元酉年極月晦日勘定(下書) 紙背：木屋孫太郎書狀(暑中見舞)	文久元年12月30日	折 1通	38-50
元治元年甲子年極月改	元治元年12月	折 1通	38-51-1

紙背：近江屋半次郎書状(年賀)			
〔子12月改書拔〕 紙背：鴻池庄兵衛書状(暑中見舞)	元治元年12月	横美 1通	38-51-2

## 2-5. 勘定諸帳簿

ここでは、単独で伝存している勘定帳簿をまとめて配列した。「大宝栄」や各帳簿の関係については解題を参照のこと。

大宝栄 内題：参番中勘定帳面	(明治元～大正5年)	横美半列 1冊	30
銀箔控		15.9×6.3 1冊	85
〔手尻書帳簿〕 前後欠、紐切れ、紙背文書あり		横美半列 1冊	41
御扶持方米覚帳 小堀	慶応2年冬	横半 1冊	46
再書拔	弘化2年3月24日撰	横半 1冊	40

## 2-6. 勘定心得

貴置・貴峯によって書かれた勘定帳簿作成の心得書。

〔勘定諸帳面書拔〕 表紙「此帳面ニ有之候分者先年下地調帳ニ認置候分丈ヶ 残し置候分也」	(安政4～6年)	横美半(水引) 1冊	33
本元方考之記録 綴紐切れ	(天保15年7月14日改～ 嘉永2年12月改迄)	横半 1冊	43
西米積視方より入方記録 奥書「西米積視方則大蔵入方之根元也、父貴置此備被始、 後代之者三代目貴置之如心相守、殖集良勘定可致事第一 也 小堀貴峯誌」	(嘉永2年・3年)	横綴(水引) 1冊	29
成長年積之覚 小堀貴置、朱書経文あり、後欠、綴紐切れ	弘化元年12月改(～嘉 永2年迄)	横美 1冊	42-1
名目競方大帳之表口々書拔之覚 小堀貴置、朱書経文あり	嘉永7年7月14日改	横美 1冊	42-2
後日心得之覚(阿波国山林引当貸付加入の件)	明治17年春	半 1冊	56

## 2-7. 契約文書

小堀家文書の中には、契約書類、日常的業務書類はほとんど残されていない。わずかに本項目の振手形が伝来するのみである。また、筏株を引き当てにした木村源三郎の拝借銀願の一件文書があるが、小堀家との関係はよくわからない。

〔包紙〕 上書「万次と振手形式枚不用之分在中仕舞置」		包紙 1通	83-0
覚(振手形金760両受取証) 万次(印抹消)→万甚殿	卯12月9日	切 1通	83-1
覚(振手形金1,060両受取証) 万次(印抹消)→万甚殿	卯12月10日	切 1通	83-2

〔振手形綴〕 覚(江戸為替金千両請取証案文) 小林彦兵衛・桧木屋太右衛門・同常祐→万屋甚兵衛殿 ○ 〔包紙〕 木村源三郎→清水様 〔包紙〕 口上書之覚(筏株引当拝借銀願状下書) 木村源三郎→清水様 筏一件諸入用控 中村姓 覚(役人への贈物竹子・餅代支払証)	明治11年～12年 年号月日	切 1綴(9通) 切 1通	84 97
		半 1通	63-0
		半継 1通	63-1
	天保5年	横半半 1冊	64-1
		半 1通	64-2

## 2-8. 取引先通帳

各取引先には専用の通帳が作られていた。表紙には年、取引先名、万屋甚兵衛(万屋の印あり)が記され、綴紐には割印がある。美濃紙の横折本であるが、通常は4つ折にして利用され、裏表紙ののどの部分には取引先名が書かれている(4つ折にした時にのどが表紙になる)。それらの取引先の全容は、2-9. 帳簿注文の項目を参照。

金銀取引通 万屋甚兵衛→俵屋清助殿	安政6年1月	横美 1冊	31-1
金銀取引通 万屋甚兵衛→近江屋弥兵衛殿、裏表紙上書「巳八月五日 差引渡出入済」	慶応4年1月	横美 1冊	31-2
金銀取引通 万屋甚兵衛→近江屋宇助殿 ○	慶応4年1月	横美 1冊	31-3
本店調達方人数扣 小堀持	元治元年4月	折本 1冊	47

## 2-9. 帳簿注文

小堀家で必要とする通帳、大福帳その他の帳簿の仕様を書いた帳簿が「取引先通帳扣」である。年初に通帳を拵える必要のある取引先名と通帳の丁数が記されており、丁数を比較すると取引先の推移がある程度つかめる。なお、各大福帳の注文控帳の後半にも通帳の記載があるので、それらもあわせて見る必要がある。

取引先通帳扣 小堀店	文久元年冬改	半四切(水引) 1冊	32-1
取引先通帳扣 小堀店	安政2年春改	半四切(水引) 1冊	32-2
取引先通帳扣 小堀店	万延2年春	半四切(水引) 1冊	32-3
取引先通帳扣 小堀店	慶応元丑年冬改	横半半(水引) 1冊	32-4
取引通扣		横半半 1冊	32-5

〔嘉永2年冬取引先通帳扣〕 紙背文書あり	嘉永2年冬	横半 1冊	39-1
〔戊子年取引先通帳扣〕	戊12月・子	横半 1冊	39-2
〔嘉永3年戊11月5日取引先通帳扣〕	嘉永3年11月5日	横半 1冊	39-3
目出度諸帳面并通紙数扣 小堀店、紙背文書あり		横美半(水引) 1冊	45
〔来寅春用取引通帳注文控〕 万甚→小松さ様	丑11月19日	切継 1通	82-1
〔来寅分大福帳他注文控〕 万甚→小松佐様、丑年注文書付を再利用	子11月23日	切継 1通	82-2
〔明治26年春大福帳拵様目録〕	(明治26年)	横半(水引) 1冊	115-1
〔明治26年大帳日披露口取仕様書〕	(明治26年)	横半(水引) 1冊	115-2
〔大福帳拵差目録〕		横半 1冊	115-3
〔大福帳拵差目録〕		横半 1冊	115-4
〔大福帳拵差目録〕 紐切れ、断簡カ		横半 1冊	115-5
〔明治25年大福帳拵様目録〕	(明治25年)	横半 1冊	115-6
〔包紙〕 上書「安政三辰年書拔ノ仕分帳安政四巳年安政御年」		縦 1通	115-7

## 2-10. 大名貸

郡山・久居・紀伊藩の大名貸関係の記録文書8点。ただし、大名貸に直接関わる記録文書はない。No.49は、藤井(松前屋)源四郎が父源右衛門の遺跡を継いだことにより、引き続き郡山屋敷への出入りと扶持米の拝領を願い出た件に関して、藤井と郡山藩用人との間の往復書簡を書留たもので、「認候事」の下札が付けられている。藤井源四郎と小堀家との関係は不詳。No.50は明治2年(1869)1月22日に郡山屋敷に麻上下で出かけ、家老・用人・年寄り・留守居・下役に挨拶している。同日、六角通りの油小路の久居藩留守居にも挨拶している。

郡山様書状之扣 下札あり	文久2年10月吉日	横半 1冊	49
郡山御殿様御在京之節年頭御礼之・久居御留守居在京之節年頭御礼之扣	明治2年1月2日	横半 1冊(2丁)	50
紀州手形挟 小堀店、紐付き	(文政13年12月改・慶応4年1月)	28.5×7.2 1点	51
〔紀州様御構之節一札之訳文面写〕	(天保7年)	包紙 1通	65
乍恐奉願上候口上書(上使の節掛屋被仰付候様願状下書) 京都六角通高倉東二入町万屋(以下切断)、後欠	天保15年2月	美 1通	91
〔某家諸役人江進物控〕		横折 1通	76
下ノ方年頭七夕廻礼覚		5.6×8.0(水引) 1冊	86

## 2-11. 両替仲間

No.48は幕府代官築山茂左衛門が上京した際に、両替屋敷を提供するように要求され、仲間中で対応した一件記録。

証(寛政度仲間冥加金等入用銀覚)	天保15年	切 1通	92
築山様御上京一条二付所持心覚		横半 1冊	48

## 2-12. 総区長取替金一件

No.54は、明治3年(1870)に小堀以下が京都府総区長詰所へ呼び出され、公用諸経費を市中一体で取り集め、半期ごとに納入するよう命じられた総区長取替金の件を問いただされたもので、小堀側は始末書と勘定書を裁判所に提出した。その後の結末については、本史料群の中からは明らかではない。

〔包紙・帯〕	〔帯〕 上書「総区長之取替之事裁判所へ御尋ニ付書付差出候扣」		切 1通	54-0
	委任状(部理代人村松猪介) 小堀甚兵衛(下京第四区六角通高倉東へ入町堀之上町)→京都裁判所長北畠少判事殿代理大塚大解部殿		半 1冊	54-1
	始末書(総区長中へ月々取替金の濫觴御尋に付申状) 小堀甚兵衛病氣ニ付代手代村松猪助・竹原弥兵衛病氣ニ付代手代山本孫兵衛・上原次郎兵衛病氣ニ付代手代村尾嘉助→京都裁判所長北畠少判事殿御代理草野大解部殿		半 1冊	54-2
	御断書(病気に付代人差出の件) 小堀甚兵衛・竹原孫兵衛・上原次郎兵衛→京都裁判所長北畠少判事代理草野大解部殿			54-3
	総区長取替金之扣 小堀甚兵衛・竹原孫兵衛・上原次郎兵衛→京都裁判所長北畠少判事代理草野大解部殿, 小堀甚兵衛印・竹原弥兵衛印・上原次郎兵衛印→京都裁判所長北畠少判事殿・御代理草野大解部殿	明治6年10月17日		54-4

## 2-13. 為替会社

〔包紙〕	〔為替会社創立尽力に付褒賞状〕(金3,000疋) 民部省通商司→万屋甚兵衛代勤嘉七	巳12月	切継 1通	75-1
	〔上書〕 上書「通商司出役書附」		切 1通	75-2-0
	〔当局勘定方兼証文方任命状〕 為替会社(印)→足立嘉七	8月26日	切 1通	75-2-1

## 2-14. その他

江戸期の万屋の極印打銀500目用の封紙が未使用のまま10枚ある。また、小堀家の看板の拓本が3枚、帳簿の小口分箋が未使用のまま71枚伝来している。

〔万屋甚兵衛封紙〕(極印打銀500目) 六角通高倉東入町両替 御掛屋万屋甚兵衛, 板刷		切 (32.0×15.8) 10枚	80
〔拓本〕(万・小堀看板) 福井瓢斎先生下書		綴 3枚	81

〔帳簿小口分箋〕	7.6×4.5 71枚	118
----------	-------------	-----

**史料館所蔵史料目録 第68集**

**山城国諸家文書目録(その二)**

印刷発行 平成11年 3 月31日

編集兼 国文学研究資料館  
発行者 史料館

〒142-8585

東京都品川区豊町 1 丁目16番10号

電話 03-3785-7131(代)

印刷所 株式会社 三協社

〒164-0011

東京都中野区中央 4 丁目 8 番 9 号

(本文用紙は中性紙を使用)